2024年度
大学院経営学研究科
講義概要（シラバス）

法政大学

科目一覧［発行日：2024/5/1］最新版のシラバスは、法政大学Webシラバス（https://syllabus.hosei.ac.jp/）で確認してください。

凡例　その他属性

〈他〉：他学部公開科目
〈優〉：成績優秀者の他学部科目履修制度対象科目
〈Ｓ〉：サーティフィケートプログラム_SDGs
〈ダ〉：サーティフィケートプログラム_ダイバーシティ
〈カ〉：サーティフィケートプログラム_カーボンニュートラル
〈グ〉：グローバル・オープン科目
〈実〉：実務経験のある教員による授業科目
〈ア〉：サーティフィケートプログラム_アーバンデザイン
〈未〉：サーティフィケートプログラム_未来教室

修士課程（昼間）授業科目【X7000】経営学概論Ⅰ［近能　善範］春学期授業/Spring…… 1
修士課程（昼間）授業科目【X7002】経営学基礎論［福島　英史］春学期授業/Spring …… 2
修士課程（昼間）授業科目【X7001】経営学概論Ⅱ［近能　善範］秋学期授業/Fall …… 3
修士課程（昼間）授業科目【X7005】経営管理特論Ⅰ［洞口　治夫］春学期授業/Spring …… 4
修士課程（昼間）授業科目【X7006】経営管理特論Ⅱ［洞口　治夫］秋学期授業/Fall …… 8
修士課程（昼間）授業科目【X7009】人的資源管理特論Ⅰ［藤本　真］春学期授業/Spring…… 10
修士課程（昼間）授業科目【X7011】経営戦略特論Ⅰ［李　瑞雪］春学期授業/Spring…… 12
修士課程（昼間）授業科目【X7012】経営戦略特論Ⅱ［李　瑞雪］秋学期授業/Fall …… 13
修士課程（昼間）授業科目【X7013】国際経営特論Ⅰ［安藤　直紀］春学期授業/Spring …… 14
修士課程（昼間）授業科目【X7014】国際経営特論Ⅱ［安藤　直紀］秋学期授業/Fall …… 16
修士課程（昼間）授業科目【X7018】財務会計論Ⅰ［川島　健司］春学期授業/Spring…… 18
修士課程（昼間）授業科目【X7019】財務会計論Ⅱ［川島　健司］秋学期授業/Fall …… 20
修士課程（昼間）授業科目【X7022】経営分析論Ⅰ［福多　裕志］春学期授業/Spring…… 22
修士課程（昼間）授業科目【X7023】経営分析論Ⅱ［福多　裕志］秋学期授業/Fall …… 24
修士課程（昼間）授業科目【X7024】財務諸表分析春学期授業/Spring …… 26
修士課程（昼間）授業科目【X7025】管理会計特論Ⅰ［福田　淳児］春学期授業/Spring …… 27
修士課程（昼間）授業科目【X7026】管理会計特論Ⅱ［福田　淳児］秋学期授業/Fall …… 28
修士課程（昼間）授業科目【X7031】組織経済学［奥西　好夫］秋学期授業/Fall …… 29
修士課程（昼間）授業科目【X7032】金融論Ⅰ［片桐　満］春学期授業/Spring…… 31
修士課程（昼間）授業科目【X7033】金融論Ⅱ［片桐　満］秋学期授業/Fall …… 32
修士課程（昼間）授業科目【X7034】ファイナンス入門［岸本　直樹］春学期授業/Spring …… 33
修士課程（昼間）授業科目【X7035】ポートフォリオ理論入門［岸本　直樹］秋学期授業/Fall …… 35
修士課程（昼間）授業科目【X7036】デリバティブ入門Ⅰ［山嵜　輝］春学期授業/Spring…… 37
修士課程（昼間）授業科目【X7037】デリバティブ入門Ⅱ［山嵜　輝］秋学期授業/Fall …… 39
修士課程（昼間）授業科目【X7038】国際経済学Ⅰ［髙橋　理香］春学期授業/Spring…… 41
修士課程（昼間）授業科目【X7039】国際経済学Ⅱ［髙橋　理香］秋学期授業/Fall …… 43
修士課程（昼間）授業科目【X7040】国際金融論特論Ⅰ［横内　正雄］春学期授業/Spring…… 45
修士課程（昼間）授業科目【X7041】国際金融論特論Ⅱ［横内　正雄］秋学期授業/Fall …… 46
修士課程（昼間）授業科目【X7042】産業組織論Ⅰ［矢野　智彦］春学期授業/Spring…… 47
修士課程（昼間）授業科目【X7043】産業組織論Ⅱ［矢野　智彦］秋学期授業/Fall …… 49
修士課程（昼間）授業科目【X7046】統計学Ⅰ［猪狩　良介］春学期授業/Spring …… 51
修士課程（昼間）授業科目【X7047】統計学Ⅱ［高橋　慎］秋学期授業/Fall …… 52
修士課程（昼間）授業科目【X7048】リサーチ・メソッド春学期授業/Spring …… 53
修士課程（昼間）授業科目【X7049】経営情報特論Ⅰ春学期授業/Spring …… 54
修士課程（昼間）授業科目【X7050】経営情報特論Ⅱ秋学期授業/Fall …… 55
修士課程（昼間）授業科目【X7184】組織マネジメント特論Ⅰ［戎谷　梓］春学期授業/Spring…… 56
修士課程（昼間）授業科目【X7185】組織マネジメント特論Ⅱ［戎谷　梓］秋学期授業/Fall …… 58
修士課程（昼間）授業科目【X7056】経営学演習Ⅰ［横内　正雄］春学期授業/Spring…… 60
修士課程（昼間）授業科目【X7057】経営学演習Ⅱ［横内　正雄］秋学期授業/Fall …… 61
修士課程（昼間）授業科目【X7060】経営学演習Ⅰ［西川　英彦］春学期授業/Spring…… 62
修士課程（昼間）授業科目【X7061】経営学演習Ⅱ［西川　英彦］秋学期授業/Fall …… 63
修士課程（昼間）授業科目【X7062】経営学演習Ⅰ［新倉　貴士］春学期授業/Spring…… 64
修士課程（昼間）授業科目【X7063】経営学演習Ⅱ［新倉　貴士］秋学期授業/Fall …… 65
修士課程（昼間）授業科目【X7064】経営学演習Ⅰ［横山　斉理］春学期授業/Spring…… 66

修士課程（昼間）授業科目【X7065】経営学演習Ⅱ［横山　斉理］秋学期授業/Fall 67
修士課程（昼間）授業科目【X7066】経営学演習Ⅰ［福島　英史］春学期授業/Spring 68
修士課程（昼間）授業科目【X7067】経営学演習Ⅱ［福島　英史］秋学期授業/Fall 69
修士課程（昼間）授業科目【X7068】経営学演習Ⅰ［稲垣　京輔］春学期授業/Spring 70
修士課程（昼間）授業科目【X7069】経営学演習Ⅱ［稲垣　京輔］秋学期授業/Fall 71
修士課程（昼間）授業科目【X7070】経営学演習Ⅰ［洞口　治夫］春学期授業/Spring 72
修士課程（昼間）授業科目【X7071】経営学演習Ⅱ［洞口　治夫］秋学期授業/Fall 74
修士課程（昼間）授業科目【X7072】経営学演習Ⅰ［李　瑞雪］春学期授業/Spring 76
修士課程（昼間）授業科目【X7058】経営学演習Ⅰ［戎谷　梓］春学期授業/Spring 77
修士課程（昼間）授業科目【X7059】経営学演習Ⅱ［戎谷　梓］秋学期授業/Fall 79
修士課程（昼間）授業科目【X7073】経営学演習Ⅱ［李　瑞雪］秋学期授業/Fall 81
修士課程（昼間）授業科目【X7186】経営学演習Ⅰ［安藤　直紀］春学期授業/Spring 82
修士課程（昼間）授業科目【X7187】経営学演習Ⅱ［安藤　直紀］秋学期授業/Fall 83
修士課程（昼間）授業科目【X7188】経営学演習Ⅰ［吉田　健二］春学期授業/Spring 84
修士課程（夜間）授業科目_企業家養成コース【X7074】企業家養成演習［稲垣　京輔］春学期授業/Spring 85
修士課程（夜間）授業科目_企業家養成コース【X7075】企業家養成演習［稲垣　京輔］秋学期授業/Fall 86
修士課程（夜間）授業科目_企業家養成コース【X7076】企業家養成演習［吉田　健二］春学期授業/Spring 87
修士課程（夜間）授業科目_企業家養成コース【X7077】企業家養成演習［吉田　健二］秋学期授業/Fall 88
修士課程（夜間）授業科目_企業家養成コース【X7078】企業家養成演習［二階堂　行宣］春学期授業/Spring 89
修士課程（夜間）授業科目_企業家養成コース【X7079】企業家養成演習［二階堂　行宣］秋学期授業/Fall 90
修士課程（夜間）授業科目_企業家養成コース【X7080】企業家養成演習春学期授業/Spring 91
修士課程（夜間）授業科目_企業家養成コース【X7081】企業家養成演習秋学期授業/Fall 92
修士課程（夜間）授業科目_企業家養成コース【X7082】企業家養成演習春学期授業/Spring 93
修士課程（夜間）授業科目_企業家養成コース【X7083】企業家養成演習秋学期授業/Fall 94
修士課程（夜間）授業科目_企業家養成コース【X7084】企業家養成演習春学期授業/Spring 95
修士課程（夜間）授業科目_企業家養成コース【X7085】企業家養成演習秋学期授業/Fall 96
修士課程（夜間）授業科目_企業家養成コース【X7600】企業家養成演習（代表シラバス）［金　容度］春学期授業/Spring 97
修士課程（夜間）授業科目_企業家養成コース【X7601】企業家養成演習（代表シラバス）［金　容度］秋学期授業/Fall 98
修士課程（夜間）授業科目_企業家養成コース【X7087】企業家活動［稲垣　京輔］春学期授業/Spring 99
修士課程（夜間）授業科目_企業家養成コース【X7088】企業家史［二階堂　行宣］春学期授業/Spring 101
修士課程（夜間）授業科目_企業家養成コース【X7089】経営史［韓　載香］秋学期授業/Fall 103
修士課程（夜間）授業科目_企業家養成コース【X7090】経営戦略論［吉田　健二］春学期授業/Spring 105
修士課程（夜間）授業科目_企業家養成コース【X7091】イノベーション・マネジメント概論［近能　善範］秋学期授業/Fall 106
修士課程（夜間）授業科目_人材・組織マネジメントコース【X7094】人材・組織マネジメント演習［西川　真規子］春学期授業/Spring 108
修士課程（夜間）授業科目_人材・組織マネジメントコース【X7095】人材・組織マネジメント演習［西川　真規子］秋学期授業/Fall 109
修士課程（夜間）授業科目_人材・組織マネジメントコース【X7096】人材・組織マネジメント演習［奥西　好夫］春学期授業/Spring 110
修士課程（夜間）授業科目_人材・組織マネジメントコース【X7097】人材・組織マネジメント演習［奥西　好夫］秋学期授業/Fall 111
修士課程（夜間）授業科目_人材・組織マネジメントコース【X7098】人材・組織マネジメント演習［長岡　健］春学期授業/Spring 112
修士課程（夜間）授業科目_人材・組織マネジメントコース【X7099】人材・組織マネジメント演習［長岡　健］秋学期授業/Fall 113
修士課程（夜間）授業科目_人材・組織マネジメントコース【X7100】人材・組織マネジメント演習［小川　憲彦］春学期授業/Spring 114
修士課程（夜間）授業科目_人材・組織マネジメントコース【X7101】人材・組織マネジメント演習［小川　憲彦］秋学期授業/Fall 115
修士課程（夜間）授業科目_人材・組織マネジメントコース【X7102】人材・組織マネジメント演習［戎谷　梓］春学期授業/Spring 116
修士課程（夜間）授業科目_人材・組織マネジメントコース【X7103】人材・組織マネジメント演習［戎谷　梓］秋学期授業/Fall 117
修士課程（夜間）授業科目_人材・組織マネジメントコース【X7104】人材・組織マネジメント演習［佐野　嘉秀］春学期授業/Spring 118

修士課程（夜間）授業科目_人材・組織マネジメントコース【X7105】人材・組織マネジメント演習［佐野　嘉秀］秋学期授業/Fall 119
修士課程（夜間）授業科目_人材・組織マネジメントコース【X7106】人材・組織マネジメント演習春学期授業/Spring 120
修士課程（夜間）授業科目_人材・組織マネジメントコース【X7107】人材・組織マネジメント演習秋学期授業/Fall 121
修士課程（夜間）授業科目_人材・組織マネジメントコース【X7108】人材・組織マネジメント演習春学期授業/Spring 122
修士課程（夜間）授業科目_人材・組織マネジメントコース【X7109】人材・組織マネジメント演習秋学期授業/Fall 123
修士課程（夜間）授業科目_人材・組織マネジメントコース【X7602】人材・組織マネジメント演習（代表シラバス）［小川　憲彦］春学期授業/Spring 124
修士課程（夜間）授業科目_人材・組織マネジメントコース【X7603】人材・組織マネジメント演習（代表シラバス）［小川　憲彦］秋学期授業/Fall 125
修士課程（夜間）授業科目_人材・組織マネジメントコース【X7111】人的資源管理論［佐野　嘉秀］春学期授業/Spring 126
修士課程（夜間）授業科目_人材・組織マネジメントコース【X7112】キャリアマネジメント論［小川　憲彦］春学期授業/Spring 128
修士課程（夜間）授業科目_人材・組織マネジメントコース【X7114】労働市場論［藤本　真］秋学期授業/Fall 130
修士課程（夜間）授業科目_人材・組織マネジメントコース【X7115】労使コミュニケーション論［呉　学殊］秋学期授業/Fall 132
修士課程（夜間）授業科目_人材・組織マネジメントコース【X7116】経営組織論［長岡　健］秋学期授業/Fall 134
修士課程（夜間）授業科目_マーケティングコース【X7121】マーケティング演習［西川　英彦］春学期授業/Spring 136
修士課程（夜間）授業科目_マーケティングコース【X7122】マーケティング演習［西川　英彦］秋学期授業/Fall .. 137
修士課程（夜間）授業科目_マーケティングコース【X7123】マーケティング演習［田路　則子］春学期授業/Spring 138
修士課程（夜間）授業科目_マーケティングコース【X7124】マーケティング演習［田路　則子］秋学期授業/Fall .. 139
修士課程（夜間）授業科目_マーケティングコース【X7125】マーケティング演習［木村　純子］春学期授業/Spring 140
修士課程（夜間）授業科目_マーケティングコース【X7126】マーケティング演習［木村　純子］秋学期授業/Fall .. 141
修士課程（夜間）授業科目_マーケティングコース【X7127】マーケティング演習［横山　斉理］春学期授業/Spring 142
修士課程（夜間）授業科目_マーケティングコース【X7128】マーケティング演習［横山　斉理］秋学期授業/Fall .. 143
修士課程（夜間）授業科目_マーケティングコース【X7129】マーケティング演習［長谷川　翔平］春学期授業/Spring 144
修士課程（夜間）授業科目_マーケティングコース【X7130】マーケティング演習［長谷川　翔平］秋学期授業/Fall 145
修士課程（夜間）授業科目_マーケティングコース【X7131】マーケティング演習［新倉　貴士］春学期授業/Spring 146
修士課程（夜間）授業科目_マーケティングコース【X7132】マーケティング演習［新倉　貴士］秋学期授業/Fall .. 147
修士課程（夜間）授業科目_マーケティングコース【X7133】マーケティング演習［竹内　淑恵］春学期授業/Spring 148
修士課程（夜間）授業科目_マーケティングコース【X7134】マーケティング演習［竹内　淑恵］秋学期授業/Fall .. 149
修士課程（夜間）授業科目_マーケティングコース【X7135】マーケティング演習春学期授業/Spring..... 150
修士課程（夜間）授業科目_マーケティングコース【X7136】マーケティング演習秋学期授業/Fall..... 151
修士課程（夜間）授業科目_マーケティングコース【X7604】マーケティング演習（代表シラバス）［猪狩　良介］春学期授業/Spring 152
修士課程（夜間）授業科目_マーケティングコース【X7605】マーケティング演習（代表シラバス）［猪狩　良介］秋学期授業/Fall 153
修士課程（夜間）授業科目_マーケティングコース【X7137】ワークショップ（マーケティング）［朝岡　崇史］秋学期授業/Fall..... 154
修士課程（夜間）授業科目_マーケティングコース【X7138】マーケティング論［竹内　淑恵］春学期授業/Spring . 156
修士課程（夜間）授業科目_マーケティングコース【X7139】消費者行動論［新倉　貴士］秋学期授業/Fall 158
修士課程（夜間）授業科目_マーケティングコース【X7140】マーケティング・リサーチ論［西川　英彦］春学期授業/Spring 160
修士課程（夜間）授業科目_マーケティングコース【X7142】マーケティング・サイエンス論［長谷川　翔平］秋学期授業/Fall 162
修士課程（夜間）授業科目_マーケティングコース【X7143】サービス・マネジメント論［木村　純子］春学期授業/Spring 163
修士課程（夜間）授業科目_マーケティングコース【X7145】定性的方法論春学期授業/Spring..... 165
修士課程（夜間）授業科目_マーケティングコース【X7146】国際マーケティング論［嶋　正］春学期授業/Spring . 166
修士課程（夜間）授業科目_マーケティングコース【X7147】物流管理論［李　瑞雪］春学期授業/Spring..... 167
修士課程（夜間）授業科目_アカウンティング・ファイナンスコース【X7148】アカウンティング･ファイナンス演習［福田　淳児］春学期授業/Spring 169
修士課程（夜間）授業科目_アカウンティング・ファイナンスコース【X7149】アカウンティング･ファイナンス演習［福田　淳児］秋学期授業/Fall 171
修士課程（夜間）授業科目_アカウンティング・ファイナンスコース【X7150】アカウンティング･ファイナンス演習［髙橋　美穂子］春学期授業/Spring 173
修士課程（夜間）授業科目_アカウンティング・ファイナンスコース【X7151】アカウンティング･ファイナンス演習［髙橋　美穂子］秋学期授業/Fall..... 175

修士課程（夜間）授業科目_アカウンティング・ファイナンスコース【X7152】アカウンティング･ファイナンス演習［川島　健司］春学期授業/Spring 176
修士課程（夜間）授業科目_アカウンティング・ファイナンスコース【X7153】アカウンティング･ファイナンス演習［川島　健司］秋学期授業/Fall 178
修士課程（夜間）授業科目_アカウンティング・ファイナンスコース【X7154】アカウンティング･ファイナンス演習春学期授業/Spring 179
修士課程（夜間）授業科目_アカウンティング・ファイナンスコース【X7155】アカウンティング･ファイナンス演習秋学期授業/Fall 180
修士課程（夜間）授業科目_アカウンティング・ファイナンスコース【X7606】アカウンティング・ファイナンス演習（代表シラバス）春学期授業/Spring 181
修士課程（夜間）授業科目_アカウンティング・ファイナンスコース【X7607】アカウンティング・ファイナンス演習（代表シラバス）秋学期授業/Fall 182
修士課程（夜間）授業科目_アカウンティング・ファイナンスコース【X7156】ワークショップ（アカウンティング・ファイナンス）［川島　健司、福田　淳児］秋学期授業/Fall 183
修士課程（夜間）授業科目_アカウンティング・ファイナンスコース【X7161】経営分析［福多　裕志］春学期授業/Spring 184
修士課程（夜間）授業科目_アカウンティング・ファイナンスコース【X7163】基礎ファイナンス［山嵜　輝］春学期授業/Spring 185
修士課程（夜間）授業科目_アカウンティング・ファイナンスコース【X7164】実証ファイナンス入門［金　璿晋］秋学期授業/Fall 187
修士課程（夜間）授業科目_アカウンティング・ファイナンスコース【X7167】コーポレート・ファイナンス［岸本直樹］秋学期授業/Fall 188
修士課程（夜間）授業科目_コース共通【X7168】経営学基礎［福島　英史］春学期授業/Spring 189
修士課程（夜間）授業科目_コース共通【X7169】会計学基礎［川島　健司］春学期後半/Spring(2nd half) 190
修士課程（夜間）授業科目_コース共通【X7170】経済学基礎［宮澤　信二郎］春学期前半/Spring(1st half) 192
修士課程（夜間）授業科目_コース共通【X7171】日本経済基礎［平田　英明］秋学期後半/Fall(2nd half) 194
修士課程（夜間）授業科目_コース共通【X7174】ｅ-ビジネス論［入戸野　健］秋学期後半/Fall(2nd half) 196
修士課程（夜間）授業科目_コース共通【X7178】国際経営論［安藤　直紀］春学期授業/Spring 197
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7401】博士演習ＩＡ（履修登録用代表コード）［経営学専攻　専任教員］春学期授業/Spring 199
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7410】博士演習ＩＡ［新倉　貴士］春学期授業/Spring 200
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7412】博士演習ＩＡ［西川　英彦］春学期授業/Spring 201
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7402】博士演習ＩＢ（履修登録用代表コード）［経営学専攻　専任教員］秋学期授業/Fall 202
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7411】博士演習ＩＢ［新倉　貴士］秋学期授業/Fall 203
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7413】博士演習ＩＢ［西川　英彦］秋学期授業/Fall 204
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7403】博士演習ⅡＡ（シラバス用代表コード）［経営学専攻　専任教員］春学期授業/Spring 205
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7404】博士演習ⅡＢ（シラバス用代表コード）［経営学専攻　専任教員］秋学期授業/Fall 207
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7405】博士演習ⅢＡ（シラバス用代表コード）［経営学専攻　専任教員］春学期授業/Spring 209
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7406】博士演習ⅢＢ（シラバス用代表コード）［経営学専攻　専任教員］秋学期授業/Fall 210
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7410】博士演習ＩＡ春学期授業/Spring 212
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7411】博士演習ＩＢ秋学期授業/Fall 213
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7412】博士演習ＩＡ春学期授業/Spring 214
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7413】博士演習ＩＢ秋学期授業/Fall 215
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7414】博士演習ＩＡ春学期授業/Spring 216
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7415】博士演習ＩＢ秋学期授業/Fall 217
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7421】博士演習ⅡＡ［坂上　学］春学期授業/Spring 218
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7422】博士演習ⅡＢ［坂上　学］秋学期授業/Fall 219
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7423】博士演習ⅡＡ［西川　英彦］春学期授業/Spring 220
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7424】博士演習ⅡＢ［西川　英彦］秋学期授業/Fall 222
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7425】博士演習ⅡＡ春学期授業/Spring 224
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7426】博士演習ⅡＢ秋学期授業/Fall 225
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7430】博士演習ⅢＡ［田路　則子］春学期授業/Spring 226
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7431】博士演習ⅢＢ［田路　則子］秋学期授業/Fall 227

博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7432】博士演習ⅢＡ［新倉　貴士］春学期授業/Spring 228
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7433】博士演習ⅢＢ［新倉　貴士］秋学期授業/Fall 229
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7434】博士演習ⅢＡ［安藤　直紀］春学期授業/Spring 230
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7435】博士演習ⅢＢ［安藤　直紀］秋学期授業/Fall 232
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7436】博士演習ⅢＡ［西川　英彦］春学期授業/Spring 234
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7437】博士演習ⅢＢ［西川　英彦］秋学期授業/Fall 235
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7438】博士演習ⅢＡ［小川　憲彦］春学期授業/Spring 237
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7439】博士演習ⅢＢ［小川　憲彦］秋学期授業/Fall 238
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7440】博士演習ⅢＡ［坂上　学］春学期授業/Spring 239
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7441】博士演習ⅢＢ［坂上　学］秋学期授業/Fall 240
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7442】博士演習ⅢＡ［北田　皓嗣］春学期授業/Spring 241
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7443】博士演習ⅢＢ［北田　皓嗣］秋学期授業/Fall 242
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7444】博士演習ⅢＡ春学期授業/Spring 243
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7445】博士演習ⅢＢ秋学期授業/Fall 244
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7446】博士演習ⅢＡ春学期授業/Spring 245
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7447】博士演習ⅢＢ秋学期授業/Fall 246
博士後期課程授業科目_選択必修科目【X7450】博士コースワークショップＩＡ［経営学専攻　専任教員］春学期授業/Spring 247
博士後期課程授業科目_選択必修科目【X7451】博士コースワークショップＩＢ［経営学専攻　専任教員］秋学期授業/Fall 249
博士後期課程授業科目_選択必修科目【X7452】博士コースワークショップⅡＡ［経営学専攻　専任教員］春学期授業/Spring 251
博士後期課程授業科目_選択必修科目【X7453】博士コースワークショップⅡＢ［経営学専攻　専任教員］秋学期授業/Fall 253
博士後期課程授業科目_選択必修科目【X7454】博士コースワークショップⅢＡ［経営学専攻　専任教員］春学期授業/Spring 255
博士後期課程授業科目_選択必修科目【X7455】博士コースワークショップⅢＢ［経営学専攻　専任教員］秋学期授業/Fall 257
【X7250】修士論文［経営学専攻教員］年間授業/Yearly 259
【X7350】リサーチ・ペーパー［経営学専攻教員］年間授業/Yearly 260
【X7500】博士論文［経営学専攻教員］年間授業/Yearly 261

MAN500F1 – 0143（経営学 / Management 500）

経営学概論Ⅰ

近能　善範

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、企業に関わるさまざまな問題を考えていく上で不可欠な、組織論の基本的な考え方や概念などを学んでいきます。

【到達目標】
経営学（組織論分野）の基礎的事項の習得。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
この授業では、テキスト輪読とディスカッション、課題レポート提出を通じて学んでいきます。提出された課題レポートは、授業内で発表していただき、その場で教員からのコメントを返します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業のガイダンス
第2回	イントロダクション	組織論では何を学ぶのか
第3回	モティベーション(1)	モティベーションの「欲求説」
第4回	モティベーション(2)	モティベーションの「過程説」
第5回	グループ・ダイナミクス(1)	グループとは何か、その特性
第6回	グループ・ダイナミクス(2)	コミュニケーションとコンフリクト
第7回	リーダーシップ(1)	伝統的なリーダーシップ論
第8回	リーダーシップ(2)	リーダーシップ論の新しい潮流
第9回	組織デザイン(1)	組織デザインの基本、主要な組織形態とその特徴
第10回	組織デザイン(2)	組織の規模、ライフサイクル、コントロール
第11回	組織文化	組織文化の機能と逆機能
第12回	組織変革	組織変革と組織開発
第13回	受講生の発表	研究計画の発表
第14回	学習成果の確認	まとめと復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業に際し、指定されたリーディング資料を必ず事前に読んでおくことが求められます。また、各回で発表の指名を受けた参加者は、内容を要約し解説を加えたレジュメを必ず事前に準備しておくことが求められます。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・スティーブン・P. ロビンス（高木晴夫 訳）『組織行動のマネジメント』（ダイヤモンド社）の一部の章。
・リチャード・L. ダフト（高木晴夫 訳）『組織の経営学』（ダイヤモンド社）の一部の章。

【参考書】
榊原清則『経営学入門（上）』日経文庫（2002年）。
他は、講義の中で適宜指定します。

【成績評価の方法と基準】
レジュメの正確さと完成度（25%）、出席＋ディスカッションへの参加状況（25%）、課題提出＋学習への意欲と姿勢（25%）、期末レポート成績（25%）を総合して評価します。
なお、期末レポートを期日までに提出しなかった場合、成績を「E」とします。

【学生の意見等からの気づき】
タイムコントロールに注意します。

【学生が準備すべき機器他】
資料の配布を、原則として法政大学学習支援システムを通じて行う予定です。受講者は、予め使用方法を理解しておくようにして下さい。

【その他の重要事項】
上記授業計画は、変更される場合があります。
詳細な授業計画については、初回の授業で解説します。履修希望者は、必ず出席するようにしてください。

【履修に関する注意】
「経営学概論Ⅰ」と「経営学概論Ⅱ」は別科目であり、どちらか一方のみ履修可能です。
ただし、学習効果の観点から、できる限り両方を履修することをお薦めします。

【関連科目等】
「経営学基礎論」とも別科目です。学習効果の観点からは、できる限り両方を履修することをお薦めします。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
　イノベーション・マネジメント、経営戦略論、企業間関係論
＜研究テーマ＞
　イノベーションと企業間関係
＜主要業績（テキスト）＞
『コア・テキスト イノベーション・マネジメント』（高井文子との共著）, 新世社, 2010年。

【担当教員の主要研究業績】
1.『コア・テキスト イノベーション・マネジメント』（高井文子との共著）, 新世社, 2010年。
2.「サプライヤーの顧客範囲と製品範囲の拡大が取引継続に及ぼす影響」,『日本経営学会誌』, 41号, 2018年10月。
3.「顧客との取引関係とサプライヤーの成果：日本自動車部品産業の事例」,『一橋ビジネスレビュー』, 65巻1号, 2017年6月。
4.「日本自動車産業における関係的技能の高度化と先端技術開発の深化」,『一橋ビジネスレビュー』, 54巻4号, 2007年3月。
5.「自動車部品取引のネットワーク構造とサプライヤーのパフォーマンス」,『組織科学』, Vol.35(3), pp. 83-100, 2002年3月。

【Outline (in English)】
【Learning Objectives】 In this class, students learn basic knowledge, concepts and ideas on business management (organizational theory) through reading of introductory textbooks, presentations and discussions, etc.
【Learning activities outside of classroom】
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria / Policy】
Grades will be based on a total of (1) the accuracy and quality of resumes (25%), (2)attendance + contribution to the discussion (25%), (3)submission of assignments, and (4)end-of-term report grades (25%).

MAN500F1 – 0187（経営学 / Management 500）

経営学基礎論

福島　英史

備考（履修条件等）：**夜間主催「経営学基礎」と合同**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業の目的は，修士論文・リサーチペーパーを翌年に書くための準備として関連する経営学研究の基礎的な知識を習得し，論文の読み方（基本的な構成・各研究の問題設定・方法・結論・研究間の関係）を学ぶことにあります。経営学は幅広い研究領域を持ちますが，本年度は，イノベーションと戦略（組織）を基本的なテーマに据えます。

【到達目標】
一般に，修士課程学生は大きな問題意識・志はあるものの，論文・リサーチペーパーとしてのフォーカス・問題設定に時間がかかる傾向にあると思われます。そこで先人達の問題設定と答えを見ていくことで，自分の論文の位置づけ，論文構成イメージを構築できることが到達目標です。基礎的な経営学研究を現代の経営問題につなげて考えられることが，期待されます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
授業では研究の基礎となる文献（英語または日本語の論文等）の輪読を行います。受講者全員が，文献を読んでレジュメを準備します。人数によってはレポーター制とします。レジュメには内容の要約とディスカッション・ポイントをまとめていただき，授業ではこれらについて議論します。概念と現実の往復を念頭に，現象面の関心事にひき付けて理解し，議論します。教員のコメントや解説が行われます。できればAcademy of Management JournalやStrategic Management Journalなどの定評ある論文を読みたいと考えます。受講生の関心と学力に応じて調整します。以下に，イノベーションと戦略（組織）を基本的なテーマとした授業計画を示します。各トピックスはそれ自体修士論文・リサーチペーパーのテーマになるような研究の広がりを持ちます。文献・論文は受講者の関心も聞いた上で決定したいため，第１回目の授業に必ず参加して下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	問題意識の共有と文献の選定
第2回	新規事業開発	内部開発と買収
第3回	ドミナントロジック	経営層の信念
第4回	多角化戦略	多様化と収益性
第5回	アンビデクスタリティ	イノベーションのための組織
第6回	探索と活用	組織学習
第7回	垂直統合と水平分業	事業の範囲
第8回	イノベーションとステークホルダー	資源依存アプローチ
第9回	イノベーションと認知	資源能力と分業構造
第10回	イノベーションと補完的資産	市場地位への影響
第11回	資源戦略論・動的企業能力	広義のシナジー効果
第12回	オープンイノベーション	ＣＶＣ・スピンオフ
第13回	事業プラットフォーム	多面市場・競争と協調
第14回	まとめ，最終課題	学習成果の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
議論する論文を事前に読み，レジュメにおいて，要約を書き，疑問点や問題点を明確にしておきます。準備学習に4時間・復習に1時間を要します。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しません。教材として論文を輪読します。

【参考書】
イノベーションと戦略に関する基本的な知識を補いたい場合は，以下のテキストをご参照下さい。
Grant, R. M. 2016. Contemporary Strategy Analysis, 9th ed., Wiley.（加瀬公男監訳『現代戦略分析第２版』中央経済社, 2019）
Burgelman. R. Christensen. C. Wheelwright S. 2008. Strategic Management of Technology and Innovation, 5th ed., McGraw-Hill.（青島 矢一監修『技術とイノベーションの戦略的マネジメント 上下』翔泳社, 2007）

【成績評価の方法と基準】
レジュメの評価（35％），授業中の発言（35％），最終課題（30％）をあわせて評価します。

【学生の意見等からの気づき】
授業時，ディスカッション時間をしっかりとります。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムに，急なお知らせや関連資料が掲載されることがあります。受講者は，予め使用方法を理解しておくようにして下さい。

【その他の重要事項】
授業外でどうしても教員へアクセスが必要な場合，fksmhs@gmail.comへご相談ください.

【担当教員の専門分野】
経営戦略とイノベーション

【研究テーマ】
戦略とイノベーション，産業発展とグローバル化，経営学説史など

【主要研究業績】
・「グローバル・ストラテジー 国際的な市場機会と競争優位の実現」『学史から学ぶ経営戦略』（文真堂）, 2022.5. ・「オープン・イノベーション・ワールド探訪-概念検討と画像半導体産業揺籃期」『経営志林』53 (1), 2016. ・“Inside Cooperative Innovation: Development and Commercialization of Sodium-Sulfur Batteries for Power Storage,” IIR Case Studies (Hitotsubashi University), 13 (1), 2013. ・「アンソフ戦略論への批判」『経営学史叢書IX アンソフ』（文真堂）, 2012. ・「技術開発プロジェクトの国家支援と成果」『経営志林』47(3),2010. ・「事業の多様化と経営成果―時間展開と企業間相互作用」『経営志林』46(3), 2009.

【Outline (in English)】
(Course outline) This course deals with essential knowledge on business administration. We focus on the management of innovation and strategies. (Learning Objectives) The goal of this course is to learn essential academic concepts and theories related to the management of innovation and strategies. (Learning activities outside of classroom) Students will be expected to consider real life businesses from academic concepts and theories. The study time will be five hours for a class. (Grading Criteria /Policy) Grading will be decided based on regular assignments (35%), in-class contribution (35%) and
semester-end assignment (30%).

MAN500F1 – 0144（経営学 / Management 500）

経営学概論Ⅱ

近能　善範

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、企業に関わるさまざまな問題を考えていく上で不可欠な、戦略論の基本的な考え方や概念などを学んでいきます。

【到達目標】
経営学（戦略論分野）の基礎的事項の習得。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
この授業では、テキスト輪読とディスカッション、課題レポート提出を通じて学んでいきます。提出された課題レポートは、授業内で発表していただき、その場で教員からのコメントを返します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業のガイダンス
第2回	イントロダクション	経営戦略の定義、何を学ぶのか
第3回	競争優位	競争優位の実現と維持
第4回	業界の構造分析	5 Forces分析など
第5回	企業の内部資源分析	RBVの考え方、VRIO分析など
第6回	差別化	差別化戦略
第7回	コスト・リーダーシップ	コスト・リーダーシップ戦略
第8回	顧客価値	価値連鎖分析（バリュー・チェーン分析）など
第9回	競争ポジション	ポジショニング分析
第10回	製品ライフサイクル	ライフサイクルのステージ別の戦略
第11回	多角化戦略	製品ポートフォリオ・マネジメントなど
第12回	企業ドメインの戦略	事業の定義と企業ドメインなど
第13回	受講生の発表	研究計画の発表
第14回	学習成果の確認	まとめと復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業に際し、指定されたリーディング資料を必ず事前に読んでおくことが求められます。また、各回で発表の指名を受けた参加者は、内容を要約し解説を加えたレジュメを必ず事前に準備しておくことが求められます。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・網倉久永・新宅純二郎『経営戦略入門』（日本経済新聞出版社）の一部の章。
・ジェイ・B. バーニー（岡田正大 訳）『企業戦略論』（ダイヤモンド社）の一部の章。

【参考書】
井上達彦・中川功一・川瀬真紀(編著)『ベーシック＋ 経営戦略』中央経済社。
他は、講義の中で適宜指定します。

【成績評価の方法と基準】
レジュメの正確さと完成度（25%）、出席＋ディスカッションへの参加状況（25%）、課題提出＋学習への意欲と姿勢（25%）、期末レポート成績（25%）を総合して評価します。
なお、期末レポートを期日までに提出しなかった場合、成績を「E」とします。

【学生の意見等からの気づき】
タイムコントロールに注意します。

【学生が準備すべき機器他】
資料の配布を、原則として法政大学学習支援システムを通じて行う予定です。受講者は、予め使用方法を理解しておくようにして下さい。

【その他の重要事項】
上記授業計画は、変更される場合があります。
詳細な授業計画については、初回の授業で解説します。履修希望者は、必ず出席するようにしてください。

【履修に関する注意】
「経営学概論Ⅰ」と「経営学概論Ⅱ」は別科目であり、どちらか一方のみ履修可能です。
ただし、学習効果の観点から、できる限り両方を履修することをお薦めします。

【関連科目等】
「経営学基礎論」とも別科目です。学習効果の観点からは、できる限り両方を履修することをお薦めします。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
　イノベーション・マネジメント、経営戦略論、企業間関係論
＜研究テーマ＞
　イノベーションと企業間関係
＜主要業績（テキスト）＞
『コア・テキスト イノベーション・マネジメント』（高井文子との共著）, 新世社, 2010年。

【担当教員の主要研究業績】
1.『コア・テキスト イノベーション・マネジメント』（高井文子との共著）, 新世社, 2010年。
2.「サプライヤーの顧客範囲と製品範囲の拡大が取引継続に及ぼす影響」,『日本経営学会誌』, 41号, 2018年10月。 3.「顧客との取引関係とサプライヤーの成果：日本自動車部品産業の事例」,『一橋ビジネスレビュー』, 65巻1号, 2017年6月。
4.「日本自動車産業における関係的技能の高度化と先端技術開発の深化」,『一橋ビジネスレビュー』, 54巻4号, 2007年3月。
5.「自動車部品取引のネットワーク構造とサプライヤーのパフォーマンス」,『組織科学』, Vol.35(3), pp. 83-100, 2002年3月。

【Outline (in English)】
【Learning Objectives】 In this class, students learn basic knowledge, concepts and ideas on business management (organizational theory) through reading of introductory textbooks, presentations and discussions, etc.
【Learning activities outside of classroom】
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria / Policy】
Grades will be based on a total of (1) the accuracy and quality of resumes (25%), (2)attendance + contribution to the discussion (25%), (3)submission of assignments, and (4)end-of-term report grades (25%).

MAN500F1 – 0147（経営学 / Management 500）

経営管理特論 I

洞口　治夫

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
経営管理特論の授業では、修士課程１年次の留学生、研修生、日本人学生を対象に、経営に関する修士論文作成に必要な研究方法論について学習します。大学院入学試験の段階で提出した研究テーマをもとにして、それを修正し、研究を進めていく方法を学びます。仮説と命題、演繹と帰納、理論と実証といった科学的な考え方を学習し、学会、学術雑誌、レフェリー制度など、経営学研究の成果発表方法についても学習します。学術的な研究を将来にわたって進めていきたいと考える修士課程二年生の学生諸君、博士課程に在籍する学生諸君の参加も歓迎します。
【Outline】
In this course of the Study in Business Administration class, master's students and occasional students learn about the research methods required to write a master's thesis on management. Based on the research topic submitted for the graduate school entrance exam, students will learn how to revise it and conduct further research. Students will learn scientific concepts such as hypothesis and proposition, deduction and induction, and theoretical and empirical research, as well as how to present the results of their management research at conferences, academic journals, and refereed journals.

【到達目標】
日本語検定１級を取得した留学生、あるいは、それと同等の日本語力を有する留学生、また、日本国内で大学を卒業した日本人学生を対象として、修士課程でのリサーチペーパーを書くためのアカデミックな日本語文章力の向上を目標とします。半期授業での少人数クラス指導を通じて、学術的に見て価値の高い経営に関するリサーチペーパーを完成させるために必要な技能の習得を目指します。研究課題の発見能力、先行研究の理解力、英語・日本語文献の読解力、インタビュー調査での質問構成力、ノートテイキング、図表の作成能力、統計的分析力、日本語文章力、論理的思考能力など高度な思考能力を養い、経営に関する修士論文作成に役立つ能力の獲得を目指します。
【Goal】
This course aims to improve academic Japanese writing skills for writing master's research papers for international students who have passed Level 1 of the Japanese Language Proficiency Test or have equivalent Japanese language skills, as well as for Japanese students who have graduated from universities in Japan. Through small-group instruction in semester-long classes, students aim to acquire the skills necessary to complete an academically valuable research papers on management. The course aims to develop advanced thinking skills such as the ability to find research topics, understanding of previous research, reading comprehension of English and Japanese literature, skills for interview surveys, note-taking, charting, statistical analysis, Japanese writing skills, logical thinking skills, and other skills useful for writing a master's thesis on management.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
修士課程・研修生のなかには留学生も多数いるため、日本語教科書の音読を中心に授業を進めます。日本語を見て意味がわかるだけではなく、正確に読めることが大切です。そのうえで日本語文章力を高めます。参加学生諸君の論文作成準備状況に応じて、論文作成の段階を想定して必要な準備について学習します。修士論文の執筆を予定している１年次生は、各コースごとに毎年１月頃にリサーチペーパーのテーマに関する報告を行うことが求められており、そこで指導教員が決まります。また修士論文を作成する２年次生は、その作成過程でコースの院生全員が参加する修士論文の中間発表会で報告します。そうした報告の準備として経営に関する研究方法を学習します。
【Methods】
Since there are many international students in the master's program and occasional students, the class will be conducted based on reading Japanese textbooks aloud. It is important not only to be able to understand the meaning of Japanese, but also to be able to read it accurately. In addition, students will improve their Japanese writing skills. First-year students who are planning to write their research papers are required to present a report on the theme. In preparation for a presentation, students study research methods related to management.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第１回	経営管理の学び方:科目の意義についてのイントロダクション Introduction to the subject	教科書①、はじめに、第１章の輪読。 We will create and confirm an annual plan for writing the master's thesis. Textbook ① Introduction, Chapter 1. リサーチペーパー執筆の年間計画を確認する。
第２回	経営管理研究の意義:研究計画の作成指導 Guidance on developing a research plan	リサーチペーパーのテーマと執筆計画の概要作成。ケース・スタディとケース・ディスカッション。教科書①第２章、第３章。 We prepare an outline of your master's thesis topic and writing plan. We will learn about case study and case discussion. Textbook 1) Chapters 2 and 3.
第３回	経営管理研究方法論の検討 Discussion on research methodology	理論研究と実証研究。アンケート調査と参与観察。教科書①第４章、第５章。 Theoretical research and empirical research. Questionnaire survey and participant observation. Textbook 1) Chapters 4 and 5.
第４回	ロジカルシンキングと仮説 Logical thinking and hypothesis	リサーチペーパーのテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。教科書①第６章、第７章。 We will examine, report, and discuss previous research. Textbook 1) Chapters 6 and 7.

第5回	研究成果の表現技術 Techniques for expressing research findings	リサーチペーパーのテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。教科書①第8章、第9章。 We will discuss prior research on the topic of the master's thesis. Textbook 1) Chapters 8 and 9.
第6回	調査計画の作成指導 Guidance on developing a fieldwork plan	修士論文のテーマに関する調査計画を報告し、議論する。教科書①第10章、第11章。 Students will report and discuss the research plan for the topic of the master's thesis. Textbook 1) Chapters 10 and 11.
第7回	フィールドワークの発表 Presentation of fieldwork	フィールドワークの発表をして議論する。教科書①第12章、あとがき。 Students will present and discuss their fieldwork. Textbook 1) Chapter 12, Afterword.
第8回	ケーススタディの発表 Presentation of case studies	ケーススタディに関する発表をして議論する。教科書②第1章、第2章。 Presentation and discussion of the case study. Textbook 2: Chapters 1 and 2.
第9回	調査データ収集の方法 Methods of survey data collection	調査結果の有効性について議論する。教科書②第3章。 We will discuss the validity of the research results. Textbook 2, Chapter 3.
第10回	経営管理研究の視角 Perspectives on business management research	経営管理の研究テーマに適合的な調査の仕方について議論する。教科書②第4章。 We will discuss how to conduct a survey that fits the research theme of business management. Textbook 2, Chapter 4.
第11回	アンケート調査とグループインタビュー Questionnaire survey and group interview	経営管理の研究テーマに適合的な調査の仕方について議論する。教科書②第5章。 To discuss how to conduct a survey suitable for an academic paper. Textbook (2), Chapter 6.
第12回	証拠分析の方法 Methods of evidence analysis	学術論文に適合的な調査の仕方について議論する。教科書②第6章。 Discussion on how to conduct research suitable for academic papers. Textbook 2, Chapter 6.
第13回	経営管理研究論文の構想 Conception of a business management research paper	論文の論理構成と表現について検討する。教科書②の総復習。引用論文の確認。 To discuss the logical structure and expression of academic papers. Review of Textbook 2. Review of cited papers.
第14回	授業内試験。研究報告の準備。 In-class examination. Preparation of research report.	期末レポート提出。所属コースで行われる中間報告会での報告の準備を行う。 Submission of final report. Prepare for the mid-term report meeting in your course.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。
第1回　リサーチペーパーのテーマを構想する。
第2～3回　リサーチペーパーのテーマと執筆計画の概要を作成する。
第4～8回　小売店ないし飲食店を2店舗以上比較して発見した事実を発表し、そのレポートを作成する。
第9～13回　修士論文のテーマに関連した先行研究を収集し、報告レジュメを作成する。具体的な調査方法を考案する。
第14回　修士論文中間報告のための資料を作成してレポートを提出する。

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparation and review time for this class is 4 hours each.
Class 1: Conceptualize the theme of the master's thesis.
Class 2-3: Create an outline of the master's thesis theme and writing plan.
Class 4-8: Students will compare two or more retail stores or restaurants, present their findings, and write a report on their findings.
Class 9-13: Collect prior research related to the theme of the master's thesis and prepare a report resume. Students will devise specific research methods.
Class 14: Prepare materials for the interim report of the master's thesis and submit the report.

【テキスト（教科書）】

教科書①、洞口治夫著『ＭＢＡのナレッジ・マネジメント－集合知創造の現場としての社会人大学院－』文眞堂、2018年、2400円＋税。
教科書②、ロバート・Ｋ・イン著『新装版　ケース・スタディの方法　第２版』近藤公彦訳、千倉書房、2011年、3500円＋税。
＜アマゾンなどで中古本も購入できます。＞
その他、必要な教材は授業内ないし学習支援システムによって配布します。

【Textbooks】

Textbook (1), Haruo Horaguchi, MBA no Narejji Manejiment: Shugochi Souzou no Genba toshiteno Shakaijin Daigakuin (Knowledge Management in MBA: Graduate School for Working Adults as a Site of Collective Knowledge Creation), Bunshindo, 2018, 2,400 yen plus tax.
Textbook (2), Robert K. Yin, Shinsoban Keisu Sutadii no Houhou, Dai 2-han, (Newly Revised version, Case Study Research, 2nd Edition, SAGE Publications, 1994), translated by Kimihiko Kondo, Chikura Shobo, 2011, 3,500 yen plus tax.
＜ You can also buy used books from Amazon.com. ＞ In addition, other necessary materials will be provided in class. Other necessary materials will be distributed in class or through the learning support system.

【参考書】

①小池和男・洞口治夫編『経営学のフィールド・リサーチ－「現場の達人」の実践的調査手法』日本経済新聞社、2006年。＜調査と参与観察の現場を知る。＞
②洞口治夫編著『ファカルティ・ディベロプメント』白桃書房、2008年。＜とくに第11章。＞
③小池和男『聞きとりの作法』東洋経済新報社、2000年。

【成績評価の方法と基準】

評価方法と配分: 出席と授業参加（42％）、授業内報告（18％）、期末試験(レポート提出)(40％)。
評価基準：出席と授業内での発言を重視します。授業内の報告については満たすべき基準を授業内で指示します。期末試験(レポート提出)の評価基準は、理論的なフレームワークの確かさ、実証分析の手堅さ、論理的な首尾一貫性、テーマの斬新性、日本語文章力などです。

【Grading Criteria / Policy】

Evaluation method and distribution: Attendance and class participation (42%), in-class reporting (18%), final exam (report submission) (40%).

Evaluation criteria: Emphasis will be placed on attendance and in-class comments. The criteria to be met for in-class reports will be indicated in class. The evaluation criteria for the final exam (report submission) will be: solidity of the theoretical framework, solidity of the empirical analysis, logical coherence, novelty of the theme, and Japanese writing ability.

【学生の意見等からの気づき】
本科目は2022年度新設科目であり、2023年度は休講でした。2022年度について学生からの意見が特になかったため、本項目は該当しません。授業参加学生からの要望を聞きながら学期中の授業改善に努めていきます。
This course was newly established in 2022 and was not offered in 2023. This item is not applicable since there were no specific comments from students in 2022. We will make efforts to improve classes during the semester while listening to requests from students participating in the class.

【学生が準備すべき機器他】
日本語の漢字を調べることのできる電子辞書、あるいは、その機能をもったスマホ。課題をワードファイルでダウンロード、アップロードできるインターネット端末に接続したパソコンの利用も必須です。
An electronic dictionary that can look up Japanese kanji, or a smart phone with that function. The use of a computer is also required. It must be connected to Internet that can download and upload assignments as word files.

【その他の重要事項】
いくつかの授業はオンラインで開講される場合があります。
本科目は、修士課程一年次からリサーチペーパーの構想を考えたいと思う学生諸君の準備を助けることを目的にしています。修士課程二年次でリサーチペーパー作成に取り組んでいる学生諸君の参加も歓迎します。スタートが早い場合には、完成した修士論文の評価も高いものになるでしょう。修士課程一年次にたくさんの科目を履修しすぎて修士論文作成の準備がまったくできなくなるのは、賢い選択とは言えません。修士課程一年次から調査データを積み上げることで優れた研究成果を提出することが可能になります。
洞口は法政大学経営学部教授であるとともに、東証プライム市場上場企業の社外取締役を拝命しています。つまり、経営理論と実務の関係を考察しています。取締役会のメンバーとして現時点の企業実務に関わることで、現在の経営課題を知ることができ、コーポレートガバナンスという単語の意味を実感を持って理解できます。この授業では、社外取締役という仕事での経験をもとに経営管理の現代的課題を指摘し、研究課題の設定に活かす方法を探求します。
洞口のオフィスアワーは、木曜日昼休み、12:20～13:00、ボワソナードタワー 18階、1814 研究室です。
【Other Important Information】
Some classes may be held online. Students taking this course are recommended to take courses such as Management Organization Theory and Management Strategy Theory. The subject of the report, the date and time, and the place to visit will be decided among several candidates after consultation with students. Prof. Horaguchi's office hours are Thursday lunch break, 12:20-13:00, Boissonade Tower 18th floor, Room 1814.
The purpose of this course is to help prepare students who want to start thinking about their master's thesis concept in the fall semester of their first year of the master's program. Students who are in their second year of the master's course and are working on their master's thesis are also welcome to participate. The earlier you start, the higher the evaluation of your completed master's thesis will be. It is not a wise choice to take too many courses in the first year of a master's program and be completely unprepared to write a master's thesis. By accumulating research data from the first year of the master's program, you will be able to submit excellent research results.
In addition to being a professor at Hosei University's Faculty of Business Administration, Prof. Horaguchi is also an outside director of a company listed on the prime market of the Tokyo Stock Exchange. In other words, he examines the relationship between management theory and practice in the same way as working graduate students. By being involved in current corporate practice as a member of the board of directors, I am able to learn about current management issues and gain a real understanding of the meaning of the word "corporate governance. In this class, we will use our experiences in our work as outside directors to point out contemporary issues in business management and explore ways to apply them to the setting of our research agenda.

【Outline (in English)】
In this course of the Study in Business Administration class, master's students and occasional students learn about the research methods required to write a master's thesis on management. Based on the research topic submitted for the graduate school entrance exam, students will learn how to revise it and conduct further research. Students will learn scientific concepts such as hypothesis and proposition, deduction and induction, and theoretical and empirical research, as well as how to present the results of their management research at conferences, academic journals, and refereed journals.
【Learning Objectives】
This course aims to improve academic Japanese writing skills for writing master's research papers for international students who have passed Level 1 of the Japanese Language Proficiency Test or have equivalent Japanese language skills, as well as for Japanese students who have graduated from universities in Japan. Through small-group instruction in semester-long classes, students aim to acquire the skills necessary to complete an academically valuable research papers on management. The course aims to develop advanced thinking skills such as the ability to find research topics, understanding of previous research, reading comprehension of English and Japanese literature, skills for interview surveys, note-taking, charting, statistical analysis, Japanese writing skills, logical thinking skills, and other skills useful for writing a master's thesis on management.
【Methods】
Since there are many international students in the master's program and occasional students, the class will be conducted based on reading Japanese textbooks aloud. It is important not only to be able to understand the meaning of Japanese, but also to be able to read it accurately. In addition, students will improve their Japanese writing skills. First-year students who are planning to write their research papers are required to present a report on the theme. In preparation for a presentation, students study research methods related to management.
【Learning activities outside of classroom】
The standard preparation and review time for this class is 4 hours each.
Class 1: Conceptualize the theme of the master's thesis.
Class 2-3: Create an outline of the master's thesis theme and writing plan.
Class 4-8: Students will compare two or more retail stores or restaurants, present their findings, and write a report on their findings.
Class 9-13: Collect prior research related to the theme of the master's thesis and prepare a report resume. Students will devise specific research methods.
Class 14: Prepare materials for the interim report of the master's thesis and submit the report.
【Textbooks】

Textbook (1), Haruo Horaguchi, MBA no Narejji Manejiment: Shugochi Souzou no Genba toshiteno Shakaijin Daigakuin (Knowledge Management in MBA: Graduate School for Working Adults as a Site of Collective Knowledge Creation), Bunshindo, 2018, 2,400 yen plus tax.
Textbook (2), Robert K. Yin, Shinsoban Keisu Sutadii no Houhou, Dai 2-han, (Newly Revised version, Case Study Research, 2nd Edition, SAGE Publications, 1994), translated by Kimihiko Kondo, Chikura Shobo, 2011, 3,500 yen plus tax.
＜You can also buy used books from Amazon.com.　＞In addition, other necessary materials will be provided in class.
Other necessary materials will be distributed in class or through the learning support system.
【Grading Criteria / Policy】
Evaluation method and distribution: Attendance and class participation (42%), in-class reporting (18%), final exam (report submission) (40%).
Evaluation criteria: Emphasis will be placed on attendance and in-class comments. The criteria to be met for in-class reports will be indicated in class. The evaluation criteria for the final exam (report submission) will be: solidity of the theoretical framework, solidity of the empirical analysis, logical coherence, novelty of the theme, and Japanese writing ability.

MAN500F1 – 0148（経営学 / Management 500）

経営管理特論Ⅱ

洞口　治夫

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
数多くの企業が活動し、利益をあげている国や地域は、豊かな国、豊かな地域になっています。企業が世界的に活躍の場を広げていける理由は何でしょうか。この授業はセミナー形式で行い、経営管理の主要な領域とその理論について理解し、それに基づいて企業における組織活動を検討していきます。修士課程にふさわしい学術的な日本語文章力の錬成を目標にして、修士論文の書き方についても様々な例をもとに紹介します。春学期の集中授業です。

【到達目標】
経営管理の理論研究と実証研究を理解するとともに、論文作成に必要な日本語によるロジカル・シンキングの能力を高めていきます。たとえば、以下のような課題です。リサーチ・クエスチョン（研究課題の設定）とは何か。用語の定義をいかに行うか。先行研究のサーベイとはどのような作業なのか。テキスト・クリティーク（資料批判）とは何か。仮説とはどのような言明であるのか。仮説をつくる、という作業は、どのようなプロセスを経て行うのか。実証とは何か。実証的研究には、どのような研究方法があるのか。一次データと二次データの違いは何か。データ収集の方法には、どのような方法があるのか。統計的な解析が可能なのは、どのような課題に対してか。内生性（endogeneity）とは何を意味するか。論文の結論部分には何を記載するべきか。こうした思考方法を積み上げることで修士論文の作成が可能になります。この授業では、そうした課題の基礎を理解することを目標にします。
This course aims to help students grasp both theoretical and empirical research in business management, while enhancing their logical thinking skills in Japanese for effective paper writing. Assignments include exploring key questions such as: What constitutes a research question or the framing of a research problem? How do we define terms? What's involved in a review of prior research? What is textual criticism? What role does a hypothesis play, and how is one formulated? What does "empirical" mean, and what research methods are used in empirical studies? We'll also delve into distinctions between primary and secondary data, various data collection methods, the application of statistical analysis, understanding endogeneity, and crafting impactful paper conclusions. Building on these concepts is essential for successfully completing a master's thesis. The primary goal of this class is to establish a foundational understanding of these essential topics.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
授業はセミナー形式で行います。参加学生諸君は、割り当てられた課題についての「まとめ」を作成し、授業内で報告するとともに、その内容に関する疑問について議論をしていきます。そのなかで、必要なテーマについては、講義によって補っていきます。学生諸君と相談のうえ、商店街ないし会社・業界団体などを訪問し、その内容をレポートにまとめてもらいます。
The class will be conducted in a seminar format. Each student will prepare a "summary" of the assigned topic, report it to the class, and discuss questions related to its content. In the course of the seminar, necessary topics will be supplemented by lectures. After consultation with the students, they will visit shopping areas, companies, industry groups, etc., and write a report on their visit.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション Orientation	授業の進め方、テキスト、参考文献などについて説明。 Explanation of class procedures, textbooks, references, etc.
2	経営管理とは何か What is business management?	経営管理の全体像の説明。 Explanation of the overall picture of business management.
3	ロボットと人間 Robots and humans	テイラーによる科学的管理法の内容と現代的な意味。 The content and contemporary meaning of the scientific management method by Taylor.
4	人口知能と集合知 Artificial Intelligence and Collective Intelligence	バーナード＝サイモン理論による組織の定義。代表的な定義による管理の理解。 Definition of organization according to Bernard-Simon theory. Understanding of management by typical definitions.
5	繰り返し作業と仲間 Repetitive tasks and peers	人間関係論。疲労の発生要因と現代的な意味。 Human relations theory. Causes and contemporary implications of fatigue.
6	社会科学における実験の可能性 The Potential of Experimentation in the Social Sciences.	ホーソン実験の内容と現代的な意義。 The Hawthorne experiment and its contemporary significance.
7	やる気と報酬 Motivation and Reward Motivation and incentives.	モティベーションとインセンティブ。個人を動かすものと組織を動かすもの。 What motivates individuals and what motivates organizations.
8	目標管理 Goal Management	目標管理の内容と企業への導入。ＭＢＯとドラッカー。 The content of goal management and its introduction into companies. MBO and Drucker.
9	成果主義 Outcome Based Management	日本企業における成果主義について。 The results-oriented approach in Japanese companies.
10	管理原則と管理過程論 Management Principles and Management Process Theory	ファヨールの理論と組織の柔軟性について。 Fayol's theory and organizational flexibility.
11	コアコンピテンス Core Competence	ペンローズ理論の重要性。 Importance of Penrose Theory.
12	バーナード理論 Barnard's Theory	バーナード理論の概要の説明。 An overview of Barnard's theory.

13	インフォーマル組織と排除のメカニズム Informal Organizations and Mechanisms of Exclusion	インフォーマル組織の形成条件と、そこで作用する排除のメカニズムについて。 The conditions for the formation of informal organizations and the mechanisms of exclusion that operate in them.
14	限定された合理性 Bounded Rationality	サイモンの意思決定論の説明。囚人のジレンマ。 Explanation of Simon's theory of decision-making. Prisoner's The Prisoner's Dilemma.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各時間ごとに、予習・復習の内容を指示します。教科書、参考書は、ともに必須です。それ以外に論文のコピーなどを配布します。
【Work to be done outside of class (preparation, review, homework, etc.)】
The contents of preparation and review will be given for each class period. Reading the textbook and reference books is required to earn credits. In addition, copies of articles and other materials will be distributed.

【テキスト（教科書）】
洞口治夫・行本勢基『入門　経営学－はじめて学ぶ人のために－（第2版）』同友館、2012年.
【Textbook (textbook)】
Haruo Horaguchi and Seiki Yukimoto, Nyuumon Keieigaku: Hajimete manabu hito no tameni (Introduction to Business Administration: For Those Learning for the First Time) (2nd Edition), Doyukan, 2012.

【参考書】
高橋伸夫編著『よくわかる経営管理』ミネルヴァ書房、2011年.
【Reference book】
Nobuo Takahashi (ed.), Yokuwakaru Keieikanri (Understanding Business Management), Minerva Shobo, 2011.

【成績評価の方法と基準】
授業への参加（30％）、宿題の提出（20％）、中間レポート(20％)、期末レポート（30％）によって判定します。
【Grading Methods and Criteria】
The evaluation will be based on participation in class (30%), submission of homework assignments (20%), mid-term report (20%), and the final report (30%).

【学生の意見等からの気づき】
本科目は2022年度新設科目であり、2023年度は休講でした。2022年度について学生からの意見が特になかったため、本項目は該当しません。授業参加学生からの要望を聞きながら学期中の授業改善に努めていきます。
This course was newly established in 2022 and was not offered in 2023. This item is not applicable since there were no specific comments from students in 2022. We will make efforts to improve classes during the semester while listening to requests from students participating in the class.

【学生が準備すべき機器他】
学生諸君は、ノートテイキングのためのノートと筆記用具、英和辞書機能つき電子辞書ないしスマホ、授業内容の告知のためには授業支援システムを利用しますので、それが閲覧できるパソコンが必要です。
【Students are required to prepare the following equipment】
Students will need a notebook and writing utensils for note-taking, an electronic dictionary with English-Japanese dictionary function or a smart phone, and a computer with access to the class support system, which will be used to inform students of class contents.

【その他の重要事項】
授業の一部はオンラインで開講する場合があります。この科目を履修する学生には、経営組織論、経営戦略論といった科目の履修を薦めます。レポート作成の対象、日時、訪問場所などは学生諸君と相談のうえで、いくつかの候補のなかから決定します。洞口のオフィスアワーは、木曜日昼休み、12:20～13:00、ボワソナードタワー 18階、1814 研究室です。
【Other Important Information】
Some classes may be held online. Students taking this course are recommended to take courses such as Management Organization Theory and Management Strategy Theory. The subject of the report, the date and time, and the place to visit will be decided among several candidates after consultation with students. Prof. Horaguchi's office hours are Thursday lunch break, 12:20-13:00, Boissonade Tower 18th floor, Room 1814.

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞国際経営論
＜研究テーマ＞国際経営、知識管理
＜主要研究業績＞ Haruo H. Horaguchi, 2023. Forecasting foreign exchange rates as group experiment: actuality bias and fact-convergence effect within wisdom of crowds, Review of Behavioral Finance 15 (5), 652-671
Haruo H. Horaguchi. 2022. Foreign Direct Investment of Japanese Firms: Investment and Disinvestment in Asia, c.1970-1989, Academic Research Publication.
原田順子・洞口治夫編著『改訂新版　国際経営』放送大学教育振興会、2019年.

【Outline (in English)】
Countries and regions with many thriving companies are considered wealthy, and their prosperity is evident. What factors contribute to the global expansion of companies? This seminar-style class aims to provide students with a comprehensive understanding of key areas in business management and associated theories. Students will analyze organizational activities within companies through this lens. Additionally, the course focuses on enhancing academic Japanese writing skills suitable for a master's degree program, including guidance on crafting a master's thesis using diverse examples. This intensive class is offered during the spring semester.

MAN500F1－0151（経営学 / Management 500）

人的資源管理特論Ⅰ

藤本　真

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本の企業が実践する人的資源管理の基本的な考え方を学び、その特殊性（海外の企業及び制度との国際比較）について議論していきます。
取り上げるテーマは、人材の募集・採用、人材の配置・異動、評価・賃金制度、能力開発、労働時間管理、労使関係管理、多様化する人材の管理（非正規化・国際化）、退職・解雇などです。これらの領域について現状と歴史、主要な議論を把握するとともに、参加者は、各領域に対応するケースや論文を取りまとめ、その構造や課題について報告・議論します。
こうした学習活動を通じ、人的資源管理にかかわる理論や議論をふまえて、人的資源管理の現状や課題について考える力を身につけることを目標としています。

【到達目標】
①人的資源管理論の対象領域の広がりと基本的な考え方を知る。
②人的資源管理の個別分野に関する基礎的な理論や議論を理解する。
③そのうえで、日本企業における人的資源管理の特殊性について理解・評価する。
④身近な人的資源管理の事例について考察する視点を得る。
⑤人的資源管理に関連する論文について批判的に検討する視点を得る。
⑥修士論文等で研究するテーマについてのヒントを得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
１．本授業は、対面型授業として、実施します。
２．授業は、①人的資源管理の各領域に関する基本的な考え方や、議論の動向についての講義と、②参加者による課題についての報告・ディスカッション、とを組み合わせて進める予定です。毎回、講義形式の部分に加えて、参加者に深く考え、発言してもらう機会を設けます。報告・議論の準備が課題となります。
３．およそのスケジュールは授業計画のとおりです。ただし、各テーマの授業時間の配分等については、参加者の関心に応じて柔軟に変更する可能性があります。また、順序を適宜、入れ替えることがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の目的、取り上げるテーマ、進め方についての説明
第2回	オリエンテーション	参加者の問題関心の共有と、人的資源管理の基本枠組みについての説明
第3回	採用のマネジメント	採用の目的、採用管理の基本、新卒採用・中途採用の意義、採用と定着
第4回	配置と異動	配置・異動の目的、初任配置、企業を超えた配転
第5回	昇進と昇格	昇進管理の目的、昇進における「選抜」「育成」「動機づけ」の関係、社員の格付け、昇格と昇進
第6回	多様な雇用・就業形態の活用	正社員以外の雇用・就業形態で働く人々の配置と処遇、「同一労働・同一賃金」に向けた取り組み
第7回	働く時間のマネジメント	労働時間管理の基本的枠組み、長時間労働・「サービス残業」の背景、ワーク・ライフ・バランス
第8回	仕事ぶりの評価	人事評価の目的・方法、様々な評価要素（コンピテンシーなど）、人事評価に伴う課題
第9回	賃金管理(１)－賃金決定と福利厚生の枠組み－	賃金の基本的な枠組み、賃金がもつ機能、賃金の総額管理と個別賃金管理、福利厚生
第10回	賃金管理(２)－様々な給与形態－	「年功主義的」賃金の成立過程と課題、近年における評価・賃金制度の模索と課題
第11回	能力開発とキャリア形成のマネジメント(１)	仕事上の能力開発の目的、能力開発の方法、能力開発とキャリア形成・管理
第12回	能力開発とキャリア形成のマネジメント(２)	配置・異動とキャリア形成、「新しい」異動の仕組みと課題、「キャリア自律」に向けた取組み
第13回	女性の仕事とキャリア形成	女性の採用・配置・処遇の現状、性別職域分離とその解消に向けた取組み
第14回	退職のマネジメント	退職管理、早期退職優遇制度、定年制、「70歳までの雇用・就業」に向けての取組み

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各1時間を標準とします。
各回の事前に配布する講義用のレジュメを熟読しておくこと。特に、留学生の参加者は、自国の制度・実態との差異と今後の課題について、意見・議論できるように準備しておくこと。
また、各回で発表の指名を受けた参加者は、発表課題について内容をまとめたレジュメを作成しておくこと。

【テキスト（教科書）】
講義全般を通じての基本テキストは特には指定しません。各回の授業の前に、講義で用いるレジュメを配布します。

【参考書】
各回のテーマによって、以下の文献を参考文献として使用します。
①今野浩一郎、佐藤博樹[2020]『人事管理入門（第3版）』，日本経済新聞社.
②佐藤博樹、藤村博之、八代充史[2023]『新しい人事労務管理（第7版）』，有斐閣.
③平野光俊、江夏幾多郎[2018]『人事管理～人と企業，ともに活きるために』，有斐閣ストゥディア.
④守屋貴司・中村艶子・橋場俊展編著[2018]『価値創発(EVP)時代の人的資源管理』，ミネルヴァ書房.
⑤八代充史[2019]『人的資源管理論～理論と制度(第3版)』,中央経済社.
⑥上林千恵子編著[2012]『よくわかる産業社会学』,ミネルヴァ書房.

【成績評価の方法と基準】
１．第２回以降の出席を「授業における学習姿勢」として評価(40%)
２．報告の担当回での報告内容の評価(30%)
３．授業における議論への参加の評価：内容、積極性を評価(30%)
以上の３項目を総合して、最終的な評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】
１．人的資源管理とは、「①社会環境上の、または組織における様々な制約条件のもと、②人材と仕事・役割をマッチングしつつ、③個々の人材がパフォーマンスを発揮できるように取り組み、④組織としてのパフォーマンスを挙げる」ための営みと、捉えることができます。授業の中では、各回のテーマに沿う形で、この①～④の要素についての理解が進むように、講義で話題提供と問題提起を行い、報告・ディスカッションを通じて、検討を行っていきます。
２．この授業は、海外から進学してきた大学院生が多く履修しているため、日本企業の人的資源管理についての理解を深めるとともに、海外企業と日本企業との共通点や違いがなぜ生まれるのかについて、考察できる機会にしていきたいと考えています。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
産業社会学、人的資源管理論
＜研究テーマ＞
①環境変化のもとでの日本企業における能力開発活動、キャリア管理

②中小企業セクターで働く人々の意識とキャリア形成に向けての活動
③転職・中途採用と能力開発・キャリア形成
④能力開発、労働市場に関する社会的インフラ（公共職業訓練制度、資格・検定制度など）の機能
＜主要研究業績＞
（書籍）
○労働政策研究・研修機構編[2012]『中小企業における人材育成・能力開発』(共著),労働政策研究・研修機構.
○梅崎修・池田心豪・藤本真編著[2019]『労働・職場調査ガイドブック』,中央経済社.
○森山智彦／労働政策研究・研修機構編［2022］『70歳就業時代における高年齢者雇用』,労働政策研究・研修機構.
○藤本真・佐野嘉秀編著［2024］『日本企業の能力開発システム』（近刊）,労働政策研究・研修機構.
（論文）
○藤本真[2011]「60歳以降の勤続をめぐる実態―企業による継続雇用の取組みと高齢労働者の意識・行動」,日本労働研究雑誌No.616.
○藤本真[2018]「「キャリア自律」はどんな企業で進められるのか」,日本労働研究雑誌No.691.
○藤本真[2023]「日本のデジタル関連スキル養成政策の特徴と課題」,日本労働研究雑誌No.754.

【Outline (in English)】
【Outline】
Students will learn the basic concept of human resource management practiced by Japanese companies and discuss their characteristics through international comparison with overseas companies and systems.
The topics covered in this class are recruitment, placement/transfer, evaluation, wage system, human resource development, working time management, industrial relations, diversification of human resources, retirement, and so on. Participants are required to understand the main issues on these topics, and to report and discuss examples and papers corresponding to each topic.
Through these learning activities, the goal is for participants to acquire the ability to think about the current status and issues of human resource management.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
(1) To understand the breadth of the subject area of human resource management theory and its basic concepts.
(2) To understand the basic theories and discussions on individual areas of human resource management.
(3) To understand and evaluate the particularities of human resource management in Japanese companies.
(4) To gain a perspective from which to examine familiar human resource management case studies.
(5) To gain a viewpoint from which to critically examine papers related to human resource management.
(6) To obtain hints for research themes for master's thesis.
【Learning activities outside of classroom)】
Before each class meeting, students are expected to do the followings. Your required study time is at least two hours for each　class meeting.
(1) Students are expected to read carefully the lecture resume distributed in advance.
(2) International students should be prepared to discuss the differences between the system and the actual situation in their home countries and the future issues.
(3) Participants who are appointed to give a presentation in each session should prepare a resume summarizing the contents of the presentation topic.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Short reports: 30% and in-class contribution：70%.

MAN500F1 – 0153（経営学 / Management 500）

経営戦略特論Ⅰ

李　瑞雪

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
企業はどのように自社の事業範囲を決定し、持続可能な競争優位を競合他社に対して獲得し、効率的かつ有効なオペレーション・システムを構築し、改善していくのか。これらの問題を中心に、企業の全社戦略、競争戦略、サプライチェーン戦略を検討します。ケースメソッドを用いて、具体的な企業事例を分析することで、理論の理解を深めます。

【到達目標】
本授業では、全社戦略、競争戦略（事業戦略）、サプライチェーン戦略に関する基本的な理論、概念、分析手法を学びます。既存の理論と分析フレームワークを援用して現実の経営戦略を説明し、考察する能力を養うことが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
講義方式とケーススタディ方式を併用して授業を進めます。プレゼンテーションとグループ・ディスカッションを求めることがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	経営戦略とは	経営戦略の定義と階層、戦略と組織、戦略とオペレーション。
第2回	競争優位と一般戦略	戦略と競争優位、一般戦略（コストリーダーシップ、差別化、集中化）、差別化の類型、持続的競争優位のメカニズム。
第3回	ポジショニング・アプローチ（Ⅰ）	SCPモデル、ファイブ・フォース・モデル、参入障壁、戦略グループ、移動障壁。
第4回	ポジショニング・アプローチ（Ⅱ）	バリューチェーン、ピムズ・デル、SWOT分析、戦略策定手順、PPM、ビジネススクリーン。
第5回	１回目ケーススタディ	ケーススタディ、グループ討論と発表。
第6回	産業構造と戦略的機会(Ⅰ)	集約・統合戦略、先行者優位の戦略、市場リーダーシップ戦略、ニッチ戦略、収穫戦略、撤退戦略、勝者総取り戦略。
第7回	産業構造と戦略的機会（Ⅱ）	トランスナショナル戦略、デファクト・スタンダード戦略、先制破壊戦略。
第8回	リソース・ベース・ビュー（RBV）	VRIOフレームワーク、競争戦略と経営資源、コア・コンピタンス、経営資源保有のパラドックス、経営資源蓄積メカニズム、イノベーションと競争優位。
第9回	ゲーム論アプローチ（Ⅰ）	価値相関図（バリュー・ネット）、コーピティション（競争と協調）、「付加価値」と価値工限度、ネットワークの外部性と競争優位。
第10回	２回目ケーススタディ	ケーススタディ、グループ討論と発表。
第11回	ゲーム論アプローチ（Ⅱ）	MFC条項とMCC条項、戦略的補完関係、意図的抑止。
第12回	創発戦略と学習アプローチ	創発戦略、学習の「場」の設定、実験による学習、ダイナミック・シナジー。
第13回	競争戦略パラダイムの転換	イノベーション戦略、プラットフォーム戦略、シェアリング・ビジネスの戦略など。
第14回	競争戦略のまとめ、中間テスト	競争戦略のまとめ、中間テスト。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回授業に先立って、レジュメなどの資料を事前に予習し、指定されたリーディングを読みディスカッションに備えます。ケーススタディに際しては、プレゼンの資料（パワーポイント）を事前に作成します。

【テキスト（教科書）】
レジュメ配布。

【参考書】
『企業戦略論』ジェイB. バーニー著、ダイヤモンド社.
『戦略サファリ』ヘンリー・ミンツバーグ著、東洋経済新聞社.
『競争の戦略』M・E・ポーター著、ダイヤモンド社.
『戦略経営論』ｶﾞｰｽ・ｻﾛｰﾅｰほか著、東洋経済新聞社.
Supply Chain Logistics Management, 4th Edition, D. J. Bowersox, D. J. Closs, M. B. Cooper, J. C. Bowersox, McGraw Hill.
Logistics Management & Strategy, 4th Edition, A. Harrison & R. V. Hoek, FT Prentice Hall.

【成績評価の方法と基準】
授業中の参加の度合いと貢献度（20％）、ケーススタディの討論と発表（25％）、中間テストの成績（25％）、期末テストの成績（30％）を総合して成績評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】
スライドの切り替え速度に気をつけます。授業中、随時質問を受け付けます。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞ロジスティクス・マネジメント論、経営戦略論
＜研究テーマ＞新興国市場におけるロジスティクス戦略とサプライチェーンマネジメント戦略、ロジスティクスクラスター形成
＜主要研究業績＞『中国物流産業論：高度化の軌跡とメカニズム』白桃書房.
『中国製造業の基盤形成：金型産業の発展メカニズム』白桃書房.
『業界別物流管理とSCMの実践』ミネルヴァ書房など.

【Outline (in English)】
How do companies determine their business scope, acquire sustainable competitive advantages over their rivals, build and improve efficient and effective operational systems? Focusing on these issues, this course will explore and discuss corporate strategy, business strategy, and supply chain strategy. The case method will be used to analyze real-world examples. The goals of this course are to deeply understand the relevant theories and be able to analyze the effectiveness of companies' strategies. Before each class meeting, students are expected to have read the relevant articles assigned by the instructor. The required study time is at least two hours for each class meeting. The final grade will be calculated based on the following components: Mid-term report (25%), term-end examination (30%), and in-class contribution, including presentations and discussions(45%).

MAN500F1 – 0154（経営学 / Management 500）

経営戦略特論Ⅱ

李　瑞雪

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
企業はどのように自社の事業範囲を決定し、持続可能な競争優位を競合他社に対して獲得し、効率的かつ有効なオペレーション・システムを構築し、改善していくのか。これらの問題を中心に、企業の全社戦略、競争戦略、サプライチェーン戦略を検討します。ケースメソッドを用いて、具体的な企業事例を分析することで、理論の理解を深めます。

【到達目標】
本授業では、全社戦略とオペレーションズ戦略に関する基本的な理論、概念、分析手法を学びます。既存の理論と分析フレームワークを援用して現実の経営戦略を説明し、考察する能力を養うことが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
講義方式とケーススタディ方式を併用して授業を進めます。プレゼンテーションとグループ・ディスカッションを求めることがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	企業戦略の基本	ドメイン、製品・市場ポートフォリオ、シナジー、成長ベクトル
第2回	多角化戦略	多角化戦略の定義、多角化の誘因・動機、多角化の類型、多角化度、多角化ディスカウント、ダイナミックな学習プロセス
第3回	垂直統合の戦略	垂直方向の事業展開、垂直統合度、Make or Buyの意思決定、第3の取引形態、取引統治メカニズムの類型など
第4回	国際化の戦略	国際化の類型、国際化戦略における範囲の経済、海外顧客の購入意思と購入能力、輸入障壁、OLIフレームワーク、統合化と適応化、国際企業の類型、CAGEフレームワーク、AAA戦略、ボーングローバル戦略
第5回	M&A戦略とPMI戦略	M&Aの類型、戦略的関連性の源泉、M&A戦略の動機、ターゲット企業とビディング戦略の行動規範と原則、買収後のプロセス統合戦略
第6回	戦略的提携	戦略的提携の定義と形態、戦略的提携と業界構造、提携におけるリスクなど
第7回	第１回のケーススタディ	ケーススタディ、グループ討論と発表
第8回	サプライチェーン戦略	SCMとサプライチェーン戦略、プロセス管理、効率性指向のサプライチェーンと応答性指向のサプライチェーン、延期化と投機化、マス・カスタマイゼーション
第9回	サプライチェーン・ネットワーク分析	サプライチェーン・ビジネス・プロセス、サプライチェーン・ネットワーク構造、サプライチェーン・マネジメント・コンポーネント
第10回	ロジスティクス戦略の基本要素	トータルコスト、差別的ディストリビューション、混合戦略、コンソリデーション
第11回	ロジスティクスとサプライチェーンマネジメント組織	サプライチェーン戦略とサプライチェーン組織、サプライチェーン・パフォーマンスとメトリクス
第12回	調達戦略と製造戦略	多様な調達機能、TCO、調達方式の類型、調達戦略のマトリクス、調達組織、オペレーションモデル（生産戦略）、生産プロセス、生産工程の基本タイプ、リーン生産システム
第13回	ビジネスモデルと経営戦略	ビジネスモデルのマジック・トライアングル、事業設計、ビジネスモデルの主要パターン
第14回	ケーススタディ	ケーススタディ、グループ討論と発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
毎回授業に先立って、レジュメなどの資料を事前に予習し、指定されたリーディングを読みディスカッションに備えます。ケーススタディに際しては、プレゼンの資料（パワーポイント）を事前に作成します。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。適宜資料を配布する。

【参考書】
『企業戦略論』ジェイB. バーニー著、ダイヤモンド社.
『戦略サファリ』ヘンリー・ミンツバーグ著、東洋経済新聞社.
『競争の戦略』M・E・ポーター著、ダイヤモンド社.
『戦略経営論』ガース・サローナーほか著、東洋経済新聞社.
『リーン・スタートアップ』エリック・リース著、日経BP社.

【成績評価の方法と基準】
授業中の参加の度合いと貢献度（20％）、ケーススタディの討論と発表（25％）、中間テストの成績（25％）、期末テストの成績（30％）を総合して成績評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】
スライドの切り替え速度に気をつけます。授業中、随時質問を受け付けます。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞ロジスティクス・マネジメント論、経営戦略論
＜研究テーマ＞新興国市場におけるロジスティクス戦略とサプライチェーンマネジメント戦略、ロジスティクスクラスター形成
＜主要研究業績＞『中国物流産業論：高度化の軌跡とメカニズム』白桃書房.
『中国製造業の基盤形成：金型産業の発展メカニズム』白桃書房.
『業界別物流管理とSCMの実践』ミネルヴァ書房など.

【Outline (in English)】
How do companies determine their business scope, acquire sustainable competitive advantages over their rivals, build and improve efficient and effective operational systems? Focusing on these issues, this course will explore and discuss corporate strategy, business strategy, and supply chain strategy. The case method will be used to analyze real-world examples. The goals of this course are to deeply understand the relevant theories and be able to analyze the effectiveness of companies' strategies. Before each class meeting, students are expected to have read the relevant articles assigned by the instructor. The required study time is at least two hours for each class meeting. The final grade will be calculated based on the following components: Mid-term report (25%), term-end examination (30%), and in-class contribution, including presentations and discussions(45%).

MAN500F1 – 0155（経営学 / Management 500）

国際経営特論 I

安藤　直紀

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本国で競争力のある企業が、必ずしも海外で成功するとは限りません。本国と外国とのさまざまな違いが、本国における成功要因の有効性を下げてしまうことが理由として考えられます。それでは企業は外国でどのように競争したらよいのでしょうか。これが国際経営の主要な研究課題です。本講義では、国際経営において伝統的に重要な研究領域、および近年注目されている研究領域を概観します。学生は、国際経営における重要なトピックを、経営学で頻繁に適用される理論と関連させながら学びます。

【到達目標】
１．国際経営における主要な研究分野で、どのようなトピックが近年研究されているのかを理解し、各トピックに関する知識を深めます。
２．国際経営の研究に活用される主要な理論を理解し、自らの研究に活用できるようになります。
３．国際経営の研究方法を理解し、理論を活用して仮説構築や事例分析ができるようになります。
４．国際経営に関する論文を読むスキルを身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
本講義の授業形態は、対面形式とします。内容により、一部、オンラインでも行います。オンライン授業への参加方法は、学習支援システム（Hoppii）内でお知らせします。
授業計画に示したトピックについて、ます基本的な事項（理論や研究動向など）を講義します。その後、トピックに関連した課題やディスカッションを行います。また、トピックに関連した調査を行い、報告を行います。
学期の中盤にプロジェクトの課題を提示します。課題について各自研究を行い、研究成果のプレゼンテーションを行います。
課題の提出等は学習支援システムを通した提出とEメールによる提出を併用します。課題や質問、意見等に対するフィードバックは、適宜講義内で行います

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	講義概要とオリエンテーション
2	Methodology	社会科学の研究方法の検討
3	The environment of international business (1)	制度的環境に関する検討
4	The environment of international business (2)	文化的環境に関する検討
5	Institutional theory	制度理論の検討
6	Emerging economies	新興経済における制度の検討
7	FDI	FDIの現状と類型に関する検討
8	MNE	多国籍企業とは
9	Theory on internationalization (1)	企業のFDIを説明する理論に関する検討
10	Theory on internationalization (2)	OLIパラダイム、Uppsala Model
11	Strategies of MNEs(1)	Global strategyに関する検討
12	Strategies of MNEs(2)	Multidomestic strategyに関する検討
13	Presentation(1)	プロジェクトの成果発表（1）
14	Presentation(2)	プロジェクトの成果発表（2）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時間外に、資料を読んだり、課題に取り組んだり、プレゼンテーションの準備をしたりすることが求められます。
講義のための準備・復習時間は、各回４時間を標準とします。
下記に取り組むと、講義の理解が深まると思います。
1回　学部で学習したことを復習する
2回　社会科学の方法論に関して調査する
3-4回　多国籍企業が海外で直面する制度的、文化的環境を調査する
5回　Institutional theoryに関して調査する
6回　多国籍企業が新興国で直面する制度的環境に関して調査する
7-8回　FDIの現状について調査する
9-10回　企業の国際化を説明する理論に関して調査する
11-12回　多国籍企業の戦略の類型に関して調査する
13-14回　プロジェクトの成果発表の準備をする

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない予定です。詳細は、最初の講義で指示します。

【参考書】
下記に参考書を示しますが、より新しい版が出版されているものもあります。
Cavusgil, S.T., Knight, G. & Riesenberger, J.R.2008. International Business: The New Realities (2nd ed.). Prentice Hall: NJ.
Cullen, J.B. & Parboteeah, K.P. 2008. Multinational Management: A Strategic Approach. South-Western: OH.
Collinson, S., Narula, R., & Rugman, A.M. 2020. International Business. Pearson Education: Harlow, UK.
Peng M. & Meyer, K. 2019. International Business (3rd ed.). Cengage: UK.
Shenkar, O. & Luo, Y. 2008. International Business (2nd ed.). Sage Publications: CA.

【成績評価の方法と基準】
下記の比率で評価します。
プロジェクト：６０％
クラスへの貢献：４０％
プロジェクトの評価には、ペーパー自体と、ペーパーに関するプレゼンテーションの評価を含みます。
クラスへの貢献には、課題の準備、課題に関する報告、ディスカッションへの貢献等を含みます。クラスへの貢献に含まれる課題は、プロジェクトとは別の、講義内で提示される課題です。

【学生の意見等からの気づき】
理論と関連したケースをより多く紹介します。
ケース分析及びディスカッションに配分する時間を増やします。

【学生が準備すべき機器他】
オンラインによる講義を受講可能な情報機器が必要です。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
国際経営戦略
＜研究テーマ＞
多国籍企業の地理的多角化、多国籍企業の新興経済への参入、多国籍企業内の言語障壁
＜主要研究業績＞
① Discontinuity of required oral and literacy skills across job roles in achieving high work performance: An fsQCA approach. 2023. International Business Review, 32(4): 102072. (with Suzuki M. and Nishikawa, H.)
② Human capital, cultural distance and staffing localization. 2021. Multinational Business Review, 29(3): 420-439.
③ Seeing the tree and the forest: Japanese auto firm multinational dispersion, cultural distance, and foreign manufacturing subsidiary ownership levels. 2021. Asian Business & Management, 20(2): 163-187. (with Powell, K.S. and Lim, E.)

【Outline (in English)】
(Course outline)
Firms that are competitive in their home country often fail overseas. This is partially because the environment of the host country, which is different from that of the home country, reduces the value of their firm-specific advantages. How should firms compete overseas? This is a primary research agenda in international business studies. This course introduces students to traditional and new research topics in international business studies. They will learn key concepts and frameworks of international business studies and theories behind them.
(Learning objectives)
The goal of this course is to understand basics of international business studies. Students will gain a better understanding of primary research topics in international business studies. They will also understand theories used in international business studies and build skills to read academic papers. At the end of this course, students are expected to improve an ability to develop hypotheses of and analyze firms' success and failure in foreign countries, applying theories of international business.
(Learning activities outside of classroom)
Students are required to read materials, complete assignments, and prepare for presentations and discussions. Time for preparatory study and review will be at least 4 hours for each class.
(Grading Criteria/Policies)
Students will be evaluated on a term project (60%) and in-class contribution (40%).

MAN500F1 – 0156（経営学 / Management 500）

国際経営特論Ⅱ

安藤　直紀

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本国で競争力のある企業が、必ずしも海外で成功するとは限りません。本国と外国とのさまざまな違いが、本国における成功要因の有効性を下げてしまうことが理由として考えられます。それでは企業は外国でどのように競争したらよいのでしょうか。これが国際経営の主要な研究課題です。本講義では、国際経営において伝統的に重要な研究領域、および近年注目されている研究領域を概観します。学生は、国際経営における重要なトピックを、経営学で頻繁に適用される理論と関連させながら学びます。

【到達目標】
１．国際経営における主要な研究分野で、どのようなトピックが近年研究されているのかを理解し、各トピックに関する知識を深めます。
２．国際経営の研究に活用される主要な理論を理解し、自らの研究に活用できるようになります。
３．国際経営の研究方法を理解し、理論を活用して仮説構築や事例分析ができるようになります。
４．国際経営に関する論文を読むスキルを身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
本講義の授業形態は、対面形式とします。内容により、一部、オンラインでも行います。オンライン授業への参加方法は、学習支援システム（Hoppii）内でお知らせします。
授業計画に示したトピックについて、ます基本的な事項（理論や研究動向など）を講義します。その後、トピックに関連した課題やディスカッションを行います。また、トピックに関連した調査を行い、報告を行います。
学期の中盤にプロジェクトの課題を提示します。課題について各自研究を行い、研究成果のプレゼンテーションを行います。
課題の提出等は学習支援システムを通した提出とEメールによる提出を併用します。課題や質問、意見等に対するフィードバックは、適宜講義内で行います

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Entry mode(1)	参入方式の類型の検討
2	Entry mode(2)	参入方式の選択の検討
3	Transaction cost theory	取引費用理論の検討
4	Intraregional diversification(1)	多国籍企業の地域内拡大に関する検討
5	Intraregional diversification(2)	多国籍企業の地域内拡大とパフォーマンスの関係に関する検討
6	International HRM	海外子会社の人材戦略の検討
7	Agency theory	Agency theoryと海外子会社の人材配置に関する検討
8	Localization	海外子会社の人材現地化の効果に関する検討
9	Language barriers (1)	多国籍企業が直面する言葉の壁の検討
10	Language barriers (2)	言語の壁の克服方法
11	International alliance(1)	国際戦略的提携の締結に関する検討
12	International alliance(2)	国際戦略的提携のマネジメントに関する検討
13	Presentation(1)	プロジェクトの成果発表（1）
14	Presentation(2)	プロジェクトの成果発表（2）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時間外に、資料を読んだり、課題に取り組んだり、プレゼンテーションの準備をしたりすることが求められます。
講義のための準備・復習時間は、各回４時間を標準とします。
下記に取り組むと、講義の理解が深まると思います。
1-2回　エントリー・モードに関して調査する
3回　取引費用理論に関して調査する
4-5回　多国籍企業の地域内拡大に関して調査する
6回　国際人材戦略に関して調査する
7回　Agency theoryに関して調査する
8回　人材の現地化に関して調査する
9-10回　多国籍企業における言語の役割に関して調査する
11-12回　国際戦略的提携に関して調査する
13-14回　プロジェクトの成果発表の準備をする

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない予定です。詳細は、最初の講義で指示します。

【参考書】
下記に参考書を示しますが、より新しい版が出版されているものもあります。
Cavusgil, S.T., Knight, G. & Riesenberger, J.R.2008. International Business: The New Realities (2nd ed.). Prentice Hall: NJ.
Cullen, J.B. & Parboteeah, K.P. 2008. Multinational Management: A Strategic Approach. South-Western: OH.
Collinson, S., Narula, R., & Rugman, A.M. 2020. International Business. Pearson Education: Harlow, UK.
Peng M. & Meyer, K. 2019. International Business (3rd ed.). Cengage: UK.
Shenkar, O. & Luo, Y. 2008. International Business (2nd ed.). Sage Publications: CA.

【成績評価の方法と基準】
下記の比率で評価します。
プロジェクト：６０％
クラスへの貢献：４０％
プロジェクトの評価には、ペーパー自体と、ペーパーに関するプレゼンテーションの評価を含みます。
クラスへの貢献には、課題の準備、課題に関する報告、ディスカッションへの貢献等を含みます。クラスへの貢献に含まれる課題は、プロジェクトとは別の、講義内で提示される課題です。

【学生の意見等からの気づき】
理論と関連したケースをより多く紹介します。
ケース分析及びディスカッションに配分する時間を増やします。

【学生が準備すべき機器他】
オンラインによる講義を受講可能な情報機器が必要です。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
国際経営戦略
＜研究テーマ＞
多国籍企業の地理的多角化、多国籍企業の新興経済への参入、多国籍企業内の言語障壁
＜主要研究業績＞
① Discontinuity of required oral and literacy skills across job roles in achieving high work performance: An fsQCA approach. 2023. International Business Review, 32(4): 102072. (with Suzuki M. and Nishikawa, H.)
② Human capital, cultural distance and staffing localization. 2021. Multinational Business Review, 29(3): 420-439.
③ Seeing the tree and the forest: Japanese auto firm multinational dispersion, cultural distance, and foreign manufacturing subsidiary ownership levels. 2021. Asian Business & Management, 20(2): 163-187. (with Powell, K.S. and Lim, E.)

【Outline (in English)】
(Course outline)
Firms that are competitive in their home country often fail overseas. This is partially because the environment of the host country, which is different from that of the home country, reduces the value of their firm-specific advantages. How should firms compete overseas? This is a primary research agenda in international business studies. This course introduces students to traditional and new research topics in international business studies. They will learn key concepts and frameworks of international business studies and theories behind them.
(Learning objectives)
The goal of this course is to understand basics of international business studies. Students will gain a better understanding of primary research topics in international business studies. They will also understand theories used in international business studies and build skills to read academic papers. At the end of this course, students are expected to improve an ability to develop hypotheses of and analyze firms' success and failure in foreign countries, applying theories of international business.
(Learning activities outside of classroom)
Students are required to read materials, complete assignments, and prepare for presentations and discussions. Time for preparatory study and review will be at least 4 hours for each class.
(Grading Criteria/Policies)
Students will be evaluated on a term project (60%) and in-class contribution (40%).

MAN500F1－0128（経営学 / Management 500）

財務会計論Ⅰ

川島　健司

備考（履修条件等）：**学部主催「財務会計論Ⅰ」と合同**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基本的な簿記・会計（簿記入門Ⅰ／Ⅱ、会計学入門Ⅰ／Ⅱ）を習得した学生を対象に、財務会計の制度・理論とその活用方法を体系的に講義する。財務会計の学習においては、財務諸表の「作り方」と「読み方」を同時に学ぶことが効率的であり、本講義では財務諸表の作り手と読み手の双方の視点を通して、財務会計の実務を理解することを目指す。

財務諸表の作り方の視点を通じては、基本的な会計原則と会計基準を解説する。これには、財務会計の目的と機能、複式簿記の原理、利益計算の考え方、会計規制の考え方、資産評価の考え方、会計情報の質的特性、資産・負債・収益・費用の各概念に関する財務会計の議論などが含まれる。時間の制約上、各項目について詳細に解説することには限界があるが、各項目間の関係性を理解し、財務会計の体系全体を俯瞰することを目標にする。

財務諸表の読み方の視点を通じては、代替的な会計処理の手続きの種類とその選択に関する財務諸表作成者の動機のパターンを解説し、公表された会計数値の意味をいかに解釈するかについて議論する。また、代表的な財務指標を解説し、実際の公表財務諸表から企業実態を推論する技法について講義する。近年、財務会計の主要な目的は「投資家の意思決定に資する有用な情報を提供すること」とされており、受講生には実際に投資家の視点で財務諸表を読む経験を通じて、財務会計情報の特性や限界について考察してもらいたい。

【到達目標】

①各取引をどのように会計処理すべきかについて会計に関する語彙（概念）を用いて考察する力、さらにはそれを他者に対して説明する力を習得する。
②日本の会計基準、およびIFRS（国際財務報告基準）を読解することに必要な基礎概念について理解する。
③会計数値の背後にある財務諸表作成者の意図を読み解く力を習得する。
④財務諸表（英文財務諸表を含む）から企業実態を推論する力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

本授業は教室での対面授業を基本としつつ、オンラインによるオンデマンド動画視聴を積極的に活用しながら進める。

【各回の授業構成】

各回とも授業は前半と後半に分割する。前半では財務会計の制度・理論・歴史について解説する。簿記や会計というと技術的・制度的な印象を強くもたれがちだが、本講義ではこれらの側面を踏まえながらも、さらに各取引内容の理解とその会計処理の背後にある理論的根拠や歴史的経緯に触れながら講義を進める。

後半では実際の公表財務諸表を用いて会計処理や企業実態の様子を観察・分析する。財務会計の制度と理論にもとづいて、それらを企業が実際にどのように適用して財務諸表を作成しているかを観察する。また、主要な財務指標を解説したうえで、財務諸表から企業実態を推論・分析する。とくに、公表された財務数値が企業によってどのように作られ、そこにそこからどのような企業の意図が読み取れるかを分析することに主眼を置く。

【仮想ではないリアルな教材】

会計という「ビジネスの言語」の仕組みを理解し、会計を通して会社のリアルを見たり表現したりする方法を学ぶために、教材は仮想ではなく、リアルの会社・人物・取引を用いる。授業の終盤では、その当事者と実際に対話する機会も設ける予定である。ルールを暗記するしかないと思われがちな会計を、理屈・実話・実データによって学習する。会計を学ぶにつれて、会社の実態の見え方が変わっていく感覚を体験してもらえるはずである。

【本講義で学習する主な財務指標】

売上高利益率、流動比率、自己資本比率、固定長期適合率、インタレスト・カバレッジ・レシオ、総資本回転率、棚卸資産回転率、総資産利益率、自己資本利益率(ROE)、1株当たり当期純利益(EPS)、時価簿価比率(PBR)、経済的付加価値(EVA)

【問題意識の共有と質疑応答】

受講生の理解度の確認と受講生間の問題意識の共有化を目的として、質疑応答の機会を設定する。受講生は毎回の講義で、理解できなかった点や関心をもった点などを作文し、その内容を一覧にして共有し、それに対して受講生間で意見交換を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	財務会計とは何か、どのように学ぶか	講義全体の学習内容と講義計画を説明。会計システムの構造を解説し、財務会計の主な論点を認識する。
第2回	起業ストーリーⅠ：会社の創業	財務会計の対象である経営実態について、実際の会社が創業する時点のケースから理解を深める。
第3回	会社経営と財政状態	財政状態の意味と記録法を説明する。また、財務会計の目的と役割を明確化し、利害調整と情報提供という目的観を併せて解説。
第4回	収支計算と損益計算	日常でも実践される収支計算と、営利企業で行われる損益計算について、両者の相違に焦点をあてながら解説。
第5回	複式簿記の方法	複式簿記の原理を理解した上で、簿記一巡の手続きについて解説。
第6回	複式簿記の実践	実際の会社の取引に基づいて、簿記一巡の手続きを実践する。
第7回	起業ストーリーⅡ：会社の拡大	財務会計の対象である経営実態について、実際の会社が事業拡大するケースから理解を深める。
第8回	利益計算の会計	損益法と財産法の特性を考察する。収益・費用の認識基準について、現金主義と発生主義を対比させながら解説。
第9回	資産の会計	資産の認識・測定・開示の方法について解説する。
第10回	負債と資本の会計	負債と資本の認識・測定・開示の方法について解説する。
第11回	会計学の実践	実際の会社の取引にもとづき、会計学の考察法に基づいて会計処理を実践する。
第12回	簿記・会計の発展史	明治期から現在に至る日本の簿記・会計の歩みを概観する。
第13回	CFOとの対話実践	経営者を招き、簿記・会計の知識にもとづいた対話を実践する。
第14回	簿記・会計の学びの先へ	簿記・会計の知識をいかに発展・活用していくかについて解説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

企業のIR資料を教材として活用する。受講生は各自、企業のホームページから教材として指定された書類を入手・持参すること。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
川島健司『起業ストーリーで学ぶ会計』中央経済社, 2021年.
※「その他の重要事項」に記載した注意点を確認すること。

【参考書】
1 伊藤邦雄『新・現代会計入門』日本経済新聞社, 2022年4月現在の最新版.
2 桜井久勝『財務会計講義』中央経済社, 2022年4月現在の最新版.
3 飯野利夫『財務会計論』三訂版, 同文舘, 1993年.
4 佐藤信彦他『スタンダードテキスト財務会計論Ⅰ・基本論点編』第9版, 中央経済社, 2015年.同『スタンダードテキスト財務会計論Ⅱ・応用論点編』第9版, 中央経済社, 2015年.
5 W・H・ビーヴァー著・伊藤邦雄訳『財務報告革命』第3版, 白桃書房, 2010年.
6 W・R・スコット著・太田康広他訳『財務会計の理論と実証』中央経済社, 2008年.
7 Craig, D. Financial Accounting Theory, 3rd, McGraw-Hill, 2009.
8 Kieso, D.E. et al. Intermediate Accounting, 15th, Wiley, 2013.

【成績評価の方法と基準】
以下の4点にもとづいて評価する。括弧内はウエイト。
①出席、および授業動画の視聴状況（10％）
②各回の確認テスト（40％）
③各回の課題作文（30％）：各回の授業終了後に受講生は質問や感想をGoogle Formで提出する。その内容は、匿名にして全受講生で共有する。
④指定教科書の書き込み状況（20％）：上記③の課題文章と同様に、書き込み状況の画像を提出し、受講生間で共有する。
※「その他の重要事項」に記載した注意点を確認すること。

【学生の意見等からの気づき】
演習問題を増やしてほしいという要望があり、対応する。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン授業動画を視聴するためのPC。表計算ソフトのExcel。

【その他の重要事項】
・課題作文・指定教科書への書き込みの状況は成績評価の対象であるため、自分自身が書いたものでないものを提出した場合には「不正行為」として厳重に対処する。
・「簿記入門Ⅰ／Ⅱ」および「会計学入門Ⅰ／Ⅱ」を履修していることを前提に授業を進める。もし未履修の場合には、日商簿記検定3級の内容を学んでおくとよい。その場合、各種専門学校（TAC,大原簿記学校等）が出版する簿記検定の教科書を購入し自習しておくことを薦める。

【Outline (in English)】
This lecture explains the system and theory of financial accounting and its application method. In learning of financial accounting, it is efficient to learn "how to make" and "how to read" financial statements at the same time, and this lecture aims to understand accounting practices through both viewpoints of the financial statement preparers and readers.
Regarding how to prepare financial statements, I will explain basic accounting principles and accounting standards. This includes discussions on the concepts of financial accounting purposes, functions of double entry bookkeeping, concept of profit calculation, concept of accounting regulation, concept of asset valuation, and qualitative characteristics of accounting information, assets, liabilities, income and expenses.
With regard to how to read financial statements, I will discuss the types of alternative accounting procedures and the motivation patterns of financial statement preparers on their choices, and discuss how to interpret the meaning of the published accounting figures. In addition, I will explain representative financial indicators and techniques to infer the realities of companies from the actual published financial statements.
The goals of this lecture are as follows.
(1) Acquire the ability to consider how each transaction should be accounted for using accounting vocabulary (concepts), and the ability to explain it to others.
(2) Understand Japanese accounting standards and the basic concepts necessary for reading IFRS (International Financial Reporting Standards).
(3) To acquire the ability to understand the intention of the financial statement preparers behind the accounting figures.
(4) Acquire the ability to infer the actual state of the company from financial statements.
The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.
Evaluate based on the following two points. Weights in parentheses. (1) Confirmation test for each lesson (50%)
(2) Composition for each assignment (50%): Students submit questions and impressions on the Google Form after each lesson. The descriptions will be anonymous and shared with all students.

MAN500F1－0129（経営学 / Management 500）

財務会計論Ⅱ

川島　健司

備考（履修条件等）：**学部主催「財務会計論Ⅱ」と合同**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基本的な簿記・会計（簿記入門Ⅰ／Ⅱ、会計学入門Ⅰ／Ⅱ）を習得した学生を対象に、財務会計の制度・理論とその活用方法を体系的に講義する。本講義では財務諸表の作り手と読み手の双方の視点を通して財務会計の実務を理解することを目指すが、この財務会計論Ⅱでは特に後者の視点を通じて、代替的な会計処理の手続きの種類とその選択に関する財務諸表作成者の動機のパターンを解説し、公表された会計数値の意味をいかに解釈するかについて議論する。また、代表的な財務指標を解説し、実際の公表財務諸表から企業実態を推論する技法について講義する。

近年、財務会計の主要な目的は「投資家の意思決定に資する有用な情報を提供すること」とされており、受講生には実際に投資家の視点で伝統的な財務諸表分析の技法から企業価値の評価に必要な基礎的なファイナンスの知識を習得して応用するまでの知見を踏まえて、財務会計情報の特性や限界について考察してもらいたい。

【到達目標】

①簿記の技術と会計学における基礎的な語彙（概念）を習得し、その技術と語彙を用いて、経済活動をどのように会計的に表現しうるかを考察し、適切な財務諸表を作成する能力をつける、②財務諸表分析の技法とファイナンスの知識を用いて、企業が公表する財務諸表と各種IR情報を利用しながら、企業活動の実態を推論する能力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

本授業は教室での対面授業を基本としつつ、オンラインによるオンデマンド動画視聴を積極的に活用しながら進める。

秋学期の全体を以下の2つのパートに分割する。「財務諸表分析」（秋学期・第1回～第7回）、「会社の価値分析」（秋学期・第8回～第14回）

会社の価値分析は、財務諸表の読み方のみならず、近年では財務諸表を作成するためにも必要な知識である（例えば、社債償却、リース会計、減損会計、退職給付会計、ストック・オプション会計等）。なお、財務会計論Ⅰと財務会計論Ⅱは、どちらの順番で履修しても差し支えない。

受講生の理解度の確認と受講生間の問題意識の共有化を目的として、質疑応答の機会を設定する。受講生は毎回の講義で、理解できなかった点や関心をもった点などを作文し、その内容を一覧にして共有し、それに対して受講生間で意見交換を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の目標と構成	本授業の概要を説明する。
第2回	起業ストーリーⅢ：会社の上場	財務会計の対象である経営実態について、実際の会社が株式上場するケースから理解を深める。
第3回	貸借対照表の読み方	貸借対照表の様式と分析方法を理解する。項目の並び順、分類基準、金額の意味を踏まえた上で、流動比率や自己資本比率などの代表的な分析指標について学ぶ。
第4回	損益計算書の読み方	損益計算書の様式と分析方法を学習する。段階的利益の意味を理解し、ROSや損益分岐点などの分析指標の他、貸借対照表のデータを併用するROA、回転率、ROEなどの指標を学ぶ。
第5回	キャッシュ・フローの分析	キャッシュフロー計算書の様式と分析方法を学習する。営業活動・投資活動・財務活動に分類した収支データの見方のほか、CCC分析により資金回収の速さを評価する。
第6回	財務分析の実践	実際の財務データを題材に、財務分析の活用機会を認識したうえで、財務データを用いた仮説・検証の分析を実践する。
第7回	起業ストーリーⅣ：ポストIPO	財務会計の対象である経営実態について、実際の会社が株式上場した後の経営（ポストIPO）に関するケースから理解を深める。
第8回	会社の価値と資本コスト	会社の価値を金額として測定・評価する基本的な考え方を理解する。そこで鍵になる概念である資本コストの意味や計測方法について学習する。
第9回	DCFモデル	割引現在価値（DCF）モデルとよばれる価値評価モデルを学習する。このモデルを用いた会計処理である現存会計や退職給付会計の解説も行う。
第10回	残余利益モデル	残余利益モデルとよばれる損益計算書と貸借対照表のデータにもとづく価値評価モデルをその利点とともに理解する。
第11回	価値分析の実践	実際の財務データと証券市場データにもとづき、実際に価値の測定と評価を競合会社との比較を通じて実践する。
第12回	財務分析・価値分析の歴史	財務分析・価値分析の歴史を財務会計と関連づけて概観する。
第13回	経営者との対話実践	実際に活躍される経営者を授業に招き、財務分析・価値分析の知識を用いて対話を実践する
第14回	まとめ	本授業の全体をまとめ、実務での活用とキャリア形成について議論する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業では有価証券報告書やIR資料を副教材として用いる。これらは受講生が各自、会社のホームページからダウンロードする。入手方法の詳細は授業内で説明する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

川島健司『起業ストーリーで学ぶ会計』中央経済社, 2021年.

※「その他の重要事項」に記載した注意点を確認すること。

【参考書】

・伊藤邦雄『新・現代会計入門』日本経済新聞社, 2022年4月現在の最新版.

・伊藤邦雄『新・企業価値評価』日本経済新聞社, 2022年4月現在の最新版.

・中村忠『新稿・現代会計学』九訂版, 白桃書房, 2005年.

・新田忠誓・佐々木隆他『会計学・簿記入門』第12版, 白桃書房, 2014年.

・中野誠『戦略的コーポレートファイナンス』日経文庫, 2016年.

・岸本直樹・池田昌幸『入門・証券投資論』有斐閣ブックス, 2019年.

【成績評価の方法と基準】

以下の4点にもとづいて評価する。括弧内はウエイト。

①出席、および授業動画の視聴状況（10％）

②各回の確認テスト（40％）

③各回の課題作文（30％）：各回の授業終了後に受講生は質問や感想をGoogle Formで提出する。その内容は、匿名にして全受講生で共有する。
④指定教科書の書き込み状況（20％）：上記③の課題文章と同様に、書き込み状況の画像を提出し、受講生間で共有する。
※「その他の重要事項」に記載した注意点を確認すること。

【学生の意見等からの気づき】
演習問題を増やしてほしいという要望があった。対応する。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン授業動画を視聴するためのPC。表計算ソフトのExcel。

【その他の重要事項】
・課題作文・指定教科書への書き込みの状況は成績評価の対象であるため、自分自身が書いたものでないものを提出した場合には「不正行為」として厳重に対処する。
・「簿記入門Ⅰ／Ⅱ」および「会計学入門Ⅰ／Ⅱ」を履修していることを前提に授業を進める。もし未履修の場合には、日商簿記検定3級の内容を学んでおくとよい。その場合、各種専門学校（TAC,大原簿記学校等）が出版する簿記検定の教科書を購入し自習しておくことを薦める。

【Outline (in English)】
This lecture explains the system and theory of financial accounting and its application method. In learning of financial accounting, it is efficient to learn "how to make" and "how to read" financial statements at the same time, and this lecture aims to understand accounting practices through both viewpoints of the financial statement preparers and readers.
Regarding how to prepare financial statements, I will explain basic accounting principles and accounting standards. This includes discussions on the concepts of financial accounting purposes, functions of double entry bookkeeping, concept of profit calculation, concept of accounting regulation, concept of asset valuation, and qualitative characteristics of accounting information, assets, liabilities, income and expenses.
With regard to how to read financial statements, I will discuss the types of alternative accounting procedures and the motivation patterns of financial statement preparers on their choices, and discuss how to interpret the meaning of the published accounting figures. In addition, I will explain representative financial indicators and techniques to infer the realities of companies from the actual published financial statements.
The goals of this lecture are as follows.
(1) Acquire the ability to consider how each transaction should be accounted for using accounting vocabulary (concepts), and the ability to explain it to others.
(2) Understand Japanese accounting standards and the basic concepts necessary for reading IFRS (International Financial Reporting Standards).
(3) To acquire the ability to understand the intention of the financial statement preparers behind the accounting figures.
(4) Acquire the ability to infer the actual state of the company from financial statements.
The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.
Evaluate based on the following two points. Weights in parentheses. (1) Confirmation test for each lesson (50%)
(2) Composition for each assignment (50%): Students submit questions and impressions on the Google Form after each lesson. The descriptions will be anonymous and shared with all students.

MAN500F1－0130（経営学 / Management 500）

経営分析論Ⅰ

福多　裕志

備考（履修条件等）：**学部主催「経営分析論Ⅰ」と合同**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
今から40年以上も前の1982年、ピーターズ、ウォータマンは、著書『In Search of Excellence』の中で、顧客から選択される素晴らしい企業になるためには、頑健な財務体質が重要であると説いている。われわれが企業あるいは企業グループの総合力を評価するとき、直感を含めた六感すべてを駆使し、「エクセレント!、すばらしい!、いまいち!」などと判断を下す。
本科目のテーマは、いかなる組織（営利、非営利企業）にあっても必要となる財務諸表分析を中心とする経営分析の基礎知識とその応用を、実際に開示された財務データを処理しながら着実に習得することである。まず春学期では、製造業の財務諸表データに基づき各種の財務比率を計算し、企業や業界が内包する「問題点の所在の推定」を目指す。

【到達目標】
本講義では、経営分析の領域の一つである財務諸表分析にほぼ焦点を絞り講義する。経営分析Ⅰでは、実在する上場製造企業の財務諸表を参照し、基礎統計学を援用しながら、財務体質の基本的な捉え方を学習する。この結果、参加者は、（1）財務諸表分析の基本手続き（2）データベースを利用した財務指標の算出、（3）安全性、効率性、収益性、成長性に関する具体的指標の算出と解釈について理解を深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
当授業では、まず春学期において会計理論に基づいた財務諸表分析の方法を学ぶ。インターネット上で公開されている財務諸表やオンライン・データベースを駆使し、比率分析、趨勢分析、クロスセクション分析、基礎統計学の経営分析への応用等を学習しながら企業分析の理解に役立つ授業を展開する。授業支援システムを利用し、さまざまな授業関連情報を提供するので、受講者には頻繁に同システムへのアクセスを推奨したい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	年間講義計画	財務諸表分析の概要および年間講義計画の説明
第2回	経営分析の目的と財務データ	経営分析の目的およびインターネット上の入手可能財務データの検索
第3回	財務諸表の枠組み：BSとIS	貸借対照表、損益計算書の構造、ストック項目、フロー項目等の概念説明
第4回	財務諸表の枠組み：CFS	キャッシュ・フロー計算書および百分率財務諸表の構造。基本統計量のまとめ
第5回	短期の財務安全性	短期的財務安全性の意味およびそれに関連する具体的指標－流動比率、当座比率等の説明
第6回	長期の財務安全性	長期の財務安全性に関連する指標－自己資本比率、固定比率、固定長期適合率等の説明
第7回	効率性：その1	効率性の意味およびそれに関連する具体的指標－総資本回転率、棚卸資産回転率等の説明
第8回	効率性：その2	売上債権回転率、固定資産回転率、有形固定資産減価償却率、設備投資効率、付加価値等の説明
第9回	収益性：その1	収益性の意味および主として売上高や資産と関連する指標－ROS、ROE、ROA等について説明
第10回	収益性：その2	オペレーティング・レバレッジ、変動費、固定費、総費用等の諸概念の確認
第11回	損益分岐点分析の基本	固変分解、最小二乗法
第12回	損益分岐点分析－短期利益計画への応用：その1	損益分岐点比率、安全余裕率
第13回	損益分岐点分析－短期利益計画への応用：その2	エクセル上での損益分岐点分析の展開
第14回	成長性および総括	代表的なストック項目およびフロー項目に関する増減率等の説明および春学期全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業およびスライド等で指示される文献を充分予習すること。「学習支援システム」へ頻繁にアクセスし、必要なデータやスライドを入手すること。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
参考文献を基に資料・スライドを作成し、講義する。すべて「学習支援システム」に掲載されるので必ず参照すること。

【参考書】
1) 青木茂男編著『要説　経営分析　六訂版』森山書店, 2022年.
2) 奥野忠一・山田文道『情報化時代の経営分析』東京大学出版会, 1995年.
3) 菊池誠一『キャッシュフロー計算書　その作成と分析・評価』中央経済社, 1999年.
4) 菊池誠一『連結財務分析入門』中央経済社, 2002年.
5) 國部克彦『アメリカ経営分析発達史』白桃書房, 1994年.
6) 國貞克則『財務3表実践活用法』（朝日新書）朝日新聞出版, 2012年.
7) 鳥邊晋司他『会計情報と経営分析』中央経済社, 1996年.
8) 西山茂『企業分析シナリオ　第2版』東洋経済新報社, 2006年.
9) 野村健太郎『連結企業集団の経営分析　全訂版』税務経理協会, 2003年.
10) 宮川公男『新版　意思決定論　基礎とアプローチ』中央経済社, 2010年.

【成績評価の方法と基準】
【大学院生の評価方法】
・期末筆記試験60%、平常点（学習事項に関し、自ら調査・研究した報告書）40%
・受講者には、授業への出席と継続的な問題演習を強く期待したい。

【学生の意見等からの気づき】
実社会において取り上げられる経営分析関連の話題をより分かり易く解説することを目指す。

【学生が準備すべき機器他】
授業および試験の際、電卓を必ず持参すること。なお、PCを持参し、自らデータ処理を行えば財務諸表分析力は飛躍的に向上するであろう。

【その他の重要事項】
【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞意思決定会計
＜研究テーマ＞財務体質の日米比較
＜主要研究業績＞
・「品川区中小企業グループと上場企業の収益性比較」東京都城南地域中小企業振興センター, 2000年.
・「売上高経常利益率の1次元位相」（ワーキング・ペーパー）法政大学イノベーション・マネジメント研究センター, 2007年.

本科目の内容を初めて学習する方は、毎回授業に出席し、自ら計算問題等を解く努力をしなければ単位修得は極めて困難となる。継続的学習が必須である。
関連科目：管理会計論Ⅰ/Ⅱ、経営管理論Ⅰ/Ⅱ、基礎統計学Ⅰ/Ⅱ

【重要事項】
感染状況の変化により、大学の方針に基づき対面授業からオンライン授業への切り替えもありうることを予めご了解ください。不明な点や質問の有る方は、Hoppii「経営分析論Ⅰ」の「授業内掲示板」より遠慮なくお尋ねください。

【Outline (in English)】
[Course outline and objectives]
Stakeholders need to be able to analyze and interpret the company's financial statements. Precise analysis of these documents can help both internal and external decision-makers evaluate an organization's past performance and predict its future performance. In 'Business Analysis Ⅰ' we will focus our attention on some basic and important ratios, concepts and other analytical tools.
[Learning activities outside of classroom]
Participants are expected to ensure that they prepare and review for the class by solving assignments. The time required for preparation and review for one class is four hours.
[Grading criteria for graduate students]
Contributions to class activities (40%), final exam (60%)

MAN500F1－0131（経営学 / Management 500）

経営分析論Ⅱ

福多　裕志

備考（履修条件等）：**学部主催「経営分析論Ⅱ」と合同**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
今から40年以上も前の1982年、ピーターズ、ウォータマンは、著書『In Search of Excellence』の中で、顧客から選択される素晴らしい企業になるためには、頑健な財務体質が重要であると説いている。われわれが企業あるいは企業グループの総合力を評価するとき、直感を含めた六感すべてを駆使し、「エクセレント!、すばらしい!、いまいち!」などと判断を下す。
本科目のテーマは、いかなる組織（営利、非営利企業）にあっても必要となる財務諸表分析を中心とする経営分析の基礎知識とその応用を、実際に開示された財務データを処理しながら着実に習得することである。秋学期では、製造業の財務諸表データに基づき幾つかの財務比率を計算し、その後、企業の合理的な経済的意思決定モデルと創出した会計情報の価値を算出する。

【到達目標】
本講義では、実在する上場企業の財務諸表を参照し、基礎統計学を援用しながら、秋学期は株価関連指標から学習を開始し、次に経済合理的意思決定を促進する観点より、リスクおよび不確実性下での意思決定モデルを考察する。最終段階では、創出した財務情報の価値、価格付け等について学習する。この結果、参加者は、（1）株価関連指標、（2）総合評価の方法、（3）リスクおよび不確実性の下での意思決定モデル、（4）創出情報の価値算出等について理解を深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
当授業では、インターネット上で公開されている財務諸表やオンライン・データベースを駆使し、比率分析、趨勢分析、クロスセクション分析、基礎統計学の経営分析への応用等を学習しながら企業分析の理解に役立つ授業を展開する。授業支援システムを利用し、さまざまな授業関連情報を提供するので、受講者には頻繁に同システムへのアクセスを推奨したい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	秋学期講義計画および株価関連指標：その1	一株当たり利益、株価収益率等の検討
第2回	株価関連指標：その2	株価純資産倍率、株価キャッシュ・フロー倍率の説明と評価
第3回	外国企業の財務諸表分析：その1	オンライン・データベースよりグローバル企業の財務データ抽出と国際比較
第4回	外国企業の財務諸表分析：その2	EDGARより米国企業の財務情報を入手し、日米企業の財務体質比較
第5回	総合評価：その1	学習した各指標を活用し、企業の財務体質を総合的に評価する方法を考察
第6回	総合評価：その2	学習したさまざまな財務指標を活用し、企業の財務体質を統計的手法に基づき評価する方法を考察
第7回	経営分析の応用：その1	財務諸表分析情報に基づき、リスク下における意思決定原理－要求水準原理、最尤未来原理等－について考察
第8回	経営分析の応用：その2	財務諸表分析情報に基づき、不確実性下における意思決定原理－ラプラス原理、マクシミン原理、ミンマックス原理等の考察
第9回	経営分析の応用：その3	財務諸表分析情報に基づき、不確実性下におけるサヴェッジ原理の考察
第10回	経営分析の応用：その4	財務諸表分析情報に基づき、不確実性下におけるサヴェッジ原理の考察
第11回	会計情報の価値Ⅰ	会計情報の一般的定義および情報価値計算の手続き
第12回	会計情報の価値Ⅱ	事前確率、条件付き確率、同時確率、事後確率、ベイズ定理等の学習
第13回	会計情報の価値Ⅲ	創出されたさまざまな情報の価値計算
第14回	会計情報の価値Ⅳ	会計情報の価値に関する問題演習とその解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業およびスライド等で指示される文献を充分予習すること。「学習支援システム」へ頻繁にアクセスし、必要なデータやスライドを入手すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
参考文献を基に資料・スライドを作成し、講義する。すべて「学習支援システム」に掲載されるので必ず参照すること。

【参考書】
1) 青木茂男編著『要説　経営分析　六訂版』森山書店, 2022年.
2) 奥野忠一・山田文道『情報化時代の経営分析』東京大学出版会, 1995年.
3) 菊池誠一『キャッシュフロー計算書　その作成と分析・評価』中央経済社, 1999年.
4) 菊池誠一『連結財務分析入門』中央経済社, 2002年.
5) 國部克彦『アメリカ経営分析発達史』白桃書房, 1994年.
6) 國貞克則『財務3表実践活用法』（朝日新書）朝日新聞出版, 2012年.
7) 鳥邊晋司他『会計情報と経営分析』中央経済社, 1996年.
8) 西山茂『企業分析シナリオ　第2版』東洋経済新報社, 2006年.
9) 野村健太郎『連結企業集団の経営分析　全訂版』税務経理協会, 2003年.
10) 宮川公男『新版　意思決定論　基礎とアプローチ』中央経済社, 2010年.

【成績評価の方法と基準】
【大学院生の評価方法】
・期末筆記試験60%、平常点（学習事項に関し、自ら調査・研究した報告書）40%
・受講者には、授業への出席と継続的な問題演習を強く期待したい。

【学生の意見等からの気づき】
実社会において取り上げられる経営分析関連の話題をより分かり易く解説したい。

【学生が準備すべき機器他】
授業および試験の際、電卓を必ず持参すること。なお、PCを持参し、自らデータ処理を行えば財務諸表分析力は飛躍的に向上するであろう。

【その他の重要事項】
【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞意思決定会計
＜研究テーマ＞財務体質の日米比較
＜主要研究業績＞
・「品川区中小企業グループと上場企業の収益性比較」東京都城南地域中小企業振興センター, 2000年.
・「売上高経常利益率の1次元位相」（ワーキング・ペーパー）法政大学イノベーション・マネジメント研究センター, 2007年.

本科目の内容を初めて学習する方は、毎回授業に出席し、自ら計算問題等を解く努力をしなければ単位修得は極めて困難となる。継続的学習が必須である。
関連科目：管理会計論Ⅰ/Ⅱ、経営管理論Ⅰ/Ⅱ、基礎統計学Ⅰ/Ⅱ

【重要事項】
感染状況の変化により、大学の方針に基づき対面授業からオンライン授業への切り替えもありうることを予めご了解ください。不明な点や質問の有る方は、Hoppii「経営分析論Ⅱ」の「授業内掲示板」より遠慮なくお尋ねください。

【Outline (in English)】
[Course outline and objectives]
Stakeholders need to be able to analyze and interpret the company's financial statements. Precise analysis of these documents can help both internal and external decision-makers evaluate an organization's past performance and predict its future performance. In 'Business Analysis Ⅰ' we focused our attention on some basic and important ratios, concepts and other analytical tools. In 'Business Analysis Ⅱ' comprehensive evaluation and decision-making process will be discussed based on ratios discussed in the spring semester.
[Learning activities outside of classroom]
Participants are expected to ensure that they prepare and review for each class by solving assignments. The time required for preparation and review for one class is four hours.
[Grading criteria for graduate students]
Contributions to class activities (40%), final exam (60%)

MAN500F1 – 0132（経営学 / Management 500）

財務諸表分析

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、企業が公表する財務諸表を用いて、収益性・安全性・成長性の側面から企業を分析する方法を学びます。授業では、はじめに財務諸表の見方を説明し、続いて企業特性を把握するための各種の財務比率の内容とその計算方法を解説します。さらに、主要な財務比率が株主価値にどのような影響を与えるのか、すなわち財務比率と株主価値の理論的関係についての理解を促すため、株主価値評価モデルの基礎理論を説明します。これにより、財務諸表を用いた企業分析の方法を理解し、実践できるようになることを目的とします。

【到達目標】
この授業の到達目標は、次の３つです。
１．企業活動と関連付けて財務諸表が理解できる
２．財務比率の意味を理解した上で、企業特性を把握するために利用できる
３．財務比率と株主価値の理論的関係が理解できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
・授業は対面で実施します
・授業に関する連絡は学習支援システム（Hoppii）のお知らせで行います。履修希望者は初回授業開始前にHoppiiのお知らせを確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方，財務諸表の役割と仕組みを理解する
第2回	財務諸表の入手方法	財務諸表の入手方法、決算発表の仕組みを理解する
第3回	貸借対照表の見方	貸借対照表の見方を理解する
第4回	損益計算書の見方	損益計算書の見方を理解する
第5回	キャッシュ・フロー計算書の見方	キャッシュ・フロー計算書の見方を理解する
第6回	会計方針の注記	注記事項の種類と主要な注記事項の内容を理解する
第7回	財務諸表分析の視点と手法・収益性の分析①	財務諸表分析の視点と手法を理解する。収益性を分析するための指標や比率を理解する
第8回	収益性の分析②	収益性を分析するための指標や比率を理解する
第9回	安全性の分析	安全性を分析するための指標や比率を理解する
第10回	成長性の分析	成長性を分析するための指標や比率を理解する
第11回	株式価値評価モデル①	株式価値評価の基礎理論を理解する
第12回	株式価値評価モデル②	株式価値評価の基礎理論を理解する
第13回	レポートの個人発表①	レポートの発表内容に基づくディスカッションとフィードバック
第14回	レポートの個人発表②	レポートの発表内容に基づくディスカッションとフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の前に該当する教科書の章を読んでください。授業の後は理解を定着させるために授業内容を復習してください。本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
桜井久勝著，『財務諸表分析』，中央経済社，最新版.

【参考書】
指定しない。受講生からの質問に応じて、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
レポート内容の発表（50％）と提出（50％）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システム（Hoppii)に接続可能なパソコンやタブレット端末を準備してください。
レポートの作成および報告を行う際は，WordやPowerPointなどを使用してください。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞経営分析、企業価値評価
＜研究テーマ＞資産価格理論における会計情報の有用性の検討
＜主要研究業績＞
会計における割引計算－割引率と対応する将来キャッシュ・フローの検討－、同文舘出版,『会計・監査研究の展開』、第 3 章所収、p57-71、2021 年 1 月

【Outline (in English)】
（Course outline）
In this course, students will learn how to analyze business firms using financial statements. After learning how to read financial statements, students will learn financial ratios to understand the underlying corporate characteristics. In addition, the basic stock valuation models will be explained in order to promote understanding of the theoretical relationship between financial ratios and shareholder value.
（Learning Objectives）
By the end of the course, students are expected to do the following:
1. Understand financial statements in relation to corporate activities
2. Understand and utilize financial ratios
3. Understand how financial ratios relate to shareholder value
（Learning activities outside of classroom）
Students are required to read the relevant chapter of the textbook before class and to review the contents after class. Student study and review times for this class are 2 hours each.
（Grading Criteria）
Grades will be based on presentation (50%) and submission of the term paper (50%).

MAN500F1 – 0161（経営学 / Management 500）

管理会計特論 I

福田　淳児

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では，学生がマネジメント・コントロール・システムに関するこれまでの一連の研究の流れを理解すること，また特に業績管理システムに焦点を当て，その歴史的な展開とその背景，またそれぞれの業績評価指標の特徴を理解できることを目的とする。

【到達目標】
管理会計に関する学術論文を独力で読むことができ，その内容を理解し批判的に検討することができる。特に，マネジメント・コントロール・システムの利用方法に着目したいくつかの研究をレビューすることで，マネジメント・コントロールの諸概念およびその利用方法を習得する。また，業績管理システムに関する文献をレビューし，議論を行うことで，多様な業績測定尺度の長所および問題点を自分の言葉で説明できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
講義は対面で行います。講義では、事前に指定した論文を輪読する形で行ないます。毎回，報告者が指定された論文のについて報告を行い，その内容について教員が補足説明を行なうとともに，受講者全員で議論を行なう事で理解を深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	管理会計と財務会計の特徴について説明する。さらに、この授業で扱うテーマについて概略的な説明を行なう。
2	管理会計における基本的な概念	管理会計を学習する上で必要な概念について詳しい説明を行う。
3	マネジメント・コントロール・システム	マネジメント・コントロール・システムの役割およびそのタイプについて明らかにする。
4	マネジメント・コントロール・システムのサブ・システム間の関係	文献を手掛かりにマネジメント・コントロール・システムのサブ・システム間の関係について議論する。
5	戦略とマネジメント・コントロール・システム	事業戦略のタイプおよびそれに適合したマネジメント・コントロール・システムの特性について，文献に基づいて検討する。
6	業績管理システムの役割	業績管理システムが組織内で果たす役割について議論する。
7	財務的な業績評価指標の特徴	ROIやEVAを中心とした財務的業績評価指標の特徴およびその限界を議論する。
8	非財務的な業績評価指標（1）	非財務的な業績評価指標の特徴を明らかにする。
9	非財務的な業績評価指標（2）	非財務的な業績評価指標の特徴について，財務的な業績評価指標との対比で検討する。
10	業績管理システムのまとめ	前回までの議論を振り返り，業績管理システムの役割について検討する。
11	報酬システムの設計	企業のおける報酬システムの設計について文献を手掛かりに検討する。
12	両利き経営とマネジメント・コントロール・システム（1）	文献を手掛かりに両利き経営の特徴を明らかにする。
13	両利き経営とマネジメント・コントロール・システム（2）	両利き経営に適したマネジメント・コントロール・システムの特徴を明らかにする。
14	春学期の学習の取りまとめ	マネジメント・コントロール・システムの特徴および業績管理システムの役割について整理する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の事前及び事後の学習のための時間は、各2時間を標準とします。受講者は，報告者に限らず指定された論文を必ず事前に読んで授業に出席してください。その際に，当該論文の貢献とその限界また方法論上の問題点などを整理しておくこと。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。

【参考書】
管理会計に関わる日本語の基本的な文献としてはたとえば櫻井通晴2015年『管理会計第６版』中央経済社がある。

【成績評価の方法と基準】
講義での報告担当箇所の内容に基づく評価30点、講義中の議論への参加の状況20点、最終レポートの内容50点で評価を行います。講義中の議論への参加については積極性を評価します。

【学生の意見等からの気づき】
授業で取り上げているテーマについてできるだけ実例を紹介したいと思います。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞管理会計論
＜研究テーマ＞マネジメント・コントロール・システムと組織学習
＜主要研究業績＞
①「スタートアップ企業におけるMCSの採用とその精緻化」『メルコ管理会計研究』第11号，pp.3-23, 2019。
②「ambidextrous組織におけるマネジメント・コントロールの設計について」『経営志林』第55巻第4号, pp.19-43，2019。
③「純粋持株会社における全体最適と部分最適」『管理会計学』第27巻第２号, pp.27-44，2019。

【Outline (in English)】
(Course outline)
The aim of this class is to review the historical development of management control systems. We will focus on the performance management systems, clarifying their historical development and the characteristics of each evaluation criteria.
(Learning objectives)
At the end of this class, students are expected to read academic papers on management accounting on their own, understand their contents, and critically examine them. In particular, by reviewing several studies focusing on the use of performance management systems, students are expected to master the various concepts of performance evaluation criteria and how to use them. In addition, to be able to explain in one's own words the advantages and problems of various performance measures.
(Learning activities outside of classroom)
The standard amount of time for pre- and post-activity for this class is 2 hours each. Students are required to read the assigned papers in advance and attend the class. At that time, they should organize the contributions of the paper, its limitations, and methodological issues.
(Grading criteria)
The evaluation will be based on the content of the part to be reported in the lecture (30 points), your participation in the discussion during the lecture (20 points), and the content of the final report (50 points). Active participation in the discussion during the lecture will be evaluated.

MAN500F1 – 0162（経営学 / Management 500）

管理会計特論Ⅱ

福田　淳児

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
マネジメント・コントロール・システムとインタンジブルズとの関連性についての近年の議論を理解する。マネジメント・コントロール・システムによる顧客資本や人的資本といったインタンジブルズの測定や管理の方法について明らかにする。

【到達目標】
マネジメント・コントロール・システムの設計および利用がインタンジブルズの測定や管理に及ぼす影響についての近年の議論についての文献レビューを行い，それらを批判的に検討し，整理ができる。また，このために必要とされる管理会計またその関連領域の諸概念や分析手法を習得するとともに理解できる。また実際にいくつかの学術論文をレビューすることで近年の管理会計研究の展開を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
授業は対面で実施します。事前に指定した論文を輪読する形で授業を行ないます。毎回，報告者が指定された論文のについて報告を行い，その内容について教員が補足説明を行なうとともに，受講者全員で議論を行なう事で理解を深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本授業の進め方、また評価方法、さらに本授業のテーマについて概略的な説明を行なう。
2	Balanced Score-cards(BSC)の基本	BSCの基本構造とその役割について文献を手掛かりに議論する。
3	BSCの発展	BSCの発展について文献を手掛かりにレビューする。
4	BSCの事例	BSCの適用事例についていくつかの文献を手掛かりに議論する。
5	インタンジブルズのための会計（1）	インタンジブルズとは何か，また会計研究におけるインタンジブルズの測定について議論する。
6	インタンジブルズのための会計（2）	インタンジブルズの測定と管理について文献を手掛かりに議論する。
7	人的資本と管理会計（1）	人的資本の測定と管理についての管理会計領域での研究を手掛かりに両者の関係を議論する。
8	人的資本と管理会計（2）	人的資本の測定と管理の実例を取り上げ，両者の関係性を検討する。
9	人的資本と管理会計についてのまとめ	人的資本の測定と管理に対する管理会計の役立ちまたその限界を検討する。
10	顧客資本と管理会計（1）	顧客資本の管理会計領域での研究の特徴を文献を手掛かりに明らかにする。
11	顧客資本と管理会計（2）	顧客資本の測定と管理の管理会計領域での研究を手掛かりに両者の関係を議論する。
12	顧客資本と管理会計（3）	顧客資本の測定と管理の実例を取り上げ，両者の関係性を検討する。
13	顧客資本と管理会計についてのまとめ	顧客資本の測定と管理に対する管理会計の役立ちまたその限界を検討する。
14	秋学期の学習のまとめ	MCSsがインタンジブルズの測定と管理に及ぼす影響について整理する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の事前及び事後の学習のための時間は、各2時間を標準とします。受講者は，報告者に限らず指定された論文を必ず事前に読んで授業に出席してください。その際に，当該論文の貢献とその限界また方法論上の問題点などを整理しておくこと。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。

【参考書】
管理会計に関わる日本語の基本的な文献としてはたとえば櫻井通晴2015年『管理会計第６版』中央経済社がある。

【成績評価の方法と基準】
講義での報告担当箇所の内容に基づく評価30点、講義中の議論への参加の状況20点、最終レポートの内容50点で評価を行います。講義中の議論への参加については積極性を評価します。

【学生の意見等からの気づき】
できるだけ受講者とのインターアクティブな講義を心がけます。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞管理会計論
＜研究テーマ＞マネジメント・コントロール・システムと組織学習
＜主要研究業績＞
①「スタートアップ企業におけるMCSの採用とその精緻化」『メルコ管理会計研究』第11号，pp.3-23, 2019。
②「ambidextrous組織におけるマネジメント・コントロールの設計について」『経営志林』第55巻第4号, pp.19-43，2019。
③「純粋持株会社における全体最適と部分最適」『管理会計学』第27巻第２号, pp.27-44，2019。

【Outline (in English)】
(Course outline)
Understand the recent debate on the relationship between management control systems and intangibles in the field of management accounting. Clarify how management control systems measure and manage intangibles such as customer capital and human capital.
(Learning objectives)
Critically review and organize recent discussions on the impact of management control systems on the measurement and management of intangibles such as customer and human capital. The student will also be able to acquire and understand the concepts and analytical methods of management accounting and related fields that are necessary for this purpose.
(Learning activities outside of classroom)
The standard amount of time for pre- and post-activity for this class is 2 hours each. Students are required to read the assigned papers in advance and attend the class. At that time, they should organize the contributions of the paper, its limitations, and methodological issues.
(Grading criteria)
The evaluation will be based on the content of the part to be reported in the lecture (30 points), your participation in the discussion during the lecture (20 points), and the content of the final report (50 points). Active participation in the discussion during the lecture will be evaluated.

ECN500F1 – 0125（経済学 / Economics 500）

組織経済学

奥西　好夫

備考（履修条件等）：**学部主催「組織経済学」と合同**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・伝統的なミクロ経済学は、企業を市場取引の参加者として重視してきたが、企業組織内の意思決定や雇用関係などの非市場取引、企業グループや系列などの企業間関係についてはほとんど立ち入らなかった。しかし、1980年代以降、組織や人事制度を経済学的な手法を用いて分析する「組織の経済学」が徐々に形成されるのに伴い、こうした状況は大きく変化した。本授業はそうした「組織の経済学」の基本的内容を講義する。
・学生は、本講義を通じて組織内の人間行動や組織の意思決定、それらに影響する環境・制度要因の作用を理解し、さらに改善の方途を考案することを学ぶ。

【到達目標】
・学生は、組織経済学の基本的な方法論、分析ツールを説明できる。特に人間の行動原理、組織や取引の評価基準、組織デザイン、インセンティブ問題などの理解は必須である。
・経済合理性を主たる方法論とする伝統的経済学が組織のさまざまな問題を理解し解決する上でどこまで有用なのか、そしてどのような点で限界があるのかを説明できる。
・そうした理解を踏まえ、現実の組織の問題を分析し、何らかの改善策を具体的に考案できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
・授業内容の概要を記した教材（ハンドアウト）は、学習支援システム（Hoppii）にアップするので、各自ダウンロードすること。
・原則として全て対面授業で行う。最低限、事前に講義ハンドアウトや指示された資料等に目を通して参加すること。
・課題提出等はHoppiiを通じて指示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義概要、人間の行動原理（1）	・組織経済学の内容、方法論 ・経済合理性に関するアンケート
第2回	人間の行動原理（2）	・経済合理性
第3回	人間の行動原理（3）	・経済非合理性
第4回	人間の行動原理（4）	・不完全情報下の経済合理的行動
第5回	取引・組織の評価基準（1）	・効率性 ・公正性に関するアンケート
第6回	取引・組織の評価基準（2）	・さまざまな公正性概念
第7回	コースの定理（1）	・効率性概念の応用
第8回	コースの定理（2）	・市場と組織の選択 ・ルール化の損得
第9回	組織デザイン（1）	・組織構造
第10回	組織デザイン（2）	・コーポレート・ガバナンス
第11回	組織デザイン（3）	・職務設計 ・多様性管理
第12回	インセンティブ問題（1）	・本人-代理人関係 ・インセンティブの強度 ・ナッジ
第13回	インセンティブ問題（2）	・賃金制度への応用
第14回	講義内容の応用	・応用問題として、日本の賃金停滞の理由と課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・学生は、授業前にHoppiiにアップした講義ハンドアウトや資料に目を通しておくこと。
・事前にアンケートや小課題の回答を求めることがあるので、それらを誠実にこなすこと。
・講義内容に関する質問は、なるべく当該授業中か、次回授業の冒頭に全員の前で行うこと。（その方が、受講生全員の理解向上につながるため。）
・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
・単一のテキストは特に用いない。
・担当教員が作成する授業ハンドアウト等はHoppiiを通じて配付する。
・より進んだ学習を希望する学生は、下記の【参考書】を参照のこと。

【参考書】
・ポール・ミルグロム、ジョン・ロバーツ『組織の経済学』NTT出版、1997年。組織経済学の包括的かつ基本的な教科書。
・エドワード・P・ラジアー、マイケル・ギブス『人事と組織の経済学・実践編』日本経済新聞出版社、2017年。人事制度や組織デザインを扱っている。
・ジョン・ロバーツ『現代企業の組織デザイン』NTT出版、2005年。上記、ミルグロム、ロバーツ著と重複するが、組織問題の経済学的エッセンスを扱っている。
・ロバート・H・フランク『日常の疑問を経済学で考える』日経ビジネス人文庫、2013年。経済合理性というレンズで身の回りの事象を眺めるとどうなるかという思考訓練になる。
・リチャード・セイラー『行動経済学の逆襲』早川書房、2016年。経済非合理性に立脚した経済学のパイオニアによる自伝的入門書。
・マイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』ハヤカワ・ノンフィクション文庫、2011年。経済学者が重用する「効率性」（功利主義）以外のさまざまな正義観を知ることができる。
・ロナルド・H・コース『企業・市場・法』東洋経済新報社、1992年。取引費用やコースの定理など著者の主要論文を全て所収したもの。

【成績評価の方法と基準】
・学期中に1、2回の課題提出を行い、それらと期末試験の合計で成績を評価する。
・課題や試験は、講義内容の理解度と上記【到達目標】の達成度を評価できる内容とする。

【学生の意見等からの気づき】
・2021年度は、全てZoomで行ったが、学生の顔が見えず、問いかけへの反応も乏しかったため、どこまで授業内容を理解できたか不安であった。実際、課題のフィードバック時に初めて、「合理性」と「効率性」の意味の違いが分かったという学生もいた。
・2022年度以降は、全て対面で行っているが、月曜1限ということもあり、出席状況は良くない。実質的には少人数授業なので、積極的に出席し不明な点は質問等をしてもらいたい。

【学生が準備すべき機器他】
・Hoppiiへのアクセスが必須であることから、オンライン接続可能なPCないしタブレットの利用が不可欠である。

【その他の重要事項】
・本科目は以前、I、IIの通年開講授業であったが、2018年度以降、新カリキュラムに合わせてIのみの開講となる。このためIIの主要テーマであった人事制度に関する部分は大幅にカットされた。ただし、それに該当する内容は、より詳細にGBP用の「HRM I/II」（Iは秋学期、IIは春学期）でカバーしている。履修にあたっては一定の英語力が必要だが、興味ある学生は是非そちらも受講してほしい（ただし、日本語の「人的資源管理I/II」との重複履修は不可）。
・担当教員は、1980～89年、（旧）労働省で労働経済の分析、労働政策の企画・調整、労働基準行政の現場業務等の実務経験を有する。本講義の内容と直接的には重ならないが、組織での仕事経験から得られた知見は、本講義でも必要に応じ伝えたい。

【関連科目】
・ミクロ経済学、組織行動論、人的資源管理等が関連科目だが、本科目の履修にあたっての前提条件とはしない。

【Outline (in English)】

· Traditional micro-economics has emphasized the role of firms as players of markets. But it did not fully study non-market transactions such as those within firms and between firms. Such a situation has changed greatly, however, since the advent of "organizational economics," whose basics are the topic of this course.

· Students will understand human behaviors and decision-making within an organization, and the influence of environmental or institutional factors. Furthermore, they can think of how to improve the present situation.

· Students are expected to read the course handouts and reference materials before the class, and to submit assignments diligently.

· The final grade depends on the total points of the assignments and the final exam.

ECN500F1 – 0167（経済学 / Economics 500）

金融論Ⅰ

片桐　満

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
このコースでは、春学期の前半部分（金融論Ⅰ）で、金融市場や金融機関の役割についての知識を身につけます。秋学期の後半部分（金融論Ⅱ）では、そうした金融の知識を基に、金融政策や金融規制など、金融に関わるマクロ経済政策のあり方について学び、金融やマクロ経済学に関する論文執筆を行うための基礎を築きます。

【到達目標】
金融・財政やマクロ経済学に関する論文を独力で執筆し、自らの論文に関して、明確なプレゼンテーションと議論ができるだけの知識とスキルを身につけることが、このコースの到達目標です。
基本的に、学生自身が、金融やマクロ経済学に関する論文執筆をすることを前提として授業を進めます。金融・マクロ経済以外の分野を専攻し、金融に関する論文を執筆する予定のない学生の受講も歓迎しますが、それを理由に到達目標や求める課題の水準を下げることはしません。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
授業は、オンデマンド方式の教材による学習と、学生による論文発表（対面授業）で構成します。オンデマンド方式の授業5回、対面授業9回で行う予定ですが、変更する可能性があります。
オンデマンド方式の授業については、毎回、リアクションペーパーの提出を求めます。
論文発表については、複数人の学生に金融に関する英文の学術論文を割当て、パワーポイントによる発表資料を作成したうえで、論文について簡潔に説明してもらいます。発表者以外の学生も、全員、全ての論文を読み込んだうえで、授業中の議論に参加することが求められます。受講者数に拠りますが、2回に1回程度は、発表の機会があるように論文を割り当てる予定です。最後に、金融に関する自身の論文テーマについてプロポーザルを作成してもらい、発表・議論してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	金融ｼｽﾃﾑの全体像	経済における金融の役割と金融システム全体の仕組みについて解説します。
第2回	論文発表①	金融システム全般に関する論文を発表してもらいます。
第3回	資産価格の決定理論	CAPMやファクターモデルなど、金融商品の価格決定理論を学びます。
第4回	論文発表②	資産価格に関する論文を発表してもらいます。
第5回	論文発表②（つづき）	資産価格に関する論文を発表してもらいます。
第6回	間接金融の役割	金融機関を介した金融仲介について、金融市場との違いを中心に学びます。
第7回	論文発表③	金融機関の役割に関する論文を発表してもらいます。
第8回	論文発表③（つづき）	金融機関の役割に関する論文を発表してもらいます。
第9回	企業の資本調達構造	株式や銀行借入など、企業の資金調達手段の選択について解説します。
第10回	論文発表④	企業の資金調達に関する論文を発表してもらいます。
第11回	論文発表④（つづき）	企業の資金調達に関する論文を発表してもらいます。
第12回	為替ﾚｰﾄの決定	為替レートを決定する要因として、購買力平価と金利平価について学びます。
第13回	論文発表⑤	為替レートに関する論文を発表してもらいます。
第14回	論文発表⑤（つづき）	為替レートに関する論文を発表してもらいます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本コースの準備学習と復習時間は、それぞれ2時間を標準とします。予習では、自身が割り当てられた論文発表の準備のほか、他の受講者が発表する論文についても、事前に読み込んでおくことが期待されます。復習では、関連ある新聞や雑誌の記事を読むなど、実務的な観点から学んだ内容をどう活かすかについて考えてください。

【テキスト（教科書）】
テキストは指定しません。発表してもらう論文は授業中に指定します。

【参考書】
参考文献として、以下の教科書を参照します。
・内田浩史「金融」（有斐閣）
・ブリーリー他「コーポレート・ファイナンス 第10版（上）」（日経BP）
・小林照義「金融政策（ベーシック＋）」（中央経済社）

【成績評価の方法と基準】
評価は、期末レポート（50％）と論文発表（50％）に基づいて決定します。期末レポートは、作成してもらった研究プロポーザルに基づき、金融に関する論文形式のものを提出してもらいます。

【学生の意見等からの気づき】
論文発表による双方向の学習の方が、論文執筆を行う上で得るものが大きいと感じたため、昨年度対比で、オンデマンド方式によるレクチャーの比率を下げました。

【学生が準備すべき機器他】
教材の共有のため学習支援システムを利用します。オンデマンドの映像教材も含まれるため、通信環境の確保をお願いします。

【その他の重要事項】
・春学期と秋学期の連続受講を前提とします。
・日本銀行や国際通貨基金（IMF）において、金融の実務に15年程度かかわりました。そうした経験から、いかに金融理論を実務的な問題解決に役立てるかを伝えられればと思います。

【関連科目】
マクロ経済学、ミクロ経済学が関連科目ですが、事前履修は必修ではありません。

【Outline (in English)】
In this class, students study financial economics such as the role of financial markets and financial institutions in the spring term, and then learn about public policy including monetary policy and financial regulations in the fall term. The goal of this course is to acquire basic knowledge of financial economics and macroeconomics for writing an academic paper. The grades are based on (1) the final report (50%) (2) the presentation (50%). Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

ECN500F1－0168（経済学 / Economics 500）

金融論Ⅱ

片桐　満

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
このコースでは、春学期の前半部分（金融論Ⅰ）で、金融市場や金融機関の役割についての知識を身につけます。秋学期の後半部分（金融論Ⅱ）では、そうした金融の知識を基に、金融政策や金融規制など、金融に関わるマクロ経済政策のあり方について学び、金融やマクロ経済学に関する論文執筆を行うための基礎を築きます。

【到達目標】
金融・財政やマクロ経済学に関する論文を独力で執筆し、自らの論文に関して、明確なプレゼンテーションと議論ができるだけの知識とスキルを身につけることが、このコースの到達目標です。
基本的に、学生自身が、金融やマクロ経済学に関する論文執筆をすることを前提として授業を進めます。金融・マクロ経済以外の分野を専攻し、金融に関する論文を執筆する予定のない学生の受講も歓迎しますが、それを理由に到達目標や求める課題の水準を下げることはしません。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
授業は、オンデマンド方式の教材による学習と、学生による論文発表（対面授業）で構成します。オンデマンド方式の授業6回、対面授業8回で行う予定ですが、変更する可能性があります。
オンデマンド方式の授業については、毎回、リアクションペーパーの提出を求めます。
論文発表については、複数人の学生に金融に関する英文の学術論文を割当て、パワーポイントによる発表資料を作成したうえで、論文について簡潔に説明してもらいます。発表者以外の学生も、全員、全ての論文を読み込んだうえで、授業中の議論に参加することが求められます。受講者数に拠りますが、2回に1回程度は、発表の機会があるように論文を割り当てる予定です。最後に、金融に関する自身の論文テーマについてプロポーザルを作成してもらい、発表・議論してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	金融政策の目的	金融政策の目的と、それが経済全体で果たす役割について学びます。
第2回	金融調節と短期金融市場	伝統的な金融政策の基本となる金融調節と短期金融市場について学びます。
第3回	金融政策運営の実務	金融政策がどの様に決定されているか（されるべきか）を学びます。
第4回	論文発表①	金融政策に関する論文を発表してもらいます。
第5回	論文発表①（つづき）	金融政策に関する論文を発表してもらいます。
第6回	金融危機の発生と影響	金融危機の発生メカニズムとその影響について学びます。
第7回	論文発表②	金融危機に関する論文を発表してもらいます。
第8回	論文発表②（つづき）	金融危機関する論文を発表してもらいます。
第9回	税と社会保障	様々な税の仕組みや社会保障について学びます。
第10回	財政の持続可能性	財政の持続可能性に関する議論を学びます。
第11回	論文発表③	財政の持続可能性に関する論文を発表してもらいます。
第12回	論文発表③（つづき）	財政の持続可能性に関する論文を発表してもらいます。
第13回	プロポーザル発表①	金融に関する自身の論文について、プロポーザルを発表・議論してもらいます。
第14回	プロポーザル発表②	金融に関する自身の論文について、プロポーザルを発表・議論してもらいます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本コースの準備学習と復習時間は、それぞれ2時間を標準とします。予習では、自身が割り当てられた論文発表の準備のほか、他の受講者が発表する論文についても、事前に読み込んでおくことが期待されます。復習では、関連ある新聞や雑誌の記事を読むなど、実務的な観点から学んだ内容をどう活かすかについて考えてください。

【テキスト（教科書）】
テキストは指定しません。発表してもらう論文は授業中に指定します。

【参考書】
参考文献として、以下の教科書を参照します。
・内田浩史「金融」（有斐閣）
・ブリーリー他「コーポレート・ファイナンス 第10版（上）」（日経BP）
・小林照義「金融政策（ベーシック＋）」（中央経済社）
・楡井誠「マクロ経済動学」（有斐閣）

【成績評価の方法と基準】
評価は、期末レポート（50％）と論文発表（50％）に基づいて決定します。期末レポートは、作成してもらった研究プロポーザルに基づき、金融に関する論文形式のものを提出してもらいます。

【学生の意見等からの気づき】
論文発表による双方向の学習の方が、論文執筆を行う上で得るものが大きいと感じたため、昨年度対比で、オンデマンド方式によるレクチャーの比率を下げました。

【学生が準備すべき機器他】
教材の共有のため学習支援システムを利用します。オンデマンドの映像教材も含まれるため、通信環境の確保をお願いします。

【その他の重要事項】
・春学期と秋学期の連続受講を前提とします。
・日本銀行や国際通貨基金（IMF）において、金融の実務に15年程度かかわりました。そうした経験から、いかに金融理論を実務的な問題解決に役立てるかを伝えられればと思います。

【関連科目】
マクロ経済学、ミクロ経済学が関連科目ですが、事前履修は必修ではありません。

【Outline (in English)】
In this class, students study financial economics such as the role of financial markets and financial institutions in the spring term, and then learn about public policy including monetary policy and financial regulations in the fall term. The goal of this course is to acquire basic knowledge of financial economics and macroeconomics for writing an academic paper. The grades are based on (1) the final report (50%) (2) the presentation (50%). Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

ECN500F1 – 0133（経済学 / Economics 500）

ファイナンス入門

岸本　直樹

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では，ファイナンスの入門的な内容を講義します。一部の学生にとってこの授業の内容は馴染みがないものかもしれません。しかし，ファイナンスで学ぶ金融取引や証券投資の知識は，社会に出る皆さんにとって必須です。なぜならば，ひとつには，金融機関あるいは企業の財務部門においてファイナンスの知識が必須だからです。また，個人としても，債券，株式，投資信託等への投資のほか，年金のタイプによってはその運用のための投資の知識が欠かせないからです。本講義で皆さんは，金融取引や証券市場の仕組み，将来価値と現在価値の概念と計算方法，債券および株式に関する初歩的な分析手法を学びます。さらに，デリバティブ，リスクとリターンのトレードオフ，効率的市場仮説についても初歩的な内容を学習します。

【到達目標】
受講者は次に挙げた知識や技術を学びます。
①金融・証券の基礎知識に基づき，金融に関連するニュースを正しく理解できる。
②利子率や将来価値，現在価値の概念を理解し，それらに関する基本的な計算ができる。
③債券の仕組みを理解し，利回り計算や債券投資に関する初歩的な分析ができる。
④株式の仕組みを理解し，配当割引モデルや株式評価の指標による初歩的な分析ができる。
⑤主要なデリバティブである先渡取引と先物取引，さらにオプションの基本的な仕組みと初歩的な利用方法を理解する。
⑥リスクとリターンのトレードオフという考え方を理解する。
⑦情報が資産価格に及ぼす影響を効率的市場仮説と呼ばれる仮説に基づいて理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式です。授業中にパソコン上でExcelを使った計算を説明します。したがって，Excelがインストールされたパソコンを持参するか，大学から借りてください。もちろん，Excelはタブレットやスマートフォンでも利用できるので，パソコンの代わりにタブレットかスマートフォンを持参してもよいです。ただし，タブレットやスマートフォン上におけるExcelの操作は，パソコンのそれと，若干異なります。時間の制約があるため，授業では，それらの点について説明しません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクションおよび金融・証券市場の概観および利子率，将来価値，現在価値（1）	授業の進め方や成績評価方法などの説明をする。さらに，金融市場を概観する。さらに，将来価値，現在価値の計算を概説する。
2	利子率，将来価値，現在価値（2）	将来価値，現在価値の計算ほか，複利と単利の違いを学習する。さらに，将来価値，現在価値の計算をキャッシュフローが複数ある場合に拡張する。
3	債券市場と債券入門（1）	債券の基本的な仕組みと用語を学習する。また，債券市場を概観する。
4	債券入門（2）	最終利回りの定義式を学習する。
5	債券入門（3）	最終利回りの性質を学習する。
6	債券入門（4）	債券投資のリスクを学習する。
7	株式入門（1）	配当割引モデルと株式評価のための指標を学習する。
8	株式入門（2）	株式評価のための指標を学習する。
9	デリバティブ入門（1）	先渡取引と先物取引の仕組みのほか，これらの取引の利用方法を学習する。
10	デリバティブ入門（2）	オプションの仕組みや初歩的なオプションの利用方法を学習する。
11	リスクとリターンのトレードオフ	Capital Asset Pricing Modelを学習する。
12	効率的市場仮説と資産の評価方法の概観	効率的市場仮説を学習した後に，資産の価格付けを概観する。
13	コーポレート・ファイナンス	時間が許す範囲内で，コーポレート・ファイナンスの主要な結果の一部に触れる。
14	期末テスト	この科目で学習した内容全般についてテストを実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指定テキスト（教科書）の予習・復習をしっかり行ってください。本授業の準備学習・復習時間は，各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
岸本直樹・池田昌幸共著，『入門・証券投資論』，2019年，有斐閣（製本されたもののほか，e-bookもある）

【参考書】
特にない。

【成績評価の方法と基準】
成績評価では，期末テストが70%，授業参加が30%のウィエトを占める。

【学生の意見等からの気づき】
さらに分かりやすい授業になるように努める。

【学生が準備すべき機器他】
Excelがインストールされたパソコン，タブレット，あるいは，スマートフォンを用意してください。

【その他の重要事項】
授業中は私語等を控え，講義に集中してください。なお，担当教員は，博士課程に入学する前に，東京およびニューヨークにおいて日系証券会社の調査部門で日米の証券市場の調査に従事した。

【関連科目】
夜間コースのファイナンス基礎，コーポレート・ファイナンス，経営学部のポートフォリオ理論入門，デリバティブ入門Ⅰ/Ⅱ。

【Outline (in English)】
Outline: This course provides an introduction to finance. Its content may be unfamiliar to some students. However, the knowledge taught in this course is essential for those who will enter the workforce. This is because, for one thing, finance theory is essential for both financial institutions and finance departments of nonfinancial corporations. In addition, the knowledge on finance is essential for individuals to invest in bonds, stocks, mutual funds, and pension funds. In this course, you will learn the basics of financial transactions and securities markets, the concepts and calculation methods of future value and present value, and elementary analysis for bonds and stocks. In addition, you will learn the rudiments of derivatives, risk and return tradeoff, and efficient market hypothesis.
Objectives: Students will learn the following knowledge and skills.
(1) To be able to understand financial news properly based on essential knowledge of financial markets and securities.
(2) Concepts of interest rates and the basic calculations of future values and present values.

(3) Institutional knowledge of bonds and elementary analysis of bonds.
(4) Institutional knowledge of stocks and elementary analysis of stocks based on dividend discount model.
(5) Basic institutional knowledge of forwards/futures contracts and options.
(6) Risk and return tradeoff.
(7) Relationship of information and asset prices in terms of what is called the efficient market hypothesis.
Learning activities outside of classroom: Students are expected to read the designated sections of the textbook before class and review the contents covered in class after class. The standard preparation and review time for each class is four hours.
Grading Criteria: The final exam will account for 70% of the grade, and quizzes and class participation will account for 30% of the grade.

ECN500F1 – 0134（経済学 / Economics 500）

ポートフォリオ理論入門

岸本　直樹

備考（履修条件等）：**学部主催「ポートフォリオ理論入門」と合同**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
金融資産は、学生にとってはまだ馴染みが薄いでしょうが、確定拠出年金等への投資を通じて直接運用に関わらざる得なくなるかもしれません。「ポートフォリオ理論入門」の前半では，投資に当たって，投資対象である資産のどの点に注目し，どのような方法でどの資産にいくら投資すればよいのかについて，学術的に標準アプローチとして知られる手法を学習します。次に，「ポートフォリオ理論入門」の後半では，CAPMと呼ばれるモデルを使って，様々な資産の間に成立していると考えられるリスクとリターンの関係を学習します。

【到達目標】
「ポートフォリオ理論入門」の前半では，保有資金をその資産にいくら投資するかという問題についてよく知られているアプローチ（ポートフォリオ理論）を学習します。また，後半では，CAPMと呼ばれる，資産のリスクとリターンに関する理論モデルを学習します。具体的には、次の点を達成することを目標とします。
①資産に投資した結果得られる収益率について期待値、標準偏差、共分散、さらに、相関係数を計算できる。
②ポートフォリオ理論の概要を理解し，第三者に説明できる。
③資産のリスクとリターンの関係を資本資産評価モデル(CAPM)に沿って説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
講義形式です。ただし、授業時間中に学生各自が練習問題を解く時間を設け、ランダムに学生に質問します。また、学期中に授業内小テスト（クイズ）を実施する予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	収益率の期待値，分散，標準偏差（1）	収益率，確率変数を説明した後、期待値，分散，標準偏差の計算方法を学習します。
第2回	収益率の期待値，分散，標準偏差（2）	引き続き，期待値，分散，標準偏差の計算方法を学習します。
第3回	共分散	異なる資産の収益率の同方向あるいは逆方向の変動の特徴を捉える共分散について概観し，計算方法を学びます。
第4回	相関係数	相関係数について学習します。
第5回	ポートフォリオ理論（1）	投資家が投資資金を各資産にどのように配分するのがよいかという問題について、マーコウィッツが提唱した方法(ポートフォリオ理論と呼ばれる)を概観します。また、ポートフォリオ理論の仮定を学習します。
第6回	ポートフォリオ理論（2）	ポートフォリオの収益率の期待値，分散，標準偏差を計算する公式を学習します。
第7回	ポートフォリオ理論（3）	安全資産が存在しない場合について投資機会集合を学習します。
第8回	ポートフォリオ理論（4）	安全資産が存在しない場合について投資機会集合を学習を続けます。
第9回	ポートフォリオ理論（5）	引き続き，安全資産が存在しない場合について投資機会集合を学習を続けます。
第10回	ポートフォリオ理論（6）	安全資産が存在する場合について投資機会集合を学習します。
第11回	ポートフォリオ理論（7）	安全資産が存在する場合の投資機会集合の議論を続けます。
第12回	ポートフォリオ理論（8）	ポートフォリオの最適化とポートフォリオ理論の応用とについて学習します。
第13回	資本資産評価モデル（1）	投資家は資産のリスクが高ければより高い期待収益率を要求するだろうとの直観を、一定の仮定の下で妥当とする資本資産評価モデルを概観します。またその仮定も学習します。
第14回	資本資産評価モデル（2）	市場ポートフォリオとベータについて学習したあと，資本資産評価モデルの導出について学習します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義資料の予習及び復習。本授業の準備学習・復習時間は、1回の授業ごとに4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
岸本直樹・池田昌幸共著，『入門・証券投資論』，有斐閣

【参考書】
特にない。

【成績評価の方法と基準】
評価は，クイズを1回実施する場合は，期末テストが85%，クイズと授業参加が15%のウェイトを占める。クイズを2回する場合は，期末テストが70%，クイズと授業参加が30%のウェイトを占める。

【学生の意見等からの気づき】
より分かりやすい講義を心がける。

【学生が準備すべき機器他】
特にない。

【その他の重要事項】
〔予備知識〕
授業で期待値、標準偏差、共分散を使いますが、これらは授業中に説明するので、それらの予備知識は必ずしも必要ではありません。
〔注意事項〕
「ポートフォリオ理論入門」は「積み上げ式」です。すなわち、授業に毎回出席していなければ授業内容を十分に理解することが難しくなります。したがって、授業に毎回出席することを強く求めます。
なお、授業中の私語やその他の授業の迷惑になる行為は厳に慎んでください。悪質な場合は、適切に注意し、場合によっては教室から退室して貰ったり、授業評価に反映することがあります。

【関連科目】
ファイナンス入門、ファイナンス基礎，コーポレート・ファイナンス

【Outline (in English)】
Course outline: Not many students are familiar with financial assets, yet they will face situations where they have to make investment decisions for their defined contributions and etc. In this course, students learn an approach that helps them to understand what features of assets dto look at and how to decide on when they make investment decisions. Next, students study the relationship that is expected to hold between risk and return on various assets from the point of view of what is called the CAPM.
Learning objectives: In Introduction to Portfolio Theory, students will learn about the well-known approach to the problem of how to allocate funds among assets (portfolio theory). In addition, students will learn a theoretical model of risk and return on assets, called the CAPM. Specifically, the course aims to achieve the following objectives.

(1) To be able to calculate the expected value and the standard deviation of the rate of return on an asset, as well as covariance and correlation coefficient between the rates of return on a pair of assets.
(2) To understand the portfolio theory and to be able to explain it to a third party.
(3) To be able to explain the relationship between risk and return of assets in accordance with the Capital Asset Pricing Model (CAPM).
Learning activities outside of classroom: Preparatory study and review of materials provided by the instructor. Students are expected to spend about four hours on it for each class.
Grading criteria/policy: The final exam will account for 70% of the grade, while quizzes and class participation will account for 30% of the grade.

ECN500F1 – 0135（経済学 / Economics 500）

デリバティブ入門Ⅰ

山嵜　輝

備考（履修条件等）：**学部主催「デリバティブ入門Ⅰ」と合同**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、デリバティブ（金融派生商品）の入門的な内容を講義します。まずは「デリバティブとはなにか？」から始まりますが、すぐに金融や財務の様々な場面でデリバティブ取引が活用されていることがわかるでしょう。ファイナンスの重要な概念である「無裁定条件」を前提とするデリバティブの価格決定理論を学ぶことが講義の主な目的となりますが、それと並行して金融実務での活用例も詳しく解説します。さらには、デリバティブ理論の応用編として、「将来の為替レートは予想できるのか？」や「中央銀行の金融政策を占うには？」などのトピックを取り上げます。また、デリバティブに関連する歴史や事件なども適宜紹介します。講義内容は金融実務の資格試験「証券外務員一種」、「証券アナリスト（一次試験）」、「FP（フィナンシャル・プランナー）技能士」に関連しています。

【到達目標】
次の４つを到達目標に掲げます。
（1）金融・証券の基礎知識に基づき、金融に関連するニュースを正しく理解できる。
（2）先渡取引や先物取引のしくみや活用方法を説明できる。
（3）無裁定条件に基づくデリバティブの価格決定理論がわかる。
（4）金融市場やデリバティブ取引の初歩的な分析ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
この授業はオンデマンド授業（フルオンデマンド型）となります。履修希望者は学習支援システムで授業の仮登録をしてください。授業のアクセス方法等に関しては、学習支援システムに仮登録されているメールアドレス宛に案内します。授業中に計算することがありますので、電卓（関数電卓やタブレット、ノートPCの表計算ソフトを利用してもよい）を用意してください。小テストのフィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方や成績評価方法などの説明
第2回	金融・証券市場の基礎知識（1）	債券市場、株式市場、外国為替市場などの概説
第3回	金融・証券市場の基礎知識（2）	デリバティブ市場の概説
第4回	キャッシュフローと現在価値（1）	将来価値と現在価値の概念
第5回	キャッシュフローと現在価値（2）	複利、付利期間、割引因子などの概念
第6回	効率的市場と無裁定価格	株式市場を巡る論争と効率的市場仮説、無裁定条件と無裁定価格
第7回	先渡取引（1）	先渡取引の概要、為替予約とその活用方法
第8回	先渡取引（2）	先渡価格の決定理論、フォワード・プレミアム・パズル
第9回	先物取引（1）	先物取引の概要、日経平均先物とその活用方法
第10回	先物取引（2）	先物価格の決定理論
第11回	債券と金利の関係（1）	債券価格と利回り計算
第12回	債券と金利の関係（1）	スポットレート、パーレート、短期金利
第13回	先渡取引（3）	FRAとその活用方法
第14回	先渡取引（4）	先渡金利の決定理論、中央銀行の金融政策を占う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義資料の復習をしっかり行ってください。指定した参考書を併用すると理解が深まります。1回の授業ごとの学習時間は、予習2時間、復習2時間、合計で4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は指定しません。講義資料は各自で学習支援システムの「教材」からダウンロードしてください。

【参考書】
（1）岸本直樹・池田昌幸、『入門・証券投資論』、2019年、有斐閣
（2）フィナンシャルバンクインスティチュート編、『うかる！ 証券外務員一種 必修テキスト 2022-2023年版』、2022年、日本経済新聞出版社
（3）佐野三郎、『改訂版 パーフェクト証券アナリスト第1次レベル』、2022年、ビジネス教育出版社
（4）ジョン・ハル、『先物・オプション取引入門』、2001年、ピアソン・エデュケーション

【成績評価の方法と基準】
学期末に行う定期試験（80％）と授業期間中の小テスト（20％）で評価します。小テストの実施については、学習支援システムの「お知らせ」で案内します。

【学生の意見等からの気づき】
金融実務での実例をたくさん紹介することで、デリバティブ取引やその理論が理解しやすくなるように工夫します。

【学生が準備すべき機器他】
電卓（関数電卓やタブレット、ノートPCの表計算ソフトを利用してもよい）を用意してください。

【その他の重要事項】
講義内容は金融実務の資格試験「証券外務員一種」、「証券アナリスト（一次試験）」、「FP（フィナンシャル・プランナー）技能士」などに関連しています。

【関連科目】
基礎ファイナンス、コーポレート・ファイナンス、実証ファイナンス入門、デリバティブ入門Ⅱ、ポートフォリオ理論入門

【実務経験のある教員による授業】
民間金融機関や中央銀行において、デリバティブ取引やデリバティブ開発などの金融実務に通算14年間携わりました。授業では、実際の金融ビジネスとデリバティブの基礎理論の関わりをわかり易く解説します。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞　ファイナンス
＜研究テーマ＞　金融テクノロジー、資産価格理論
＜主要研究業績＞
（1）“A General Control Variate Method for Time-Changed Levy Processes: An Application to Option Pricing,” *Journal of Computational Finance*, Vol.27, No.1, 2023, Risk.net
（2）“Recovering Subjective Probability Distributions,” *Journal of Futures Markets*, Vol.42, No.7, 2022, Wiley
（3）「取引コストを伴う最適消費・投資問題の進展について」, 『イノベーション・マネジメント』, No.18, 2021年3月, 法政大学イノベーション・マネジメント研究センター

【Outline (in English)】

[Course outline] This course provides students with an introduction to derivatives. [Learning objective] It has four objectives: (1) To give the fundamental knowledge of financial system and derivative markets. (2) To teach the basics of derivative transactions and their applications in practice. (3) To offer the concept of the arbitrage-free pricing to evaluate derivative products including forwards and futures. (4) To introduce the applications of the derivative theory to some topics such as the forward premium puzzle. [Learning activities outside of classroom] Before/after each class meeting, students will be expected to spend more than four hours to understand the course content. [Grading criteria] Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination: 80%, short examination: 20%.

ECN500F1－0136（経済学 / Economics 500）

デリバティブ入門Ⅱ

山嵜　輝

備考（履修条件等）：**学部主催「デリバティブ入門Ⅱ」と合同**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、デリバティブ（金融派生商品）の入門的な内容を講義します。特に、最も重要なデリバティブである「オプション」のしくみと価格決定理論を学ぶことが主な目的となります。また、金融実務におけるオプション取引やスワップ取引の活用例も詳しく説明します。さらには、デリバティブ理論の応用編として、「様々な相場観に基づく投資戦略」や「株式公開買い付け（企業買収）の分析」などのトピックを取り上げます。また、デリバティブに関連する歴史や事件なども適宜紹介します。講義内容は金融実務の資格試験「証券外務員一種」、「証券アナリスト（一次試験）」、「FP（フィナンシャル・プランナー）技能士」に関連しています。

【到達目標】
次の４つを到達目標に掲げます。
（1）金融・証券の基礎知識に基づき、金融に関連するニュースを正しく理解できる。
（2）スワップ取引やオプション取引のしくみや活用方法を説明できる。
（3）無裁定条件に基づくデリバティブの価格決定理論がわかる。
（4）金融市場やデリバティブ取引の簡単な計量分析ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
この授業はオンデマンド授業（フルオンデマンド型）となります。履修希望者は学習支援システムで授業の仮登録をしてください。授業のアクセス方法等に関しては、学習支援システムに仮登録されているメールアドレス宛に案内します。授業中に計算することがありますので、電卓（関数電卓やタブレット、ノートPCの表計算ソフトを利用してもよい）を用意してください。小テストのフィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方や成績評価方法などの説明
第2回	デリバティブ入門Ⅰの復習	現在価値、無裁定条件、先渡取引、先物取引、債券価格と利回り計算などの復習
第3回	スワップ取引（1）	IRSとその活用方法
第4回	スワップ取引（2）	通貨スワップとその活用方法
第5回	スワップ取引（3）	スワップレートの決定理論
第6回	オプション取引（1）	コールとプット、プット・コール・パリティ
第7回	オプション取引（2）	オプションの活用方法
第8回	ファイナンスのための確率論入門	確率、確率変数、期待値などの諸概念
第9回	オプション価格理論（1）	１期間２項モデルによるオプション価格の算出
第10回	オプション価格理論（2）	リスク中立確率とデリバティブの価格評価
第11回	オプション価格理論（3）	Yahoo! JAPANによるZOZOの株式公開買い付け
第12回	オプション価格理論（4）	２期間２項モデルによるオプション価格の算出
第13回	オプション価格理論（5）	動的複製ポートフォリオとデルタ
第14回	オプション価格理論（6）	ブラック・ショールズ理論の概説と最近の動向

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義資料の復習をしっかり行ってください。指定した参考書を併用すると理解が深まります。1回の授業ごとの学習時間は、予習2時間、復習2時間、合計で4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は指定しません。講義資料を各自でダウンロードしてください。ダウンロードの方法は講義初回に説明します。

【参考書】
（1）岸本直樹・池田昌幸、『入門・証券投資論』、2019年、有斐閣
（2）フィナンシャルバンクインスティチュート編、『うかる！ 証券外務員一種 必修テキスト 2022-2023年版』、2022年、日本経済新聞出版社
（3）佐野三郎、『改訂版 パーフェクト証券アナリスト第1次レベル』、2022年、ビジネス教育出版社
（4）ジョン・ハル、『先物・オプション取引入門』、2001年、ピアソン・エデュケーション

【成績評価の方法と基準】
学期末に行う定期試験（80％）と授業期間中の小テスト（20％）で評価します。小テストの実施については、学習支援システムの「お知らせ」で案内します。

【学生の意見等からの気づき】
金融実務での実例をたくさん紹介することで、デリバティブ取引やその理論が理解しやすくなるように工夫します。

【学生が準備すべき機器他】
電卓（関数電卓やタブレット、ノートPCの表計算ソフトを利用してもよい）を用意してください。

【その他の重要事項】
講義内容は金融実務の資格試験「証券外務員一種」、「証券アナリスト（一次試験）」、「FP（フィナンシャル・プランナー）技能士」などに関連しています。

【関連科目】
基礎ファイナンス、コーポレート・ファイナンス、実証ファイナンス入門、デリバティブ入門Ⅰ、ポートフォリオ理論入門

【実務経験のある教員による授業】
民間金融機関や中央銀行において、デリバティブ取引やデリバティブ開発などの金融実務に通算14年間携わりました。授業では、実際の金融ビジネスとデリバティブの基礎理論の関わりをわかり易く解説します。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞　ファイナンス
＜研究テーマ＞　金融テクノロジー、資産価格理論
＜主要研究業績＞
（1）“A General Control Variate Method for Time-Changed Levy Processes: An Application to Option Pricing,” *Journal of Computational Finance*, Vol.27, No.1, 2023, Risk.net
（2）“Recovering Subjective Probability Distributions,” *Journal of Futures Markets*, Vol.42, No.7, 2022, Wiley
（3）「取引コストを伴う最適消費・投資問題の進展について」, 『イノベーション・マネジメント』, No.18, 2021年3月, 法政大学イノベーション・マネジメント研究センター

【Outline (in English)】

[Course outline] This course provides students with an introduction to derivatives. [Learning objective] It has four objectives: (1) To give the fundamental knowledge of financial system and derivative markets. (2) To teach the basics of derivative transactions and their applications in practice. (3) To offer the concept of the arbitrage-free pricing to evaluate derivative products including swaps and options. (4) To introduce the applications of the derivative theory to some topics such as takeover bid (TOB). [Learning activities outside of classroom] Before/after each class meeting, students will be expected to spend more than four hours to understand the course content. [Grading criteria] Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination: 80%, short examination: 20%.

ECN500F1 – 0137（経済学 / Economics 500）

国際経済学Ⅰ

髙橋　理香

備考（履修条件等）：**学部主催「国際経済論Ⅰ」と合同**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近年、グローバル化が進む中で、国際取引やその取引を支えるルールや世界の枠組みが大きく変わろうとしています。本授業では、理論的な分析ツールや諸資料を活用しながら、日本と諸外国の間では現在どのような国際取引がどのようなルール・枠組みの下で行われており、これらがどう変化してきたのかを考察することで、現実の経済に対する理解を深めます。国際経済論Ⅰでは主に貿易の基本構造や労働・資本の国際間移動について、国際経済論Ⅱでは主に貿易政策や国際通商システムについて、理論・実証・歴史的な観点から分析し、現代の国際社会において重要とされるトピックスをとりあげて問題点を解明します。

【到達目標】
この授業を通して、以下のスキルを身につけます
1. 現代の複雑な国際経済のメカニズムをシンプルなモデルを用いて理論的に考察できる。
2. データを用いて日本と世界の経済取引や経済政策の在り方を考察できる。
3. 日本と世界の経済取引や経済政策の歴史的経緯と現代の国際経済の諸問題を関連付けて考察できる。
4. これらの学習を通じて、現実におきている国際経済にまつわる出来事に関心を持ち、課題を見つけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
オンデマンド形式の講義を行います。各回の講義ノートを配布した上で、パワーポイントのスライドを使って講義を展開します。理解を深めるために、統計データなどの諸資料も参照しながら解説します。国際経済に関する時事的なトピックスとして、新聞記事（日本語・英語）を紹介しながら解説します。また、宿題の解説などを行うこともあります。また、学習支援システムの掲示板やオフィスアワーを通じて、受講者とインタラクションを持つ機会を設けます。授業に関する告知や講義ノート・宿題の問題等は、学習支援システムを使って配信しますので、各自が適宜確認してください。
※修士課程の学生には、適宜問題演習の機会を設けます。詳細は初回の授業で解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	この授業の概要とルール
2	日本の貿易の特徴	データで学ぶ日本の貿易
3	貿易と市場1	市場メカニズム（需要・供給分析）
4	貿易と市場2	市場の資源配分（余剰分析）
5	貿易と市場3	貿易による利益と市場競争
6	技術の違いと貿易パターン1	データで学ぶ国際分業と日本の比較優位
7	技術の違いと貿易パターン2	比較優位理論
8	技術の違いと貿易パターン3	比較優位と貿易
9	新しい貿易理論と日本の貿易1	消費の多様性と貿易
10	新しい貿易理論と日本の貿易2	生産工程の細分化と貿易
11	新しい貿易理論と日本の貿易3	企業の技術力の違いと貿易
12	生産要素の国際間移動1	日本の外国人労働
13	生産要素の国際間移動2	生産要素の国際移動の理論
14	まとめ	春学期の内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。宿題を出しますので、指定された日時までに必ず解いて提出してください。また、学習支援システムを通じて配信された講義ノートを各自ダウンロード・印刷して授業時に持ってきてください。
また、本授業は、経営学部とのコードシェア科目です。修士課程の学生の皆さんには、別途、問題演習とそのディスカッションの機会（Zoom）を設ける場合があります。詳細は、第1回目の授業の際にお知らせします。

【テキスト（教科書）】
テキストは指定しません。毎回配布する授業ノートを基に進めていきます。ただし、下記の参考書のうち、少なくともどれか1冊を入手して読むことを勧めます。参考書の特徴や難易度については、春学期・秋学期それぞれ第1回の授業で説明しますので、その説明を聞いてからどれを読むかを決めるのが良いと思います。

【参考書】
【テキスト】
阿部顕三・寳多康弘『グラフィック国際経済学』新世社、2023年。
伊藤恵子・伊藤匡・小森谷徳純『国際経済学15講』新世社、2022年。
伊藤萬里・田中鮎夢『現実からまなぶ国際経済学』有斐閣、2023年。
多和田眞・近藤健児『国際経済学の基礎「100項目」　第5版』創成社、2022年。
古沢泰治『国際経済学入門』新世社、2022年。
若杉隆平編『基礎から学ぶ国際経済と地域経済』文眞堂、2020年。
クルーグマン, P.R., M. オブストフェルド, M. J. メリッツ『クルーグマン国際経済学- 理論と政策- 〔原書第10版〕上・貿易編』山形浩生・守岡桜訳、丸善出版、2017年。
Krugman, P.R., M. Obstfeld, and M. Melitz (2022) *International Economics: Theory and Policy,* 12th edition, Pearson.
【読み物】
清田耕造『日本の比較優位- 国際貿易の変遷と源泉- 』慶應義塾大学出版会、2016年。
田中鮎夢『新々貿易理論とは何か- 企業の異質性と21世紀の国際経済』ミネルヴァ書房、2015年。
冨浦英一『アウトソーシングの国際経済学』日本評論社、2014年。
椋寛『自由貿易はなぜ必要なのか』有斐閣、2020年。

【成績評価の方法と基準】
宿題・レポート：40％
期末テスト：60％
宿題・レポート・期末テストの詳細については、学習支援システム上で適宜お知らせします。各自、注意して確認下さい。

【学生の意見等からの気づき】
現実のトピックに関心を持つ学生が多いことから、国際経済学にまつわる新聞記事の紹介と簡単な解説を行います。

【学生が準備すべき機器他】
毎回の授業を動画配信しますので、音声・動画を視聴できるデバイスを準備してください。また、授業ノートや資料の配信・課題の提出・連絡事項は学習支援システムを使います。宿題・課題はMicrosoft Word, Excel, Powerpointやそれらに準ずるソフトを用いて作成することが求められます。

【その他の重要事項】
① ⅠとⅡを通年で履修することを強く勧めます。
② ミクロ経済学の知識があったほうが良いでしょう。
③ 経済学入門・日本経済論・国際金融論・産業組織論と関連していますので、併せて履修することを勧めます。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞国際経済学
＜研究テーマ＞日本の農業貿易政策に関する理論と実証研究

＜主要研究業績＞"Welfare Losses from Non-Tariff Barriers: The Beef Quota Case," Japanese Economic Review, Vol. 56 No. 4, pp.457-468, December 2005 (with Makoto Yano and Hideo Mizuno).

【Outline (in English)】
【Course outline】
The purpose of this class is to understand international transactions conducted in Japan and other countries and to focus how such transactions have changed these economies by using theoretical analysis tools and various materials. In International Economics I, we will learn the basic and fundamental structures of trade and international movement of labor and capital, and in International Economics II, we will learn trade policies and the international economic system theoretically and historically.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students will be expected to:
(1)Understand key trade models.
(2)Understand key concepts with respect to trade.
(3)Analyze and evaluate daily life topics and current and past news topics from the viewpoint of trade theory and policy.
(4)Solve problem sets.
(5)Read newspaper articles written in English.
【Learning activities outside of classroon】
Students are expected to download, print out, and read assigned handouts before class and do homework after class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.
Office hours may occasionally be held during the first period of Thursday. Although these are for master's students, undergraduate students are also welcome to participate.
【Grading Criteria】
Homework and Exercises: 40％
Final Examination: 60%

ECN500F1－0138（経済学 / Economics 500）

国際経済学Ⅱ

髙橋　理香

備考（履修条件等）：**学部主催「国際経済論Ⅱ」と合同**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近年、グローバル化が進む中で、国際取引やその取引を支えるルールや世界の枠組みが大きく変わろうとしています。本授業では、理論的な分析ツールや諸資料を活用しながら、日本と諸外国の間では現在どのような国際取引がどのようなルール・枠組みの下で行われており、これらがどう変化してきたのかを考察することで、現実の経済に対する理解を深めます。国際経済論Ⅰでは主に貿易の基本構造や労働・資本の国際間移動について、国際経済論Ⅱでは主に貿易政策や国際通商システムについて、理論・実証・歴史的な観点から分析し、現代の国際社会において重要とされるトピックスをとりあげて問題点を解明します。

【到達目標】
この授業を通して、以下のスキルを身につけます
1. 現代の複雑な国際経済のメカニズムをシンプルなモデルを用いて理論的に考察できる。
2. データを用いて日本と世界の経済取引や経済政策の在り方を考察できる。
3. 日本と世界の経済取引や経済政策の歴史的経緯と現代の国際経済の諸問題を関連付けて考察できる。
4. これらの学習を通じて、現実におきている国際経済にまつわる出来事に関心を持つ、課題を見つけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
オンデマンド形式の講義を行います。各回の講義ノートを配布した上で、パワーポイントのスライドを使って講義を展開します。理解を深めるために、統計データなどの諸資料も参照しながら解説します。国際経済に関する時事的なトピックスとして、新聞記事（日本語・英語）を紹介しながら解説します。また、宿題の解説などを行うこともあります。また、学習支援システムの掲示板やオフィスアワーを通じて、受講者とインタラクションを持つ機会を設けます。授業に関する告知や講義ノート・宿題の問題等は、学習支援システムを使って配信しますので、各自が適宜確認してください。
※修士課程の学生には、適宜問題演習の機会を設けます。詳細は初回の授業で解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	データで学ぶ日本の貿易政策
2	日米貿易摩擦と日本の貿易政策の変遷	歴史的観点から学ぶ日本の貿易政策
3	関税政策1	関税政策の理論
4	関税政策2	日本と外国の関税政策の実態
5	非関税障壁1	輸入数量制限と日本の農業
6	非関税障壁2	輸出自主規制と日本の自動車産業
7	国内不完全競争政策1	国内不完全競争政策と日本の流通市場
8	国内不完全競争政策2	国内不完全競争政策と関税政策の比較
9	戦略的貿易政策	戦略的相互依存関係と世界の航空産業
10	ダンピング1	ダンピングの不当性
11	ダンピング2	日米関係におけるアンチダンピング政策
12	国際経済システム1	多角間交渉（GATT/WTO）
13	国際経済システム2	地域経済統合（RTA, TPP, RCEP)
14	まとめ	秋学期の内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。宿題を出しますので、指定された日時までに必ず解いて提出してください。また、学習支援システムを通じて配信された講義ノートを各自ダウンロード・印刷して授業時に持ってきてください。
また、本授業は、経営学部とのコードシェア科目です。修士課程の学生の皆さんとは、別途、問題演習や問題の解き方に関するディスカッション（Zoom）の機会を設ける場合があります。詳細は、第1回目の授業の際にお知らせします。

【テキスト（教科書）】
テキストは指定しません。毎回配布する授業ノートを基に進めていきます。ただし、下記の参考書のうち、少なくともどれか1冊を入手して読むことを勧めます。参考書の特徴や難易度については、春学期・秋学期それぞれ第1回の授業で説明しますので、その説明を聞いてからどれを読むかを決めるのが良いと思います。

【参考書】
【テキスト】
阿部顕三・寳多康弘『グラフィック国際経済学』新世社、2023年。
伊藤恵子・伊藤匡・小森谷徳純『国際経済学15講』新世社、2022年。
伊藤萬里・田中鮎夢『現実からまなぶ国際経済学』有斐閣、2023年。
多和田眞・近藤健児『国際経済学の基礎「100項目」　第5版』創成社、2022年。
古沢泰治『国際経済学入門』新世社、2022年。
若杉隆平編『基礎から学ぶ国際経済と地域経済』文眞堂、2020年。
クルーグマン, P.R., M. オブストフェルド, M. J. メリッツ『クルーグマン国際経済学- 理論と政策- 〔原書第10版〕上・貿易編』山形浩生・守岡桜訳、丸善出版、2017年。
Krugman, P.R., M. Obstfeld, and M. Melitz (2022) *International Economics: Theory and Policy,* 12th edition, Pearson.
【読み物】
清田耕造『日本の比較優位- 国際貿易の変遷と源泉- 』慶應義塾大学出版会、2016年。
田中鮎夢『新々貿易理論とは何か- 企業の異質性と21世紀の国際経済』ミネルヴァ書房、2015年。
冨浦英一『アウトソーシングの国際経済学』日本評論社、2014年。
椋寛『自由貿易はなぜ必要なのか』有斐閣、2020年。

【成績評価の方法と基準】
宿題・レポート：40％
期末テスト：60％
宿題・レポート・テストの詳細については、学習支援システム上で適宜お知らせします。各自、注意して確認下さい。

【学生の意見等からの気づき】
現実のトピックに関心を持つ学生が多いことから、国際経済学にまつわる新聞記事の紹介と簡単な解説を行います。

【学生が準備すべき機器他】
毎回の授業を動画配信しますので、音声・動画を視聴できるデバイスを準備してください。また、授業ノートや資料の配信・課題の提出・連絡事項は学習支援システムを使います。宿題・課題はMicrosoft Word, Excel, Powerpointやそれらに準ずるソフトを用いて作成することが求められます。

【その他の重要事項】
① ⅠとⅡを通年で履修することを強く勧めます。
② ミクロ経済学の知識があったほうが良いでしょう。
③ 経済学入門・日本経済論・国際金融論・産業組織論と関連していますので、卒業までに併せて履修することを勧めます。

【担当】
＜専門領域＞国際経済学
＜研究テーマ＞日本の農業貿易政策に関する理論と実証研究
＜主要研究業績＞"Welfare Losses from Non-Tariff Barriers: The Beef Quota Case," Japanese Economic Review, Vol. 56 No. 4, pp.457-468, December 2005 (with Makoto Yano and Hideo Mizuno).

【Outline (in English)】
【Course outline】
The purpose of this class is to understand international transactions conducted in Japan and other countries and to focus how such transactions have changed these economies by using theoretical analysis tools and various materials. In International Economics I, we will learn the basic and fundamental structures of trade and international movement of labor and capital, and in International Economics II, we will learn trade policies and the international economic system theoretically and historically.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students will be expected to:
(1)Understand key trade models.
(2)Understand key concepts with respect to trade.
(3)Analyze and evaluate daily life topics and current and past news topics from the viewpoint of trade theory and policy.
(4)Solve problem sets.
(5)Read newspaper articles written in English.
【Learning activities outside of classroon】
Students are expected to download, print out, and read assigned handouts before class and do homework after class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.
Office hours may occasionally be held during the first period of Thursday. Although these are for master's students, undergraduate students are also welcome to participate.
【Grading Criteria】
Homework and Exercises: 40 %
Final Examination: 60%

ECN500F1 – 0169（経済学 / Economics 500）

国際金融論特論Ⅰ

横内　正雄

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代はグローバリゼーションが進展し、金融化現象（金融グローバル化）が世界経済に大きな影響を与えてきている。本講義において、学生はグローバリゼーション下の国際金融の問題を主として理論の側面から学ぶことになる。具体的には、前半で国際収支、外国為替、金利平価の概念を学び、後半では為替相場の理論、国際収支の理論などを学ぶことになる。また、講義の中で学生は理論を使った基本的な問題を解くことになる。学生はこの講義を通じて国際金融の諸問題の本質について理解を深めることが出来るようになると考える。

【到達目標】

現在生じている様々な国際金融の現象について、その基本概念と理論を理解することを目標とする。これによって、経営学・経済学を学ぶ大学院生が、現代の国際金融の問題について理解を深めるとともに、自分の力で現在の問題を捉えることができるようになればよいと考えている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

講義は、対面での講義を基本とする。パワーポイントを使った講義で、資料や講義ノートは事前に学習支援システムにアップロードされる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	外国為替相場(1)	外国為替相場について概説する。
第2回	外国為替相場(2)	外国為替相場に関する基本問題と応用問題を解く。
第3回	国際収支(1)	国際収支に関して概説する。
第4回	国際収支(2)	国際収支に関する基本問題と応用問題を解く。
第5回	金利平価(1)	金利平価の理論について概説する。
第6回	金利平価(2)	金利平価に関する基本問題と応用問題を解く。
第7回	外国為替相場の理論Ⅰ(1)	外国為替相場の決定に関する古典理論について講義する。
第8回	外国為替相の理論Ⅰ(2)	外国為替相場の古典理論に関する文献を講読する。
第9回	外国為替相場の理論Ⅱ(1)	外国為替相場の決定に関する近代理論であるアセットアプローチについて講義する。
第10回	外国為替相場の理論Ⅱ(2)	外国為替相場の決定に関するアセットアプローチに関する文献を講読する。
第11回	国際収支の理論Ⅰ(1)	国際収支に関する弾力性アプローチに関して講義する。
第12回	国際収支の理論Ⅰ(2)	弾力性アプローチに関する文献を講読する。
第13回	国際収支の理論Ⅱ(1)	国際収支に関する貯蓄投資バランスアプローチについて講義する。
第14回	国際収支の理論Ⅱ(2)	貯蓄投資バランスアプローチに関する文献を講読する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。事前の準備として横内正雄『国際金融論Ⅰ』（通教テキスト）を事前に読んで講義に参加することが望まれる。

【テキスト（教科書）】

テキストは用いない.担当教員が作成した印刷物（レジュメ、資料等）を配付する。

【参考書】

・M.Melvin and S.C.Norrbin, *International Money and Finance*, 8th Edition, Elsevier, 2013.
・P.R.Krugman and M.Obstfeld, *International Economics : Theory and Policy*,10th Edition, Pearson Education, 2014.
・小川英治・岡野衛士『国際金融』東洋経済新報社、2016年.
・高木信二『入門 国際金融』[第４版]日本評論社、2011年.
・横内正雄『国際金融論Ⅰ』法政大学通信教育部、2020年.

【成績評価の方法と基準】

レポートに加え、授業中の参加の度合、貢献度を考慮し、総合的に判断する。レポート50％、授業中の参加の度合・貢献度50％。

【学生の意見等からの気づき】

一般に国際金融論は難解であるとの感想が寄せられることが多い。本講義は出来るだけ平易に国際金融の理論等を解説したいと考えている。

【学生が準備すべき機器他】

講義に際して学生が準備すべき危機等は特にない。

【その他の重要事項】

特にない。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞
国際金融・金融史
＜研究テーマ＞
国際銀行の歴史的研究
＜主要研究業績＞
・「グローバリゼーションと国際通貨ドル」・「国際資本移動とアジア通貨危機」SGCIME編『グローバル資本主義と世界編成・国民国家システム：Ⅰ世界経済の構造と動態』 御茶の水書房 2003年
・「1990年代の香港金融市場における邦銀」 法政大学経営学会『経営志林』第40巻第1号, 2003年
・『国際金融論Ⅰ』法政大学通信教育部、2020年

【Outline (in English)】

In the modern world, globalization has progressed, and the phenomenon of financialization (financial globalization) has had a major impact on the world economy. This lecture attempts to analyze global financial issues under globalization from a theoretical perspective. Through this lecture, students will be able to understand the nature of ongoing financial globalization. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. Students are expected to read Masao Yokouchi's "International Finance I" in advance and participate in the lecture. Grades will be based on a comprehensive evaluation, taking into account the degree of participation and contribution during the class, in addition to reports.

ECN500F1 − 0170（経済学 / Economics 500）

国際金融論特論Ⅱ

横内　正雄

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義で、学生は国際金融に関する制度、歴史、実態について学ぶことになる。学生は、最初に国際金融のトリレンマについて学ぶことになるが、これは本講義の枠組みとなる基本的な考え方である。次に国際通貨制度について固定相場制と変動相場制に分けてその仕組みと歴史について理解することになる。その後、為替リスクの管理、国際通貨、通貨統合、通貨危機といった国際金融の実態について学ぶ。学生はこの講義を通じて国際金融の歴史的・制度的などの側面についての理解を深めることが出来ると考える。

【到達目標】
国際金融の現状を知るには理論のみではなく制度や歴史についての理解が不可欠である。この講義を通じて、日々のニュースなどで言及される国際金融の問題に関して、その制度や歴史的背景を知ることを通じて自らの力でより深い考察ができるようになることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
講義は、対面での講義を基本とする。パワーポイントを使った講義で、資料や講義ノートは事前に学習支援システムにアップロードされる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	マクロ経済政策と国際金融(1) − マンデル・フレミング・モデル	マンデル・フレミング・モデルの基本的な考え方につて講義する。
第2回	マクロ経済政策と国際金融(2) − 国際金融のトリレンマ	マンデル・フレミングモデルから導き出される国際金融のトリレンマの考え方について講義する。
第3回	固定為替相場制度(1) − 国際金本位制	固定相場制としての国際金本位制について講義する。
第4回	固定為替相場制度(2) − ブレトンウッズ体制	固定相場制としての戦後のブレトンウッズ体制について講義する。
第5回	変動為替相場制度(1) − 変動為替相場制度の長所と短所	変動為替相場制のメリットとデメリットについて講義する。
第6回	変動為替相場制度(2) − 各国の為替相場制度と中間的為替相場制度	変動為替相場制度と固定為替相場制度の中間にある為替相場制度について講義する。
第7回	為替リスクとその管理(1) − 為替リスクの種類	為替リスクの種類について講義する。
第8回	為替リスクとその管理(2) − オプションとスワップ	為替リスクのヘッジ手段としてのオプションとスワップについて講義する。
第9回	国際通貨(1) − 国際通貨の理論	国際通貨が発生するメカニズムについて講義する。
第10回	国際通貨(2) − 国際通貨の現状	国際通貨の現状について講義する。
第11回	通貨統合(1) − 最適通貨圏の理論	最適通貨圏の考え方について講義する。
第12回	通貨統合(2) − 欧州通貨統合	欧州通貨統合の歴史とユーロの現状について講義する。
第13回	通貨危機(1) − 通貨危機の理論	通貨危機の理論について講義する。
第14回	通貨危機(2) − アジア通貨危機と世界金融危機	1990年代に生じた通貨危機について講義する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。事前の準備として横内正雄『国際金融論Ⅰ』（通教テキスト）を事前に読んで講義に参加することが望まれる。

【テキスト（教科書）】
テキストは用いない.担当教員が作成した印刷物（レジュメ、資料等）を配付する。

【参考書】
・M.Melvin and S.C.Norrbin, *International Money and Finance*, 8th Edition, Elsevier, 2013.
・P.R.Krugman and M.Obstfeld, *International Economics : Theory and Policy*,10th Edition, Pearson Education, 2014.
・小川英治・岡野衛士『国際金融』東洋経済新報社、2016年.
・高木信二『入門 国際金融』[第４版]日本評論社、2011年.
・横内正雄『国際金融論Ⅰ』法政大学通信教育部、2020年.

【成績評価の方法と基準】
レポートに加え、授業中の参加の度合、貢献度を考慮し、総合的に判断する。レポート50％、授業中の参加の度合・貢献度50％。

【学生の意見等からの気づき】
国際記入の講義はとかく難しいと思われているが、本講義では国際金融の理論だけでなく、実態を含めてデータを用いながらわかりやすく講義する。

【学生が準備すべき機器他】
講義に際して学生が準備すべき機器類はない。

【その他の重要事項】
特にない。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
国際金融・金融史
＜研究テーマ＞
国際銀行の歴史的研究
＜主要研究業績＞
・「グローバリゼーションと国際通貨ドル」・「国際資本移動とアジア通貨危機」SGCIME編『グローバル資本主義と世界編成・国民国家システム：Ⅰ世界経済の構造と動態』 御茶の水書房 2003年
・「1990年代の香港金融市場における邦銀」 法政大学経営学会『経営志林』第40巻第1号, 2003年
・『国際金融論Ⅰ』法政大学通信教育部、2020年

【Outline (in English)】
Financial globalization has had a significant impact on the world economy in the modern era. The knowledge of international finance is essential for understanding the modern world economy. This lecture deals with the institutions, history and reality of international finance, whereas Advanced Theory of International Finance I dealt with theory. The aim of this lecture is to enable students to consider the issues of international finance that are mentioned in the daily news through knowledge of the institutional and historical background of international finance. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. Students are expected to read Masao Yokouchi's "International Finance I" in advance and participate in the lecture. Grades will be based on a comprehensive evaluation, taking into account the degree of participation and contribution during the class, in addition to reports.

ECN500F1 – 0171（経済学 / Economics 500）

産業組織論Ⅰ

矢野　智彦

備考（履修条件等）：**学部主催「産業組織論Ⅰ」と合同**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
産業組織論は、特定の市場における企業の意思決定や産業の構造について考察する経済学の一分野です。その知見は実務と密接に関係しており、価格戦略やマーケティングなどの企業戦略の場面や、M&A、独占禁止法違反に関わる規制・訴訟等などの実務で用いられています。講師は実際に産業組織論を用いて主にM&A、独占禁止法違反に関わる規制・訴訟等の場面でコンサルティングを行うコンサルタントです。
この講義では、産業組織論の基本的な考え方と用いられ方を学び、自分自身が産業組織論のものの見方を実務や実生活で活用できるようになることを目指します。
具体的には、寡占競争、製品差別化、価格差別、垂直的な取引契約、合併など産業組織論の各トピックをミクロ経済学の理論を道具として分析し、また、実務における用いられ方について考察します。
Ⅱでは、春学期で学んだ産業組織論Ⅰを前提として、価格差別、製品差別化など現実によく観察される企業の行動を経済学的に考察するツールを学ぶと共に、これらの産業組織論の考え方が実際に用いられる実務の現場を具体的に解説します。

【到達目標】
産業組織論の基本的な考え方と用いられ方を学び、将来的に産業組織論の実務に関わる基礎を作り、また、産業組織論に基づくものの見方で普段目にするビジネスを分析するなど実生活で活用できるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
オンデマンド型オンライン授業として、全14回、YouTubeによる動画配信で授業を実施する。
全て講義形式で行い、講義にはスライドを用いる。授業内課題として、授業の基本的な理解を問う課題を出題し、各回の講義内容の理解を深めます。
学習内容の確認のために期末試験を行います。
学習支援システムの掲示板やオフィスアワーを活用して、随時、受講者とインタラクションを持つ機会を確保します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	産業組織論とはどのような分野であるか 授業の方式・評価方法
第2回	ミクロ経済学の復習と産業組織論のトピックの概観	ミクロ経済学の復習（主に企業の利潤 最大化と完全競争） 産業組織論Ⅰで取り扱うトピックの紹介
第3回	独占	独占企業の行動と完全競争市場における企業の行動との違い なぜ独占になるのか
第4回	寡占競争(1)	企業が生産・販売の数量を決定して競争を行う場合（クールノー競争）に、企業の数の変化に応じて競争がどのように変わるのか
第5回	寡占競争(2)	消費者が企業間の差異を質的に区別で きないような財・サービスの市場（同 質財市場）において、企業が生産・販 売の数量の代わりに価格を決定して競争を行う場合（ベルトラン競争）にはクールノー競争とどのように競争が異なるか
第6回	寡占競争(3)	消費者が企業間の差異を質的に区別できる財・サービスの市場（製品差別化市場）におけるベルトラン競争
第7回	競争の実務 (1)	競争法・競争政策の概要
第8回	競争の実務 (2)	独禁法違反事件や独禁法違反に関わる訴訟・紛争の実務
第9回	合併	企業が合併したら消費者と企業それぞれに何が起きるか
第10回	ゲーム理論 (1)	ゲーム理論とは何か
第11回	ゲーム理論 (2)	最適反応とナッシュ均衡
第12回	ゲーム理論 (3)	ゲーム理論による寡占市場の理論（第4回から第6回）の整理
第13回	復習	期末試験に向けて本講義で扱ったトピックを整理
第14回	問題演習	期末試験のための問題演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講生のレベルや関心に合わせ、授業内容の難易度やスピード、扱うトピックを調整していきます。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
講義中に以下の参考書の該当箇所を適宜紹介します。自主的に読むことで一層の学習効果が期待できます。
『ミクロ経済学』奥野正寛編著 東京大学出版会 2008年
『産業組織とビジネスの経済学』花薗誠著　有斐閣　2018年
また、定期試験に向けた準備としては、以下の書籍が有益です。
『ミクロ経済学演習（第2版）』奥野正寛編・猪野弘明・井上朋紀・加藤晋・川森智彦・矢野智彦・山口和男著 東京大学出版会 2018年

【成績評価の方法と基準】
期末試験100%

【学生の意見等からの気づき】
受講生のレベルや関心に合わせ、授業内容の難易度やスピード、扱うトピックを調整していきます。

【学生が準備すべき機器他】
授業動画のURL、関連するスライド等の資料や、期末試験等の重要なお知らせは、学習支援システムに掲載します。
学習支援システムへの頻繁なアクセスが出来る環境が必要になります。

【その他の重要事項】
ミクロ経済学について基本的な知識を習得していること、または同時に履修して学習していることを受講の前提とします。
産業組織論ⅠとⅡは密接に関係しているので、産業組織論の全体を理解するためにも、連続した履修を強く薦めます。（春学期のⅠの内容を前提として秋学期のⅡが進められます。Ⅰを履修せずⅡを履修する場合は、関連する箇所については自習によってキャッチアップしてください）
この授業は、経済学入門、ミクロ経済学入門Ⅰ/Ⅱ、経営のための経済学と強く関連しています。

【担当教員の専門分野等】
専門：産業組織論・独禁経済学
研究テーマ：企業結合審査における経済分析

【Outline (in English)】
This course provides an introduction to Industrial Organization. The course introduces a broad range of topics in the theoretical Industrial Organization. Students will learn the firm behavior and its consequences in oligopolistic markets where the assumptions of perfect competition do not hold. Topics include the pricing and marketing strategies of individual firms in monopoly and oligopoly; price discrimination, product differentiation, merger, and platform strategies.
Studying Industrial Organization will help you to understand how markets work in a logical way and to obtain a new perspective on firms' behaviors.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four
hours to understand the course content.
Final grade will be calculated based on term-end examination (100%).

ECN500F1 – 0172（経済学 / Economics 500）

産業組織論Ⅱ

矢野　智彦

備考（履修条件等）：**学部主催「産業組織論Ⅱ」と合同**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
産業組織論は、特定の市場における企業の意思決定や産業の構造について考察する経済学の一分野です。その知見は実務と密接に関係しており、価格戦略やマーケティングなどの企業戦略の場面や、M&A、独占禁止法違反に関わる規制・訴訟等などの実務で用いられています。講師は実際に産業組織論を用いて主にM&A、独占禁止法違反に関わる規制・訴訟等の場面でコンサルティングを行うコンサルタントです。
この講義では、産業組織論の基本的な考え方と用いられ方を学び、自分自身が産業組織論のものの見方を実務や実生活で活用できるようになることを目指します。
具体的には、寡占競争、製品差別化、価格差別、垂直的な取引契約、合併など産業組織論の各トピックをミクロ経済学の理論を道具として分析し、また、実務における用いられ方について考察します。
Ⅱでは、春学期で学んだ産業組織論Ⅰを前提として、価格差別、製品差別化など現実によく観察される企業の行動を経済学的に考察するツールを学ぶと共に、これらの産業組織論の考え方が実際に用いられる実務の現場を具体的に解説します。

【到達目標】
産業組織論の基本的な考え方と用いられ方を学び、将来的に産業組織論の実務に関わる基礎を作り、また、産業組織論に基づくものの見方で普段目にするビジネスを分析するなど実生活で活用できるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
オンデマンド型オンライン授業として、全14回、YouTubeによる動画配信で授業を実施します。
全て講義形式で行い、講義にはスライドを用います。授業内課題として、授業の基本的な理解を問う課題を出題し、各回の講義内容の理解を深めます。
学習内容の確認のために期末試験を行います。
学習支援システムの掲示板を活用して、随時、受講者とインタラクションを持つ機会を確保します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	秋学期に扱うトピックの概要
第2回	産業組織論Ⅰの復習	産業組織論Ⅰで扱ったトピックの中で、Ⅱでも重要な内容について復習
第3回	価格差別(1)	価格差別の考え方
第4回	価格差別(2)	第1種価格差別、第2種価格差別、第3種価格差別
第5回	産業組織論の実務	価格差別がビジネスに活用されている事例とその分析
第6回	参入と退出・参入阻止	市場における企業の数はどのように決まるのか？ 参入阻止と市場競争との関係 参入阻止を可能にする企業の戦略
第7回	製品差別化(1)	差別化の源泉と経済モデル
第8回	製品差別化(2)	製品差別化の経済モデルの紹介
第9回	特許と知的財産	技術開発・特許制度と市場競争との関係
第10回	ネットワーク外部性とプラットフォーム(1)	ネットワーク外部性、スイッチングコスト
第11回	ネットワーク外部性とプラットフォーム(2)	直接ネットワーク効果と間接ネットワーク効果
第12回	ネットワーク外部性とプラットフォーム(3)	デジタルプラットフォームを巡る競争法・競争政策上の問題
第13回	復習	秋学期に学んだ内容について総復習
第14回	問題演習	秋学期に学んだ内容について練習問題を解き解説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
期末試験を念頭に、授業後の復習が必要です。各トピックに応じて紹介する参考文献での自主学習も期待しています。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
講義中に以下の参考書の該当箇所を適宜紹介します。自主的に読むことで一層の学習効果が期待できます。
『ミクロ経済学』奥野正寛編著 東京大学出版会 2008年
『産業組織とビジネスの経済学』花薗誠著　有斐閣　2018年
また、定期試験に向けた準備としては、以下の書籍が有益です。
『ミクロ経済学演習（第 2 版）』奥野正寛編・猪野弘明・井上朋紀・加藤晋・ 川森智彦・矢野智彦・山口和男著 東京大学出版会 2018年

【成績評価の方法と基準】
期末試験 100%

【学生の意見等からの気づき】
受講生のレベルや関心に合わせ、授業内容の難易度やスピード、扱うトピックを調整していきます。

【学生が準備すべき機器他】
授業動画のURL、関連するスライド等の資料や、期末試験等の重要なお知らせは、学習支援システムに掲載します。
学習支援システムへの頻繁なアクセスが出来る環境が必要になります。

【その他の重要事項】
ミクロ経済学について基本的な知識を習得していること、または同時に履修して学習していることを受講の前提とします。
産業組織論ⅠとⅡは密接に関係しているので、産業組織論の全体を理解するためにも、連続した履修を強く薦めます。（春学期のⅠの内容を前提として秋学期のⅡが進められます。Ⅰを履修せずⅡを履修する場合は、関連する箇所については自習によってキャッチアップしてください）
この授業は、経済学入門、ミクロ経済学入門Ⅰ/Ⅱ、経営のための経済学と強く関連しています。

【担当教員の専門分野】
専門：産業組織論・独禁経済学
研究テーマ：企業結合審査における経済分析

【Outline (in English)】
This course provides an introduction to Industrial Organization. The course introduces a broad range of topics in the theoretical Industrial Organization. Students will learn the firm behavior and its consequences in oligopolistic markets where the assumptions of perfect competition do not hold. Topics include the pricing and marketing strategies of individual firms in monopoly and oligopoly; price discrimination, product differentiation, merger, and platform strategies.
Studying Industrial Organization will help you to understand how markets work in a logical way and to obtain a new perspective on firms' behaviors.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four
hours to understand the course content.

Final grade will be calculated based on term-end examination (100%).

ECN500F1 – 0173（経済学 / Economics 500）

統計学Ⅰ

猪狩　良介

備考（履修条件等）：**学部主催「経営のための統計学Ⅰ」と合同**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近年、経営／ビジネスの現場において統計学とデータ分析のニーズが非常に高まっています。経営／ビジネスの場面で意思決定を適切に行うには、統計理論とデータに基づいて客観的に判断する必要があり、そのためには統計学の知識が必要です。本講義は、統計学の基礎的な理論と統計モデリングを学ぶとともに、それを経営分野のデータに応用することを目的としています。また、フリーの統計ソフトRを利用して実際のデータ分析を行うことで、実践力を身につけます。

【到達目標】
・統計理論および様々な統計モデルを習得し、他の人に説明できる。
・統計ソフトRの使い方を習得し、実際のデータ分析を行うことができる。
・分析結果を解釈し、他の人に説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
・講義資料に沿って進めます。資料はHoppiiの「教材」より配布します。
・講義と統計ソフトを利用したデータ分析演習の双方を行います。
・この授業は対面で実施する予定です。
※授業の進め方はシラバス作成時点の予定ですので、今後変更になる可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス／Rのインストール	講義概要について説明します。また、統計ソフトRのインストールについて紹介します。
第2回	記述統計／Rの基本操作(1)	データの特徴を見るための、平均・分散・標準偏差などを学びます。また、統計ソフトRの基本的な使い方を勉強します。
第3回	相関／Rの基本操作(2)	複数の変数間の関係性を分析する共分散や相関について学習します。また、統計ソフトRの基本的な使い方を勉強します。
第4回	確率変数と確率分布	確率変数と主要な確率分布について学習します。
第5回	統計的推定	母集団と標本について学習します。また、点推定と区間推定について学習します。
第6回	仮説検定(1)	母平均と母比率の仮説検定について学びます。
第7回	仮説検定(2)	2つの母集団の母平均と母比率の差の検定について学びます。
第8回	単回帰分析(1)	単回帰分析と母数の推定法である最小2乗法について学びます。
第9回	単回帰分析(2)	回帰係数の検定と決定係数について学びます。
第10回	重回帰分析(1)	重回帰分析について学びます。
第11回	重回帰分析(2)	多重共線性や変数選択について学びます。
第12回	ロジスティック回帰分析(1)	2値データを目的変数としたロジスティック回帰分析について学習します。また、最尤法について学習します。
第13回	ロジスティック回帰分析(2)	ロジスティック回帰分析の予測値や的中率の算出方法、AICなどについて学びます。
第14回	まとめ	本授業の復習とまとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内に出題した演習課題をレポートとして提出します。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
本橋永至(2015)「Rで学ぶ統計データ分析」オーム社

【参考書】
・小暮厚之(2009)「Rによる統計データ分析入門」朝倉書店.
・金明哲 (2017)「Rによるデータサイエンス -データ解析の基礎から最新手法まで　第2版」森北出版.

【成績評価の方法と基準】
・演習レポート(2回を予定)：50%
・期末レポート：50%

【学生の意見等からの気づき】
データを用いた演習に重点を置き、より実践的な内容を扱います。

【学生が準備すべき機器他】
フリーの統計ソフトRを利用するパソコンが必要です。

【その他の重要事項】
実際の授業計画は、履修者の関心や授業の進捗状況に応じて変更することがあります。

【関連科目】
統計学入門
基礎統計学Ⅰ/Ⅱ
経営のための統計学Ⅱ

【Outline (in English)】
[Course outline]
In recent years, the skills of Statistics and data analysis are required even in the management / business field. In addition, to properly make decisions in the management / business context, it is necessary to make objective judgments based on statistical theory and data, and that requires knowledge of statistics. In this course, we will learn about basic theory of Statistics and some statistical modeling, and apply them to data in the management field. In addition, we sill acquire practical skills by performing actual data analysis using free statistical software R.
[Learning Objectives]
Students learn statistical theory and various statistical models, and can explain them to others.
Students learn how to use the statistical software R, and can perform actual data analysis.
Students can interpret the results of analysis and explain them to others.
[Learning activities outside of classroom]
Students are required to submit reports on the exercises given in the class.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
[Grading Criteria/Policy]
Exercise reports (several times): 50%.
Final report: 50%.

ECN500F1 – 0174（経済学 / Economics 500）

統計学Ⅱ

高橋　慎

備考（履修条件等）：**学部主催「経営のための統計学Ⅱ」と合同**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、経済・ファイナンスデータに特化した時系列分析の理論と応用方法を学びます。具体的には、時系列データの基本的な特性、分析手法、予測モデルの構築方法について習得します。また、実際の経済・ファイナンスデータを用いた分析実習を通じて、理論と実践の統合的な理解を深めることを目指します。

【到達目標】
・自己相関、自己回帰、移動平均などを用いた実証研究の論文などを読解できる。
・無料の統計ソフトウェアRを用いて簡単な実証研究を行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
・スライドを利用した講義形式で授業を進めます。
・授業で学習した内容について、Rによる演習を行い理解を深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス/時系列分析の基礎	講義概要について説明します。また、時系列データ、時系列分析の目的、基本統計量について学びます。
第2回	Rの使い方	Rによる数値計算と統計分析について学びます。
第3回	時系列分析の基礎概念	定常性、ホワイトノイズ、時系列プロット、自己相関について学びます。
第4回	ARMA過程1	MA過程、AR過程、ARMA過程について学びます。
第5回	ARMA過程2	ARMA過程の定常性と反転可能性、ARMAモデルの推定について学びます。
第6回	ARMA過程3	ARMAモデルの選択について学び、実証分析を行います。
第7回	予測1	予測の基礎、AR過程の予測、区間予測について学びます。
第8回	予測2	MA過程の予測、ARMA過程の予測について学び、実証分析を行います。
第9回	VARモデル1	弱定常ベクトル過程、VARモデルの性質、VARモデルの推定について学びます。
第10回	VARモデル2	グレンジャー因果性、インパルス応答関数について学びます。
第11回	VARモデル3	分散分解、構造VAR モデルについて学びます。
第12回	ボラティリティ変動モデル1	ボラティリティ、ARCH 型モデル、SVモデルについて学びます。
第13回	ボラティリティ変動モデル2	ARCH型モデルの拡張、SVモデルの拡張について学びます。
第14回	まとめ	授業で扱った内容を復習し、発展的トピックを紹介します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・Rによる実証分析を行い授業内容の復習と知識の定着を図ります。
・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・沖本竜義『経済・ファイナンスデータの計量時系列分析』朝倉書店

【参考書】
・渡部敏明『ボラティリティ変動モデル』朝倉書店
・授業内でも適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
期末課題：100％

【学生の意見等からの気づき】
発展的な内容も紹介します。

【学生が準備すべき機器他】
フリーの統計ソフトウェアR（またはクラウドサービスPosit Cloud）を利用できるパソコンが必要です。

【その他の重要事項】
・基礎統計学I/IIおよび経営のための統計学Iの知識を前提とします。
・「授業の進め方と方法」および「授業形態」は、状況によって変更することがあります。
・「授業計画」は、履修者の関心や授業の進捗状況に応じて変更することがあります。

【関連科目】
・統計学入門
・基礎統計学Ⅰ/Ⅱ
・経営のための統計学Ⅰ

【Outline (in English)】
In this course, we will study the theory and application methods of time series analysis specialized in economic and finance data. Specifically, we will learn about the basic characteristics of time series data, analysis techniques, and how to construct forecasting models. Additionally, through practical analysis exercises using actual economic and finance data, we aim to deepen an integrated understanding of theory and practice.
—
Learning activities outside of classroom:
- Conduct empirical analyses using R to review the course content and reinforce knowledge.
- The standard time for preparation and review for this course is set at 2 hours each.
—
Grading Criteria:
- Final Assignment: 100%

MAN500F1 − 0141（経営学 / Management 500）

リサーチ・メソッド

備考（履修条件等）：**夜間科目「「定性的方法論」と合同**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学術論文を定性調査によって書くための方法論を体系的に学ぶ。ケーススタディ（事例分析）、エスノグラフィ（参与観察等）、歴史アプローチにおける、フィールドワーク、データ分析、理論構築、記述までのプロセスを学習する。さらに、秀でた研究を読むことにより、理解を深める。

【到達目標】
修士または博士論文作成を見据えた、定性的方法論を修得する。方法論はマーケティング領域以外にも共通であり、戦略論や組織論の論文作成を予定している学生の履修も歓迎する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
理論書を読んで理解した上で、サンプル論文を読み、理論構築の実際を確認していく。教員が用意したサンプル論文にこだわらず、読みたい論文を学生が持ち込み、皆で読んで評価するという参加型の講義にしたい。
第一週の講義はオンラインZOOMで実施をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	イントロダクション	問題ある修士論文の例/理論書「実証研究の方法」藤本隆宏
2回	実証研究における理論構築	理論書「実証研究の方法」藤本隆宏/「クチコミ」田路の修士論文
3回	ケース・スタディ	理論書「ケーススタディの方法」R・Kイン 序− 4章/
4回	ケース・スタディ	理論書「ケーススタディの方法」R・Kイン　5-6章
5回	ケース・スタディ	「イノベーションの資源動員と技術進化」松本陽一
6回	ケース・スタディ	理論書「ケース・スタディのアプローチ」横澤
7回	ケース・スタディ	「小売国際化プロセス」矢作敏行 3,5章
8回	歴史的アプローチ	「組織は戦略に従う」A・D・チャンドラーJr. 序-2章
9回	歴史的アプローチ	「組織は戦略に従う」A・D・チャンドラーJr. 3,6,7章
10回	質的データ分析ーコーディングの手法	理論書「質的データ分析法」佐藤郁哉 1-8章/「看護師の倫理的ジレンマ」のコーディングのサンプル
11回	質的データ分析ーインタビューの方法	インタビューのロール・プレィ
12回	エスノグラフィ	「暴走族のエスノグラフィー」佐藤郁哉　1,終章
13回	エスノグラフィ	「洗脳するマネジメント」ギデオンクンダ 3、解説章
14回	エスノグラフィ	「京都花街の経営学」西尾久美子　書籍&ビデオ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回、リーディングに対して、簡単なメモを作成してくる。およそ4時間程度の準備が必要となる。

【テキスト（教科書）】
「ケーススタディの方法」　R・Kイン　千倉書房
「質的データ分析法」　佐藤郁哉　新曜社

【参考書】
「組織と経営について知るための実践フィールドワーク入門」佐藤郁哉　有斐閣
「組織行動の調査方法」　E・Fストーン　白桃書房
「創造的論文の書き方　」伊丹敬之　有斐閣
「リサーチマインド経営学研究法」　藤本隆宏他、有斐閣アルマ

【成績評価の方法と基準】
課題に対するメモ提出と授業への貢献
課題提出６０％、議論４０％

【学生の意見等からの気づき】
自身の研究計画の経過を紹介し、受講生間で意見交換することは有意義であった。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞経営戦略、技術経営
＜研究テーマ＞
「イノベーション・マネジメントにおける戦略と組織行動」
「ハイテク・スタートアップの成長」
「ハイテク産業集積のエコシステム」
＜主要研究業績＞
① 『起業プロセスと不確実性のマネジメント』田路則子,白桃書房,2020年.
②「アーキテクチャ進化における製品開発マネジメント・半導体露光機産業の事例から」榎波龍雄・田路則子『一橋ビジネスレビュー』第65巻3,pp172-184,2017.
③「WEBビジネスにおけるスタートアップの成長要因―首都圏における定量調査と事例分析―」田路則子・新谷優『ベンチャーズレビュー』日本ベンチャー学会,第31巻,pp.63-67,2018.
④“Resource Acquisition in High-Tech Startup Global Strategies,”
Noriko Taji, Technology,Innovation, Entrepreneurship and Competitive Strategy, Emerald Publishing Group,Vol.14,pp.263-287,2014.
⑤『ハイテク・スタートアップの経営戦略―オープン・イノベーションの源泉』田路則子• 露木恵美子, 東洋経済新報社,2010.
⑥「半導体商社の事業ドメイン拡大のメカニズム」田路則子・甲斐敦也,『赤門マネジメント・レビュー』東京大学, 第8 巻,5 号,pp211-231,2009.
⑦『アーキテクチュラル・イノベーション』田路則子, 白桃書房,2005.

【Outline (in English)】
【Outline & Objectives】: Students learn several methodologies of qualitative research; case study, historical approach and ethnography.They can realize the process of field work, data analysis, theory construction and writing. In order to deepen understanding methodologies, they must read outstanding papers and books.
【Learning activities outside of classroom】: Students have to submit small reports every week.
【Grading Criteria /Policy】: small reports(60%) and class contribution(40%)

MAN500F1 − 0175（経営学 / Management 500）

経営情報特論 I

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経営情報論は、企業をはじめとする様々な組織を対象とし、組織を何らかの目標を追求する、広い意味での情報処理システムとして捉え、検討する学問領域です。

この授業では、情報通信技術（ICT）が飛躍的に発展し続けている今日、企業をはじめとする組織にとって、いかにICTやそれが生み出す多様で大量の情報によって、効率的・効果的に経営活動を行うかが、組織の存続や発展に関わる、変わらぬ根幹の課題であること、加えて、昨今のICTの劇的な進展は、ICTや情報が、もはや競争優位や収益性を創出する手段であるだけでなく、その取扱いそのものが、「経営（マネジメント）」であるという課題について学習します。

【到達目標】

経営情報論が扱う領域は広範で、しかも激しく変化しているため、現象を追いかけると一体何を学んでいるのかが、わかりにくくなるという問題に直面します。これを克服するために、「システム的なものの見方」（システム思考）を採用することにより、複雑で混沌として、しかも激動する対象領域を、網羅的というより、むしろ整合的で体系的に捉えられることを学びます。

日々変化する経営情報を巡る現象を統一的な「ものの見方」に基づいて体系的に捉え、情報によっていかに経営するか、すなわち「情報で経営する」という基本的な課題について、現象を説明するための基礎となる理論やモデルを学習します。同時に、情報そのものをいかに経営するか、すなわち「情報を経営する」という新たな課題についても、現象を理解し、新たなモデルの構築へとつなぐ糸口を探します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

対面による授業を予定しています。具体的な授業方法については、授業開始日に説明します。受講を検討されている方は、必ず、学習支援システムで仮登録をするようにしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業内容と方法の確認 経営情報論の学問領域
2	システム思考	システム的なものの見方
3	ディスカッション（1）	システム的なものの見方を用いた事例研究
4	組織のシステムモデル	情報処理システムとしての組織
5	ディスカッション（2）	情報処理システムとしての組織の事例研究
6	経営情報と組織	組織の情報処理と組織論
7	ディスカッション（3）	組織の情報処理についての事例研究
8	経営情報と企業戦略	競争戦略と情報活用
9	ディスカッション（4）	競争戦略と情報活用についての事例研究
10	経営情報と組織の意思決定	組織の中核機能としての意思決定
11	ディスカッション（5）	組織の意思決定についての事例研究
12	経営情報と組織のコミュニケーション	組織を支えるコミュニケーション
13	ディスカッション（6）	組織のコミュニケーションについての事例研究
14	総括	課題報告とレポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業の準備学習・復習時間は、各4時間を標準とします。理論や概念の理解と事例分析に積極的に参加できるよう、予め指定された教材を学習して授業に臨むことが求められます。

授業の詳細や課題については、初回のイントロダクションにおいて説明されます。

【テキスト（教科書）】

木嶋恭一・岸眞理子『経営情報学－理論と現象をつなぐ論理－』有斐閣、2023年。

【参考書】

岸眞理子・佐藤亮編著『経営情報学入門』放送大学教育振興会、2023年。

【成績評価の方法と基準】

成績評価配分は基本的には下記のとおりです。

・授業への貢献度（発表と議論）：50％

・レポート内容：50％

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞　経営情報論、経営組織論

＜研究テーマ＞　組織コミュニケーション、ICTと組織の情報処理

＜関連研究業績＞

①『経営情報学－理論と現象をつなぐ論理－』（共著、有斐閣、2023年）

②『経営情報学入門（新訂）』（共編著、放送大学教育振興会、2023年）

③『メディア・リッチネス理論の再構想』（中央経済社、2014年）

④Perceptions and use of electronic media: Testing the relationship between organizational interpretational differences and media richness, Information and Management 45(5), 2008.

⑤『情報技術を活かす組織能力－ITケイパビリティの事例研究－』（共編著、中央経済社、2004年）

【Outline (in English)】

【Course outline】

Organizations and Information Management involves learning the theories and models of corporate information processing, applying it to practice and developing it, and at the same time obtaining practical knowledge from actual cases of organizational information processing activities to generalize into an academic field.

【Learning Objectives】

The purpose of this course is to learn about how an organization works as an effective information processing system on the premise of the ICT environment.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to search and examine relevant literature and materials. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria/Policy】

Grading will be decided based on the quality of the student's class-performance(50%) and the term-end repot(50%).

MAN500F1 – 0176（経営学 / Management 500）

経営情報特論Ⅱ

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経営情報論は、企業をはじめとする様々な組織を対象とし、組織を何らかの目標を追求する、広い意味での情報処理システムとして捉え、検討する学問領域です。

この授業では、情報通信技術（ICT）が飛躍的に発展し続けている今日、企業をはじめとする組織にとって、いかにICTやそれが生み出す多様で大量の情報によって、効率的・効果的に経営活動を行うかが、組織の存続や発展に関わる、変わらぬ根幹の課題であること、加えて、昨今のICTの劇的な進展は、ICTや情報が、もはや競争優位や収益性を創出する手段であるだけでなく、その取扱いそのものが、「経営（マネジメント）」であるという課題について学習します。

【到達目標】

経営情報論が扱う領域は広範で、しかも激しく変化しているため、現象を追いかけると一体何を学んでいるのかが、わかりにくくなるという問題に直面します。これを克服するために、「システム的なものの見方」（システム思考）を採用することにより、複雑で混沌として、しかも激動する対象領域を、網羅的というより、むしろ整合的で体系的に捉えられることを学びます。

日々変化する経営情報を巡る現象を統一的な「ものの見方」に基づいて体系的に捉え、情報によっていかに経営するか、すなわち「情報で経営する」という基本的な課題について、現象を説明するための基礎となる理論やモデルを学習します。同時に、情報そのものをいかに経営するか、すなわち「情報を経営する」という新たな課題についても、現象を理解し、新たなモデルの構築へとつなぐ糸口を探します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

対面による授業を予定しています。具体的な授業方法については、授業開始日に説明します。受講を検討されている方は、必ず、学習支援システムで仮登録をするようにしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業内容と方法の確認 経営情報論の学問領域
2	組織と技術・情報システム	技術と情報技術の捉え方
3	ディスカッション（1）	組織と情報技術についての事例研究
4	ICTと問題解決	実践における問題解決を行う方法
5	ディスカッション（2）	ICTと問題解決に関する事例研究
6	ICTと組織変革	組織・人のネットワークと変革
7	ディスカッション（3）	ICTと組織変革に関する事例研究
8	ICTと価値創造	ICTによる価値を生み出すプロセス
9	ディスカッション（4）	ICTと価値創造に関する事例研究
10	超スマート社会と情報経営	新しいビジネスモデルとマネジメント
11	ディスカッション（5）	超スマート社会と情報経営に関する事例研究
12	経営情報論への接近方法	トランスレーショナル・アプローチ
13	ディスカッション（6）	トランスレーショナル・アプローチに関する事例研究
14	総括	課題報告とレポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業の準備学習・復習時間は、各４時間を標準とします。理論や概念の理解と事例分析に積極的に参加できるよう、予め指定された教材を学習して授業に臨むことが求められます。

授業の詳細や報告会の課題については、初回のイントロダクションにおいて説明されます。

【テキスト（教科書）】

木嶋恭一・岸眞理子『経営情報学－理論と現象をつなぐ論理－』有斐閣、2023年。

【参考書】

岸眞理子・佐藤亮編著『経営情報学入門』放送大学教育振興会、2023年。

【成績評価の方法と基準】

成績評価配分は基本的には下記のとおりです。

・授業への貢献度（発表と議論）：50％

・レポート内容：50％

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞　経営情報論、経営組織論

＜研究テーマ＞　組織コミュニケーション、ICTと組織の情報処理

＜関連研究業績＞

①『経営情報学－理論と現象をつなぐ論理－』（共著、有斐閣、2023年）

②『経営情報学入門（新訂）』（共編著、放送大学教育振興会、2023年）

③『メディア・リッチネス理論の再構想』（中央経済社、2014年）

④Perceptions and use of electronic media: Testing the relationship between organizational interpretational differences and media richness, Information and Management 45(5), 2008.

⑤『情報技術を活かす組織能力－ITケイパビリティの事例研究－』（共編著、中央経済社、2004年）

【Outline (in English)】

【Course outline】

Organizations and Information Management involves learning the theories and models of corporate information processing, applying it to practice and developing it, and at the same time obtaining practical knowledge from actual cases of organizational information processing activities to generalize into an academic field.

【Learning Objectives】

The purpose of this course is to learn about how an organization works as an effective information processing system on the premise of the ICT environment.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to search and examine relevant literature and materials. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria/Policy】

Grading will be decided based on the quality of the student's class-performance(50%) and the term-end repot(50%).

MAN500F1 – 0188（経営学 / Management 500）

組織マネジメント特論Ⅰ

戎谷　梓

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界経済のグローバル化の進展に伴い、企業にはグローバルに事業を展開し、多国籍人材を活用してビジネスを推進する必要性が高まっています。また、働く立場の人にとっても、自身のキャリアを考える上で国際人的資源管理に関する理解は重要です。本授業では、国際人的資源管理についての理論をふまえた上で、多国籍企業による国際人材の活用について考えます。具体的には、世界の各地域での人的資源管理がどのような特徴を持っているか、また、国際的な人材配置や人材育成、報酬のあり方などについて考察を深めます。

【到達目標】

本授業を通して受講者は、国際人的資源管理に関する最先端の研究に触れ、「採用」「育成」「報酬」など人事の面で多国籍企業が直面する様々な課題について考察することができます。また受講者は、ドメスティックな環境と国際的な環境における人的資源管理上の相違点を理解し、異文化環境ならではの問題および問題への対処方法について深い理解を得ることができます。これにより、特定の国際的・多文化的コンテクストにおけるふさわしい人的資源管理方法について自分自身で有意義な検討を行えるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

本授業は、国際人的資源管理に関して多角的・包括的に扱った書籍『国際人的資源管理』を教科書として輪読形式で進めます。受講者は当該教科書を各自で購入し、毎回授業前までに授業で扱う章を熟読の上、内容に基づくディスカッションに参加できるよう準備しておく必要があります。また受講者は学期中、教科書の各章に含まれる課題に基づくプレゼンテーションを行うことが求められます。加えて学期末には、多国籍企業における多様性管理または多国籍企業の社会的責任に関するテーマでレポートを提出することが求められます。

本科目の履修を希望される方は 、4月7日までに学習支援システムで授業の仮登録をしてください。また、授業の受講にあたって不明な点がある場合は、以下までご連絡ください：
azusa.ebisuya.56@hosei.ac.jp

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業イントロダクションとクラスビルディング	授業コンセプトを説明した後、教科書を概観します。教員および受講者同士で自己紹介を行い、プレゼンテーションの担当章を決めます。
第2回	第1章：国際人的管理とは何か	経済のグローバル化が進展し、企業の人的資源管理が国際化している現状を認識した上で、国際人的資源管理を構成するサブシステムについて概要を把握します。
第3回	第2章：グローバル化と多国籍企業	多国籍企業が出現する理由と、企業の国際化のステージを理解した上で、多国籍企業の組織構造の特徴を考えます。
第4回	第2章の課題に基づくプレゼンテーション	バートレットとゴーシャルの「グローバル戦略・組織」「マルチナショナル戦略・組織」「トランスナショナル戦略・組織」に当てはまる多国籍企業を選び、その戦略内容についての詳細を発表します。
第5回	第3章：人的資源管理のフレームワーク	人的資源管理という考え方の成立について理解した上で、その考え方を構成する各機能別の活動について考えます。
第6回	第4章：国際人的資源管理のフレームワーク	多国籍企業が人的資源管理の仕組みを構築する際の理論的フレームワークを理解した上で、多国籍企業の本社人事部の役割について考えます。
第7回	第4章の課題に基づくプレゼンテーション	ホフステードの国民文化次元の詳細を調べて、特定の国が人的資源管理においてどのような特徴を持っているか発表します。
第8回	第5章：人的資源管理の地域別特徴	日本のユニークな雇用慣行について理解した上で、世界の主要地域の労働市場および企業の人的資源管理について考えます。
第9回	第6章：国際人材配置	本国籍人材、現地国籍人材、第三国籍人材の特徴とこれらの人材の多国籍企業での役割について理解した上で、多国籍企業が人材を採用する際の課題について考えます。
第10回	第6章の課題に基づくプレゼンテーション	本国志向・多極志向・地域志向・世界志向の国際人材配置方針を取っていると思われる企業をそれぞれ探し、そのような方針を取っている要因について発表します。
第11回	第7章：国際人材育成	国際人材育成の目的・意義・基本的な考え方について理解した上で、育成に関わる異文化の諸問題や国際人材に求められるコンピテンシーについて考えます。
第12回	第7章の課題に基づくプレゼンテーション	多国籍企業においてどのように多国籍チームがマネジメントされているかを調べ、発表します。
第13回	第8章：国際報酬	国際報酬マネジメントの基本的な考え方を理解した上で、国際報酬マネジメントとグローバルタレントマネジメントについて考えます。
第14回	第8章の課題に基づくプレゼンテーション	外資系多国籍企業と日系多国籍企業において、報酬マネジメント・業績マネジメントにどのような違いがあるかを調べ、発表します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業は輪読形式で行われるため、各授業でプレゼンテーションを行う受講者はそのための準備、それ以外の受講者は章の内容に基づいたクラスディスカッションに参加できるよう、毎回事前に章全体を熟読しておく必要があります。そのため受講者には、授業の準備と復習を合わせて、毎週平均3時間程度の学習時間が授業外で必要となります。加えて学期末には、レポート提出のため10時間程度の執筆時間が必要となります。

【テキスト（教科書）】

関口倫紀・竹内規彦・井口知栄（編著）（2020）『国際人的資源管理』中央経済社

【参考書】

Christiansen, C., Biron, M., Farndale, E., & Kuvaas, B. (ed.) (2023). The Global Human Resource Management Casebook, Third Edition, Routledge.

Varma, A., Budhwar, P. S., & DeNisi, A. (ed.) Performance Management Systems, Second Edition, Routledge.

【成績評価の方法と基準】
平常点：14％
ディスカッションへの参加：28％
プレゼンテーション：28％
期末レポート：30％

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
受講者には、授業への参加や課題の提出のため学期を通して各自のパソコンとネットワーク環境が必要となります。

【その他の重要事項】
オフィスアワーで研究相談を希望する受講者は、指定の手続き（事務より別途連絡）で事前に申し込みをしてください。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
国際人的資源管理
＜研究テーマ＞
多文化チーム管理、国際バーチャルチーム管理
＜主要研究業績＞
(1)Ebisuya, A., Sekiguchi, T., & Hettiarachchi, G. P., (2021). Narrowing the communication gap in internationally distributed teams: the case of software-development teams in Sri Lanka and Japan. Asian Business & Management. DOI: 10.1057/s41291-021-00169-9
(2)Sekiguchi, T., Takeuchi, N., Takeuchi, T., Nakamura, S., & Ebisuya, A. (2019). How Inpatriates Internalize Corporate Values at Headquarters: The Role of Developmental Job Assignments and Psychosocial Mentoring, Management International Review, 59(5): 825-853.
(3)Liu, T., Ebisuya, A., & Sekiguchi, T. (2019). Liability or asset? Multifaceted bridging functions in HQ-subsidiary relationships: Transfer, adaption, and within-subsidiary relationships from a multilevel perspective. Proceedings of Academy of International Business 2019.

【Outline (in English)】
Course outline: with the globalization of the world economy, companies need to expand their business globally and utilize multinational human resources to promote their business. It is also essential for workers to understand international human resource management when considering their careers. In this course, we will consider multinational companies' utilization of global human resources based on international human resource management theory. Specifically, we will examine the characteristics of human resource management in each region and international staffing, human resource development, and compensation.
Learning objectives: by the end of this course, the attendees will be able to deepen their own knowledge on human resource management by applying the knowledge to the international or multicultural managerial environment. Also, the attendees are expected to be able to grasp the significance of cases of global human resource management being practiced all over the world.
Learning activities outside of classroom: the attendees are expected to read the materials for each class beforehand and prepare for discussions during the class. Each attendee should prepare presentations based on each chapter's assignment. In addition, each attendee should submit a term-paper after the course ends.
Grading criteria/policy: learning attitude(14 %), discussion participation(28 %), presentations(28 %), and term-paper(30％).

MAN500F1－0189（経営学 / Management 500）

組織マネジメント特論Ⅱ

戎谷　梓

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業が多国籍人材を活用しながらグローバルにビジネスを展開する上で、また、働く人々がこれからの時代のキャリアを考える上で、国際人的資源管理に関する理解は必要不可欠です。本授業では、多国籍企業による国際人材の活用についての理解に基づいて、国際人的資源管理を経営戦略的な視点から捉え直します。具体的には、国境を越えて移動する海外派遣者のマネジメントや、多国籍企業でのコミュニケーション上の課題、国際的M&Aなどについての考察を深めます。

【到達目標】

本授業を通して受講者は、国際人的資源管理に関する最先端の研究に触れ、「人事評価」「労使関係」「コミュニケーション」「M&A」など人事の面で多国籍企業が直面する様々な課題について考察することができます。また受講者は、ドメスティックな環境と国際的な環境における人的資源管理上の相違点を理解し、異文化環境ならではの問題および問題への対処方法について深い理解を得ることができます。これにより、特定の国際的・多文化的コンテクストにおけるふさわしい人的資源管理方法について自分自身で有意義な検討を行えるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

本授業は、国際人的資源管理に関して多角的・包括的に扱った書籍『国際人的資源管理』を教科書として輪読形式で進めます。受講者は当該教科書を各自で購入し、毎回授業前までに授業で扱う章を熟読の上、内容に基づくディスカッションに参加できるよう準備しておく必要があります。また受講者は学期中、教科書の各章に含まれる課題に基づくプレゼンテーションを行うことが求められます。加えて学期末には、多国籍企業における多様性管理または多国籍企業の社会的責任に関するテーマでレポートを提出することが求められます。

本科目の履修を希望される方は、4月7日までに学習支援システムで授業の仮登録をしてください。また、授業の受講にあたって不明な点がある場合は、以下までご連絡ください：
azusa.ebisuya.56@hosei.ac.jp

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業イントロダクションとクラスビルディング	授業コンセプトを説明した後、教科書を概観します。教員および受講者同士で自己紹介を行い、プレゼンテーションの担当章を決めます。
第2回	第9章：国際人事評価	人事評価の基準や評価方法、フィードバックの方法などについての地域間・文化間の相違を理解した上で、多国籍企業における効果的な人事評価について考えます。
第3回	第10章：国際労使関係	グローバル化と労働市場・労使関係の特徴について理解した上で、各国の法規制や労使関係の特徴の違いに起因する国際人的資源管理上の課題について考えます。
第4回	第10章の課題に基づくプレゼンテーション	10章で扱われていないフランスとドイツの労使関係マネジメントの特徴について調べ、発表します。
第5回	第11章：海外派遣者のマネジメント	海外派遣の目的や種類、海外派遣者の役割について理解した上で、海外派遣者の適性や効果的な選抜方法・事前研修の内容について考えます。
第6回	第12章：戦略的国際人的資源管理	企業の国際人的資源管理が企業競争力につながるメカニズムと条件について理解した上で、戦略的国際人的資源管理の主要なパースペクティブについて考えます。
第7回	第12章の課題に基づくプレゼンテーション	身近な多国籍企業1社を例に取り、その企業が属する産業の特徴や企業としての強み、企業がターゲットとする市場や顧客の特徴について調べて発表します。
第8回	第13章：社内言語・コミュニケーション	多国籍企業における言語環境やブリッジ人材の能力・役割について理解した上で、多国籍企業の業績を向上させるための言語政策やコミュニケーション政策について考えます。
第9回	第14章：国際的M&Aと人的資源管理	国際的なM&Aが失敗してしまう要因について理解した上で、国際的M&A実施後に統合された1つの組織文化を形成するための方法について考えます。
第10回	第14章の課題に基づくプレゼンテーション	企業が買収されたとき従業員が直面する変化について、新入社員・一般社員・若年従業員・高齢従業員の間でどのように異なるか調べ、発表します。
第11回	第15章：新興国発多国籍企業の人的資源管理	新興国発の多国籍企業の特徴や国際化の方法について先進国発の多国籍企業の場合と比較し、新興国発の多国籍企業の人的資源管理における課題について考えます。
第12回	第15章の課題に基づくプレゼンテーション	複数の新興国発の多国籍企業を例として、それらの企業における人的資源管理のあり方について比較しながら発表します。
第13回	第16章：日本企業の国際人的資源管理	近年のグローバル化が日本企業の国際人的資源管理に及ぼしている影響や課題について理解した上で、それらの課題を解決するために日本本社の人事部が行うべきことについて考えます。
第14回	第16章の課題に基づくプレゼンテーション	海外進出の歴史が浅い日本の多国籍企業と歴史の長い海外の多国籍企業との間で類似点や相違点を調べ、発表します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業は輪読形式で行われるため、各授業でプレゼンテーションを行う受講者はそのための準備、それ以外の受講者は章の内容に基づいたクラスディスカッションに参加できるよう、毎回事前に章全体を熟読しておく必要があります。そのため受講者には、授業の準備と復習を合わせて、毎週平均3時間程度の学習時間が授業外で必要となります。加えて学期末には、レポート提出のため10時間程度の執筆時間が必要となります。

【テキスト（教科書）】
関口倫紀・竹内規彦・井口知栄（編著）（2020）『国際人的資源管理』中央経済社

【参考書】
Christiansen, C., Biron, M., Farndale, E., & Kuvaas, B. (ed.) (2023). The Global Human Resource Management Casebook, Third Edition, Routledge.
Varma, A., Budhwar, P. S., & DeNisi, A. (ed.) Performance Management Systems, Second Edition, Routledge.

【成績評価の方法と基準】
平常点：14％
ディスカッションへの参加：28％
プレゼンテーション：28％
期末レポート：30％

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
受講者には、授業への参加や課題の提出のため学期を通して各自のパソコンとネットワーク環境が必要となります。

【その他の重要事項】
オフィスアワーで研究相談を希望する受講者は、指定の手続き（事務より別途連絡）で事前に申し込みをしてください。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
国際人的資源管理
＜研究テーマ＞
多文化チーム管理、国際バーチャルチーム管理
＜主要研究業績＞
(1)Ebisuya, A., Sekiguchi, T., & Hettiarachchi, G. P., (2021). Narrowing the communication gap in internationally distributed teams: the case of software-development teams in Sri Lanka and Japan. Asian Business & Management. DOI: 10.1057/s41291-021-00169-9
(2)Sekiguchi, T., Takeuchi, N., Takeuchi, T., Nakamura, S., & Ebisuya, A. (2019). How Inpatriates Internalize Corporate Values at Headquarters: The Role of Developmental Job Assignments and Psychosocial Mentoring, Management International Review, 59(5): 825-853.
(3)Liu, T., Ebisuya, A., & Sekiguchi, T. (2019). Liability or asset? Multifaceted bridging functions in HQ-subsidiary relationships: Transfer, adaption, and within-subsidiary relationships from a multilevel perspective. Proceedings of Academy of International Business 2019.

【Outline (in English)】
Course outline: understanding international human resource management is essential for companies to develop their business globally while utilizing multinational human resources and for workers to consider their careers in the future. In this course, based on the understanding of global companies' utilization of international human resources, international human resource management will be reconsidered from a business strategy perspective. Specifically, we will deepen our discussion on managing expatriates who move across borders, communication challenges in multinational companies, and international mergers and acquisitions.
Learning objectives: by the end of this course, the attendees will be able to deepen their own knowledge on human resource management by applying the knowledge to the international or multicultural managerial environment. Also, the attendees are expected to be able to grasp the significance of cases of global human resource management being practiced all over the world.
Learning activities outside of classroom: the attendees are expected to read the materials for each class beforehand and prepare for discussions during the class. Each attendee should prepare presentations based on each chapter's assignment. In addition, each attendee should submit a term-paper after the course ends.
Grading criteria/policy: learning attitude(14 %), discussion participation(28 %), presentations(28 %), and term-paper(30 %).

MAN500F1 – 0182（経営学 / Management 500）

経営学演習Ⅰ

横内　正雄

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この演習は、経営学研究科昼間課程に所属する大学院生に対して修士論文ないしリサーチペーパーの作成に関する指導を行うものである。特に修士論文は、その中に学術的に新しい知見を必要とするものであり、この演習を通じてこの知見の発見を目指すことになる。

【到達目標】
春学期は主に先行研究のレビューと調査計画が出来上がった状況が到達目標となる。修士論文ないしリサーチペパーには調査が不可欠であるが、その方法は多様である。インタビュー、アンケート、計量分析などの方法が考えられるが、指導教授との議論の中から自分の修士論文ないしリサーチペパーのテーマに応じて最適な調査方法を選択することになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
先行研究レビュー、リサーチクエッションの設定、分析方法等の決定について大学院生に報告を求める。適宜参考文献を提示し、それの報告を求める。演習では主に指導教員が課題を出し、次回の演習では出された課題を報告し、それに関連して教員との間でディスカッオン・アドバイスが行われる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	論文執筆に関する年間計画の策定する。
第2回	研究計画書の作成(1)	リサーチクエッションを検討する。
第3回	研究計画書の作成(2)	論文のテーマと概要を確定する。
第4回	先行研究の検討(1)	論文のテーマに関する先行研究を調査し、報告する。
第5回	先行研究の検討(2)	論文のテーマに関する先行研究を調査し、報告する。
第6回	先行研究の検討(3)	論文のテーマに関する先行研究を調査し、報告する。
第7回	先行研究の検討(4)	論文のテーマに関する先行研究を調査し、報告する。
第8回	先行研究の検討(5)	論文のテーマに関する先行研究を調査し、報告する。
第9回	先行研究の検討(6)	先行研究のまとめと研究課題を確定させる。
第10回	調査方法の検討(1)	調査対象の検討を行う。
第11回	調査方法の検討(2)	テーマに適する調査方法の検討を行う。
第12回	調査方法の検討(3)	分析枠組みの検討を行う。
第13回	調査方法の検討(4)	分析枠組みの検討を行う。
第14回	中間報告の準備	発表資料の検討を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指導教員から提示された文献以外の文献探索、課題の検討、データ収集、調査先の選定、分析方法の検討などを自発的に行うことが求められる。授業時間以外の学習時間は、毎日最低２時間程度を必要とする。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。

【参考書】
担当する指導教員から適宜提示される。

【成績評価の方法と基準】
毎回の議論への参加状況など平常点50％、報告内容の評価50％で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
本演習は授業改善アンケートの対象外であるので特にない。修士論文を作成する大学院生には作成にあたって余裕を持った計画を立てて進めることが望ましい。

【学生が準備すべき機器他】
研究分析に用いるパソコンなどの機材が必要となる。

【その他の重要事項】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
国際金融・金融史
＜研究テーマ＞
国際銀行の歴史的研究
＜主要研究業績＞
・「グローバリゼーションと国際通貨ドル」・「国際資本移動とアジア通貨危機」SGCIME編『グローバル資本主義と世界編成・国民国家システム：Ⅰ世界経済の構造と動態』 御茶の水書房 2003年
・「1990年代の香港金融市場における邦銀」 法政大学経営学会『経営志林』第40巻第1号, 2003年
・『国際金融論Ⅰ』法政大学通信教育部、2020年

【Outline (in English)】
This seminar provides guidance to graduate students in the daytime course of the Graduate School of Business Administration in the preparation of a research paper or master's thesis. In particular, the master's thesis requires new academic knowledge, and the aim is to discover this knowledge through this seminar.

MAN500F1－0183（経営学 / Management 500）

経営学演習Ⅱ

横内　正雄

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この演習は、経営学研究科昼間課程に所属する大学院生に対して修士論文ないしリサーチペーパーの作成に関する指導を行うものである。特に修士論文は、その中に学術的に新しい知見を必要とするものであり、この演習を通じてこの知見の発見を目指すことになる。経営学演習Ⅱでは修士論文ないしはリサーチペーパーを完成させることになる。

【到達目標】
秋学期は主に調査結果の分析と修士論文の執筆指導が行われ、学術的な新しい知見が盛り込まれた修士論文ないしはリサーチペーパーを作成することが目標となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
先行研究レビュー、リサーチクエッションの設定、分析方法等の決定について大学院生に報告を求める。適宜参考文献を提示し、それの報告を求める。演習では主に指導教員が課題を出し、次回の演習では出された課題を報告し、それに関連して教員との間でディスカッオン・アドバイスが行われる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	中間報告の準備	指導教員以外の教員からコメント受ける中間報告のための資料の作成とプレゼンテーションについて準備する。
第2回	中間報告の実施	指導教員以外の教員からコメントを受ける。
第3回	中間報告に対するコメントの検討	教員からのコメントを受けて調査方法等について修正を行う。
第4回	調査結果の報告	調査結果の報告と分析方法に関する指導が行われる。
第5回	調査結果の分析(1)	調査結果を報告し助言を受ける。
第6回	調査結果の分析(2)	調査結果を報告し助言を受ける。
第7回	調査結果の分析(3)	調査結果を報告し助言を受ける。
第8回	調査結果の分析(4)	調査結果を報告し助言を受ける。
第9回	論文草稿の検討(1)	論文の草稿を報告し助言を受ける。
第10回	論文草稿の検討(2)	論文の草稿を報告し助言を受ける。
第11回	論文草稿の検討(3)	論文の草稿を報告し助言を受ける。
第12回	論文草稿の検討(4)	論文の草稿を報告し助言を受ける。
第13回	論文草稿の検討(5)	論文の草稿を報告し助言を受ける。
第14回	論文の最終調整	論文を完成させるとともに口述試験についての助言を受ける。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指導教員から提示された文献以外の文献探索、課題の検討、データ収集、調査先の選定、分析方法の検討などを自発的に行うことが求められる。授業時間以外の学習時間は、毎日最低２時間程度を必要とする。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。

【参考書】
担当する指導教員から適宜提示される。

【成績評価の方法と基準】
毎回の議論への参加状況など平常点50％、報告内容の評価50％で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
本演習は授業改善アンケートの対象外であるので特にない。修士論文を作成する大学院生には作成にあたって余裕を持った計画を立てて進めることが望ましい。

【学生が準備すべき機器他】
研究・分析のためにパソコンなどの機器が必要とされる。

【その他の重要事項】
特にない。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
国際金融・金融史
＜研究テーマ＞
国際銀行の歴史的研究
＜主要研究業績＞
・「グローバリゼーションと国際通貨ドル」・「国際資本移動とアジア通貨危機」SGCIME編『グローバル資本主義と世界編成・国民国家システム：Ⅰ世界経済の構造と動態』 御茶の水書房 2003年
・「1990年代の香港金融市場における邦銀」 法政大学経営学会『経営志林』第40巻第1号, 2003年
・『国際金融論Ⅰ』法政大学通信教育部、2020年

【Outline (in English)】
This seminar provides guidance to graduate students in the daytime course of the Graduate School of Business Administration in the preparation of a research paper or master's thesis. In particular, the master's thesis requires new academic knowledge, and the aim is to discover this knowledge through this seminar. In the Business Administration Seminar II, students complete a master's thesis or research paper.

MAN500F1 – 0182（経営学 / Management 500）

経営学演習 I

西川　英彦

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習は、流通・マーケティングに関するリサーチペーパーあるいは修士論文作成の研究指導を行うものである。実務の問題意識と、マーケティング理論を融合させ、独自性の高い研究を行い、論文にしていく。

【到達目標】
本演習では、内容的に高度なリサーチペーパーあるいは修士論文を作成し、学会発表できる完成度を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
流通・マーケティングの包括的な領域でテーマが設定され、理論的アプローチから実証的アプローチまで、テーマに即した研究方法で論文を作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	リサーチ・プロポーザルの作成指導①	テーマやスケジュールについての指導
2	リサーチ・プロポーザルの作成指導②	テーマの絞り込み
3	先行研究の検討①	先行研究の渉猟
4	先行研究の検討②	先行研究の整理
5	先行研究の検討③	先行研究の批判的検討
6	研究方法の検討①	研究方法についての指導
7	研究方法の検討②	研究方法の絞り込み
8	中間報告の準備	中間報告準備の指導
9	春季 中間報告会	中間報告会での指導 (日程は前後する可能性あり)
10	調査実施状況の確認①	調査計画やスケジュールについて指導
11	調査実施状況の確認②	調査内容の吟味
12	調査実施状況の確認③	調査実施方法の確認
13	調査実施状況の確認④	調査データの吟味
14	調査実施状況の確認⑤	調査データの分析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献探索やデータ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、報告書作成、データ分析、執筆活動は、各自授業外で行うこと。

【テキスト（教科書）】
適宜紹介する。

【参考書】
指導教員からの指示に従うこと。

【成績評価の方法と基準】
評価の項目はリサーチペーペーあるいは修士論文としての学術的説得力、実務への貢献、論理的一貫性である。論文の完成度の評価が60%、演習への取り組み姿勢や努力(平常点）を40%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
スケジュール管理に留意する。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
マーケティング論、ユーザー・イノベーション論、デジタル・マーケティング
＜研究テーマ＞
クラウドソーシング（消費者参加型新製品開発）
＜主要研究業績＞
著書に、『1からのデジタル・マーケティング』（編著、碩学舎）、『ネット・リテラシー：ソーシャルメディア利用の規定因』（共著、白桃書房）、『１からの商品企画』（編著、碩学舎）、『１からの消費者行動(第2版)』（編著、碩学舎）、『ソロモン消費者行動論』（共訳、丸善出版）など。
論文に、「新製品開発クラウドソーシングがもたらす複合的成果」（『組織科学』54(2)）、"The Value of Marketing Crowdsourced New Products as Such: Evidence from Two Randomized Field Experiments,"（共著、 *Journal of Marketing Research*, 54(4)）など。
＜研究室サイト＞
http://nlab.ws.hosei.ac.jp/

【Outline (in English)】
【Outline & Objectives】This seminar aims to complete research paper or master theses regarding topics of marketing and distribution. Students pursue original research by fusing their own practical awareness of the issues and marketing theory.
【Learning activities outside of classroom】Data collection, data analysis and previous studies survey, etc. Students have to study at least four or five hours per week.
【Grading Criteria /Policy】The evaluation items are academic ability to persuade, practical contribution and logical consistency, etc. The grade is calculated by the completeness of a final paper(60%) and the attitude toward the class(40%).

MAN500F1 – 0183（経営学 / Management 500）

経営学演習Ⅱ

西川　英彦

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習は、流通・マーケティングに関するリサーチペーペーあるいは修士論文作成の研究指導を行うものである。実務の問題意識と、マーケティング理論を融合させ、独自性の高い研究を行い、論文にしていく。

【到達目標】
本演習では、内容的に高度なリサーチペーペーあるいは修士論文を作成し、学会発表できる完成度を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
流通・マーケティングの包括的な領域でテーマが設定され、理論的アプローチから実証的アプローチまで、テーマに即した研究方法で論文を作成する。
研究内容ついては，各回の授業での受講生の報告へ指導教員がフィードバックを行うと同時に，年2回の中間報告会で指導教員以外からもフィードバックを行う。
授業形式（対面，オンライン授業等）は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	研究課題の再確認	研究課題やスケジュールについての指導
2	調査実施状況の確認①	調査データの吟味
3	調査実施状況の確認②	調査データの分析
4	調査実施状況の確認③	分析結果の解釈
5	調査実施状況の確認④	理論的意義の検討
6	調査実施状況の確認⑤	実践的意義の検討
7	調査実施状況の確認⑥	限界と展望の確認
8	中間報告の準備	中間報告準備の指導
9	秋季 中間報告会	中間報告会での指導（日程は前後する可能性あり）
10	論文執筆指導①	全体構成の再確認
11	論文執筆指導②	レビューパートの指導
12	論文執筆指導③	分析枠組み・方法論パートの指導
13	論文執筆指導④	分析パートの指導
14	論文執筆指導⑤	論文全体の整合性の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献探索やデータ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、報告書作成、データ分析、執筆活動は、各自授業外で行うこと。毎週最低でも4-5時間必要になる。

【テキスト（教科書）】
適宜紹介する。

【参考書】
指導教員からの指示に従うこと。

【成績評価の方法と基準】
評価の項目はリサーチペーペーあるいは修士論文としての学術的説得力、実務への貢献、論理的一貫性である。論文の完成度の評価が60%、演習への取り組み姿勢や努力(平常点）を40%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
スケジュール管理に留意する。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
　マーケティング論、ユーザー・イノベーション論、デジタル・マーケティング
＜研究テーマ＞
　クラウドソーシング（消費者参加型新製品開発）
＜主要研究業績＞
　著書に、『1からのデジタル・マーケティング』（編著、碩学舎）、『ネット・リテラシー：ソーシャルメディア利用の規定因』（共著、白桃書房）、『１からの商品企画』（編著、碩学舎）、『１からの消費者行動(第2版)』（編著、碩学舎）、『ソロモン消費者行動論』（共訳、丸善出版）など。
　論文に、「新製品開発クラウドソーシングがもたらす複合的成果」（『組織科学』54(2)）、"The Value of Marketing Crowdsourced New Products as Such: Evidence from Two Randomized Field Experiments,"（共著、 *Journal of Marketing Research*, 54(4)）など。
＜研究室サイト＞
http://nlab.ws.hosei.ac.jp/

【Outline (in English)】
【Outline & Objectives】This seminar aims to complete research paper or master theses regarding topics of marketing and distribution. Students pursue original research by fusing their own practical awareness of the issues and marketing theory.
【Learning activities outside of classroom】Data collection, data analysis and previous studies survey, etc. Students have to study at least four or five hours per week.
【Grading Criteria /Policy】The evaluation items are academic ability to persuade, practical contribution and logical consistency, etc. The grade is calculated by the completeness of a final paper(60%) and the attitude toward the class(40%).

MAN500F1 − 0182（経営学 / Management 500）

経営学演習 I

新倉　貴士

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習は、マーケティングに関する修士論文作成の研究指導を行うものである。履修生は、実務的な問題意識を基にして、マーケティングに関する独自性の高い研究を行い、論文を作成する。

【到達目標】
本演習では、内容的に高度な修士論文を作成し、学会発表ができるレベルの完成度を目指す。到達目標として、以下の３点を目指します。
①当該研究分野における既存研究に関する網羅的な文献探索ができることを目指します。
②独自の斬新な仮説が導出できるようになることを目指します。
③体系立てた調査設計と仮説の検証ができるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
上記の目的に即して、大学院在籍のメンバーと共にゼミ形式で行う。毎回、修士論文に向けての報告と、それに関するディスカッションを行う。到達目標①については、研究の進捗状況を随時報告することにより、多角的な視点からのコメントに基づいて、漏れのないように進めます。到達目標②については、報告に基づくコメントに基づいて、毎回、仮説の修正を繰り返すことにより、より洗練させていくようにします。到達目標③については、基本的な市場調査のテキストに基づきながら、正確な調査と分析を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	問題意識の明確化①	論文のテーマに関する問題意識の重要性を指導
2	問題意識の明確化②	論文のテーマに関する問題意識の重要性を指導
3	先行研究の検討①	先行研究についての指導
4	先行研究の検討②	先行研究についての指導
5	先行研究の検討③	先行研究についての指導
6	研究方法の検討①	研究方法についての指導
7	研究方法の検討②	研究方法についての指導
8	中間報告の準備	ゼミでの中間報告準備の指導
9	第１回中間報告	中間報告での指導
10	調査実施状況の確認①	調査状況に基づき指導
11	調査実施状況の確認②	調査状況に基づき指導
12	調査実施状況の確認③	調査状況に基づき指導
13	調査実施状況の確認④	調査状況に基づき指導
14	調査実施状況の確認⑤	調査状況に基づき指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献探索やデータ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、報告書作成、データ分析、執筆活動は、各自授業外で行うこと。

【テキスト（教科書）】
『消費者の認知世界：ブランドマーケティング・パースペクティブ』（新倉貴士著、千倉書房）。

【参考書】
適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
修士論文への取り組み姿勢（30％）と修士論文の内容（70％）で評価します。修士論文の内容については、文献探索の網羅性、仮説の独創性、検証方法の妥当性を確認したうえで、修士論文の学術的貢献、実務への貢献、論理的一貫性を基にして評価します。

【学生の意見等からの気づき】
指導方法においてわかりやすさを意識しながら進める予定です。
進展度合いが確認できるように配慮して進める予定です。

【学生が準備すべき機器他】
ノートパソコン

【その他の重要事項】
マーケティング関連科目ならびに基礎的な統計的知識を学べる科目を履修しておくことが望ましい。

【担当教員の専門領域等】
http://kenkyu-web.i.hosei.ac.jp/Profiles/25/0002435/profile.html

【Outline (in English)】
This class provides the skills required to write a master's thesis on marketing.
Students will gain skills for an academic methodology and marketing practices.
Major course objectives are;
-To get the knowledge in the area of consumer behavior and marketing strategy.
-To learn marketing methodology.
-To create original hypothesis.
-To get presentation skills required to communicate original ideas.
-To write a master's thesis.
The evaluation items are academic ability to persuade, practical contribution and logical consistency, etc.
The grade is calculated by the completeness of a final paper (70%) and the attitude toward the class (30%).

MAN500F1 – 0183（経営学 / Management 500）

経営学演習Ⅱ

新倉　貴士

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習は、マーケティングに関する修士論文作成の研究指導を行うものである。履修生は、実務的な問題意識を基にして、マーケティングに関する独自性の高い研究を行い、論文を作成する。

【到達目標】
本演習では、内容的に高度な修士論文を作成し、学会発表ができるレベルの完成度を目指す。到達目標として、以下の３点を目指します。
①当該研究分野における既存研究に関する網羅的な文献探索ができることを目指します。
②独自の斬新な仮説が導出できるようになることを目指します。
③体系立てた調査設計と仮説の検証ができるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
上記の目的に即して、大学院在籍のメンバーと共にゼミ形式で行う。毎回、修士論文に向けての報告と、それに関するディスカッションを行う。到達目標①については、研究の進捗状況を随時報告することにより、多角的な視点からのコメントに基づいて、漏れのないように進めます。到達目標②については、報告に基づくコメントに基づいて、毎回、仮説の修正を繰り返すことにより、より洗練させていくようにします。到達目標③については、基本的な市場調査のテキストに基づきながら、正確な調査と分析を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	調査実施状況の確認⑥	調査状況に基づき指導
第2回	調査実施状況の確認⑥	調査状況に基づき指導
第3回	調査実施状況の確認⑦	調査状況に基づき指導
第4回	調査実施状況の確認⑧	調査状況に基づき指導
第5回	調査結果の検討①	調査状況に基づき指導
第6回	調査結果の検討②	調査状況に基づき指導
第7回	中間報告の準備	ゼミでの中間報告準備の指導
第8回	第２回中間報告	中間報告での指導
第9回	修士論文執筆の指導①	修士論文執筆の指導
第10回	修士論文執筆の指導②	修士論文執筆の指導
第11回	修士論文執筆の指導③	修士論文執筆の指導
第12回	修士論文執筆の指導④	修士論文執筆の指導
第13回	修士論文の最終確認①	修士論文執筆の最終指導
第14回	修士論文の最終確認②	修士論文執筆の最終指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。文献探索やデータ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、報告書作成、データ分析、執筆活動は、各自授業外で行うこと。

【テキスト（教科書）】
『消費者の認知世界：ブランドマーケティング・パースペクティブ』（新倉貴士著、千倉書房）。

【参考書】
適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
修士論文への取り組み姿勢（30％）と修士論文の内容（70％）で評価します。修士論文の内容については、文献探索の網羅性、仮説の独創性、検証方法の妥当性を確認したうえで、修士論文の学術的貢献、実務への貢献、論理的一貫性を基にして評価します。

【学生の意見等からの気づき】
着実に進められるように、進め方において体系立てた工夫を考えます。

【学生が準備すべき機器他】
ノートパソコン

【その他の重要事項】
マーケティング関連科目ならびに基礎的な統計的知識を学べる科目を履修しておくことが望ましい。

【担当教員の専門分野等】
https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/25/0002435/profile.html

【Outline (in English)】
This class provides the skills required to write a master's thesis on marketing.
Students will gain skills for an academic methodology and marketing practices.
Major course objectives are;
-To get the knowledge in the area of consumer behavior and marketing strategy.
-To learn marketing methodology.
-To create original hypothesis.
-To get presentation skills required to communicate original ideas.
-To write a master's thesis
The evaluation items are academic ability to persuade, practical contribution and logical consistency, etc.
The grade is calculated by the completeness of a final paper (70%) and the attitude toward the class (30%).

MAN500F1 – 0182（経営学 / Management 500）

経営学演習 I

横山　斉理

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習は、マーケティングに関する修士論文あるいはリサーチペーパー作成の研究指導を行うものである。実務の問題意識と、学術的課題を融合させ、独自性の高い研究を行い、論文にしていく。

【到達目標】
・先行研究をレビューして、先行研究や理論を基に仮説を構築します。
・適切な分析方法を用いて仮説を検証します。
・内容的に高度な修士論文を作成し、学会発表できる完成度を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
各自の研究テーマに基づき、先行研究の検討、研究方法の検討を行う。研究方法の決定後には、具体的な調査やデータ収集を行い分析を行う。授業は、毎回の受講生の報告と教員からの指導で進め、最終的に修士論文の執筆を行う。
研究内容ついては、各回の授業での受講生の報告へ指導教員がフィードバックを行うと同時に、年2回の中間報告会で指導教員以外からもフィードバックを行う。
授業形式（対面・オンライン授業等）は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	リサーチ・プロポーザルの作成指導①	テーマやスケジュールについての指導
2	リサーチ・プロポーザルの作成指導②	テーマの絞り込み
3	先行研究の検討①	先行研究の整理
4	先行研究の検討②	先行研究の整理
5	先行研究の検討③	先行研究の批判的検討
6	研究方法の検討①	研究方法についての指導
7	研究方法の検討②	研究方法の絞り込み
8	中間報告の準備	中間報告準備の指導
9	春季 中間報告会	中間報告会での指導 (日程は前後する可能性あり)
10	調査実施状況の確認①	調査計画やスケジュールについて指導
11	調査実施状況の確認②	調査内容の吟味
12	調査実施状況の確認③	調査実施方法の確認
13	調査実施状況の確認④	調査データの吟味
14	調査実施状況の確認⑤	調査データの分析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献探索やデータ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、報告書作成、データ分析、執筆活動は、各自授業外で行うこと。

【テキスト（教科書）】
適宜紹介する。

【参考書】
指導教員からの指示に従うこと。

【成績評価の方法と基準】
修士論文としての学術的説得力、実務への貢献、論理的一貫性など（100%）。

【学生の意見等からの気づき】
スケジュール管理に留意する。

【Outline (in English)】
This seminar aims to complete the master thesis.Students will combine their awareness of practical problems with academic issues to conduct highly original research and write a thesis.
Students will review previous research and develop hypotheses based on previous research and theories, and test their hypotheses using appropriate analytical methods. Students will write a master's thesis with a high level of content and aim to complete it so that it can be presented at an academic conference.
Research activities such as search for previous research and data collection, requests to research targets, report writing, data analysis, and writing activities should be conducted outside of class.
Grading criteria/policy is academic persuasiveness as a master's thesis, contribution to practice, logical coherence, etc.

MAN500F1 – 0183（経営学 / Management 500）

経営学演習Ⅱ

横山　斉理

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習は、マーケティングに関する修士論文あるいはリサーチペーパー作成の研究指導を行うものである。実務の問題意識と、学術的課題を融合させ、独自性の高い研究を行い、論文にしていく。

【到達目標】
・先行研究をレビューして、先行研究や理論を基に仮説を構築します。
・適切な分析方法を用いて仮説を検証します。
・内容的に高度な修士論文を作成し、学会発表できる完成度を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
各自の研究テーマに基づき、先行研究の検討、研究方法の検討を行う。研究方法の決定後には、具体的な調査やデータ収集を行い分析を行う。授業は、毎回の受講生の報告と教員からの指導で進め、最終的に修士論文の執筆を行う。
研究内容ついては、各回の授業での受講生の報告へ指導教員がフィードバックを行うと同時に、年2回の中間報告会で指導教員以外からもフィードバックを行う。
授業形式（対面・オンライン授業等）は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	研究課題の再確認	研究課題やスケジュールについての指導
2	調査実施状況の確認①	調査データの吟味
3	調査実施状況の確認②	調査データの分析
4	調査実施状況の確認③	分析結果の解釈
5	調査実施状況の確認④	理論的意義の検討
6	調査実施状況の確認⑤	実践的意義の検討
7	調査実施状況の確認⑥	限界と展望の確認
8	中間報告の準備	中間報告準備の指導
9	秋季 中間報告会	中間報告会での指導 (日程は前後する可能性あり)
10	論文執筆指導①	修士論文執筆の指導
11	論文執筆指導②	修士論文執筆の指導
12	論文執筆指導③	修士論文執筆の指導
13	論文執筆指導④	修士論文執筆の最終指導
14	論文執筆指導⑤	修士論文執筆の最終指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献探索やデータ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、報告書作成、データ分析、執筆活動は、各自授業外で行うこと。

【テキスト（教科書）】
適宜紹介する。

【参考書】
指導教員からの指示に従うこと。

【成績評価の方法と基準】
修士論文としての学術的説得力、実務への貢献、論理的一貫性など（100%）。

【学生の意見等からの気づき】
スケジュール管理に留意する。

【Outline (in English)】
This seminar aims to complete the master thesis.Students will combine their awareness of practical problems with academic issues to conduct highly original research and write a thesis.
Students will review previous research and develop hypotheses based on previous research and theories, and test their hypotheses using appropriate analytical methods. Students will write a master's thesis with a high level of content and aim to complete it so that it can be presented at an academic conference.
Research activities such as search for previous research and data collection, requests to research targets, report writing, data analysis, and writing activities should be conducted outside of class.
Grading criteria/policy is academic persuasiveness as a master's thesis, contribution to practice, logical coherence, etc.

MAN500F1 – 0182（経営学 / Management 500）

経営学演習 I

福島　英史

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習は、企業家・経営戦略分野の領域に関わるテーマの修士論文の作成と、これを通じた当該分野における研究作法の習得を目的とする。

【到達目標】
実務的・学術的に価値の高い修士論文の完成を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
本演習は，修士論文執筆に向けた。報告・質疑/ディスカッション・コメント等からなる。当該演習で提起された課題は，次回演習時にその進捗を確認していく。論文で解くべき問題の確定，関連する諸研究の発表，調査の対象と範囲および方法の確定，全体構想の描写をしっかり行う。調査の実施後は，そのとりまとめと，問題の見直し，追加的な文献報告・補完的調査，構想の見直し，調査結果の再解釈などを行う。十二月前半頃迄に初稿を完成させた後，提出へ向けエラボレートしていく。夜間コース等中間発表の機会も活用すると良い。
なお、下記の授業計画は修士論文指導の一つのモデルケースである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション テーマの選定(1)	修士論文執筆の年間計画を検討する。
第2回	テーマの選定(2)	論文のテーマについて検討し詳細を絞り込む。
第3回	テーマの選定(3)	修士論文のテーマに関する先行論文について検討する。
第4回	プロポーザルの作成(1)	修士論文のテーマと執筆計画を具体化する。
第5回	プロポーザルの作成(2)	修士論文のテーマと執筆計画を具体化する。
第6回	先行研究のレビュー(1)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第7回	先行研究のレビュー(2)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第8回	先行研究のレビュー(3)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第9回	先行研究のレビュー(4)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第10回	先行研究のレビュー(5)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第11回	先行研究のレビュー(6)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第12回	中間発表会の準備(1)	中間発表のための報告スライドの準備を行う。
第13回	中間発表会の準備(2)	中間発表のための報告スライドの準備を行う。
第14回	中間発表後のフィードバックを行う。	中間発表会のコメントから新たに論文を再構成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、4時間以上を標準とする。
先行文献の探索や読み込み、レジュメの作成、データ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、調査ノートの作成、データ分析、論文執筆は、各自が授業時間外に行う。

【テキスト（教科書）】
テキストは用いない。

【参考書】
『研究成果集』(毎年、経営学専攻の優秀な修士論文が掲載される論文集) を参照のこと。

【成績評価の方法と基準】
成績の評価基準は，発表・報告（100％）ある。但し中間発表や論文の草稿等を含む。
発表・報告の評価基準は，先行研究の読破，正確で分かりやすい論点整理，論理的な首尾一貫性，実証分析の手堅さ，テーマの斬新性，文章の読みやす，、質疑に対する応答の適切さなどである。

【学生の意見等からの気づき】
本演習は、前年度の授業改善アンケートの対象外であった。

【学生が準備すべき機器他】
各自でパソコンを準備すること。

【担当教員の専門領域等】
経営戦略とイノベーション

【研究テーマ】
戦略とイノベーション，産業発展とグローバル化，経営学説史など

【主要研究業績】
・「グローバル・ストラテジー 国際的な市場機会と競争優位の実現」『学説史で学ぶ経営戦略』（文真堂）, 2022. ・「オープン・イノベーション・ワールド探訪-概念検討と画像半導体産業揺籃期」『経営志林』53 (1), 2016. ・“Inside Cooperative Innovation: Development and Commercialization of Sodium-Sulfur Batteries for Power Storage,” IIR Case Studies (Hitotsubashi University), 13 (1), 2013. ・「アンソフ戦略論への批判」『経営学史叢書IX アンソフ』（文真堂）, 2012. ・「技術開発プロジェクトの国家支援と成果」『経営志林』47(3),2010. ・「事業の多様化と経営成果—時間展開と企業間相互作用」『経営志林』46(3), 2009.

【Outline (in English)】
This seminar aims to develop your academic skills to study business administration in order to write up your master thesis. We mainly focus on firms' strategy, innovation and entrepreneurship. The goal of this seminar is to complete good master's thesis and submit it by the deadline. Before/after each seminar meeting, students will be expected to spend more than four hours to prepare and understand the content. Grading will be decided based on each seminar reports (100%), including interim papers and presentations.

MAN500F1 – 0183（経営学 / Management 500）

経営学演習Ⅱ

福島　英史

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習は、企業家・経営戦略分野の領域に関わるテーマの修士論文の作成と、これを通じた当該分野における研究作法の習得を目的とする。

【到達目標】
実務的・学術的に価値の高い修士論文の完成を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
本演習は，修士論文執筆に向けた。報告・質疑/ディスカッション・コメント等からなる。当該演習で提起された課題は，次回演習時にその進捗を確認していく。論文で解くべき問題の確定，関連する諸研究の発表，調査の対象と範囲および方法の確定，全体構想の描写をしっかり行う。調査の実施後は，そのとりまとめと，問題の見直し，追加的な文献報告・補完的調査，構想の見直し，調査結果の再解釈などを行う。十二月前半頃迄に初稿を完成させた後，提出へ向けエラボレートしていく。夜間コース等中間発表の機会も活用すると良い。
なお、下記の授業計画は修士論文指導の一つのモデルケースである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文の構成の検討	夏休みからの研究の発展を報告する。
第2回	調査ノートの作成(1)	調査計画を策定する。
第3回	調査ノートの作成(2)	調査の実施によりデータを収集し、成果を報告する。
第4回	調査ノートの作成(3)	調査の実施によりデータを収集し、成果を報告する。
第5回	調査ノートの作成(4)	収集データを分析し、成果を報告する。
第6回	論文の執筆と課題の確認(1)	論文の執筆と添削を行う。
第7回	論文の執筆と課題の確認(2)	論文の執筆と添削を行う。
第8回	論文の執筆と課題の確認(3)	論文の執筆と添削を行う。
第9回	論文の執筆と課題の確認(4)	論文の執筆と添削を行う。
第10回	論文の執筆と課題の確認(5)	論文の執筆と添削を行う。
第11回	論文の執筆と課題の確認(6)	論文の執筆と添削を行う。
第12回	論文の完成に向けた調整(1)	論理・データの整合性を確認する。
第13回	論文の完成に向けた調整(2)	論理・データの整合性を確認する。
第14回	最終報告会	完成論文を報告し、提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、４時間以上を標準とする。
先行文献の探索や読み込み、レジュメの作成、データ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、調査ノートの作成、データ分析、論文執筆は、各自が授業時間外に行う。

【テキスト（教科書）】
テキストは用いない。

【参考書】
『研究成果集』(毎年、経営学専攻の優秀な修士論文が掲載される論文集) を参照のこと。

【成績評価の方法と基準】
成績の評価基準は，発表・報告（100％）ある。但し中間発表や論文の草稿等を含む。
発表・報告の評価基準は，先行研究の読破，正確で分かりやすい論点整理，論理的な首尾一貫性，実証分析の手堅さ，テーマの斬新性，文章の読みやす，、質疑に対する応答の適切さなどである。

【学生の意見等からの気づき】
本演習は、前年度の授業改善アンケートの対象外であった。

【学生が準備すべき機器他】
各自でパソコンを準備すること。

【担当教員の専門領域等】
経営戦略とイノベーション

【研究テーマ】
戦略とイノベーション，産業発展とグローバル化，経営学説史など

【主要研究業績】
・「グローバル・ストラテジー 国際的な市場機会と競争優位の実現」『学説史で学ぶ経営戦略』（文真堂）, 2022. ・「オープン・イノベーション・ワールド探訪-概念検討と画像半導体産業揺籃期」『経営志林』53 (1), 2016. ・“Inside Cooperative Innovation: Development and Commercialization of Sodium-Sulfur Batteries for Power Storage,” IIR Case Studies (Hitotsubashi University), 13 (1), 2013. ・「アンソフ戦略論への批判」『経営学史叢書IX アンソフ』（文真堂）, 2012. ・「技術開発プロジェクトの国家支援と成果」『経営志林』47(3),2010. ・「事業の多様化と経営成果―時間展開と企業間相互作用」『経営志林』46(3), 2009.

【Outline (in English)】
This seminar aims to develop your academic skills to study business administration in order to write up your master thesis. We mainly focus on firms' strategy, innovation and entrepreneurship. The goal of this seminar is to complete good master's thesis and submit it by the deadline. Before/after each seminar meeting, students will be expected to spend more than four hours to prepare and understand the content. Grading will be decided based on each seminar reports (100%), including interim papers and presentations.

MAN500F1－0182（経営学 / Management 500）

経営学演習Ⅰ

稲垣　京輔

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、修士課程の2年生を対象に、修士論文の作成について指導を行う。

【到達目標】
実務的・学術的に価値の高い修士論文の完成を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
演習の実施日時や進め方は担当指導教員によって異なるが、一般的には、毎週土曜日に100分間、あるいは、隔週土曜日に200分間の授業が行われる。
授業の内容は、修士論文の指導と基本文献の輪読という二本立てで運営されるが、秋学期には、春学期に比べ、修士論文の指導のウェートが高まる。
なお、下記の授業計画は修士論文指導の一つのモデルケースである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション テーマの選定(1)	修士論文執筆の年間計画を検討する。
第2回	テーマの選定(2)	論文のテーマについて検討し詳細を絞り込む。
第3回	テーマの選定(3)	修士論文のテーマに関する先行研究について概観し、検討する。
第4回	プロポーザルの作成(1)	修士論文のテーマと執筆計画を具体化する。
第5回	プロポーザルの作成(2)	修士論文のテーマと執筆計画を具体化する。
第6回	先行研究のレビュー(1)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第7回	先行研究のレビュー(2)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第8回	先行研究のレビュー(3)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第9回	先行研究のレビュー(4)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第10回	先行研究のレビュー(5)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第11回	先行研究のレビュー(6)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第12回	中間発表会の準備(1)	中間発表会のための報告資料を準備する。
第13回	中間発表会の準備(2)	中間発表会のための報告資料を準備する。
第14回	中間発表後のフィードバック	中間発表会のコメントから論文を再構成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2～3時間を標準とする。
先行文献の探索や読み込み、レジュメの作成、データ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、調査ノートの作成、データ分析、論文執筆は、各自が授業時間外に行う。

【テキスト（教科書）】
テキストは用いない。

【参考書】
『研究成果集』(毎年、経営学専攻の優秀な修士論文が掲載される論文集)を参照のこと。

【成績評価の方法と基準】
成績の評価基準は、出席(50％)、発表・報告(50％)。修士論文の中間発表や修士論文の草稿等を含む)である。
発表・報告の評価基準は、先行研究の読破、正確で分かりやすい論点整理、論理的な首尾一貫性、実証分析の手堅さ、テーマの斬新性、文章の読みやすさ、質疑に対する応答の適切さなどである。

【学生の意見等からの気づき】
本演習は、前年度の授業改善アンケートの対象外であった。

【学生が準備すべき機器他】
各自でパソコンを準備すること。

【Outline (in English)】
【Outline】
・This class aims to discuss and find out the theme for entrepreneurial activities and make develop master's thesis.
・Each participant voluntarily carries out empirical investigations and research related to business science and economics under the guidance of the supervising teacher and reports on the results at any time during class.
【Learning Objectives】
・Aim to complete a master's thesis with high practical and academic value.
【Learning Activities outside of Classroom】
・The standard preparatory study and review time for this class is 2～3 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
・Grades will be based on a total of the following: Ordinary points (50%)+presentations and reports (50%).

MAN500F1 – 0183（経営学 / Management 500）

経営学演習Ⅱ

稲垣　京輔

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、修士課程の2年生を対象に、修士論文の作成について指導を行う。

【到達目標】
実務的・学術的に価値の高い修士論文の完成を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
演習の実施日時や進め方は担当指導教員によって異なるが、一般的には、毎週土曜日に100分間、あるいは、隔週土曜日に200分間の授業が行われる。
授業の内容は、修士論文の指導と基本文献の輪読という二本立てで運営されるが、秋学期には、春学期に比べ、修士論文の指導のウェートが高まる。
なお、下記の授業計画は修士論文指導の一つのモデルケースである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文の構成の検討	夏休みからの研究の発展を報告する。
第2回	調査ノートの作成(1)	調査計画を策定する。
第3回	調査ノートの作成(2)	調査の実施によりデータを収集し、成果を報告する。
第4回	調査ノートの作成(3)	調査の実施によりデータを収集し、成果を報告する。
第5回	調査ノートの作成(4)	調査の実施によりデータを収集し、成果を報告する。
第6回	論文の執筆と課題の確認(1)	論文の執筆と添削を行う。
第7回	論文の執筆と課題の確認(2)	論文の執筆と添削を行う。
第8回	論文の執筆と課題の確認(3)	論文の執筆と添削を行う。
第9回	論文の執筆と課題の確認(4)	論文の執筆と添削を行う。
第10回	論文の執筆と課題の確認(5)	論文の執筆と添削を行う。
第11回	論文の執筆と課題の確認(6)	論文の執筆と添削を行う。
第12回	論文の完成に向けた調整(1)	論理の整合性を確認する。
第13回	論文の完成に向けた調整(2)	論理の整合性を確認する。
第14回	最終報告会	完成論文を報告し、提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2～3時間を標準とする。
先行文献の探索や読み込み、レジュメの作成、データ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、調査ノートの作成、データ分析、論文執筆は、各自が授業時間外に行う。

【テキスト（教科書）】
テキストは用いない。

【参考書】
『研究成果集』(毎年、経営学専攻の優秀な修士論文が掲載される論文集)を参照のこと。

【成績評価の方法と基準】
成績の評価基準は、出席(50％)、発表・報告(50％)。修士論文の中間発表や修士論文の草稿等を含む)である。
発表・報告の評価基準は、先行研究の読破、正確で分かりやすい論点整理、論理的な首尾一貫性、実証分析の手堅さ、テーマの斬新性、文章の読みやすさ、質疑に対する応答の適切さなどである。

【学生の意見等からの気づき】
本演習は、前年度の授業改善アンケートの対象外であった。

【学生が準備すべき機器他】
各自でパソコンを準備すること。

【Outline (in English)】
【Outline】
・This class aims to discuss and find out the theme for entrepreneurial activities and make develop master's thesis.
・Each participant voluntarily carries out empirical investigations and research related to business science and economics under the guidance of the supervising teacher and reports on the results at any time during class.
【Learning Objectives】
・Aim to complete a master's thesis with high practical and academic value.
【Learning Activities outside of Classroom】
・The standard preparatory study and review time for this class is 2～3 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
・Grades will be based on a total of the following: Ordinary points (50%)+presentations and reports (50%).

MAN500F1－0182（経営学 / Management 500）

経営学演習Ⅰ

洞口　治夫

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、修士課程２年次に在籍し、洞口を指導教授とすることが決まった学生を対象に、国際ビジネスに関するリサーチペーパー作成をするための研究指導を行います。前年度末に行われた研究課題の提案（プロポーザル）をもとにして、昼間の修士課程のなかで担当の指導教員が決定されています。配属の決まった院生が履修する科目ですので、それ以外の学生は履修できません。

【到達目標】
一年間の少人数制個別指導を通じて、学術的に見て価値の高いリサーチペーパーの完成を目指します。研究課題の発見とそのための能力、先行研究の読解と理解力、英語・日本語文献の読解力と正しい発音、インタビュー調査での質問構成力、ノートテイキング、図表の作成能力、統計的分析力、日本語文章力、論理的思考能力など高度な思考能力を養い、リサーチペーパーの作成に役立てます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
この授業を履修する学生は、そのリサーチペーパー作成の進捗状況に応じて、授業時間を使った個別指導を行います。なお、授業日程と開講曜日については、学生と教員とが話し合って決定します。リサーチペーパーの執筆を予定している学生諸君は、そのテーマに関する報告を行うことが求められており、そこで指導教員からのアドバイスをもらうとともに文章の推敲を行います。本演習は春学期２単位科目ですが、秋学期にも同名の2単位科目が準備されています。授業内容に応じてZoomでのプレゼンテーションを行う場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	リサーチペーパー執筆の年間計画を策定する。教科書の紹介。
第2回	研究計画の作成指導①	リサーチペーパーのテーマと調査・研究・執筆計画の概要に関して助言を行う。
第3回	研究計画の作成指導②	リサーチペーパーのテーマと調査計画の概要に関して助言を行う。
第4回	先行研究の検討①	リサーチペーパーのテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。
第5回	先行研究の検討②	リサーチペーパーのテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。
第6回	先行研究の検討③	リサーチペーパーのテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。
第7回	先行研究の検討④	リサーチペーパーのテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。
第8回	先行研究の検討⑤	リサーチペーパーのテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。
第9回	調査方法の検討①	リサーチペーパーで選んだ研究テーマに適合的な調査の仕方について議論する。
第10回	調査方法の検討②	リサーチペーパーで選んだ研究テーマに適合的な調査の仕方について議論する。
第11回	調査方法の検討③	リサーチペーパーで選んだ研究テーマに適合的な調査の準備を行う。
第12回	調査方法の検討④	リサーチペーパーで選んだ研究テーマに適合的な調査の準備を行う。
第13回	調査方法の検討⑤	リサーチペーパーで選んだ研究テーマに適合的な調査の準備を行う。
第14回	中間報告の準備	リサーチペーパーの中間報告を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備・復習時間は、講義及び演習（2単位）では授業1回につき4時間以上が標準となります。具体的な課題は下記のとおりです。前期では、このうち14回を行います。
第1回　リサーチペーパーのテーマを構想する。
第2～3回　リサーチペーパーのテーマと執筆計画の概要を作成する。
第4～8回　テーマに関連した先行研究を収集し、報告レジュメを作成する。
第9～13回　具体的な調査方法を考案する。
第14回　中間報告のための資料を作成する。
第15回　中間報告のコメントを参照して追加の計画を立てる。
第16～20回　具体的な調査を行う。
第21～23回　調査結果を分析し、場合によっては追加調査を行う。
第24～28回　リサーチペーパーを執筆し、指導教員の助言を反映させる。

【テキスト（教科書）】
多田和美(2014)『グローバル製品開発戦略ー日本コカ・コーラ社の成功と日本ペプシコ社の撤退ー』有斐閣.
（授業開始前までに手にいれておくこと。どのような資料を利用しているか、どのような調査を行っているか、など、研究方法を参考にします。）

【参考書】
①洞口治夫『ＭＢＡのナレッジ・マネジメント－集合知創造の現場としての社会人大学院－』文眞堂、2018年．＜とくに第5章、第7章、第8章。＞
②洞口治夫編著『ファカルティ・ディベロプメント』白桃書房、2008年。＜とくに第11章。＞
③小池和男『聞きとりの作法』東洋経済新報社、2000年。
④小池和男・洞口治夫編『経営学のフィールド・リサーチ－「現場の達人」の実践的調査手法』日本経済新聞社、2006年。

【成績評価の方法と基準】
配分: 出席（50％）、報告（50％）
評価基準：評価の基準となるのは、出席と毎回の報告です。なお、リサーチペーパーの評価基準は理論的なフレームワークの確かさ、実証分析の手堅さ、論理的な首尾一貫性、テーマの斬新性、日本語文章力などです。

【学生の意見等からの気づき】
本科目は少人数制個別指導であるため授業改善アンケートを実施していません。ただし、日常の学生からの要望を聞きながら授業改善に努めています。2024年度からリサーチペーパーの作成指導となりましたので、広い視野で調査に取り組むことが可能になりました。

【学生が準備すべき機器他】
電子辞書、スマートフォン、パソコン、ノート、筆記用具は必須です。インターネット端末の利用も必要です。

【その他の重要事項】
本科目を履修する学生諸君には、国際経営論を履修しておくことを強くお薦めします。

【Outline (in English)】
This course offers research support for second-year master's students whose faculty advisor is Horaguchi and are writing a research paper on international business. A supervisor is assigned based on the research proposal submitted at the end of the preceding year in the daytime master's program. Access to this course is restricted to graduate students assigned to this specific program and is not open to other students.

MAN500F1 – 0183（経営学 / Management 500）

経営学演習Ⅱ

洞口　治夫

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、修士課程２年次生のなかで洞口を指導教授とすることが決まった学生を対象に、国際ビジネスに関するリサーチペーパー作成をするための研究指導を行います。前年度末に行われた研究課題の提案（プロポーザル）をもとにして、昼間の修士課程のなかで担当の指導教員が決定されています。配属の決まった院生が履修する科目ですので、それ以外の学生は履修できません。秋学期には、春学期と夏休み期間中に積み上げた調査・研究をもとに、リサーチペーパーの完成を目指します。

【到達目標】
一年間の少人数制個別指導を通じて、学術的に見て価値の高いリサーチペーパーの完成を目指します。研究課題の発見とそのための能力、先行研究の読解と理解力、英語・日本語文献の読解力と正しい発音、インタビュー調査での質問構成力、ノートテイキング、図表の作成能力、統計的分析力、日本語文章力、論理的思考能力など高度な思考能力を養い、リサーチペーパーの作成に役立てます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
この授業を履修する学生は、そのリサーチペーパー作成の進捗状況に応じて、授業時間を使った個別指導を行います。なお、授業日程と開講曜日については、学生と教員とが話し合って決定します。リサーチペーパーの執筆を予定している学生諸君は、そのテーマに関する報告を行うことが求められており、そこで指導教員からのアドバイスをもらうとともに文章の推敲を行います。本演習は春学期２単位科目ですが、秋学期にも同名の2単位科目が準備されています。授業内容に応じてZoomでのプレゼンテーションを行う場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	リサーチペーパーの作成状況を確認する。教科書を参考にした研究水準の理解を行う。
第2回	研究指導①	リサーチペーパーの作成におけるテーマと調査・研究・執筆計画の概要に関して助言を行う。
第3回	研究指導②	リサーチペーパー作成のテーマと調査計画の概要に関して助言を行う。
第4回	先行研究の検討①	リサーチペーパーのテーマに関する先行研究を文章にまとめ、内容を確認する。
第5回	先行研究の検討②	リサーチペーパーのテーマに関する先行研究を文章にまとめ、内容を確認する。
第6回	先行研究の検討③	リサーチペーパーのテーマに関する先行研究を文章にまとめ、内容を確認する。
第7回	先行研究の検討④	リサーチペーパーのテーマに関する先行研究を文章にまとめ、内容を確認する。
第8回	先行研究の検討⑤	リサーチペーパーのテーマに関する先行研究を文章にまとめ、内容を確認する。
第9回	調査の検討①	リサーチペーパーで選んだ研究テーマに適合的な調査が行われたか、確認する。
第10回	調査の検討②	リサーチペーパーで選んだ研究テーマに適合的な調査が行われたか、確認する。
第11回	調査の検討③	リサーチペーパーで選んだ研究テーマに適合的な調査が行われたか、確認する。
第12回	調査の検討④	リサーチペーパーで選んだ研究テーマに適合的な調査が行われたか、確認する。
第13回	リサーチペーパーの執筆と推敲	リサーチペーパーで選んだ研究テーマに適合的な日本語表現を確認する。
第14回	最終報告の準備	リサーチペーパーの最終報告を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備・復習時間は講義及び演習（2単位）では授業1回につき4時間以上が標準となります。具体的な課題は下記のとおりです。秋学期では、このうち15回から28回までを行います。
第1回　リサーチペーパーのテーマを構想する。
第2～3回　リサーチペーパーのテーマと執筆計画の概要を作成する。
第4～8回　テーマに関連した先行研究を収集し、報告レジュメを作成する。
第9～13回　具体的な調査方法を考案する。
第14回　中間報告のための資料を作成する。
第15回　中間報告のコメントを参照して追加の計画を立てる。
第16～20回　具体的な調査を行う。
第21～23回　調査結果を分析し、場合によっては追加調査を行う。
第24～28回　リサーチペーパーを執筆し、指導教員の助言を反映させる。

【テキスト（教科書）】
多田和美(2014)『グローバル製品開発戦略ー日本コカ・コーラ社の成功と日本ペプシコ社の撤退ー』有斐閣.
（授業開始前までに手にいれておくこと。どのような資料を利用しているか、どのような調査を行っているか、など、研究方法を参考にします。）

【参考書】
①洞口治夫『ＭＢＡのナレッジ・マネジメント－集合知創造の現場としての社会人大学院－』文眞堂、2018年．＜とくに第5章、第7章、第8章。＞
②洞口治夫編著『ファカルティ・ディベロプメント』白桃書房、2008年。＜とくに第11章。＞
③小池和男『聞きとりの作法』東洋経済新報社、2000年。
④小池和男・洞口治夫編『経営学のフィールド・リサーチ－「現場の達人」の実践的調査手法』日本経済新聞社、2006年。

【成績評価の方法と基準】
配分: 出席（50％）、報告（50％）
評価基準：評価の基準となるのは、出席と毎回の報告です。なお、リサーチペーパーの評価基準は理論的なフレームワークの確かさ、実証分析の手堅さ、論理的な首尾一貫性、テーマの斬新性、日本語文章力などです。

【学生の意見等からの気づき】
本科目は少人数制個別指導であるため授業改善アンケートを実施していません。ただし、日常の学生からの要望を聞きながら授業改善に努めています。2024年度からリサーチペーパーの作成指導となりましたので、修士論文よりも広い視野で調査に取り組むことが可能になりました。

【学生が準備すべき機器他】
電子辞書、スマートフォン、パソコン、ノート、筆記用具は必須です。インターネット端末の利用も必要です。

【その他の重要事項】
本科目を履修する学生諸君には、国際経営論を履修しておくことを強くお薦めします。

【Outline (in English)】
This course offers research support for second-year master's students whose faculty advisor is Horaguchi and are writing a research paper on international business. A supervisor is assigned based on the research proposal submitted at the end of the preceding year in the daytime master's program. Access to this course is restricted to graduate students assigned to this specific program and is not open to other students. In the fall semester, we aim to complete research papers based on the investigations and studies accumulated during the spring semester and summer break.

MAN500F1 – 0182（経営学 / Management 500）

経営学演習 I

李　瑞雪

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、経営学における学術研究の基本的な作法を学んだうえで、具体的な研究課題を選定し、しかるべき一連の研究活動を通じて修士論文/リサーチペーパーという成果物を出して特定領域についての知識体系に新たな知見を加えることを目的とします。データの収集や分析などの具体的な研究活動は授業外の時間で行いますが、クラスではステップバイステップで研究の指導・アドバイスを受けます。

【到達目標】
高水準を有する経営学分野の修士論文／リサーチペーパーを完成することが本授業の目標です。そのためには、経営学分野における研究テーマの設定、研究テーマに関連する先行文献のサーベイと整理、先行研究のレビュー基づく研究課題の設定と仮説の構築、仮説検証のための方法論の選定とデータ収集、収集したデータの分析、分析結果をまとめる学術論文の作成を含む一連のプロセスを着々と歩む必要があります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
研究計画に沿って、毎回の演習で進捗状況を報告し、指導とアドバイスを受けます。基本的には教室で対面方式を採りますが、フィールド調査の実施期間中においてはオンライン方式などで柔軟に対応します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	学術論文の基本を理解し、演習の進め方を決定します。
第2回	研究計画の作成指導	問題関心と関連の予備知識を確認し、実行可能性を検討します。
第3回	研究計画の作成指導	研究テーマの検討と決定を行います。
第4回	研究計画の作成指導	採用すべき研究手法および研究目的を検討します。
第5回	先行研究のレビュー	先行研究の調べ方や絞り方などを学びます。
第6回	先行研究のレビュー	先行研究から必要な情報や知見を集める方法を学びます。
第7回	先行研究のレビュー	先行研究から集めた情報や知見の整理方法を学びます。
第8回	先行研究のレビュー	先行研究の知見を踏まえて研究課題を設定します。
第9回	仮説ないし命題の検討	研究課題について、仮説ないし命題を構築します。
第10回	調査対象の検討	仮説や命題の検証を行うためのデータや情報のソースについて検討します。
第11回	調査計画の検討	具体的な調査計画を検討します。
第12回	調査計画の検討	具体的な調査計画を検討し決定します。
第13回	予備調査について	パイロット調査の結果を踏まえて調査計画を修正します。
第14回	調査計画の決定	夏季休暇中の本格的な調査実施に向けて調査計画を決定し、準備状況を点検します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
先行研究のサーベイやパイロット調査の実施などの作業は授業時間外で行います。そのための時間を十分に確保する必要があります。修論研究のためには毎週10時間以上を確保しましょう。

【テキスト（教科書）】
研究テーマと研究手法に合わせて適宜提示します。

【参考書】
研究の進捗状況に合わせて適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】
研究計画の水準と進捗状況、研究への姿勢などの平常点50％、修士論文の水準50％で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
特にありません。

【学生が準備すべき機器他】
RefWorksをパソコンにインストールしておきます。毎回の演習にパソコンを持参します。

【担当教員の専門分野等】
〈専門領域〉ロジスティクスマネジメント論、経営戦略論、国際経営論　〈研究テーマ〉ロジスティクス・クラスターの形成メカニズム、新興市場における企業のロジスティクス戦略、水平的ロジスティクス・コラボレーション　〈主要研究業績〉「ロジスティクス・クラスター形成のメカニズム：システマティック・リテラチャー・レビューに基づいて」2023年（論文）、『業界別物流管理とSCMの実践』2022年（著書）、「自動車部品の荷姿設定におけるフロントローディングの類型とメカニズム」2021年（論文）、「自動車部品の荷姿最適化の規定要因に関する研究：質的比較分析（fsQCA）によるアプローチ」2021年（論文）など

【Outline (in English)】
Course Outline
Students will learn the basic knowledge and skills of conducting academic research in the social sciences, including formulating research questions, reviewing relevant literature, and collecting and analyzing appropriate data and relevant information. As a result of a series of research activities, students must complete a master's thesis. All the research activities must be done before/after each class meeting. Students will get advice and instruction in class step by step through the research process.
Grading Criteria/Policy
Grading will be based on the quality of the student's class performance (50%) and of the final paper (50%).

MAN500F1 – 0182（経営学 / Management 500）

経営学演習 I

戎谷　梓

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、修士論文作成のための研究指導を行う。受講者は、論文作成に必要な先行研究のレビュー、リサーチクエスチョンの構築、データの収集、適切で客観的なデータ分析と考察の各段階を通して、修士論文の完成を目指す。

【到達目標】
(1)研究に必要な資料の収集ができ、適切に先行研究をレビューできる。
(2)先行研究のレビューに基づき、オリジナルのリサーチ・クエスチョンを立てることができる。
(3)リサーチ・クエスチョンへの答えを得るために行うべき調査方法やデータ収集方法を特定し、実施することができる。
(4)収集したデータを効果的に分析し、リサーチ・クエスチョンへの答えを導くための考察を行うことができる。
(5)修士論文を完成させることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
少人数のゼミ形式で体系的に研究指導を行う。毎回、受講者が各自の研究活動に関する進捗報告を行い、他の受講者とのディスカッションや教員からの指導を通して調査・分析、論文執筆を進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	コース・イントロダクション	-研究指導の進め方について確認する。 -修士論文執筆の年間計画を立てる。
2	先行研究のレビュー（1）	-受講者各自の研究テーマに関連する先行研究のレビューを行う。 -受講者同士でディスカションを行う。
3	先行研究のレビュー（2）	-受講者各自の研究テーマに関連する先行研究のレビューを行う。 -受講者同士でディスカションを行う。
4	先行研究のレビュー（3）	-受講者各自の研究テーマに関連する先行研究のレビューを行う。 -受講者同士でディスカションを行う。
5	先行研究のレビュー（4）	-受講者各自の研究テーマに関連する先行研究のレビューを行う。 -受講者同士でディスカションを行う。
6	先行研究のレビュー（5）	-受講者各自の研究テーマに関連する先行研究のレビューを行う。 -受講者同士でディスカションを行う。
7	リサーチ・クエスチョンの構築（1）	-受講者各自の研究内容に基づき、先行研究で明らかにされていることとこれから明らかにされるべきこととを整理する。 -修士課程の研究で明らかにしたい点を見極め、クエスチョンを立てる。
8	リサーチ・クエスチョンの構築（2）	-受講者各自の研究内容に基づき、先行研究で明らかにされていることとこれから明らかにされるべきこととを整理する。 -修士課程の研究で明らかにしたい点を見極め、クエスチョンを立てる。
9	調査方法の構築（1）	-リサーチ・クエスチョンへの回答を得るために行うべき調査を見極める。 -調査の内容や実施方法を整理する。
10	調査方法の構築（2）	-リサーチ・クエスチョンへの回答を得るために行うべき調査を見極める。 -調査の内容や実施方法を整理する。
11	調査方法の構築（3）	-リサーチ・クエスチョンへの回答を得るために行うべき調査を見極める。 -調査の内容や実施方法を整理する。
12	調査の実施（1）	-受講者各自が計画した調査を実施する。 -収集したデータを整理する。
13	調査の実施（2）	-受講者各自が計画した調査を実施する。 -収集したデータを整理する。
14	調査の実施（3）	-受講者各自が計画した調査を実施する。 -収集したデータを整理する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講者の関連研究の文献探索やデータ収集のための調査対象への依頼、データ分析、執筆活動等は各受講者が授業時間外に行うものとする。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。

【参考書】
必要に応じてその都度、指示する。

【成績評価の方法と基準】
進捗状況の報告：40％
ディスカッションへの参加：30％
模擬発表：30％

【学生の意見等からの気づき】
アンケート対象外につき該当なし

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
国際人的資源管理
＜研究テーマ＞
多文化チーム管理、国際バーチャルチーム管理
＜主要研究業績＞
(1)Ebisuya, A., Sekiguchi, T., & Hettiarachchi, G. P., (2021). Narrowing the communication gap in internationally distributed teams: the case of software-development teams in Sri Lanka and Japan. Asian Business & Management. DOI: 10.1057/s41291-021-00169-9.
(2)Sekiguchi, T., Takeuchi, N., Takeuchi, T., Nakamura, S., & Ebisuya, A. (2019). How Inpatriates Internalize Corporate Values at Headquarters: The Role of Developmental Job Assignments and Psychosocial Mentoring, Management International Review, 59(5): 825-853.

(3)Liu, T., Ebisuya, A., & Sekiguchi, T. (2019). Liability or asset? Multifaceted bridging functions in HQ-subsidiary relationships: Transfer, adaption, and within-subsidiary relationships from a multilevel perspective. Proceedings of Academy of International Business 2019.

【Outline (in English)】

This course will provide research guidance for writing a master's thesis. Students will aim to complete their master's thesis through the steps of reviewing previous research, building research questions, collecting data, and appropriate data analysis.

The learning objectives of this course are as follows: Students will be able to (1) collect materials necessary for research and review previous research appropriately, (2) formulate an original research question based on a review of previous research, (3) identify and implement research and data collection methods to answer the research question, (4) effectively analyze and discuss collected data to answer the research question, and (5) complete a master's thesis.

Students' grades will be determined based on progress reports (40%), participation in discussions (30%), and mock presentations (30%).

MAN500F1 – 0183（経営学 / Management 500）

経営学演習Ⅱ

戎谷　梓

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、修士論文作成のための研究指導を行う。受講者は、論文作成に必要な先行研究のレビュー、リサーチクエスチョンの構築、データの収集、適切で客観的なデータ分析と考察の各段階を通して、修士論文の完成を目指す。

【到達目標】
(1)研究に必要な資料の収集ができ、適切に先行研究をレビューできる。
(2)先行研究のレビューに基づき、オリジナルのリサーチ・クエスチョンを立てることができる。
(3)リサーチ・クエスチョンへの答えを得るために行うべき調査方法やデータ収集方法を特定し、実施することができる。
(4)収集したデータを効果的に分析し、リサーチ・クエスチョンへの答えを導くための考察を行うことができる。
(5)修士論文を完成させることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
少人数のゼミ形式で体系的に研究指導を行う。毎回、受講者が各自の研究活動に関する進捗報告を行い、他の受講者とのディスカッションや教員からの指導を通して調査・分析、論文執筆を進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	コース・イントロダクション	-研究指導の進め方について確認する。 -修士論文完成までの計画を立てる。
2	調査結果の分析（1）	-収集したデータを整理する。 -受講者各自が実施した調査の結果を分析する。
3	調査結果の分析（2）	-収集したデータを整理する。 -受講者各自が実施した調査の結果を分析する。
4	調査結果の分析（3）	-収集したデータを整理する。 -受講者各自が実施した調査の結果を分析する。
5	調査結果の分析（4）	-収集したデータを整理する。 -受講者各自が実施した調査の結果を分析する。
6	調査結果の分析（5）	-収集したデータを整理する。 -受講者各自が実施した調査の結果を分析する。
7	考察（1）	-データの分析結果から明らかになった点を整理する。 -研究上の貢献を説明する。 -実務上の提言を説明する。
8	考察（2）	-データの分析結果から明らかになった点を整理する。 -研究上の貢献を説明する。 -実務上の提言を説明する。
9	考察（3）	-データの分析結果から明らかになった点を整理する。 -研究上の貢献を説明する。 -実務上の提言を説明する。
10	考察（4）	-データの分析結果から明らかになった点を整理する。 -研究上の貢献を説明する。 -実務上の提言を説明する。
11	考察（5）	-データの分析結果から明らかになった点を整理する。 -研究上の貢献を説明する。 -実務上の提言を説明する。
12	論文の仕上げ（1）	-研究全体の結論をまとめる。 -参考文献を整理して記載する。
13	論文の仕上げ（2）	-研究全体の結論をまとめる。 -参考文献を整理して記載する。
14	論文の仕上げ（3）	-研究全体の結論をまとめる。 -参考文献を整理して記載する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講者の関連研究の文献探索やデータ収集のための調査対象への依頼、データ分析、執筆活動等は各受講者が授業時間外に行うものとする。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。

【参考書】
必要に応じてその都度、指示する。

【成績評価の方法と基準】
進捗状況の報告：40％
ディスカッションへの参加：30％
模擬発表：30％

【学生の意見等からの気づき】
アンケート対象外につき該当なし

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
国際人的資源管理
＜研究テーマ＞
多文化チーム管理、国際バーチャルチーム管理
＜主要研究業績＞
(1)Ebisuya, A., Sekiguchi, T., & Hettiarachchi, G. P., (2021). Narrowing the communication gap in internationally distributed teams: the case of software-development teams in Sri Lanka and Japan. Asian Business & Management. DOI: 10.1057/s41291-021-00169-9.
(2)Sekiguchi, T., Takeuchi, N., Takeuchi, T., Nakamura, S., & Ebisuya, A. (2019). How Inpatriates Internalize Corporate Values at Headquarters: The Role of Developmental Job Assignments and Psychosocial Mentoring, Management International Review, 59(5): 825-853.
(3)Liu, T., Ebisuya, A., & Sekiguchi, T. (2019). Liability or asset? Multifaceted bridging functions in HQ-subsidiary relationships: Transfer, adaption, and within-subsidiary relationships from a multilevel perspective. Proceedings of Academy of International Business 2019.

【Outline (in English)】
This course will provide research guidance for writing a master's thesis. Students will aim to complete their master's thesis through the steps of reviewing previous research, building research questions, collecting data, and appropriate data analysis.
The learning objectives of this course are as follows: Students will be able to (1) collect materials necessary for research and review previous research appropriately, (2) formulate an original research question based on a review of previous research, (3) identify and implement research and data collection methods to answer the research question, (4) effectively analyze and discuss collected data to answer the research question, and (5) complete a master's thesis.

Students' grades will be determined based on progress reports (40%), participation in discussions (30%), and mock presentations (30%).

MAN500F1 – 0183（経営学 / Management 500）

経営学演習Ⅱ

李　瑞雪

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、経営学における学術研究の基本的な作法を学んだうえで、具体的な研究課題を選定し、しかるべき一連の研究活動を通じて修士論文/リサーチペーパーという成果物を出して特定領域についての知識体系に新たな知見を加えることを目的とします。データの収集や分析などの具体的な研究活動は授業外の時間で行いますが、クラスではステップバイステップで研究の指導・アドバイスを受けます。

【到達目標】
高水準を有する経営学分野の修士論文/リサーチペーパーを完成することが本授業の目標です。そのためには、経営学分野における研究テーマの設定、研究テーマに関連する先行文献のサーベイと整理、先行研究のレビュー基づく研究課題の設定と仮説の構築、仮説検証のための方法論の選定とデータ収集、収集したデータの分析、分析結果をまとめる学術論文の作成を含む一連のプロセスを着々と歩む必要があります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
研究計画に沿って、毎回の演習で進捗状況を報告し、指導とアドバイスを受けます。基本的には教室で対面方式を採りますが、フィールド調査の実施期間中においてはオンライン方式などで柔軟に対応します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第15回	調査実施結果の確認	調査結果を報告し、データ・情報の量と質を検討します。
第16回	仮分析と追加調査について	仮分析の結果を確認し、必要な追加調査の実施方法を検討します。
第17回	追加調査について	追加調査の対象と項目について確認します。
第18回	追加調査について	追加調査の進捗状況を確認します。
第19回	追加調査について	追加調査の結果を検討します。
第20回	調査結果の検討	調査から得たデータや発見を分析した結果を検討します。
第21回	論文執筆の進捗確認と指導	先行研究のレビューとリサーチクエスチョンの部分
第22回	論文執筆の進捗確認と指導	先行研究のレビューとリサーチクエスチョンの部分
第23回	論文執筆の進捗確認と指導	研究方法、調査内容、発見事実の部分
第24回	論文執筆の進捗確認と指導	分析結果、考察の部分
第25回	論文執筆の進捗確認と指導	分析結果、考察の部分
第26回	論文執筆の進捗確認と指導	結論、含意、限界、積み残された課題の部分
第27回	論文執筆の進捗確認と指導	導入部分、要旨、文献リスト、文末注、付録などを確認します。
第28回	論文執筆の最終確認	論文全体の論旨の整合性、語句の統一、体裁、執筆要領の順守などを確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
調査、分析、執筆などの作業は基本的に授業時間外で行います。授業では作業の結果と進捗状況を報告し、指導を受けます。修士論文/リサーチペーパーの作業のために、毎週15時間以上を確保しましょう。

【テキスト（教科書）】
研究の内容に合わせて適宜提示します。

【参考書】
研究の内容に合わせて適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】
研究への姿勢、取り組みなどの平常点50％、修士論文/リサーチペーパーの完成度・水準50％で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
特にありません。

【学生が準備すべき機器他】
毎回、パソコンを持参します。

【担当教員の専門分野等】
〈専門領域〉ロジスティクスマネジメント論、経営戦略論、国際経営論　〈研究テーマ〉ロジスティクス・クラスターの形成メカニズム、新興市場における企業のロジスティクス戦略、水平的ロジスティクス・コラボレーション　〈主要研究業績〉「ロジスティクス・クラスター形成のメカニズム：システマティック・リテラチャー・レビューに基づいて」2023年（論文）、『業界別物流管理とSCMの実践』2022年（著書）、「自動車部品の荷姿設定におけるフロントローディングの類型とメカニズム」2021年（論文）、「自動車部品の荷姿最適化の規定要因に関する研究：質的比較分析（fsQCA）によるアプローチ」2021年（論文）など

【Outline (in English)】
Course Outline
Students will learn the basic knowledge and skills of conducting academic research in the social sciences, including formulating research questions, reviewing relevant literature, and collecting and analyzing appropriate data and relevant information. As a result of a series of research activities, students must complete a master's thesis. All the research activities must be done before/after each class meeting. Students will get advice and instruction in class step by step through the research process.
Grading Criteria/Policy
Grading will be based on the quality of the student's class performance (50%) and of the final paper (50%).

MAN500F1－0182（経営学 / Management 500）

経営学演習Ⅰ

安藤　直紀

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習は、修士論文あるいはリサーチペーパー作成のための研究指導を行う。先行研究のレビュー、仮説の構築、データの収集、仮説の検証、検証結果の検討など、論文作成の各段階を指導する。

【到達目標】
１．先行研究のレビュー方法を習得する。
２．リサーチ・クエスチョンを導出する。
３．仮説の構築方法を習得する。
４．仮説検証の方法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
先行研究のレビュー、リサーチ・クエスチョンの導出、仮説の構築、仮説検証方法の決定の各段階について、学生は報告を行う。報告に基づき、どのように修正していくかを学生と議論する。
授業形態は対面とするが、受講生と授業形態について話し合いを持ち、変更することもありうる。
フィードバックは、授業の中で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	修士論文あるいはリサーチペーパー作成の年間計画を作成する
第2回	修士論文あるいはリサーチペーパーテーマの決定（1）	修士論文あるいはリサーチペーパーのテーマについて議論する
第3回	修士論文あるいはリサーチペーパーテーマの決定（2）	修士論文あるいはリサーチペーパーのテーマを発表する
第4回	先行研究のレビュー（1）	先行研究のリストを作成する
第5回	先行研究のレビュー（2）	先行研究をレビューし報告する
第6回	先行研究のレビュー（3）	追加的な先行研究のレビューを報告する
第7回	リサーチ・クエスチョンの導出	先行研究のレビューに基づきリサーチ・クエスチョンを導出する
第8回	仮説構築（1）	先行研究のレビュー結果を整理する
第9回	仮説構築（2）	仮説構築に必要な理論的基盤を決定する
第10回	仮説構築（3）	仮説構築のために追加的な先行研究のレビューを行う
第11回	仮説構築（4）	仮説を導出する
第12回	調査方法の検討（1）	仮説検証に適切な調査方法を調査する
第13回	調査方法の検討（2）	仮説検証に適切な調査方法を決定する
第14回	リサーチ・プロポーザル	リサーチ・プロポーザルを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
先行研究のレビュー、リサーチ・クエスチョンの導出、仮説の構築、仮説検証方法の決定に必要な作業を行う。
授業時間外の学習時間は、毎日最低２時間とする。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。

【参考書】
Bailey, K.D. 1994. Methods of Social Research (4th ed.). Free Press: NY.
Yin, R.K. 1994. Case Study Research: Design and Methods (2nd ed.). Sage Publications: CA.

【成績評価の方法と基準】
演習への貢献：５０％
リサーチ・プロポーザル：５０％
演習への貢献には、準備状況、報告内容、ディスカッション等を含む。
リサーチ・プロポーザルは、リサーチ・クエスチョン、先行研究のレビュー、仮説、研究方法の提示までを含む。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート対象外につき該当なし。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン等、研究遂行に必要な機器を準備する。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
国際経営戦略
＜研究テーマ＞
多国籍企業の地理的多角化、多国籍企業の新興経済への参入、多国籍企業内の言語障壁
＜主要研究業績＞
① Discontinuity of required oral and literacy skills across job roles in achieving high work performance: An fsQCA approach. 2023. International Business Review, 32(4): 102072. (with Suzuki M. and Nishikawa, H.)
② Human capital, cultural distance and staffing localization. 2021. Multinational Business Review, 29(3): 420-439.
③ Seeing the tree and the forest: Japanese auto firm multinational dispersion, cultural distance, and foreign manufacturing subsidiary ownership levels. 2021. Asian Business & Management, 20(2): 163-187. (with Powell, K.S. and Lim, E.)

【Outline (in English)】
(Course outline)
This seminar instructs students how to conduct research and write a master's thesis/research paper. Guidance is given for each stage of research, including literature review, hypothesis development, data collection, hypothesis testing, and interpretation of results.
(Learning Objectives)
The goals of this seminar are the following.
1. To learn how to conduct literature review
2. To deduce a research question
3. To learn how to develop hypotheses
4. To learn how to design research
(Learning activities outside of classroom)
Students are required to conduct literature review, decide a research question, develop hypotheses, and design a method to test hypotheses. These are conducted outside the classroom. Students are expected to spend at least 2 hours daily on research.
(Grading Criteria /Policy)
Contribution to the seminar: 50%
Research proposal: 50%

MAN500F1 – 0183（経営学 / Management 500）

経営学演習Ⅱ

安藤　直紀

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習は、修士論文あるいはリサーチペーパー作成のための研究指導を行う。先行研究のレビュー、仮説の構築、データの収集、仮説の検証、検証結果の検討など、論文作成の各段階を指導する。経営学演習IIでは、修士論文あるいはリサーチペーパーを完成させる。

【到達目標】
１．先行研究のレビュー方法を習得する。
２．リサーチ・クエスチョンを導出する。
３．仮説の構築方法を習得する。
４．仮説検証の方法を習得する。
５．データ収集の方法を習得する。
６．データ分析の方法を習得する。
７．仮説検証の結果からインプリケーションを導出する。
８．修士論文あるいはリサーチペーパーを完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
先行研究のレビュー、リサーチ・クエスチョンの導出、仮説の構築、仮説検証方法の決定、データの収集、データの分析、分析結果の解釈、ライティングの各段階について、学生は報告を行う。報告に基づき、どのように修正していくかを学生と議論する。
授業形態は対面とするが、受講生と授業形態について話し合いを持ち、変更することもありうる。
フィードバックは、授業の中で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	これまでの進捗状況を報告する
第2回	データの収集（1）	データ収集の方法を決定する
第3回	データの収集（2）	データ収集を実施する
第4回	データの収集（3）	データ収集を完了させる
第5回	データの整理（1）	分析のためのデータベースを作成する
第6回	データの整理（2）	データベースを分析可能な形にする
第7回	データの分析（1）	データ分析の方法を決定する
第8回	データの分析（2）	データ分析を実施する
第9回	データの分析（3）	追加的なデータ分析を実施する
第10回	分析結果の解釈（1）	仮説の検証を行う
第11回	分析結果の解釈（2）	仮説検証の結果を解釈する
第12回	分析結果の解釈（3）	仮説検証の結果からインプリケーションを導出する
第13回	論文完成（1）	修士論文あるいはリサーチペーパーを書き終える
第14回	論文完成（2）	修士論文あるいはリサーチペーパー作成を振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
先行研究のレビュー、リサーチ・クエスチョンの導出、仮説の構築、仮説検証方法の決定、データ収集、データ分析、結果の解釈、ライティングに必要な作業を行う。
授業時間外の学習時間は、毎日最低２時間とする。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。

【参考書】
Bailey, K.D. 1994. Methods of Social Research (4th ed.). Free Press: NY.
Yin, R.K. 1994. Case Study Research: Design and Methods (2nd ed.). Sage Publications: CA.

【成績評価の方法と基準】
演習への貢献：５０％
修士論文あるいはリサーチペーパー：５０％
演習への貢献には、準備状況、報告内容、ディスカッション等を含む。
修士論文あるいはリサーチペーパーは、完成した修士論文あるいはリサーチペーパーのことである。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート対象外につき該当なし。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン等、研究遂行に必要な機器を準備する。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
国際経営戦略
＜研究テーマ＞
多国籍企業の地理的多角化、多国籍企業の新興経済への参入、多国籍企業内の言語障壁
＜主要研究業績＞
① Discontinuity of required oral and literacy skills across job roles in achieving high work performance: An fsQCA approach. 2023. International Business Review, 32(4): 102072. (with Suzuki M. and Nishikawa, H.)
② Human capital, cultural distance and staffing localization. 2021. Multinational Business Review, 29(3): 420-439.
③ Seeing the tree and the forest: Japanese auto firm multinational dispersion, cultural distance, and foreign manufacturing subsidiary ownership levels. 2021. Asian Business & Management, 20(2): 163-187. (with Powell, K.S. and Lim, E.)

【Outline (in English)】
（Course outline）
This seminar instructs students how to conduct research and write a master's thesis/research paper. Guidance is given for each stage of research, including literature review, hypothesis development, data collection, hypothesis testing, and interpretation of results. Students complete a master's thesis/research paper.
（Learning Objectives）
The goals of this seminar are the following.
1. To learn how to conduct literature review
2. To deduce a research question
3. To learn how to develop hypotheses
4. To learn how to design research
5. To learn how to collect data
6. To learn how to analyze data
7. To learn how to draw implications from the results of the analysis
8. To complete a master's thesis/research paper
（Learning activities outside of classroom）
Students are required to conduct literature review, decide a research question, develop hypotheses, design a method to test hypotheses, collect data, analyze data, interpret the results of data analysis, and write a master's thesis/research paper. These are conducted outside the classroom.
Students are expected to spend at least 2 hours daily on research.
（Grading Criteria /Policy）
Contribution to the seminar: 50%
Master's thesis/research paper: 50%

MAN500F1－0182（経営学 / Management 500）

経営学演習Ⅰ

吉田　健二

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習は、企業家・経営戦略分野の領域に関わるテーマの修士論文の作成と、これを通じた当該分野における研究作法の習得を目的とする。

【到達目標】
実務的・学術的に価値の高い修士論文の完成を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
演習の実施日時や進め方は担当指導教員によって異なるが、一般的には、毎週土曜日に100分間、あるいは、隔週土曜日に200分間の授業が行われる。
授業の内容は、基本文献の輪読と修士論文の指導という二本立てで運営されるが、秋学期には、春学期と比べ、修士論文の指導のウェートが高まる。
なお、下記の授業計画は修士論文指導の一つのモデルケースである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文の構成の検討	春休みからの研究の発展を報告する。
第2回	調査ノートの作成(1)	調査計画を策定する。
第3回	調査ノートの作成(2)	調査の実施によりデータを収集し、成果を報告する。
第4回	調査ノートの作成(3)	調査の実施によりデータを収集し、成果を報告する。
第5回	調査ノートの作成(4)	収集データを分析し、成果を報告する。
第6回	論文の執筆と課題の確認(1)	論文の執筆と添削を行う。
第7回	論文の執筆と課題の確認(2)	論文の執筆と添削を行う。
第8回	論文の執筆と課題の確認(3)	論文の執筆と添削を行う。
第9回	論文の執筆と課題の確認(4)	論文の執筆と添削を行う。
第10回	論文の執筆と課題の確認(5)	論文の執筆と添削を行う。
第11回	論文の執筆と課題の確認(6)	論文の執筆と添削を行う。
第12回	論文の完成に向けた調整(1)	論理の整合性を確認する。
第13回	論文の完成に向けた調整(2)	論理の整合性を確認する。
第14回	最終報告会	完成論文を報告し、提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2～3時間を標準とする。
先行文献の探索や読み込み、レジュメの作成、データ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、調査ノートの作成、データ分析、論文執筆は、各自が授業時間外に行う。

【テキスト（教科書）】
テキストは用いない。

【参考書】
『研究成果集』(毎年、経営学専攻の優秀な修士論文が掲載される論文集) を参照のこと。

【成績評価の方法と基準】
成績の評価基準は、出席 (50％)、発表・報告 (50％、修士論文の草稿等を含む) である。
発表・報告の評価基準は、先行研究の読破、正確で分かりやすい論点整理、論理的な首尾一貫性、実証分析の手堅さ、テーマの斬新性、文章の読みやすさ、質疑に対する応答の適切さなどである。

【学生の意見等からの気づき】
本演習は、前年度の授業改善アンケートの対象外であった。

【学生が準備すべき機器他】
各自でパソコンを準備すること。

【担当教員の専門領域等】
＜専門領域＞経営戦略論
＜研究テーマ＞経営戦略の策定と実行
＜主要研究業績＞
① “Perceptions about Teamwork: An Empirical Comparison of Japanese, Mexican, and American Faculty,” Association on Employment Practices and Principles: Proceedings of the 2002 Annual International Conference, pp.14-19, 2002 (with coauthors).
② “Differences in Culture and Attitudes toward Teamwork: An Empirical Comparison of Perceptions among Chinese, Japanese, Mexican, and American Faculty,” American Society of Business and Behavioral Sciences: 2006 Proceedings, pp.136-142, 2006 (with coauthors).
③ “Work Performance and Group Harmony: An Empirical Comparison of Japanese and Other Cultural Attitudes toward Teamwork,” The 2007 International Conference in Management Sciences and Decision Making: Proceedings, pp.1-16, 2007 (with coauthors).

【Outline (in English)】
The aim of this seminar is to help students acquire academic skills to study entrepreneurship and strategic management.
At the end of the course, students are expected to write up their master’s theses.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
Final grade will be decided based on in-class contribution(50%) and final report of the master’s thesis(50%).

MAN600F1 – 0042（経営学 / Management 600）

企業家養成演習

稲垣　京輔

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、夜間修士課程(企業家養成コース)の2年生を対象に、修士論文の作成について指導を行う。

【到達目標】
実務的・学術的に価値の高い修士論文の完成を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
演習の実施日時や進め方は担当指導教員によって異なるが、一般的には、毎週土曜日に100分間、あるいは、隔週土曜日に200分間の授業が行われる。
授業の内容は、修士論文の指導と基本文献の輪読という二本立てで運営されるが、秋学期には、春学期に比べ、修士論文の指導のウェートが高まる。
毎年7～8月には、企業家養成コースの2年生全員による修士論文の中間発表会が行われる。この中間発表会には、原則的に、企業家養成コースの全学生と教員が参加する。
なお、下記の授業計画は修士論文指導の一つのモデルケースである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文の構成の検討	夏休みからの研究の発展を報告する。
第2回	調査ノートの作成(1)	調査計画を策定する。
第3回	調査ノートの作成(2)	調査の実施によりデータを収集し、成果を報告する。
第4回	調査ノートの作成(3)	調査の実施によりデータを収集し、成果を報告する。
第5回	調査ノートの作成(4)	調査の実施によりデータを収集し、成果を報告する。
第6回	論文の執筆と課題の確認(1)	論文の執筆と添削を行う。
第7回	論文の執筆と課題の確認(2)	論文の執筆と添削を行う。
第8回	論文の執筆と課題の確認(3)	論文の執筆と添削を行う。
第9回	論文の執筆と課題の確認(4)	論文の執筆と添削を行う。
第10回	論文の執筆と課題の確認(5)	論文の執筆と添削を行う。
第11回	論文の執筆と課題の確認(6)	論文の執筆と添削を行う。
第12回	論文の完成に向けた調整(1)	論理の整合性を確認する。
第13回	論文の完成に向けた調整(2)	論理の整合性を確認する。
第14回	最終報告会	完成論文を報告し、提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2～3時間を標準とする。
先行文献の探索や読み込み、レジュメの作成、データ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、調査ノートの作成、データ分析、論文執筆は、各自が授業時間外に行う。

【テキスト（教科書）】
テキストは用いない。

【参考書】
『研究成果集』(毎年、経営学専攻の優秀な修士論文が掲載される論文集)を参照のこと。

【成績評価の方法と基準】
成績の評価基準は、出席(50％)、発表・報告(50％。修士論文の中間発表や修士論文の草稿等を含む)である。
発表・報告の評価基準は、先行研究の読破、正確で分かりやすい論点整理、論理的な首尾一貫性、実証分析の手堅さ、テーマの斬新性、文章の読みやすさ、質疑に対する応答の適切さなどである。

【学生の意見等からの気づき】
本演習は、前年度の授業改善アンケートの対象外であった。

【学生が準備すべき機器他】
各自でパソコンを準備すること。

【Outline (in English)】
【Outline】
・This class aims to discuss and find out the theme for entrepreneurial activities and make develop master's thesis.
・Each participant voluntarily carries out empirical investigations and research related to business science and economics under the guidance of the supervising teacher and reports on the results at any time during class.
【Learning Objectives】
・Aim to complete a master's thesis with high practical and academic value.
【Learning Activities outside of Classroom】
・The standard preparatory study and review time for this class is 2～3 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
・Grades will be based on a total of the following: Ordinary points (50%)+presentations and reports (50%).

MAN600F1－0042（経営学 / Management 600）

企業家養成演習

稲垣　京輔

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、夜間修士課程(企業家養成コース)の2年生を対象に、修士論文の作成について指導を行う。

【到達目標】
実務的・学術的に価値の高い修士論文の完成を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
演習の実施日時や進め方は担当指導教員によって異なるが、一般的には、毎週土曜日に100分間、あるいは、隔週土曜日に200分間の授業が行われる。
授業の内容は、修士論文の指導と基本文献の輪読という二本立てで運営されるが、秋学期には、春学期に比べ、修士論文の指導のウェートが高まる。
毎年7～8月には、企業家養成コースの2年生全員による修士論文の中間発表会が行われる。この中間発表会には、原則的に、企業家養成コースの全学生と教員が参加する。
なお、下記の授業計画は修士論文指導の一つのモデルケースである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション テーマの選定(1)	修士論文執筆の年間計画を検討する。
第2回	テーマの選定(2)	論文のテーマについて検討し詳細を絞り込む。
第3回	テーマの選定(3)	修士論文のテーマに関する先行研究について概観し、検討する。
第4回	プロポーザルの作成(1)	修士論文のテーマと執筆計画を具体化する。
第5回	プロポーザルの作成(2)	修士論文のテーマと執筆計画を具体化する。
第6回	先行研究のレビュー(1)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第7回	先行研究のレビュー(2)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第8回	先行研究のレビュー(3)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第9回	先行研究のレビュー(4)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第10回	先行研究のレビュー(5)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第11回	先行研究のレビュー(6)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第12回	中間発表会の準備(1)	中間発表会のための報告資料を準備する。
第13回	中間発表会の準備(2)	中間発表会のための報告資料を準備する。
第14回	中間発表後のフィードバック	中間発表会のコメントから論文を再構成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2～3時間を標準とする。
先行文献の探索や読み込み、レジュメの作成、データ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、調査ノートの作成、データ分析、論文執筆は、各自が授業時間外に行う。

【テキスト（教科書）】
テキストは用いない。

【参考書】
『研究成果集』(毎年、経営学専攻の優秀な修士論文が掲載される論文集)を参照のこと。

【成績評価の方法と基準】
成績の評価基準は、出席(50％)、発表・報告(50％。修士論文の中間発表や修士論文の草稿等を含む)である。
発表・報告の評価基準は、先行研究の読破、正確で分かりやすい論点整理、論理的な首尾一貫性、実証分析の手堅さ、テーマの斬新性、文章の読みやすさ、質疑に対する応答の適切さなどである。

【学生の意見等からの気づき】
本演習は、前年度の授業改善アンケートの対象外であった。

【学生が準備すべき機器他】
各自でパソコンを準備すること。

【Outline (in English)】
【Outline】
· This class aims to discuss and find out the theme for entrepreneurial activities and make develop master's thesis.
· Each participant voluntarily carries out empirical investigations and research related to business science and economics under the guidance of the supervising teacher and reports on the results at any time during class.
【Learning Objectives】
· Aim to complete a master's thesis with high practical and academic value.
【Learning Activities outside of Classroom】
· The standard preparatory study and review time for this class is 2～3 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
· Grades will be based on a total of the following: Ordinary points (50%)+presentations and reports (50%).

MAN600F1－0042（経営学 / Management 600）

企業家養成演習

吉田　健二

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、夜間修士課程(企業家養成コース)の2年生を対象に、修士論文の作成について指導を行う。

【到達目標】
実務的・学術的に価値の高い修士論文の完成を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
演習の実施日時や進め方は担当指導教員によって異なるが、一般的には、毎週土曜日に100分間、あるいは、隔週土曜日に200分間の授業が行われる。
授業の内容は、修士論文の指導と基本文献の輪読という二本立てで運営される。
毎年7月には、企業家養成コースの2年生全員による修士論文の中間発表会が行われる。この中間発表会には、原則的に、企業家養成コースの全学生と教員が参加する。
なお、下記の授業計画は修士論文指導の一つのモデルケースである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション テーマの選定(1)	修士論文執筆の年間計画を検討する。
第2回	テーマの選定(2)	論文のテーマについて検討し詳細を絞り込む。
第3回	テーマの選定(3)	修士論文のテーマに関する先行研究について概観し、検討する。
第4回	プロポーザルの作成(1)	修士論文のテーマと執筆計画を具体化する。
第5回	プロポーザルの作成(2)	修士論文のテーマと執筆計画を具体化する。
第6回	先行研究のレビュー(1)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第7回	先行研究のレビュー(2)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第8回	先行研究のレビュー(3)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第9回	先行研究のレビュー(4)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第10回	先行研究のレビュー(5)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第11回	先行研究のレビュー(6)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第12回	中間発表会の準備(1)	中間発表会のための報告資料を準備する。
第13回	中間発表会の準備(2)	中間発表会のための報告資料を準備する。
第14回	中間発表後のフィードバック	中間発表会のコメントから論文を再構成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2～3時間を標準とする。
先行文献の探索や読み込み、レジュメの作成、データ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、調査ノートの作成、データ分析、論文執筆は、各自が授業時間外に行う。

【テキスト（教科書）】
テキストは用いない。

【参考書】
『研究成果集』(毎年、経営学専攻の優秀な修士論文が掲載される論文集)を参照のこと。

【成績評価の方法と基準】
成績の評価基準は、出席(50％)、発表・報告(50％(修士論文の中間発表を含む))である。
発表・報告の評価基準は、先行研究の読破、正確で分かりやすい論点整理、論理的な首尾一貫性、実証分析の手堅さ、テーマの斬新性、文章の読みやすさ、質疑に対する応答の適切さなどである。

【学生の意見等からの気づき】
本演習は、前年度の授業改善アンケートの対象外であった。

【学生が準備すべき機器他】
各自でパソコンを準備すること。

【Outline (in English)】
【Outline】
· This class aims to discuss and find out the theme for entrepreneurial activities and make develop master's thesis.
· Each participant voluntarily carries out empirical investigations and research related to business science and economics under the guidance of the supervising teacher and reports on the results at any time during class.
【Learning Objectives】
· Aim to complete a master's thesis with high practical and academic value.
【Learning Activities outside of Classroom】
· The standard preparatory study and review time for this class is 2～3 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
· Grades will be based on a total of the following: Ordinary points (50%)+presentations and reports (50%).

MAN600F1 – 0042（経営学 / Management 600）

企業家養成演習

吉田　健二

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、夜間修士課程(企業家養成コース)の2年生を対象に、修士論文の作成について指導を行う。

【到達目標】
実務的・学術的に価値の高い修士論文の完成を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
演習の実施日時や進め方は担当指導教員によって異なるが、一般的には、毎週土曜日に100分間、あるいは、隔週土曜日に200分間の授業が行われる。
授業の内容は、修士論文の指導と基本文献の輪読という二本立てで運営されるが、秋学期には、春学期に比べ、修士論文の指導のウェートが高まる。
なお、下記の授業計画は修士論文指導の一つのモデルケースである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文の構成の検討	夏休みからの研究の発展を報告する。
第2回	調査ノートの作成(1)	調査計画を策定する。
第3回	調査ノートの作成(2)	調査の実施によりデータを収集し、成果を報告する。
第4回	調査ノートの作成(3)	調査の実施によりデータを収集し、成果を報告する。
第5回	調査ノートの作成(4)	調査の実施によりデータを収集し、成果を報告する。
第6回	論文の執筆と課題の確認(1)	論文の執筆と添削を行う。
第7回	論文の執筆と課題の確認(2)	論文の執筆と添削を行う。
第8回	論文の執筆と課題の確認(3)	論文の執筆と添削を行う。
第9回	論文の執筆と課題の確認(4)	論文の執筆と添削を行う。
第10回	論文の執筆と課題の確認(5)	論文の執筆と添削を行う。
第11回	論文の執筆と課題の確認(6)	論文の執筆と添削を行う。
第12回	論文の完成に向けた調整(1)	論理の整合性を確認する。
第13回	論文の完成に向けた調整(2)	論理の整合性を確認する。
第14回	最終報告会	完成論文を報告し、提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2～3時間を標準とする。
先行文献の探索や読み込み、レジュメの作成、データ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、調査ノートの作成、データ分析、論文執筆は、各自が授業時間外に行う。

【テキスト（教科書）】
テキストは用いない。

【参考書】
『研究成果集』(毎年、経営学専攻の優秀な修士論文が掲載される論文集)を参照のこと。

【成績評価の方法と基準】
成績の評価基準は、出席(50％)、発表・報告(50％(修士論文の草稿等を含む))である。
発表・報告の評価基準は、先行研究の読破、正確で分かりやすい論点整理、論理的な首尾一貫性、実証分析の手堅さ、テーマの斬新性、文章の読みやすさ、質疑に対する応答の適切さなどである。

【学生の意見等からの気づき】
本演習は、前年度の授業改善アンケートの対象外であった。

【学生が準備すべき機器他】
各自でパソコンを準備すること。

【Outline (in English)】
【Outline】
· This class aims to discuss and find out the theme for entrepreneurial activities and make develop master's thesis.
· Each participant voluntarily carries out empirical investigations and research related to business science and economics under the guidance of the supervising teacher and reports on the results at any time during class.
【Learning Objectives】
· Aim to complete a master's thesis with high practical and academic value.
【Learning Activities outside of Classroom】
· The standard preparatory study and review time for this class is 2～3 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
· Grades will be based on a total of the following: Ordinary points (50%)+presentations and reports (50%).

MAN600F1－0042（経営学 / Management 600）

企業家養成演習

二階堂　行宣

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、夜間修士課程(企業家養成コース)の2年生を対象に、修士論文の作成について指導を行う。

【到達目標】
学術的・実務的に価値の高い修士論文の完成を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
演習の実施日時や進め方は担当指導教員によって異なるが、一般的には、毎週100分間、あるいは、隔週200分間の授業が行われる。
授業の内容は、修士論文の指導と基本文献の輪読という二本立てで運営される。毎年7月には、企業家養成コースの2年生全員による修士論文の中間発表会が行われる。この中間発表会には、原則的に、企業家養成コースの全学生と教員が参加する。
なお、下記の授業計画は修士論文指導の一つのモデルケースである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション テーマの選定(1)	修士論文執筆の年間計画を検討する。
第2回	テーマの選定(2)	論文のテーマについて検討し詳細を絞り込む。
第3回	テーマの選定(3)	修士論文のテーマに関する先行研究について概観し、検討する。
第4回	プロポーザルの作成(1)	修士論文のテーマと執筆計画を具体化する。
第5回	プロポーザルの作成(2)	修士論文のテーマと執筆計画を具体化する。
第6回	先行研究のレビュー(1)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第7回	先行研究のレビュー(2)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第8回	先行研究のレビュー(3)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第9回	先行研究のレビュー(4)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第10回	先行研究のレビュー(5)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第11回	先行研究のレビュー(6)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第12回	中間発表会の準備(1)	中間発表会のための報告資料を準備する。
第13回	中間発表会の準備(2)	中間発表会のための報告資料を準備する。
第14回	中間発表後のフィードバック	中間発表会のコメントから論文を再構成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2～3時間を標準とする。
先行文献の探索や読み込み、レジュメの作成、データ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、調査ノートの作成、データ分析、論文執筆は、各自が授業時間外に行う。

【テキスト（教科書）】
テキストは用いない。

【参考書】
『研究成果集』(毎年、経営学専攻の優秀な修士論文が掲載される論文集)を参照のこと。

【成績評価の方法と基準】
成績の評価基準は、出席(50％)、発表・報告(50％(修士論文の中間発表を含む))である。
発表・報告の評価基準は、先行研究の読破、正確で分かりやすい論点整理、論理的な首尾一貫性、実証分析の手堅さ、テーマの斬新性、文章の読みやすさ、質疑に対する応答の適切さなどである。

【学生の意見等からの気づき】
本演習は、前年度の授業改善アンケートの対象外であった。

【学生が準備すべき機器他】
各自でパソコンを準備すること。

【Outline (in English)】
【Outline】
· This class aims to discuss and find out the theme for entrepreneurial activities and make develop master's thesis.
· Each participant voluntarily carries out empirical investigations and research related to business science and economics under the guidance of the supervising teacher and reports on the results at any time during class.
【Learning Objectives】
· Aim to complete a master's thesis with high practical and academic value.
【Learning Activities outside of Classroom】
· The standard preparatory study and review time for this class is 2～3 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
· Grades will be based on a total of the following: Ordinary points (50%)+presentations and reports (50%).

MAN600F1 – 0042（経営学 / Management 600）

企業家養成演習

二階堂　行宣

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、夜間修士課程(企業家養成コース)の2年生を対象に、修士論文の作成について指導を行う。

【到達目標】
学術的・実務的に価値の高い修士論文の完成を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
演習の実施日時や進め方は担当指導教員によって異なるが、一般的には、毎週100分間、あるいは、隔週200分間の授業が行われる。
授業の内容は、修士論文の指導と基本文献の輪読という二本立てで運営されるが、秋学期には、春学期に比べ、修士論文の指導のウェートが高まる。
なお、下記の授業計画は修士論文指導の一つのモデルケースである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文の構成の検討	夏休みからの研究の発展を報告する。
第2回	調査ノートの作成(1)	調査計画を策定する。
第3回	調査ノートの作成(2)	調査の実施によりデータを収集し、成果を報告する。
第4回	調査ノートの作成(3)	調査の実施によりデータを収集し、成果を報告する。
第5回	調査ノートの作成(4)	調査の実施によりデータを収集し、成果を報告する。
第6回	論文の執筆と課題の確認(1)	論文の執筆と添削を行う。
第7回	論文の執筆と課題の確認(2)	論文の執筆と添削を行う。
第8回	論文の執筆と課題の確認(3)	論文の執筆と添削を行う。
第9回	論文の執筆と課題の確認(4)	論文の執筆と添削を行う。
第10回	論文の執筆と課題の確認(5)	論文の執筆と添削を行う。
第11回	論文の執筆と課題の確認(6)	論文の執筆と添削を行う。
第12回	論文の完成に向けた調整(1)	論理の整合性を確認する。
第13回	論文の完成に向けた調整(2)	論理の整合性を確認する。
第14回	最終報告会	完成論文を報告し、提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2～3時間を標準とする。
先行文献の探索や読み込み、レジュメの作成、データ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、調査ノートの作成、データ分析、論文執筆は、各自が授業時間外に行う。

【テキスト（教科書）】
テキストは用いない。

【参考書】
『研究成果集』(毎年、経営学専攻の優秀な修士論文が掲載される論文集)を参照のこと。

【成績評価の方法と基準】
成績の評価基準は、出席(50％)、発表・報告(50％(修士論文の草稿等を含む))である。
発表・報告の評価基準は、先行研究の読破、正確で分かりやすい論点整理、論理的な首尾一貫性、実証分析の手堅さ、テーマの斬新性、文章の読みやすさ、質疑に対する応答の適切さなどである。

【学生の意見等からの気づき】
本演習は、前年度の授業改善アンケートの対象外であった。

【学生が準備すべき機器他】
各自でパソコンを準備すること。

【Outline (in English)】
【Outline】
· This class aims to discuss and find out the theme for entrepreneurial activities and make develop master's thesis.
· Each participant voluntarily carries out empirical investigations and research related to business science and economics under the guidance of the supervising teacher and reports on the results at any time during class.
【Learning Objectives】
· Aim to complete a master's thesis with high practical and academic value.
【Learning Activities outside of Classroom】
· The standard preparatory study and review time for this class is 2～3 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
· Grades will be based on a total of the following: Ordinary points (50%)+presentations and reports (50%).

MAN600F1 − 0042（経営学 / Management 600）

企業家養成演習

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

【学生の意見等からの気づき】

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
（Course outline）
（Learning Objectives）
（Learning activities outside of classroom）
（Grading Criteria /Policy）

MAN600F1 – 0042（経営学 / Management 600）

企業家養成演習

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

【学生の意見等からの気づき】

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
（Course outline）
（Learning Objectives）
（Learning activities outside of classroom）
（Grading Criteria /Policy）

MAN600F1 − 0042（経営学 / Management 600）

企業家養成演習

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

【学生の意見等からの気づき】

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
（Course outline）
（Learning Objectives）
（Learning activities outside of classroom）
（Grading Criteria /Policy）

MAN600F1 – 0042（経営学 / Management 600）

企業家養成演習

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

【学生の意見等からの気づき】

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
（Course outline）
（Learning Objectives）
（Learning activities outside of classroom）
（Grading Criteria /Policy）

MAN600F1 − 0042（経営学 / Management 600）

企業家養成演習

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

【学生の意見等からの気づき】

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
（Course outline）
（Learning Objectives）
（Learning activities outside of classroom）
（Grading Criteria /Policy）

MAN600F1 – 0042（経営学 / Management 600）

企業家養成演習

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

【学生の意見等からの気づき】

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
（Course outline）
（Learning Objectives）
（Learning activities outside of classroom）
（Grading Criteria /Policy）

MAN600F1 − 0042（経営学 / Management 600）

企業家養成演習（代表シラバス）

金　容度

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、夜間修士課程(企業家養成コース)の2年生を対象に、修士論文の作成について指導を行う。

【到達目標】
実務的・学術的に価値の高い修士論文の完成を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
演習の実施日時や進め方は担当指導教員によって異なるが、一般的には、毎週土曜日に100分間、あるいは、隔週土曜日に200分間の授業が行われる。
授業の内容は、修士論文の指導と基本文献の輪読という二本立てで運営される。
毎年7月には、企業家養成コースの2年生全員による修士論文の中間発表会が行われる。この中間発表会には、原則的に、企業家養成コースの全学生と教員が参加する。
なお、下記の授業計画は修士論文指導の一つのモデルケースである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション テーマの選定(1)	修士論文執筆の年間計画を検討する。
第2回	テーマの選定(2)	論文のテーマについて検討し詳細を絞り込む。
第3回	テーマの選定(3)	修士論文のテーマに関する先行研究について概観し、検討する。
第4回	プロポーザルの作成(1)	修士論文のテーマと執筆計画を具体化する。
第5回	プロポーザルの作成(2)	修士論文のテーマと執筆計画を具体化する。
第6回	先行研究のレビュー(1)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第7回	先行研究のレビュー(2)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第8回	先行研究のレビュー(3)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第9回	先行研究のレビュー(4)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第10回	先行研究のレビュー(5)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第11回	先行研究のレビュー(6)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第12回	中間発表会の準備(1)	中間発表会のための報告資料を準備する。
第13回	中間発表会の準備(2)	中間発表会のための報告資料を準備する。
第14回	中間発表後のフィードバック	中間発表会のコメントから論文を再構成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2〜3時間を標準とする。
先行文献の探索や読み込み、レジュメの作成、データ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、調査ノートの作成、データ分析、論文執筆は、各自が授業時間外に行う。

【テキスト（教科書）】
テキストは用いない。

【参考書】
『研究成果集』(毎年、経営学専攻の優秀な修士論文が掲載される論文集)を参照のこと。

【成績評価の方法と基準】
成績の評価基準は、出席(50％)、発表・報告(50％(修士論文の中間発表を含む))である。
発表・報告の評価基準は、先行研究の読破、正確で分かりやすい論点整理、論理的な首尾一貫性、実証分析の手堅さ、テーマの斬新性、文章の読みやすさ、質疑に対する応答の適切さなどである。

【学生の意見等からの気づき】
本演習は、前年度の授業改善アンケートの対象外であった。

【学生が準備すべき機器他】
各自でパソコンを準備すること。

【担当教員の専門分野等】
＜専門分野＞
＜研究テーマ＞

【担当教員の主要研究業績】
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
【Outline】
· This class aims to discuss and find out the theme for entrepreneurial activities and make develop master's thesis.
· Each participant voluntarily carries out empirical investigations and research related to business science and economics under the guidance of the supervising teacher and reports on the results at any time during class.
【Learning Objectives】
· Aim to complete a master's thesis with high practical and academic value.
【Learning Activities outside of Classroom】
· The standard preparatory study and review time for this class is 2〜3 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
· Grades will be based on a total of the following: Ordinary points (50%)+presentations and reports (50%).

MAN600F1 – 0042（経営学 / Management 600）

企業家養成演習（代表シラバス）

金　容度

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、夜間修士課程(企業家養成コース)の2年生を対象に、修士論文の作成について指導を行う。

【到達目標】
実務的・学術的に価値の高い修士論文の完成を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
演習の実施日時や進め方は担当指導教員によって異なるが、一般的には、毎週土曜日に100分間、あるいは、隔週土曜日に200分間の授業が行われる。
授業の内容は、修士論文の指導と基本文献の輪読という二本立てで運営されるが、秋学期には、春学期に比べ、修士論文の指導のウェートが高まる。
なお、下記の授業計画は修士論文指導の一つのモデルケースである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	論文の構成の検討	夏休みからの研究の発展を報告する。
第2回	調査ノートの作成(1)	調査計画を策定する。
第3回	調査ノートの作成(2)	調査の実施によりデータを収集し、成果を報告する。
第4回	調査ノートの作成(3)	調査の実施によりデータを収集し、成果を報告する。
第5回	調査ノートの作成(4)	調査の実施によりデータを収集し、成果を報告する。
第6回	論文の執筆と課題の確認(1)	論文の執筆と添削を行う。
第7回	論文の執筆と課題の確認(2)	論文の執筆と添削を行う。
第8回	論文の執筆と課題の確認(3)	論文の執筆と添削を行う。
第9回	論文の執筆と課題の確認(4)	論文の執筆と添削を行う。
第10回	論文の執筆と課題の確認(5)	論文の執筆と添削を行う。
第11回	論文の執筆と課題の確認(6)	論文の執筆と添削を行う。
第12回	論文の完成に向けた調整(1)	論理の整合性を確認する。
第13回	論文の完成に向けた調整(2)	論理の整合性を確認する。
第14回	最終報告会	完成論文を報告し、提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2～3時間を標準とする。
先行文献の探索や読み込み、レジュメの作成、データ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、調査ノートの作成、データ分析、論文執筆は、各自が授業時間外に行う。

【テキスト（教科書）】
テキストは用いない。

【参考書】
『研究成果集』(毎年、経営学専攻の優秀な修士論文が掲載される論文集)を参照のこと。

【成績評価の方法と基準】
成績の評価基準は、出席(50％)、発表・報告(50％(修士論文の草稿等を含む))である。
発表・報告の評価基準は、先行研究の読破、正確で分かりやすい論点整理、論理的な首尾一貫性、実証分析の手堅さ、テーマの斬新性、文章の読みやすさ、質疑に対する応答の適切さなどである。

【学生の意見等からの気づき】
本演習は、前年度の授業改善アンケートの対象外であった。

【学生が準備すべき機器他】
各自でパソコンを準備すること。

【担当教員の専門分野等】
＜専門分野＞
＜研究テーマ＞

【担当教員の主要研究業績】
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
【Outline】
· This class aims to discuss and find out the theme for entrepreneurial activities and make develop master's thesis.
· Each participant voluntarily carries out empirical investigations and research related to business science and economics under the guidance of the supervising teacher and reports on the results at any time during class.
【Learning Objectives】
· Aim to complete a master's thesis with high practical and academic value.
【Learning Activities outside of Classroom】
· The standard preparatory study and review time for this class is 2～3 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
· Grades will be based on a total of the following: Ordinary points (50%)+presentations and reports (50%).

MAN500F1 – 0044（経営学 / Management 500）

企業家活動

稲垣　京輔

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国内外で発展してきた起業家やベンチャーに関する経営学、社会学研究の理論的枠組みや事例を参照しながら、事業創造の担い手である起業家の活動の実態について明らかにします。そしてそこから、近年の日本にみられる組織現象に対して、より深い理解力、観察力を養うことを目的とします。

【到達目標】
1)講義の後半部分から新たなテーマについて講義をおこなうことで、起業家活動の分析に関する方法論を学びあい、議論を深めます。
2)すぐれた文献を読むことによって、問題の捉え方と分析視角の設定を中心に、修士論文を執筆する上で必要な知識を習得します。
1) By giving lectures on new themes from the latter half of the lecture, we will learn the methodology of analysis of entrepreneurial activity and deepen the discussion.
2) By reading excellent prior works, we will acquire the knowledge necessary for writing a master's thesis, focusing on how to grasp the problem and set the analytical viewing angle.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
講義部分においては、次の３つの分析視角に基づいて、企業家活動を分析する視点を養います。最初の3回は、「合理的意思決定プロセスとしての企業家活動」、次の3回は「環境適応プロセスとしての企業家活動」そしてその次の3回は「利害関係の超越としての企業家活動」をテーマとします。
これら３つの主要テーマにおいて、事業創造にかかわるさまざまな経営現象を考察します。
それぞれの回で、課題となる事例を探索し、スライドにまとめて報告していただき、ディスカッションを行います。最後の５回は関連文献を輪読します。各回の課題に対する準備には約２時間を要します。
We consider various management phenomena related to business creation from three main analytical perspectives. In each session, we will explore cases that will be issues, summarize them on slides, and have a discussion.　In the final five sessions, we will read some papers related literature on entrepreneurship and innovation.It takes about two hours to prepare for each task.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス授業	自己紹介 問題関心の設定と導入講義
第2回	合理的意思決定プロセスとしての企業家活動１	事業創造における市場獲得のプロセス
第3回	合理的意思決定プロセスとしての企業家活動２	事業創造における組織内部のマネジメント
第4回	合理的意思決定プロセスとしての企業家活動３	社内ベンチャーと企業家支援プログラム
第5回	環境適応プロセスとしての企業家活動１	企業家活動の正当性と資源動員
第6回	環境適応プロセスとしての企業家活動２	制度的企業家とは何か
第7回	環境適応プロセスとしての企業家活動３	社会的関係の調整と企業家のエフェクチュエーション
第8回	利害関係の超越としての企業家活動１	社会的ネットワークとソーシャルキャピタルの構築
第9回	利害関係の超越としての企業家活動２	企業家の協働と学習
第10回	利害関係の超越としての企業家活動３	場づくりとしての企業家活動＝点から面へ
第11回	テキストの輪読１	方法論と事例分析のスキルを学ぶ
第12回	テキストの輪読２	方法論と事例分析のスキルを学ぶ
第13回	テキストの輪読３	方法論と事例分析のスキルを学ぶ
第14回	まとめ	企業家活動の分析視角を再度レビューする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎週、グループ毎に課題を提出し、報告してもらいます。
Every week, each group submits and reports on their assignments.

【テキスト（教科書）】
テキストは初回に指示します。

【参考書】
金井壽宏『起業者ネットワーキングの世界』白桃書房。
佐藤郁哉『質的データ分析法』新曜社。
長谷川博和『ベンチャーマネジメント入門』日本経済新聞社。
山岡徹『変革とパラドックスの組織論』中央経済社
W.ベーカー『ソーシャル・キャピタル』ダイヤモンド社。
S.サラスパシー『エフェクチュエーション』中央経済社。
J.R.カッツェンベルグ『インフォーマル組織力』税務経理協会　他

【成績評価の方法と基準】
配分
評価基準
出席点(20点)
報告点(60点)
積極的なコミットメント（プラスα）
出席点は、ただ出席するだけでは評価の対象にならず、議論への積極的な参加によって加点します。報告点は、課題に応じたケースを検索し、分析の深さによって判定します。また、質問点は、論点を定め、議論をどれだけ盛り上げることができるかによって判定します。
Evaluation criteria
Attendance points (20 points)
Report points (60 points)
Positive commitment (plus α)

【学生の意見等からの気づき】
後半の輪読では、受講者の間でもディスカッションができるように、いくつかの論点を提示します。

【学生が準備すべき機器他】
各自、報告の際には、データを入れたメモリーか、あるいはパソコン本体を持参してください。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞組織社会学、経営組織論
＜研究テーマ＞企業間協力における能力構築と産業クラスター形成に関する研究
＜主要研究業績＞
稲垣京輔・高橋勅徳（2010）「産業クラスター形成における地理的近接に基づく関係構築プロセス:大阪扇町界隈におけるインキュベーション・マネジャーとクリエイター間の関係性の変化」『組織科学』第44巻,第3号, 21―36 頁。
高橋勅徳・稲垣京輔（2015）「我が国における産業クラスター政策の推進による組織 フィールドの形成:大阪市扇町界隈における扇町クリエイティブ・クラスターの形成」『経営と制度』第13号,25―46頁 .

【Outline (in English)】

This lecture aims to try understanding the entrepreneurial activities which are not only the business creation but also the innovation and institutional change process, referring to the theoretical frameworks and case studies of entrepreneurs and ventures that have developed on the field of business studies and sociology research.

MAN500F1 – 0045（経営学 / Management 500）

企業家史

二階堂　行宣

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・この授業は、市場経済の均衡を破壊・創造する力を持つ「革新」の遂行者である企業家に注目することで、経済発展の長期的なダイナミズムを考察することを目的とする。
・J. シュンペーターは『経済発展の理論』(1912年)において、企業家を「創造的破壊」による「新結合」の実現者と定義し、企業家の「革新」行動によって均衡状態が攪乱されることで経済発展のダイナミズムが生じるとした。さらにA. H. コールらは、企業家の非連続的・飛躍的側面だけでなく、連続的・漸進的な側面にも注目し、均衡から不均衡を創り出すこと(創造的破壊)だけでなく、不均衡から均衡に向かう過程(競争)によって経済発展が生み出されると論じた。
・こうした企業家をめぐる理論・仮説は、実際の歴史の中でどのように観察されるのだろうか。この授業では、企業家の革新行動とその定着過程としての企業発展を、具体的な事例に基づきながら、長期の歴史的な文脈の中で考えていきたい。

【到達目標】
・近現代日本の経済・経営発展の歴史について知識を習得し、企業家活動の前提となるそれぞれの時代の経済環境を、明確に把握する。
・その上で、企業家がある時代背景と外部環境の中で、どこにビジネス・チャンスを見出し、それをいかにして掴もうとしたのか、ケース・スタディを用いながら考える。
・以上を通して、長期的な視野にもとづく戦略的行動とは何かを学び、歴史的な思考様式を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
・現時点では、以下のような授業運営方法を想定している。
　①学習支援システムから教材（講義資料や説明音声・動画）をダウンロードし、順次自分のペースで学習する。
　②学習の到達度を確認するため、定期的に対面またはWeb上でディスカッションを実施する。その際、参加者は自身の論点や疑問点を明確にしたレジュメを用意する。
　③最終評価にあたっては、特定の起業家に関するレポートを提出していただくことを想定している。
・初回授業の際に、参加者の確定と、授業のスケジュールを決定する。履修希望の学生は必ず出席すること。
・どうしても初回授業に出席できない場合は、事前に必ず担当教員に知らせること。
・授業で扱う内容・トピックについては、このシラバスから変更する予定はない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	・企業家分析への歴史的視点 ※対面で実施予定
第2回	幕末維新期の経営	・概説：幕末維新期の日本経済
第3回	幕末維新期の経営	・新興商人の登場 ・遠隔地交易の活性化
第4回	明治前期の経営	・概説：明治前期の日本経済
第5回	明治前期の経営	・政商の登場 ・「大店」の明治維新 ・企業家活動の組織化
第6回	産業革命期の経営	・概説：日本の産業革命
第7回	産業革命期の経営	・専門経営者の台頭 ・地方からの産業革命
第8回	第一次世界大戦期の経営	・概説：第一次大戦ブーム
第9回	第一次世界大戦期の経営	・大戦ブームと商社 ・好況時のリスク管理
第10回	両大戦間期の経営	・概説：1920～30年代の日本経済
第11回	両大戦間期の経営	・都市型産業の登場 ・新興コンツェルンの成長
第12回	戦後復興期～高度経済成長期の経営	・概説：戦時統制経済から戦後改革へ ・概説：高度経済成長と大衆消費社会
第13回	戦後復興期～高度経済成長期の経営	・流通革命 ・東海道新幹線
第14回	授業内容の復習	・ケース・スタディをふまえ、近現代日本の企業家活動の特徴について議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・本授業の準備学習・復習時間は、各2～3時間を標準とする。
・授業内容をふまえたディスカッションでは、積極的に発言することが求められる。

【テキスト（教科書）】
・使用しない。

【参考書】
①経営史学会編（2004）『日本経営史の基礎知識』（有斐閣）
②三和良一・原朗編（2010）『近現代日本経済史要覧　補訂版』（東京大学出版会）
③宇田川勝・生島淳編（2011）『企業家に学ぶ日本経営史』（有斐閣）
④三和良一（2012）『概説日本経済史　近現代（第3版）』（東京大学出版会）
⑤粕谷誠（2012）『ものづくり日本経営史』（名古屋大学出版会）
⑥宮本又郎（2013）『企業家たちの挑戦』（中央公論新社）
⑦沢井実・谷本雅之（2016）『日本経済史』（有斐閣）
⑧武田晴人（2019）『日本経済史』（有斐閣）
⑨宮本又郎・阿部武司・宇田川勝・沢井実・橘川武郎（2023）『日本経営史［第3版］』（有斐閣）
⑩谷本雅之（2024）『日本経済の比較史』（放送大学教育振興会）

【成績評価の方法と基準】
・現時点では、①定期的に実施されるディスカッションでの発言・資料内容(40％)、②最終レポートの内容（60％）、の2点で評価することを想定している。
・成績評価の際は、企業家に関する知識の習得よりも、企業家活動を長期的・俯瞰的視野から体系化し、歴史的に位置づける能力を重視する。

【学生の意見等からの気づき】
・単なる「企業家列伝」のような授業は行わないことを心がけたい。
・むしろ、近現代の政治史・経済史の流れをふまえ、各時代の企業家をその流れの中に位置づけることで、経済・経営発展のダイナミズムを理解することに重点を置く。

【学生が準備すべき機器他】
・なし

【その他の重要事項】
・定期的なディスカッションは、教室での対面形式で実施する予定である。ただし、感染状況や受講者の希望によっては、Web上でのディスカッションに切り替える可能性がある。
・初回授業では、授業の概要説明、参加者の確定、授業スケジュールの決定を予定している。履修希望の学生は必ず出席すること。
・どうしても初回授業に出席できない場合は、事前に必ず担当教員に知らせること。
・ゼミ形式という授業の性格上、参加者数は最大でも8名程度を想定している。そのため、履修登録に際しては、企業家養成コースの学生を優先する場合がある。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
・日本経営史
・日本経済史
＜研究テーマ＞
・鉄道事業経営と運輸政策に関する歴史研究
・オーラル・ヒストリー
＜主要研究業績＞
・二階堂行宣（2020）「三陸鉄道をめぐる危機と希望―地域公共交通経営の普遍性・特殊性―」『地域の危機・釜石の対応』東京大学出版会。
・二階堂行宣（2020）「日本国有鉄道と東海道新幹線―計画期における組織内業務運営とマネジメント―」『経営志林』第56巻第4号。
・二階堂行宣（2017）「陸運業の展開」『日本経済の歴史4（近代2）』岩波書店。
・二階堂行宣（2015）「戦間期鉄道貨物輸送システムの形成」『経営史学』49巻4号。
・二階堂行宣（2014）「鉄道貨物輸送における設備・営業業務の形成」『鉄道史学』32号。

【Outline (in English)】
【Course Outline】
・The purpose of this course is to look at the long-term dynamism of economic development by paying attention to entrepreneurs who are the performers of "innovation" with the power to destroy and create the equilibrium of market economy.
・In this lesson, I would like to consider the innovative behavior of entrepreneurs and the development of enterprises as a process of consolidation based on concrete examples in a long-term historical context.
【Learning Objectives】
・Acquire knowledge about the history of modern Japanese economy and business development, and clearly grasp the economic environment of each era, which is the premise of entrepreneurial activities.
・On top of that, use case studies to think about where entrepreneurs have found business opportunities and how they tried to seize them in the background of the times and the external environment.
・Through the above, learn what strategic behavior is based on a long-term perspective and acquire a historical way of thinking.
【Learning activities outside of classroom】
・The standard preparatory study / review time for this class is 2～3 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
・Evaluation will be made based on two points:

(1)Remarks and material content in regular discussions
(2)Final report content.
・When evaluating grades, prioritize the ability to systematize entrepreneurial activities from a long-term, bird's-eye view and position them historically, rather than acquiring knowledge about entrepreneurs.

MAN500F1 – 0008（経営学 / Management 500）

経営史

韓　載香

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、経営史学に関する基礎的且つ体系的知識を身につけることを目的とします。多様性を重視する経営史学ですが、企業、組織、企業家、技術、産業、システムなど様々な内容を対象としながら、地域や分野を超えて共通してみられる組織内の編成やその方向性、市場・産業内で影響しあいながら環境自体を変えていく企業活動のダイナミズムを注視します。
具体的には、19世紀から20世紀までにおける欧米及び日本の企業や、それらを取り巻く環境、制度・システムに注目し、組織の在り方の多様性を通じてみえる原理を理解します。加えて、市場の秩序を変えてきた特筆すべき変化を捉え、それが何故起き、どのように展開し、どのような影響を残したかを考えていきます。

【到達目標】
1.多様性(特徴)及び共通性を区別しながら、地域(国)の組織原理を解説することができる。
2.大企業への成長に伴われる組織編成の変化について、要因とともに説明することができる。
3.企業活動について、制度の束としてのシステムとの関連で理解できる具体例を提示することができる。
4.国を超えて影響が広がった企業の在り方やシステムについて、事例を挙げて説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
指定テキストに内容に即して進めていきます。教員による簡単なポイントの解説、受講者による論点提示の後、ディスカッションを行って理解を深めていきます。受講者には【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】に説明するような要領で発表をしていただきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	第一に、「経営史を学ぶとは？ －今における『新しい』を発見する」というトピックで授業の意義について解説します。第二に、テキスト及び学習方法や、受講者の参加の仕方などその他の概要を説明します。
第2回	第2回～第6回 市場経済の発達とビジネス	資本主義の発祥地であるヨーロッパを対象として、19世紀における市場経済の発展やビジネスを動かした動因について学びます。工業化と多元的発展(鈴木良隆・大東英祐・武田晴人『ビジネスの歴史』有斐閣、2004年。以下同様)：近代工業、在来産業、金融―サービスの台頭について学びます。
第3回	市場経済の発達とビジネス	市場経済とビジネスの発展方向：専門化・産業地域・競争について考えます。
第4回	市場経済の発達とビジネス	19世紀の金融・サービス：株式会社の登場と金融の在り方に注目します。
第5回	市場経済の発達とビジネス	19世紀の労働と雇用：近代工業と在来産業の管理にみる働く姿はどのようなものだったでしょうか。
第6回	市場経済の発達とビジネス	大量生産体制のへの途：19世紀アメリカにおける試みから、20世紀を展望します。
第7回	第7回～第13回 大企業の形成(20世紀初頭)	19世紀末から20世紀初頭においてアメリカで台頭した大企業に光を当て、各地の勃興についてみます。製造業における大量生産がいかに組織の在り方を変え、どのような新しい手法のマネジメントが定着したか、その影響はどのようなものであったかについて学びます。垂直統合とアメリカの現代企業：大量生産と大量販売の時代を切り開いたアメリカの大企業の経営を取り上げます。
第8回	大企業の形成	アメリカ企業と経営階層組織：専門経営者に登場してもらい、マネジメントが要求した変化を吟味します。
第9回	大企業の形成	アメリカにおける経営者企業の成立：多角化戦略における部門間調整とは何でしょうか。
第10回	大企業の形成	ヨーロッパにおける現代企業の登場：大企業の展開において政府はどのように関わったのでしょうか。
第11回	大企業の形成	ヨーロッパ大企業の組織と管理：持株会社とは？ その管理に注目します。
第12回	大企業の形成	日本における大企業の登場：産業革命期における日本のビジネス
第13回	大企業の形成	日本の企業と財閥：両大戦間期、産業構造の変化に対する日本の企業の対応
第14回	受講者の発表①	研究書の批評発表
第15回	第15回～23回　大企業体制のビジネス	各地に出現した大企業体制とは何かを理解しつつ、そのもとで展開したビジネスの在り方を比較しながら、地域別の特徴について考えていきます。アメリカの大企業体制：大企業・大労組・大きな政府
第16回	大企業体制のビジネス	新産業の誕生と先端技術開発：先端技術産業と政府の役割
第17回	大企業体制のビジネス	戦後ヨーロッパの大企業：揺れる大企業体制
第18回	大企業体制のビジネス	金融センターの興亡：大企業体制下の金融・サービス
第19回	大企業体制のビジネス	中小企業、産業地域、クラフト：大企業体制下において消える存在？
第20回	大企業体制のビジネス	日本の大企業(1)：戦略と発展類型における日本の特殊性
第21回	大企業体制のビジネス	日本の大企業(2)：組織と雇用にみる特徴
第22回	大企業体制のビジネス	日本のビジネス・システム：市場と組織の在り方（いわゆる日本的経営の再検討）
第23回	大企業体制のビジネス	日本の企業間競争と市場：競争的市場と中小企業、産業集積、在来産業

第24回	第24回～第27回 大企業体制後のビジネス	大企業の地位における揺らぎなど、ビジネス界に見られた変容は、今を理解するうえでも興味深いものです。1960年から80年までのアメリカ、欧州、日本での動きは多様ですが、時期を異にしながらも大きな流れとして共通点を導き出すことができます。大企業淘汰の背景と実態とともにその意味についていくつかの見解を理解しましょう。 経営者企業の動揺：国際競争力の低下とM&A
第25回	大企業体制後のビジネス	アメリカ企業の復活：半導体とパーソナル・コンピュータ
第26回	大企業体制後のビジネス	金融・サービスの復活：金融・サービスセンターの競争
第27回	大企業体制後のビジネス	産業地域の再生：地場産業システムと中小企業から地域を見つめなおします。
第28回	受講者の発表②	研究書の批評発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前にテキストの該当内容を読み、疑問点及び論点をまとめて提出していただきます。
課題：受講者には教員が提示した【参考文献】リストから1冊を選び、内容紹介および批判の発表(1回)をしていただきます。＊この報告のため、受講者の参加人数により、講義計画は調整されます。
本授業の準備・復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
鈴木良隆・大東英祐・武田晴人『ビジネスの歴史』有斐閣、2004年

【参考書】
鈴木良隆『経営史――イギリス産業革命と企業者活動』同文館出版、1982年
S.ポラード（鈴木良隆・春見濤訳）『ヨーロッパの選択』有斐閣、1990年
小野塚知二『クラフト的規制の起源』有斐閣、2001年
D.A.ハウンシェル（和田一夫ほか訳）『アメリカン・システムから大量生産へ』名古屋大学出版会、1998年
A.D.チャンドラー, Jr.（鳥羽欽一郎・小林袈裟治訳）『経営者の時代――アメリカにおける近代企業の時代』上・下、東洋経済新報社、1979年
A.D.チャンドラー, Jr.（三菱経済研究所訳）『経営戦略と組織――米国企業の事業部制成立史』実業之日本社、1967年（『組織は戦略に従う』ダイヤモンド社、2004年）
L.ハンナ（湯沢威・後藤伸訳）『大企業経済の興隆』東洋経済新報社、1987年
大河内暁男・武田晴人編『企業者活動と企業システム』東京大学出版会、1993年
A.D.チャンドラー, Jr.（安部悦生・川辺信雄・工藤章ほか訳）『スケール・アンド・スコープ』有斐閣、1993年
石井寛治『情報・通信の社会史』有斐閣、1994年
武田晴人『財閥の時代』新曜社、1995年
S.ハイマー（宮崎義一編訳）『多国籍企業論』岩波書店、1979年
兵藤釗『日本における労使関係の展開』東京大学出版会、1971年
M.ピオリ＝C.セーブル（山之内靖・永易浩一・石田あつみ訳）『第二の産業分水嶺』筑摩書房、1993年
橋本寿朗『日本企業システムの戦後史』東京大学出版会、1996年
小池和男『仕事の経済学』東洋経済新報社、1991年
米国商務省（室田泰弘訳）『ディジタル・エコノミー2002/2003』東洋経済新報社、2002年
J.C.アベグレン（井尻昭夫訳）『日本の企業社会』晃洋書房、1989年
R.P.ドーア（山之内靖・永易浩一訳）『イギリスの工場・日本の工場』筑摩書房、1987年
J.P.ウォマック＝D.ルース＝D.T.ジョーンズ（沢田博訳）『リーン生産方式が世界の自動車産業をこう変える』経済界、1990年
L.H.リン（遠田雄志訳）『イノベーションの本質：鉄鋼技術導入プロセスの日米比較』東洋経済新報社、1985年

【成績評価の方法と基準】
論点提示、議論への参加度(60％)及び研究書の批評発表(40％)

【学生の意見等からの気づき】
進行方法については、学期中に一度参加者の意見を収集し、改善します。
議論に求められることは何かわからない、という学生の意見を聞きます。議論の目的について丁寧に説明し、新しい発見につながり、力を向上する方法について提案いたします。

【担当教員の専門分野等】
＜日本現代経済史＞
＜在日韓国・朝鮮人企業の産業経済史、産業史＞
＜主要研究業績＞『在日企業の産業経済史』（名古屋大学出版会、2010年）、『パチンコ産業史』（名古屋大学出版会、2018年）

【Outline (in English)】
【Course outline】
The purpose of this course is to acquire basic and systematic knowledge about business history. On one hand the business history emphasizes diversity, but on the other hand it should be understood from the perspective of dynamism by farm's activities that changes sometimes its environment interacting constantly with the market, the structure within the organization and its direction that can be seen in common across regions and fields. I will cover various contents in this course such as companies, organizations, entrepreneurs, technologies, industries, and systems. Specifically, I will focus on Western and Japanese companies from the 19th century to the 20th century, the environment surrounding them, the systems. You will understand the principles that can be seen through the diversity of organizational structures. In addition, I will capture notable transforms that have changed the order of the market and consider why they happened, how they developed, and what impacts they had.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to do following:
To explain the organizational principles of a region (country) by distinguishing between diversity (characteristics) and commonality
To explain the changes in organizational structure along with the growth of a company, and factors.
To be able to give an example that can be understood in relation to the system as a bundle of systems regarding corporate activities.
To present an example the ideal way and system of a company whose influence has spread across countries.
【Learning activities outside of classroom】
Before each class meeting, students will be expected to spend two hours to read the textbook. Students are expected to suggest points at issue to discuss regarding the textbook in class. Students should prepare to do an academic review and give a presentation once in class.
【Grading Criteria /Policy】
The final grade will be calculated according to the following process.
・In-class contribution (discussion etc.) 50 percent
・Presentation regarding bibliography 50 percent

MAN500F1－0046（経営学 / Management 500）

経営戦略論

吉田　健二

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
経営戦略についての様々な概念や理論を理解するとともに、企業が実際にとっている経営戦略を学ぶ。

【到達目標】
経営戦略論の基礎を身につけ、経営戦略とはどのようなものであり、企業は経営戦略をどのように策定し、実行しているのかを説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
この授業は、対面授業形式で行います。ただし、受講者の人数や希望、新型コロナウイルスの感染状況によっては、オンライン授業形式になるかもしれません。
授業の前半では文献のレビューに努め、後半ではそれらが実際にどのように企業において応用されているのかを学生に発表してもらったり、ビデオを見たりします。その後、皆でディスカッションを行います。
授業に対するコメント等は授業内で紹介し、次回以降の授業に活かすようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	コースの説明	コースの概要と進め方等の説明
第2回	経営戦略の概念	経営戦略とは何か
第3回	経営戦略の策定プロセス	経営戦略の策定プロセス
第4回	経営理念と企業ドメイン	経営理念、企業ドメイン
第5回	外部環境分析（1）	顧客分析、競争業者分析
第6回	外部環境分析（2）	業界分析、マクロ環境分析
第7回	自社能力分析	自社能力分析
第8回	事業戦略（1）	３つの基本戦略
第9回	事業戦略（2）	競争地位別の戦略
第10回	事業戦略（3）	製品のライフサイクル
第11回	企業戦略（1）	製品・市場マトリックス
第12回	企業戦略（2）	垂直統合戦略
第13回	企業戦略（3）	PPM
第14回	経営戦略の実行	経営戦略の実行

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの指定された部分を事前に読むこと。
発表者は、発表の準備を行うこと。
本授業の準備学習・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
①デービッド・アーカー『戦略立案ハンドブック』東洋経済新報社、2002年。
②沼上幹『わかりやすいマーケティング戦略〔第３版〕』有斐閣、2023年。
より良いテキストが見つかった場合には、変更する可能性があります。

【参考書】
①網倉久永・新宅純二郎『経営戦略入門』日本経済新聞出版社、2011年。
②清水勝彦『戦略の原点』日経ＢＰ社、2007年。
③三谷宏治『経営戦略全史』ディスカヴァー・トゥエンティワン、2013年。
④ジェイ・バーニー、ウィリアム・ヘスタリー『[新版]企業戦略論（上・中・下）』ダイヤモンド社、2021年。
⑤マイケル・ヒット、デュエーン・アイルランド、ロバート・ホスキソン『戦略経営論 ＜改訂新版＞』センゲージラーニング、2014年。
⑥M.E.ポーター『競争の戦略（新訂版）』ダイヤモンド社、1995年。
⑦M.E.ポーター『競争優位の戦略』ダイヤモンド社、1985年。
①②④⑤は経営戦略論のテキストで、③は100年の経営戦略論の流れを描いた本で、⑥と⑦は経営戦略論の古典と言われる本です。
他は、授業時にその都度指示します。

【成績評価の方法と基準】
配分：クラス参加(15%)、プレゼンテーション(25%)、レポート(60%)
評価基準：４回以上欠席した場合には、単位は与えられません。プレゼンテーションは、テキストの要約と自分の会社（組織）のケースを発表します。レポートは、自分の会社の経営戦略を分析します。詳細は、第１回目に説明します。

【学生の意見等からの気づき】
経営戦略論の基礎を身につけるために、分かりやすい授業にするつもりです。また、学生の発表時間をコントロールすることなどによって、授業の時間管理に努めます。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞経営戦略論
＜研究テーマ＞経営戦略の策定と実行
＜主要研究業績＞
① “Perceptions about Teamwork: An Empirical Comparison of Japanese, Mexican, and American Faculty,” Association on Employment Practices and Principles: Proceedings of the 2002 Annual International Conference, pp.14-19, 2002 (with coauthors).
② “Differences in Culture and Attitudes toward Teamwork: An Empirical Comparison of Perceptions among Chinese, Japanese, Mexican, and American Faculty,” American Society of Business and Behavioral Sciences: 2006 Proceedings, pp.136-142, 2006 (with coauthors).
③ “Work Performance and Group Harmony: An Empirical Comparison of Japanese and Other Cultural Attitudes toward Teamwork,” The 2007 International Conference in Management Sciences and Decision Making: Proceedings, pp.1-16, 2007 (with coauthors).

【Outline (in English)】
This course deals with concepts and theories of strategic management and their applications to companies.
At the end of the course, students are expected to develop their perspective on what is a strategy and to gain insight into the ways in which organizations develop and implement strategies.
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text and to prepare for their presentation. Your required study time is at least four hours for a class.
Final grade will be decided based on in-class contribution(15%), presentations(25%) and term-end report(60%).

MAN500F1 – 0048（経営学 / Management 500）

イノベーション・マネジメント概論

近能　善範

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
イノベーションとは、「顧客に価値をもたらすような、新しい製品やサービス、新しい生産手段、新しいビジネスの仕組みなど。及び、そうしたものを創出すること」を意味しています。もっと単純には、「顧客に新しい価値をもたらすようなモノやサービス、仕組みを実現し、新規需要や新市場を創出すること」と考えて差し支えありません。例えば、パソコンやスマートフォン、SNSなどのネットサービスや、ChatGPTを代表とする生成AIの登場などは、身近なイノベーションの事例です。イノベーションは、われわれの生活を一変するインパクトを有するばかりでなく、企業や経済が持続的に成長していくために必要不可欠な役割を果たします。
こうしたイノベーションを実現していく上では、一般に、研究・技術開発の成果を製品化し、市場に投入し、それが幅広い顧客に受け入れられるまで育て上げ、なおかつ、続々と参入してくる競合他社との激烈な競争に勝ち残っていくためのマネジメントが必要不可欠となります。ここでは、単なる技術マネジメントを超えた、組織や戦略に対する深い理解と実践が問われることになります。
そこで本講義では、こうしたイノベーション・マネジメントを実践していく上で重要となる組織論・戦略論の考え方や概念などを、基礎から最新の理論まで含めて幅広く身につけて、実践できるようになっていただきたいと考えています。

【到達目標】
イノベーション・マネジメントを実践していく上で重要となる考え方や概念などを身につけて、実践できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
毎回の授業では、前半に講義を行い、後半は受講生の発表と全員参加の議論を行う、という構成にする予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	イノベーション・マネジメントとは何か、なぜ重要なのかについて学ぶ
2	企業とは何か／組織とは何か、グループとチームのマネジメント①	企業とは何か／組織とは何か、グループとチームのマネジメント（ネガティブな側面）について学ぶ
3	グループとチームのマネジメント②	グループとチームのマネジメント（ポジティブな側面）について学ぶ
4	人的ネットワークのマネジメント	人的ネットワークのマネジメントについて学ぶ
5	リーダーシップ（ミドルクラス）のマネジメント	リーダーシップ（ミドルクラス）のマネジメントについて学ぶ
6	組織構造と組織デザインのマネジメント	組織構造と組織デザインのマネジメントについて学ぶ
7	組織学習と知識創造のマネジメント	組織学習と知識創造のマネジメントについて学ぶ
8	組織文化と組織変革のマネジメント	組織文化と組織変革のマネジメントについて学ぶ
9	競争戦略のマネジメント	ポジショニング戦略と資源・能力ベースの戦略について学ぶ
10	新製品開発のマネジメント	新製品開発のマネジメントについて学ぶ
11	企業間関係のマネジメント	企業間関係のマネジメントについて学ぶ
12	イノベーションのプロセス／パターン	イノベーションが、どのようなプロセスを経て、どのようなパターンを描きながら発展していくのかを学ぶ
13	イノベーションと企業の競争力	さまざまなタイプのイノベーションと企業の競争力について学ぶ
14	ビジネスモデルのマネジメント	ビジネスモデルのイノベーションについて学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業に際し、テキストの該当箇所や配布資料を事前に読み込み、課題のレポートを作成しておくことが求められます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
近能善範・高井文子 著『コア・テキスト イノベーション・マネジメント』, 新世社, 2010年。
その他に、パワーポイントのレジュメ（毎回）、補助テキスト（適宜）、ケース（適宜）を配布します。

【参考書】
参考書は特にありません。必要があれば、講義の中で適宜指定します。

【成績評価の方法と基準】
(1)下記の合計で、成績を評価する予定です。
　①出席＋毎回のレポート提出（A4で1～2枚程度の簡潔なもの）が70％
　②授業内でのディスカッション参加（毎回）が30％
(2)3分の2以上の出席を最低ラインとします。

【学生の意見等からの気づき】
タイムコントロールに注意します。

【学生が準備すべき機器他】
事前配布資料は、原則として法政大学学習支援システムを通じて行う予定です。受講者は、予め使用方法を理解しておくようにして下さい。

【その他の重要事項】
上記「授業計画」に記載したスケジュールは2022年度のものであり、授業の詳細なシラバスは第1回目の講義の際に配布します。

【担当教員の専門分野等】
＜専門分野＞
　イノベーション・マネジメント、経営戦略論、企業間関係論
＜研究テーマ＞
　イノベーションと企業間関係

【担当教員の主要研究業績】
1.『コア・テキスト イノベーション・マネジメント』（高井文子との共著）, 新世社, 2010年。
2.「サプライヤーの顧客範囲と製品範囲の拡大が取引継続に及ぼす影響」,『日本経営学会誌』, 41号, 2018年10月。
3.「顧客との取引関係とサプライヤーの成果：日本自動車部品産業の事例」,『一橋ビジネスレビュー』, 65巻1号, 2017年6月。
4.「日本自動車産業における関係的技能の高度化と先端技術開発の深化」,『一橋ビジネスレビュー』, 54巻4号, 2007年3月。
5.「自動車部品取引のネットワーク構造とサプライヤーのパフォーマンス」,『組織科学』, Vol.35(3), pp. 83-100, 2002年3月。

【Outline (in English)】
【Learning Objectives】
The main objective of this class is to learn basic knowledge, concepts and ideas on “Innovation management” through reading of introductory textbooks, business cases and discussions, etc.
【Learning activities outside of classroom】
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria / Policy】

Grades will be based on a total of (1) attendance + submission of reports (50%), and (2) contribution to class discussions (50%).

MAN600F1 – 0065（経営学 / Management 600）

人材・組織マネジメント演習

西川　真規子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人材・組織マネジメントに関する研究の実践を通じて、研究のイロハの学習を目的とします。大学ないし大学院における研究とは、適切な方法に基づいて、ある領域についての知識体系に新しい知見を加えることです。何が新しいかを判断するためには、既存の知識の学習が必要です。研究の前提となる専門領域や方法論の学習や日々の研究活動は、自分自身で行う必要があります。クラスではそれを前提に論文作成に向けた指導やアドバイス等を行います。

【到達目標】
「人材・組織マネジメントに関する高水準な修士論文を執筆すること」を到達目標とします。そのためには、①人材・組織マネジメントの観点に即した研究テーマの設定、②研究テーマに関連する先行研究の探索、内容理解、論点整理、および批判的考察に基づく研究課題（問い）の設定と仮説の構築、③研究課題を明らかにするための、あるいは仮説を検証するための調査対象の選定、研究デザイン及び研究方法の検討とその実施、④収集したデータの分析、⑤学術論文として文書化すること等が必要となります。（理論的研究を妨げるものではありませんが、一般に社会人学生の場合、自らのリソースである職場や所属組織を活用できる経験的研究が望ましいと考えています。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
演習は１～3名程度の少人数で個々の学習・進捗状況等に応じて実施されます。通常は平日夜や土曜日を利用して行われることが多いです。日程や指導スタイル等は、履修者数、指導教員の方針や方法論、研究テーマ等に応じて様々です。それは授業方式（「対面授業」や「オンライン授業（リアルタイム配信型）」）についても同様です。ただし、4月上旬のプロポーザル発表会と9月頃に行われる秋の中間報告会への参加は全員に義務付けられています。人材・組織マネジメントコースの全教員からアドバイスを受けると同時に、他の学生の進捗を見ることで、多様な視点から研究テーマを掘り下げていく機会となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	演習並びに学術研究の性質の理解、進め方、年間計画等
第2回	研究計画書の作成指導①	研究リソースや研究関心の確認
第3回	研究計画書の作成指導②	テーマ設定について
第4回	研究計画書の作成指導③	研究方法や研究意義について
第5回	先行研究の検討①	先行研究の渉猟方法
第6回	先行研究の検討②	先行研究の読み方
第7回	先行研究の検討③	先行研究のまとめ方
第8回	先行研究の検討④	先行研究全体の批判的検討と研究課題の特定
第9回	調査方法の検討①	仮説構築とそれに基づく調査対象の検討
第10回	調査方法の検討②	分析枠組みと分析方法に関する検討
第11回	調査方法の検討③	調査の具体的項目に関する検討
第12回	調査方法の検討④	調査実施にあたっての注意事項や調査倫理について
第13回	調査方法の検討⑤	パイロット調査の報告
第14回	コース中間報告会の準備	発表報告資料やプレゼンへの助言

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
具体的課題として指示された文献等はもちろんですが、テーマに関連する先行研究や分析方法に関する文献は随時自発的に読み学習を進めること。

【テキスト（教科書）】
履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【参考書】
履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【成績評価の方法と基準】
報告内容、課題対応や進捗状況などの平常点5割、修士論文の評価5割で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
提出期日は年明けすぐであり、この点については一切の融通が利きません。したがって、提出一か月前までに初稿を完成できるような指導を目指します。

【学生が準備すべき機器他】
クラス人数分の報告資料。

【Outline (in English)】
Course Outline
Students will learn the basic knowledge and skills of doing research such as posing good questions, reviewing relevant studies and learning appropriate methods. It is students who actually conduct research, and the instructor will advise them to proceed on the right track.
Learning Objectives
The goal of this course is to write a high-quality paper in the field of human-resource and/or organizational management. In doing so, students will (1) set their own theme, (2) survey, summarize, and examine relevant literature, (3) propose research questions and hypotheses, (4) find appropriate research methods, (5) gather and examine data, and (6) summarize the results as an academic paper.
Learning activities outside of classroom
Before/after each class meeting, students will be expected to search and examine relevant literature and materials.
Grading Criteria/Policy
Grading will be based on the quality of the students' class performance (50%) and of the final paper (50%).

MAN600F1 – 0065（経営学 / Management 600）

人材・組織マネジメント演習

西川　真規子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人材・組織マネジメントに関する研究の実践を通じて、研究のイロハの学習を目的とします。大学ないし大学院における研究とは、適切な方法に基づいて、ある領域についての知識体系に新しい知見を加えることです。何が新しいかを判断するためには、既存の知識の学習が必要です。研究の前提となる専門領域や方法論の学習や日々の研究活動は、自分自身で行う必要があります。クラスではその指導・アドバイス等を行います。

【到達目標】
「人材・組織マネジメントに関する高水準な修士論文を執筆すること」を到達目標とします。そのためには、①人材・組織マネジメントの観点に即した研究テーマの設定、②研究テーマに関連する先行研究の探索、内容理解、論点整理、および批判的考察に基づく研究課題（問い）の設定と仮説の構築、③研究課題を明らかにするための、あるいは仮説を検証するための調査対象の選定、研究デザイン及び研究方法の検討とその実施、④収集したデータの分析、⑤学術論文として文書化すること等が必要となります。（理論的研究を妨げるものではありませんが、一般に社会人学生の場合、自らのリソースである職場や所属組織を活用できる経験的研究が望ましいと考えています。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
演習は１～3名程度の少人数で個々の学習・進捗状況等に応じて実施されます。通常は平日夜や土曜日を利用して行われることが多いです。指導スタイルは、履修者数、指導教員の方針や方法論、研究テーマ等に応じて様々です。それは授業方式（「対面授業」や「オンライン授業（リアルタイム配信型）」等）においても同様です。
ただし、4月上旬のプロポーザル発表会と9月頃に行われる秋の中間報告会への参加は全員に義務付けられています。指導教員以外からもアドバイスを受けると同時に、他の学生の進捗を見ることで、多様な視点から研究テーマを掘り下げていく機会となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第15回	中間報告会の振り返り	アドバイス内容に基づく研究計画の改善
第16回	調査実施状況の確認①	調査進捗の報告に基づく基本的フィードバック
第17回	調査実施状況の確認②	研究課題とデータの整合性に関するフィードバック
第18回	調査実施状況の確認③	必要な追加調査や調査項目の修正への助言
第19回	調査結果の検討①	仮分析に基づく結果の批判的検討
第20回	調査結果の検討②	分析結果（発見事実）と先行研究の知見との比較
第21回	調査結果の検討③	分析結果の学術的、実践的貢献とその含意に関する検討
第22回	調査結果の検討④	分析結果の限界と今後の課題に関する検討
第23回	論文執筆の基本的指導①	論文作法の確認、章立てや構成について
第24回	論文執筆の基本的指導②	個別章ごとの議論内容と注意点について
第25回	論文内容の指導①	問題意識と先行研究ならびに研究課題までの展開について
第26回	論文内容の指導②	研究方法と分析結果ならびに考察までの展開について
第27回	論文内容の指導③	全体の整合性の確認および文献表とアブストラクトの確認
第28回	論文の最終チェック	発見事実に関する批判的見直しと論文体裁等全体の最終確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
具体的課題として指示された文献等はもちろんですが、テーマに関連する先行研究や分析方法に関する文献は随時自発的に読み学習を進めること。

【テキスト（教科書）】
履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【参考書】
履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【成績評価の方法と基準】
報告内容、課題対応や進捗状況などの平常点5割、修士論文の評価5割で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
提出期日は年明けすぐであり、この点においては一切の融通が利きません。したがって、提出一か月前までには初稿完成を目指すよう指導を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】
クラス人数分の報告資料。

【Outline (in English)】
Course Outline
Students will learn the basic knowledge and skills of doing research such as posing good questions, reviewing relevant studies and learning appropriate methods. It is students who actually conduct research, and the instructor will advise them to proceed on the right track.
Learning Objectives
The goal of this course is to write a high-quality paper in the field of human-resource and/or organizational management. In doing so, students will (1) set their own theme, (2) survey, summarize, and examine relevant literature, (3) propose research questions and hypotheses, (4) find appropriate research methods, (5) gather and examine data, and (6) summarize the results as an academic paper.
Learning activities outside of classroom
Before/after each class meeting, students will be expected to search and examine relevant literature and materials.
Grading Criteria/Policy
Grading will be based on the quality of the students' class performance (50%) and of the final paper (50%).

MAN600F1 – 0065（経営学 / Management 600）

人材・組織マネジメント演習

奥西　好夫

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人材・組織マネジメントに関する研究の実践を通じて、研究のイロハの学習を目的とします。大学ないし大学院における研究とは、適切な方法に基づいて、ある領域についての知識体系に新しい知見を加えることです。何が新しいかを判断するためには、既存の知識の学習が必要です。研究の前提となる専門領域や方法論の学習や日々の研究活動は、自分自身で行う必要があります。クラスではそれを前提に論文作成に向けた指導やアドバイス等を行います。

【到達目標】
「人材・組織マネジメントに関する高水準な修士論文を執筆すること」を到達目標とします。そのためには、①人材・組織マネジメントの観点に即した研究テーマの設定、②研究テーマに関連する先行研究の探索、内容理解、論点整理、および批判的考察に基づく研究課題（問い）の設定と仮説の構築、③研究課題を明らかにするための、あるいは仮説を検証するための調査対象の選定、研究デザイン及び研究方法の検討とその実施、④収集したデータの分析、⑤学術論文として文書化すること等が必要となります。（理論的研究を妨げるものではありませんが、一般に社会人学生の場合、自らのリソースである職場や所属組織を活用できる経験的研究が望ましいと考えています。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
演習は１～3名程度の少人数で個々の学習・進捗状況等に応じて実施されます。通常は平日夜や土曜日を利用して行われることが多いです。日程や指導スタイル等は、履修者数、指導教員の方針や方法論、研究テーマ等に応じて様々です。それは授業方式（「対面授業」や「オンライン授業（リアルタイム配信型）」）についても同様です。ただし、4月上旬のプロポーザル発表会と9月頃に行われる秋の中間報告会への参加は全員に義務付けられています。人材・組織マネジメントコースの全教員からアドバイスを受けると同時に、他の学生の進捗を見ることで、多様な視点から研究テーマを掘り下げていく機会となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	演習並びに学術研究の性質の理解、進め方、年間計画等
第2回	研究計画書の作成指導①	研究リソースや研究関心の確認
第3回	研究計画書の作成指導②	テーマ設定について
第4回	研究計画書の作成指導③	研究方法や研究意義について
第5回	先行研究の検討①	先行研究の渉猟方法
第6回	先行研究の検討②	先行研究の読み方
第7回	先行研究の検討③	先行研究のまとめ方
第8回	先行研究の検討④	先行研究全体の批判的検討と研究課題の特定
第9回	調査方法の検討①	仮説構築とそれに基づく調査対象の検討
第10回	調査方法の検討②	分析枠組みと分析方法に関する検討
第11回	調査方法の検討③	調査の具体的項目に関する検討
第12回	調査方法の検討④	調査実施にあたっての注意事項や調査倫理について
第13回	調査方法の検討⑤	パイロット調査の報告
第14回	コース中間報告会の準備	発表報告資料やプレゼンへの助言

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
具体的課題として指示された文献等はもちろんですが、テーマに関連する先行研究や分析方法に関する文献は随時自発的に読み学習を進めること。

【テキスト（教科書）】
履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【参考書】
履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【成績評価の方法と基準】
報告内容、課題対応や進捗状況などの平常点5割、修士論文の評価5割で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
提出期日は年明けすぐであり、この点については一切の融通が利きません。したがって、提出一か月前までに初稿を完成できるような指導を目指します。

【学生が準備すべき機器他】
クラス人数分の報告資料。

【Outline (in English)】
Course Outline
Students will learn the basic knowledge and skills of doing research such as posing good questions, reviewing relevant studies and learning appropriate methods. It is students who actually conduct research, and the instructor will advise them to proceed on the right track.
Learning Objectives
The goal of this course is to write a high-quality paper in the field of human-resource and/or organizational management. In doing so, students will (1) set their own theme, (2) survey, summarize, and examine relevant literature, (3) propose research questions and hypotheses, (4) find appropriate research methods, (5) gather and examine data, and (6) summarize the results as an academic paper.
Learning activities outside of classroom
Before/after each class meeting, students will be expected to search and examine relevant literature and materials.
Grading Criteria/Policy
Grading will be based on the quality of the students' class performance (50%) and of the final paper (50%).

MAN600F1 – 0065（経営学 / Management 600）

人材・組織マネジメント演習

奥西　好夫

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人材・組織マネジメントに関する研究の実践を通じて、研究のイロハの学習を目的とします。大学ないし大学院における研究とは、適切な方法に基づいて、ある領域についての知識体系に新しい知見を加えることです。何が新しいかを判断するためには、既存の知識の学習が必要です。研究の前提となる専門領域や方法論の学習や日々の研究活動は、自分自身で行う必要があります。クラスではその指導・アドバイス等を行います。

【到達目標】
「人材・組織マネジメントに関する高水準な修士論文を執筆すること」を到達目標とします。そのためには、①人材・組織マネジメントの観点に即した研究テーマの設定、②研究テーマに関連する先行研究の探索、内容理解、論点整理、および批判的考察に基づく研究課題（問い）の設定と仮説の構築、③研究課題を明らかにするための、あるいは仮説を検証するための調査対象の選定、研究デザイン及び研究方法の検討とその実施、④収集したデータの分析、⑤学術論文として文書化すること等が必要となります。（理論的研究を妨げるものではありませんが、一般に社会人学生の場合、自らのリソースである職場や所属組織を活用できる経験的研究が望ましいと考えています。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
演習は１～3名程度の少人数で個々の学習・進捗状況等に応じて実施されます。通常は平日夜や土曜日を利用して行われることが多いです。指導スタイルは、履修者数、指導教員の方針や方法論、研究テーマ等に応じて様々です。それは授業方式（「対面授業」や「オンライン授業（リアルタイム配信型）」等）においても同様です。
ただし、4月上旬のプロポーザル発表会と9月頃に行われる秋の中間報告会への参加は全員に義務付けられています。指導教員以外からもアドバイスを受けると同時に、他の学生の進捗を見ることで、多様な視点から研究テーマを掘り下げていく機会となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第15回	中間報告会の振り返り	アドバイス内容に基づく研究計画の改善
第16回	調査実施状況の確認①	調査進捗の報告に基づく基本的フィードバック
第17回	調査実施状況の確認②	研究課題とデータの整合性に関するフィードバック
第18回	調査実施状況の確認③	必要な追加調査や調査項目の修正への助言
第19回	調査結果の検討①	仮分析に基づく結果の批判的検討
第20回	調査結果の検討②	分析結果（発見事実）と先行研究の知見との比較
第21回	調査結果の検討③	分析結果の学術的、実践的貢献とその含意に関する検討
第22回	調査結果の検討④	分析結果の限界と今後の課題に関する検討
第23回	論文執筆の基本的指導①	論文作法の確認、章立てや構成について
第24回	論文執筆の基本的指導②	個別章ごとの議論内容と注意点について
第25回	論文内容の指導①	問題意識と先行研究ならびに研究課題までの展開について
第26回	論文内容の指導②	研究方法と分析結果ならびに考察までの展開について
第27回	論文内容の指導③	全体の整合性の確認および文献表とアブストラクトの確認
第28回	論文の最終チェック	発見事実に関する批判的見直しと論文体裁等全体の最終確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
具体的課題として指示された文献等はもちろんですが、テーマに関連する先行研究や分析方法に関する文献は随時自発的に読み学習を進めること。

【テキスト（教科書）】
履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【参考書】
履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【成績評価の方法と基準】
報告内容、課題対応や進捗状況などの平常点5割、修士論文の評価5割で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
提出期日は年明けすぐであり、この点においては一切の融通が利きません。したがって、提出一か月前までには初稿完成を目指すよう指導を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】
クラス人数分の報告資料。

【Outline (in English)】
Course Outline
Students will learn the basic knowledge and skills of doing research such as posing good questions, reviewing relevant studies and learning appropriate methods. It is students who actually conduct research, and the instructor will advise them to proceed on the right track.
Learning Objectives
The goal of this course is to write a high-quality paper in the field of human-resource and/or organizational management. In doing so, students will (1) set their own theme, (2) survey, summarize, and examine relevant literature, (3) propose research questions and hypotheses, (4) find appropriate research methods, (5) gather and examine data, and (6) summarize the results as an academic paper.
Learning activities outside of classroom
Before/after each class meeting, students will be expected to search and examine relevant literature and materials.
Grading Criteria/Policy
Grading will be based on the quality of the students' class performance (50%) and of the final paper (50%).

MAN600F1 – 0065（経営学 / Management 600）

人材・組織マネジメント演習

長岡　健

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人材・組織マネジメントに関する研究の実践を通じて、研究のイロハの学習を目的とします。大学ないし大学院における研究とは、適切な方法に基づいて、ある領域についての知識体系に新しい知見を加えることです。何が新しいかを判断するためには、既存の知識の学習が必要です。研究の前提となる専門領域や方法論の学習や日々の研究活動は、自分自身で行う必要があります。クラスではそれを前提に論文作成に向けた指導やアドバイス等を行います。

【到達目標】
「人材・組織マネジメントに関する高水準な修士論文を執筆すること」を到達目標とします。そのためには、①人材・組織マネジメントの観点に即した研究テーマの設定、②研究テーマに関連する先行研究の探索、内容理解、論点整理、および批判的考察に基づく研究課題（問い）の設定と仮説の構築、③研究課題を明らかにするための、あるいは仮説を検証するための調査対象の選定、研究デザイン及び研究方法の検討とその実施、④収集したデータの分析、⑤学術論文として文書化すること等が必要となります。（理論的研究を妨げるものではありませんが、一般に社会人学生の場合、自らのリソースである職場や所属組織を活用できる経験的研究が望ましいと考えています。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
演習は１～3名程度の少人数で個々の学習・進捗状況等に応じて実施されます。通常は平日夜や土曜日を利用して行われることが多いです。日程や指導スタイル等は、履修者数、指導教員の方針や方法論、研究テーマ等に応じて様々です。それは授業方式（「対面授業」や「オンライン授業（リアルタイム配信型）」）についても同様です。ただし、4月上旬のプロポーザル発表会と9月頃に行われる秋の中間報告会への参加は全員に義務付けられています。人材・組織マネジメントコースの全教員からアドバイスを受けると同時に、他の学生の進捗を見ることで、多様な視点から研究テーマを掘り下げていく機会となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	演習並びに学術研究の性質の理解、進め方、年間計画等
第2回	研究計画書の作成指導①	研究リソースや研究関心の確認
第3回	研究計画書の作成指導②	テーマ設定について
第4回	研究計画書の作成指導③	研究方法や研究意義について
第5回	先行研究の検討①	先行研究の渉猟方法
第6回	先行研究の検討②	先行研究の読み方
第7回	先行研究の検討③	先行研究のまとめ方
第8回	先行研究の検討④	先行研究全体の批判的検討と研究課題の特定
第9回	調査方法の検討①	仮説構築とそれに基づく調査対象の検討
第10回	調査方法の検討②	分析枠組みと分析方法に関する検討
第11回	調査方法の検討③	調査の具体的項目に関する検討
第12回	調査方法の検討④	調査実施にあたっての注意事項や調査倫理について
第13回	調査方法の検討⑤	パイロット調査の報告
第14回	コース中間報告会の準備	発表報告資料やプレゼンへの助言

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
具体的課題として指示された文献等はもちろんですが、テーマに関連する先行研究や分析方法に関する文献は随時自発的に読み学習を進めること。

【テキスト（教科書）】
履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【参考書】
履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【成績評価の方法と基準】
報告内容、課題対応や進捗状況などの平常点5割、修士論文の評価5割で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
提出期日は年明けすぐであり、この点については一切の融通が利きません。したがって、提出一か月前までに初稿を完成できるような指導を目指します。

【学生が準備すべき機器他】
クラス人数分の報告資料。

【Outline (in English)】
Course Outline
Students will learn the basic knowledge and skills of doing research such as posing good questions, reviewing relevant studies and learning appropriate methods. It is students who actually conduct research, and the instructor will advise them to proceed on the right track.
Learning Objectives
The goal of this course is to write a high-quality paper in the field of human-resource and/or organizational management. In doing so, students will (1) set their own theme, (2) survey, summarize, and examine relevant literature, (3) propose research questions and hypotheses, (4) find appropriate research methods, (5) gather and examine data, and (6) summarize the results as an academic paper.
Learning activities outside of classroom
Before/after each class meeting, students will be expected to search and examine relevant literature and materials.
Grading Criteria/Policy
Grading will be based on the quality of the students' class performance (50%) and of the final paper (50%).

MAN600F1 – 0065（経営学 / Management 600）

人材・組織マネジメント演習

長岡　健

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人材・組織マネジメントに関する研究の実践を通じて、研究のイロハの学習を目的とします。大学ないし大学院における研究とは、適切な方法に基づいて、ある領域についての知識体系に新しい知見を加えることです。何が新しいかを判断するためには、既存の知識の学習が必要です。研究の前提となる専門領域や方法論の学習や日々の研究活動は、自分自身で行う必要があります。クラスではその指導・アドバイス等を行います。

【到達目標】
「人材・組織マネジメントに関する高水準な修士論文を執筆すること」を到達目標とします。そのためには、①人材・組織マネジメントの観点に即した研究テーマの設定、②研究テーマに関連する先行研究の探索、内容理解、論点整理、および批判的考察に基づく研究課題（問い）の設定と仮説の構築、③研究課題を明らかにするための、あるいは仮説を検証するための調査対象の選定、研究デザイン及び研究方法の検討とその実施、④収集したデータの分析、⑤学術論文として文書化すること等が必要となります。（理論的研究を妨げるものではありませんが、一般に社会人学生の場合、自らのリソースである職場や所属組織を活用できる経験的研究が望ましいと考えています。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
演習は１～3名程度の少人数で個々の学習・進捗状況等に応じて実施されます。通常は平日夜や土曜日を利用して行われることが多いです。指導スタイルは、履修者数、指導教員の方針や方法論、研究テーマ等に応じて様々です。それは授業方式（「対面授業」や「オンライン授業（リアルタイム配信型）」等）においても同様です。
ただし、4月上旬のプロポーザル発表会と9月頃に行われる秋の中間報告会への参加は全員に義務付けられています。指導教員以外からもアドバイスを受けると同時に、他の学生の進捗を見ることで、多様な視点から研究テーマを掘り下げていく機会となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第15回	中間報告会の振り返り	アドバイス内容に基づく研究計画の改善
第16回	調査実施状況の確認①	調査進捗の報告に基づく基本的フィードバック
第17回	調査実施状況の確認②	研究課題とデータの整合性に関するフィードバック
第18回	調査実施状況の確認③	必要な追加調査や調査項目の修正への助言
第19回	調査結果の検討①	仮分析に基づく結果の批判的検討
第20回	調査結果の検討②	分析結果（発見事実）と先行研究の知見との比較
第21回	調査結果の検討③	分析結果の学術的、実践的貢献とその含意に関する検討
第22回	調査結果の検討④	分析結果の限界と今後の課題に関する検討
第23回	論文執筆の基本的指導①	論文作法の確認、章立てや構成について
第24回	論文執筆の基本的指導②	個別章ごとの議論内容と注意点について
第25回	論文内容の指導①	問題意識と先行研究ならびに研究課題までの展開について
第26回	論文内容の指導②	研究方法と分析結果ならびに考察までの展開について
第27回	論文内容の指導③	全体の整合性の確認および文献表とアブストラクトの確認
第28回	論文の最終チェック	発見事実に関する批判的見直しと論文体裁等全体の最終確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
具体的課題として指示された文献等はもちろんですが、テーマに関連する先行研究や分析方法に関する文献は随時自発的に読み学習を進めること。

【テキスト（教科書）】
履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【参考書】
履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【成績評価の方法と基準】
報告内容、課題対応や進捗状況などの平常点5割、修士論文の評価5割で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
提出期日は年明けすぐであり、この点においては一切の融通が利きません。したがって、提出一か月前までには初稿完成を目指すよう指導を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】
クラス人数分の報告資料。

【Outline (in English)】
Course Outline
Students will learn the basic knowledge and skills of doing research such as posing good questions, reviewing relevant studies and learning appropriate methods. It is students who actually conduct research, and the instructor will advise them to proceed on the right track.
Learning Objectives
The goal of this course is to write a high-quality paper in the field of human-resource and/or organizational management. In doing so, students will (1) set their own theme, (2) survey, summarize, and examine relevant literature, (3) propose research questions and hypotheses, (4) find appropriate research methods, (5) gather and examine data, and (6) summarize the results as an academic paper.
Learning activities outside of classroom
Before/after each class meeting, students will be expected to search and examine relevant literature and materials.
Grading Criteria/Policy
Grading will be based on the quality of the students' class performance (50%) and of the final paper (50%).

MAN600F1 – 0065（経営学 / Management 600）

人材・組織マネジメント演習

小川　憲彦

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人材・組織マネジメントに関する研究の実践を通じて、研究のイロハの学習を目的とします。大学ないし大学院における研究とは、適切な方法に基づいて、ある領域についての知識体系に新しい知見を加えることです。何が新しいかを判断するためには、既存の知識の学習が必要です。研究の前提となる学習や研究活動は、自分自身で行う必要があります。クラスではその指導・アドバイス等を行います。

【到達目標】
「人材・組織マネジメントに関する高水準な修士論文を執筆すること」を到達目標とします。そのためには、①人材・組織マネジメントの観点に即した研究テーマの設定、②研究テーマに関連する先行研究の探索、内容理解、論点整理、および批判的考察に基づく研究課題（問い）の設定と仮説の構築、③研究課題を明らかにするための、あるいは仮説を検証するための調査対象の選定、研究デザイン及び研究方法の検討とその実施、④収集したデータの分析、⑤学術論文として文書化すること、等が必要となります。
（理論的研究を妨げるものではありませんが、一般に社会人学生の場合、自らのリソースである職場や所属組織を活用できる経験的研究が望ましいと考えています。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
演習は１～3名程度の少人数で個々の学習・進捗状況に合わせて柔軟に実施され、多くは平日夜や土曜日を利用して行われます。指導スタイルは、履修者数、指導教員の方針や方法論、研究テーマ等に応じて様々です。
また、授業方式についても「対面授業」と「オンライン授業（リアルタイム配信型）」を状況に合わせて柔軟に使い分けながら進めていきます。
ただし、4月上旬のプロポーザル発表会と9月頃に行われる秋の中間報告会への参加は全員に義務付けられています。人材・組織マネジメントコースの全教員からアドバイスを受けると同時に、他の学生の進捗を見ることで、多様な視点から研究テーマを掘り下げていく機会となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	演習並びに学術研究の性質の理解、進め方、年間計画
第2回	研究計画書の作成指導①	研究リソースや研究関心の確認
第3回	研究計画書の作成指導②	テーマ設定について
第4回	研究計画書の作成指導③	研究方法や研究意義について
第5回	先行研究の検討①	先行研究の渉猟方法
第6回	先行研究の検討②	先行研究の読み方
第7回	先行研究の検討③	先行研究のまとめ方
第8回	先行研究の検討④	先行研究全体の批判的検討と研究課題の特定
第9回	調査方法の検討①	仮説構築とそれに基づく調査対象の検討
第10回	調査方法の検討②	分析枠組みと分析方法に関する検討
第11回	調査方法の検討③	調査の具体的項目に関する検討
第12回	調査方法の検討④	調査実施にあたっての注意事項や調査倫理について
第13回	調査方法の検討⑤	パイロット調査の報告
第14回	コース中間報告会の準備	発表報告資料やプレゼンへの助言

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
具体的課題に指示された文献等はもちろんですが、テーマに関連する先行研究や分析方法に関する文献は随時自発的に読み学習を進めること。

【テキスト（教科書）】
履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【参考書】
履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【成績評価の方法と基準】
報告内容、課題対応や進捗状況などの平常点5割、修士論文の評価5割で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
提出期日は年明けすぐであり、一切融通は利きません。したがって、提出一か月前までには初稿完成を目指します。

【学生が準備すべき機器他】
クラス人数分の報告資料。
連絡等は主に電子メールで行いますが、簡単な連絡などでスマホアプリLINEを用いることがあります。

【Outline (in English)】
Course Outline
Students will learn the basic knowledge and skills of doing research such as posing good questions, reviewing relevant studies and learning appropriate methods. It is students who actually conduct research, and the instructor will advise them to proceed on the right track.
Learning Objectives
The goal of this course is to write a high-quality paper in the field of human-resource and organizational management. In doing so, students will 1) set their own theme, 2) survey, examine and summarize relevant literature, 3) propose research questions and hypotheses, 4) find appropriate research methods, 4) gather and examine data, and 5) summarize the results as an academic paper.
Learning activities outside of classroom
Before/after each class meeting, students will be expected to search and examine relevant literature and materials.
Grading Criteria/Policy
Grading will be based on the quality of the students' class performance (50%) and of the final paper (50%).

MAN600F1－0065（経営学 / Management 600）

人材・組織マネジメント演習

小川　憲彦

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人材・組織マネジメントに関する研究の実践を通じて、研究のイロハの学習を目的とします。大学ないし大学院における研究とは、適切な方法に基づいて、ある領域についての知識体系に新しい知見を加えることです。何が新しいかを判断するためには、既存の知識の学習が必要です。研究の前提となる学習や研究活動は、自分自身で行う必要があります。クラスではその指導・アドバイス等を行います。

【到達目標】
「人材・組織マネジメントに関する高水準な修士論文を執筆すること」を到達目標とします。そのためには、①人材・組織マネジメントの観点に即した研究テーマの設定、②研究テーマに関連する先行研究の探索、内容理解、論点整理、および批判的考察に基づく研究課題（問い）の設定と仮説の構築、③研究課題を明らかにするための、あるいは仮説を検証するための調査対象の選定、研究デザイン及び研究方法の検討とその実施、④収集したデータの分析、⑤学術論文として文書化すること、等が必要となります。
（理論的研究を妨げるものではありませんが、一般に社会人学生の場合、自らのリソースである職場や所属組織を活用できる経験的研究が望ましいと考えています。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
演習は１～3名程度の少人数で個々の学習・進捗状況に合わせて柔軟に実施され、多くは平日夜や土曜日を利用して行われます。指導スタイルは、履修者数、指導教員の方針や方法論、研究テーマ等に応じて様々です。
また、授業方式についても「対面授業」と「オンライン授業（リアルタイム配信型）」を状況に合わせて柔軟に使い分けながら進めていきます。
ただし、4月上旬のプロポーザル発表会と9月頃に行われる秋の中間報告会への参加は全員に義務付けられています。人材・組織マネジメントコースの全教員からアドバイスを受けると同時に、他の学生の進捗を見ることで、多様な視点から研究テーマを掘り下げていく機会となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第15回	中間報告会の振り返り	アドバイス内容に基づく研究計画の改善
第16回	調査実施状況の確認①	調査進捗の報告に基づく基本的フィードバック
第17回	調査実施状況の確認②	研究課題とデータの整合性に関するフィードバック
第18回	調査実施状況の確認③	必要な追加調査や調査項目の修正への助言
第19回	調査結果の検討①	仮分析に基づく結果の批判的検討
第20回	調査結果の検討②	分析結果（発見事実）と先行研究の知見との比較
第21回	調査結果の検討③	分析結果の理論的、実践的貢献とその含意に関する検討
第22回	調査結果の検討④	分析結果の限界と今後の課題に関する検討
第23回	論文執筆の基本的指導①	論文作法の確認、章立てや構成について
第24回	論文執筆の基本的指導②	個別章ごとの議論内容と注意点について
第25回	論文内容の指導①	問題意識と先行研究ならびに研究課題までの展開について
第26回	論文内容の指導②	研究方法と分析結果ならびに考察までの展開について
第27回	論文内容の指導③	全体の整合性の確認および文献表とアブストラクトの確認
第28回	論文の最終チェック	発見事実に関する批判的見直しと論文体裁等全体の最終確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
具体的課題に指示された文献等はもちろんですが、テーマに関連する先行研究や分析方法に関する文献は随時自発的に読み学習を進めること。

【テキスト（教科書）】
履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【参考書】
履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【成績評価の方法と基準】
報告内容、課題対応や進捗状況などの平常点5割、修士論文の評価5割で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
提出期日は年明けすぐであり、一切融通は利きません。したがって、提出一か月前までには初稿完成を目指します。

【学生が準備すべき機器他】
クラス人数分の報告資料。
連絡は主に電子メールを用いますがラインを用いて簡略な連絡も行います。

【Outline (in English)】
Course Outline
Students will learn the basic knowledge and skills of doing research such as posing good questions, reviewing relevant studies and learning appropriate methods. It is students who actually conduct research, and the instructor will advise them to proceed on the right track.
Learning Objectives
The goal of this course is to write a high-quality paper in the field of human-resource and organizational management. In doing so, students will 1) set their own theme, 2) survey, examine and summarize relevant literature, 3) propose research questions and hypotheses, 4) find appropriate research methods, 4) gather and examine data, and 5) summarize the results as an academic paper.
Learning activities outside of classroom
Before/after each class meeting, students will be expected to search and examine relevant literature and materials.
Grading Criteria/Policy
Grading will be based on the quality of the students' class performance (50%) and of the final paper (50%).

MAN600F1 – 0065（経営学 / Management 600）

人材・組織マネジメント演習

戎谷　梓

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人材・組織マネジメントに関する研究の実践を通じて、研究のイロハの学習を目的とします。大学ないし大学院における研究とは、適切な方法に基づいて、ある領域についての知識体系に新しい知見を加えることです。何が新しいかを判断するためには、既存の知識の学習が必要です。研究の前提となる学習や研究活動は、自分自身で行う必要があります。クラスではその指導・アドバイス等を行います。

【到達目標】
「人材・組織マネジメントに関する高水準な修士論文を執筆すること」を到達目標とします。そのためには、①人材・組織マネジメントの観点に即した研究テーマの設定、②研究テーマに関連する先行研究の探索、内容理解、論点整理、および批判的考察に基づく研究課題（問い）の設定と仮説の構築、③研究課題を明らかにするための、あるいは仮説を検証するための調査対象の選定、研究デザイン及び研究方法の検討とその実施、④収集したデータの分析、⑤学術論文として文書化すること、等が必要となります。
（理論的研究を妨げるものではありませんが、一般に社会人学生の場合、自らのリソースである職場や所属組織を活用できる経験的研究が望ましいと考えています。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
演習は１～3名程度の少人数で個々の学習・進捗状況に合わせて柔軟に実施され、多くは平日夜や土曜日を利用して行われます。指導スタイルは、履修者数、指導教員の方針や方法論、研究テーマ等に応じて様々です。
また、授業方式についても「対面授業」と「オンライン授業（リアルタイム配信型）」を状況に合わせて柔軟に使い分けながら進めていきます。
ただし、4月上旬のプロポーザル発表会と9月頃に行われる秋の中間報告会への参加は全員に義務付けられています。人材・組織マネジメントコースの全教員からアドバイスを受けると同時に、他の学生の進捗を見ることで、多様な視点から研究テーマを掘り下げていく機会となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	演習並びに学術研究の性質の理解、進め方、年間計画
第2回	研究計画書の作成指導①	研究リソースや研究関心の確認
第3回	研究計画書の作成指導②	テーマ設定について
第4回	研究計画書の作成指導③	研究方法や研究意義について
第5回	先行研究の検討①	先行研究の渉猟方法
第6回	先行研究の検討②	先行研究の読み方
第7回	先行研究の検討③	先行研究のまとめ方
第8回	先行研究の検討④	先行研究全体の批判的検討と研究課題の特定
第9回	調査方法の検討①	仮説構築とそれに基づく調査対象の検討
第10回	調査方法の検討②	分析枠組みと分析方法に関する検討
第11回	調査方法の検討③	調査の具体的項目に関する検討
第12回	調査方法の検討④	調査実施にあたっての注意事項や調査倫理について
第13回	調査方法の検討⑤	パイロット調査の報告
第14回	コース中間報告会の準備	発表報告資料やプレゼンへの助言

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
具体的課題に指示された文献等はもちろんですが、テーマに関連する先行研究や分析方法に関する文献は随時自発的に読み学習を進めること。

【テキスト（教科書）】
履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【参考書】
履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【成績評価の方法と基準】
報告内容、課題対応や進捗状況などの平常点5割、修士論文の評価5割で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
提出期日は年明けすぐであり、一切融通は利きません。したがって、提出一か月前までには初稿完成を目指します。

【学生が準備すべき機器他】
クラス人数分の報告資料。
連絡等は主に電子メールで行いますが、簡単な連絡などでスマホアプリLINEを用いることがあります。

【Outline (in English)】
Course Outline
Students will learn the basic knowledge and skills of doing research such as posing good questions, reviewing relevant studies and learning appropriate methods. It is students who actually conduct research, and the instructor will advise them to proceed on the right track.
Learning Objectives
The goal of this course is to write a high-quality paper in the field of human-resource and organizational management. In doing so, students will 1) set their own theme, 2) survey, examine and summarize relevant literature, 3) propose research questions and hypotheses, 4) find appropriate research methods, 4) gather and examine data, and 5) summarize the results as an academic paper.
Learning activities outside of classroom
Before/after each class meeting, students will be expected to search and examine relevant literature and materials.
Grading Criteria/Policy
Grading will be based on the quality of the students' class performance (50%) and of the final paper (50%).

MAN600F1 – 0065（経営学 / Management 600）

人材・組織マネジメント演習

戎谷　梓

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人材・組織マネジメントに関する研究の実践を通じて、研究のイロハの学習を目的とします。大学ないし大学院における研究とは、適切な方法に基づいて、ある領域についての知識体系に新しい知見を加えることです。何が新しいかを判断するためには、既存の知識の学習が必要です。研究の前提となる学習や研究活動は、自分自身で行う必要があります。クラスではその指導・アドバイス等を行います。

【到達目標】
「人材・組織マネジメントに関する高水準な修士論文を執筆すること」を到達目標とします。そのためには、①人材・組織マネジメントの観点に即した研究テーマの設定、②研究テーマに関連する先行研究の探索、内容理解、論点整理、および批判的考察に基づく研究課題（問い）の設定と仮説の構築、③研究課題を明らかにするための、あるいは仮説を検証するための調査対象の選定、研究デザイン及び研究方法の検討とその実施、④収集したデータの分析、⑤学術論文として文書化すること、等が必要となります。
（理論的研究を妨げるものではありませんが、一般に社会人学生の場合、自らのリソースである職場や所属組織を活用できる経験的研究が望ましいと考えています。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
演習は１～3名程度の少人数で個々の学習・進捗状況に合わせて柔軟に実施され、多くは平日夜や土曜日を利用して行われます。指導スタイルは、履修者数、指導教員の方針や方法論、研究テーマ等に応じて様々です。
また、授業方式についても「対面授業」と「オンライン授業（リアルタイム配信型）」を状況に合わせて柔軟に使い分けながら進めていきます。
ただし、4月上旬のプロポーザル発表会と9月頃に行われる秋の中間報告会への参加は全員に義務付けられています。人材・組織マネジメントコースの全教員からアドバイスを受けると同時に、他の学生の進捗を見ることで、多様な視点から研究テーマを掘り下げていく機会となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第15回	中間報告会の振り返り	アドバイス内容に基づく研究計画の改善
第16回	調査実施状況の確認①	調査進捗の報告に基づく基本的フィードバック
第17回	調査実施状況の確認②	研究課題とデータの整合性に関するフィードバック
第18回	調査実施状況の確認③	必要な追加調査や調査項目の修正への助言
第19回	調査結果の検討①	仮分析に基づく結果の批判的検討
第20回	調査結果の検討②	分析結果（発見事実）と先行研究の知見との比較
第21回	調査結果の検討③	分析結果の理論的、実践的貢献とその含意に関する検討
第22回	調査結果の検討④	分析結果の限界と今後の課題に関する検討
第23回	論文執筆の基本的指導①	論文作法の確認、章立てや構成について
第24回	論文執筆の基本的指導②	個別章ごとの議論内容と注意点について
第25回	論文内容の指導①	問題意識と先行研究ならびに研究課題までの展開について
第26回	論文内容の指導②	研究方法と分析結果ならびに考察までの展開について
第27回	論文内容の指導③	全体の整合性の確認および文献表とアブストラクトの確認
第28回	論文の最終チェック	発見事実に関する批判的見直しと論文体裁等全体の最終確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
具体的課題に指示された文献等はもちろんですが、テーマに関連する先行研究や分析方法に関する文献は随時自発的に読み学習を進めること。

【テキスト（教科書）】
履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【参考書】
履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【成績評価の方法と基準】
報告内容、課題対応や進捗状況などの平常点5割、修士論文の評価5割で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
提出期日は年明けすぐであり、一切融通は利きません。したがって、提出一か月前までには初稿完成を目指します。

【学生が準備すべき機器他】
クラス人数分の報告資料。
連絡は主に電子メールを用いますがラインを用いて簡略な連絡も行います。

【Outline (in English)】
Course Outline
Students will learn the basic knowledge and skills of doing research such as posing good questions, reviewing relevant studies and learning appropriate methods. It is students who actually conduct research, and the instructor will advise them to proceed on the right track.
Learning Objectives
The goal of this course is to write a high-quality paper in the field of human-resource and organizational management. In doing so, students will 1) set their own theme, 2) survey, examine and summarize relevant literature, 3) propose research questions and hypotheses, 4) find appropriate research methods, 4) gather and examine data, and 5) summarize the results as an academic paper.
Learning activities outside of classroom
Before/after each class meeting, students will be expected to search and examine relevant literature and materials.
Grading Criteria/Policy
Grading will be based on the quality of the students' class performance (50%) and of the final paper (50%).

MAN600F1 – 0065（経営学 / Management 600）

人材・組織マネジメント演習

佐野　嘉秀

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人材・組織マネジメントに関する研究の実践を通じて、研究のイロハの学習を目的とします。大学ないし大学院における研究とは、適切な方法に基づいて、ある領域についての知識体系に新しい知見を加えることです。何が新しいかを判断するためには、既存の知識の学習が必要です。研究の前提となる専門領域や方法論の学習や日々の研究活動は、自分自身で行う必要があります。クラスではそれを前提に論文作成に向けた指導やアドバイス等を行います。

【到達目標】
「人材・組織マネジメントに関する高水準な修士論文を執筆すること」を到達目標とします。そのためには、①人材・組織マネジメントの観点に即した研究テーマの設定、②研究テーマに関連する先行研究の探索、内容理解、論点整理、および批判的考察に基づく研究課題（問い）の設定と仮説の構築、③研究課題を明らかにするための、あるいは仮説を検証するための調査対象の選定、研究デザイン及び研究方法の検討とその実施、④収集したデータの分析、⑤学術論文として文書化すること等が必要となります。（理論的研究を妨げるものではありませんが、一般に社会人学生の場合、自らのリソースである職場や所属組織を活用できる経験的研究が望ましいと考えています。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
演習は１～3名程度の少人数で個々の学習・進捗状況等に応じて実施されます。通常は平日夜や土曜日を利用して行われることが多いです。日程や指導スタイル等は、履修者数、指導教員の方針や方法論、研究テーマ等に応じて様々です。それは授業方式（「対面授業」や「オンライン授業（リアルタイム配信型）」）についても同様です。ただし、4月上旬のプロポーザル発表会と9月頃に行われる秋の中間報告会への参加は全員に義務付けられています。人材・組織マネジメントコースの全教員からアドバイスを受けると同時に、他の学生の進捗を見ることで、多様な視点から研究テーマを掘り下げていく機会となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	演習並びに学術研究の性質の理解、進め方、年間計画等
第2回	研究計画書の作成指導①	研究リソースや研究関心の確認
第3回	研究計画書の作成指導②	テーマ設定について
第4回	研究計画書の作成指導③	研究方法や研究意義について
第5回	先行研究の検討①	先行研究の渉猟方法
第6回	先行研究の検討②	先行研究の読み方
第7回	先行研究の検討③	先行研究のまとめ方
第8回	先行研究の検討④	先行研究全体の批判的検討と研究課題の特定
第9回	調査方法の検討①	仮説構築とそれに基づく調査対象の検討
第10回	調査方法の検討②	分析枠組みと分析方法に関する検討
第11回	調査方法の検討③	調査の具体的項目に関する検討
第12回	調査方法の検討④	調査実施にあたっての注意事項や調査倫理について
第13回	調査方法の検討⑤	パイロット調査の報告
第14回	コース中間報告会の準備	発表報告資料やプレゼンへの助言

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
具体的課題として指示された文献等はもちろんですが、テーマに関連する先行研究や分析方法に関する文献は随時自発的に読み学習を進めること。

【テキスト（教科書）】
履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【参考書】
履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【成績評価の方法と基準】
報告内容、課題対応や進捗状況などの平常点5割、修士論文の評価5割で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
提出期日は年明けすぐであり、この点については一切の融通が利きません。したがって、提出一か月前までに初稿を完成できるような指導を目指します。

【学生が準備すべき機器他】
クラス人数分の報告資料。

【Outline (in English)】
Course Outline
Students will learn the basic knowledge and skills of doing research such as posing good questions, reviewing relevant studies and learning appropriate methods. It is students who actually conduct research, and the instructor will advise them to proceed on the right track.
Learning Objectives
The goal of this course is to write a high-quality paper in the field of human-resource and/or organizational management. In doing so, students will (1) set their own theme, (2) survey, summarize, and examine relevant literature, (3) propose research questions and hypotheses, (4) find appropriate research methods, (5) gather and examine data, and (6) summarize the results as an academic paper.
Learning activities outside of classroom
Before/after each class meeting, students will be expected to search and examine relevant literature and materials.
Grading Criteria/Policy
Grading will be based on the quality of the students' class performance (50%) and of the final paper (50%).

MAN600F1 – 0065（経営学 / Management 600）

人材・組織マネジメント演習

佐野　嘉秀

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人材・組織マネジメントに関する研究の実践を通じて、研究のイロハの学習を目的とします。大学ないし大学院における研究とは、適切な方法に基づいて、ある領域についての知識体系に新しい知見を加えることです。何が新しいかを判断するためには、既存の知識の学習が必要です。研究の前提となる専門領域や方法論の学習や日々の研究活動は、自分自身で行う必要があります。クラスではその指導・アドバイス等を行います。

【到達目標】
「人材・組織マネジメントに関する高水準な修士論文を執筆すること」を到達目標とします。そのためには、①人材・組織マネジメントの観点に即した研究テーマの設定、②研究テーマに関連する先行研究の探索、内容理解、論点整理、および批判的考察に基づく研究課題（問い）の設定と仮説の構築、③研究課題を明らかにするための、あるいは仮説を検証するための調査対象の選定、研究デザイン及び研究方法の検討とその実施、④収集したデータの分析、⑤学術論文として文書化すること等が必要となります。（理論的研究を妨げるものではありませんが、一般に社会人学生の場合、自らのリソースである職場や所属組織を活用できる経験的研究が望ましいと考えています。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
演習は１～3名程度の少人数で個々の学習・進捗状況等に応じて実施されます。通常は平日夜や土曜日を利用して行われることが多いです。指導スタイルは、履修者数、指導教員の方針や方法論、研究テーマ等に応じて様々です。それは授業方式（「対面授業」や「オンライン授業（リアルタイム配信型）」等）においても同様です。
ただし、4月上旬のプロポーザル発表会と9月頃に行われる秋の中間報告会への参加は全員に義務付けられています。指導教員以外からもアドバイスを受けると同時に、他の学生の進捗を見ることで、多様な視点から研究テーマを掘り下げていく機会となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第15回	中間報告会の振り返り	アドバイス内容に基づく研究計画の改善
第16回	調査実施状況の確認①	調査進捗の報告に基づく基本的フィードバック
第17回	調査実施状況の確認②	研究課題とデータの整合性に関するフィードバック
第18回	調査実施状況の確認③	必要な追加調査や調査項目の修正への助言
第19回	調査結果の検討①	仮分析に基づく結果の批判的検討
第20回	調査結果の検討②	分析結果（発見事実）と先行研究の知見との比較
第21回	調査結果の検討③	分析結果の学術的、実践的貢献とその含意に関する検討
第22回	調査結果の検討④	分析結果の限界と今後の課題に関する検討
第23回	論文執筆の基本的指導①	論文作法の確認、章立てや構成について
第24回	論文執筆の基本的指導②	個別章ごとの議論内容と注意点について
第25回	論文内容の指導①	問題意識と先行研究ならびに研究課題までの展開について
第26回	論文内容の指導②	研究方法と分析結果ならびに考察までの展開について
第27回	論文内容の指導③	全体の整合性の確認および文献表とアブストラクトの確認
第28回	論文の最終チェック	発見事実に関する批判的見直しと論文体裁等全体の最終確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
具体的課題として指示された文献等はもちろんですが、テーマに関連する先行研究や分析方法に関する文献は随時自発的に読み学習を進めること。

【テキスト（教科書）】
履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【参考書】
履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【成績評価の方法と基準】
報告内容、課題対応や進捗状況などの平常点5割、修士論文の評価5割で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
提出期日は年明けすぐであり、この点においては一切の融通が利きません。したがって、提出一か月前までには初稿完成を目指すよう指導を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】
クラス人数分の報告資料。

【Outline (in English)】
Course Outline
Students will learn the basic knowledge and skills of doing research such as posing good questions, reviewing relevant studies and learning appropriate methods. It is students who actually conduct research, and the instructor will advise them to proceed on the right track.
Learning Objectives
The goal of this course is to write a high-quality paper in the field of human-resource and/or organizational management. In doing so, students will (1) set their own theme, (2) survey, summarize, and examine relevant literature, (3) propose research questions and hypotheses, (4) find appropriate research methods, (5) gather and examine data, and (6) summarize the results as an academic paper.
Learning activities outside of classroom
Before/after each class meeting, students will be expected to search and examine relevant literature and materials.
Grading Criteria/Policy
Grading will be based on the quality of the students' class performance (50%) and of the final paper (50%).

MAN600F1 – 0065（経営学 / Management 600）

人材・組織マネジメント演習

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

【学生の意見等からの気づき】

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
（Course outline）
（Learning Objectives）
（Learning activities outside of classroom）
（Grading Criteria /Policy）

MAN600F1 − 0065（経営学 / Management 600）

人材・組織マネジメント演習

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

【学生の意見等からの気づき】

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
（Course outline）
（Learning Objectives）
（Learning activities outside of classroom）
（Grading Criteria /Policy）

MAN600F1 – 0065（経営学 / Management 600）

人材・組織マネジメント演習

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

【学生の意見等からの気づき】

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
（Course outline）
（Learning Objectives）
（Learning activities outside of classroom）
（Grading Criteria /Policy）

MAN600F1 – 0065（経営学 / Management 600）

人材・組織マネジメント演習

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

【学生の意見等からの気づき】

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
（Course outline）
（Learning Objectives）
（Learning activities outside of classroom）
（Grading Criteria /Policy）

MAN600F1 – 0065（経営学 / Management 600）

人材・組織マネジメント演習（代表シラバス）

小川　憲彦

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人材・組織マネジメントに関する研究の実践を通じて、研究のイロハの学習を目的とします。大学ないし大学院における研究とは、適切な方法に基づいて、ある領域についての知識体系に新しい知見を加えることです。何が新しいかを判断するためには、既存の知識の学習が必要です。研究の前提となる専門領域や方法論の学習や日々の研究活動は、自分自身で行う必要があります。クラスではそれを前提に論文作成に向けた指導やアドバイス等を行います。

【到達目標】
「人材・組織マネジメントに関する高水準な修士論文を執筆すること」を到達目標とします。そのためには、①人材・組織マネジメントの観点に即した研究テーマの設定、②研究テーマに関連する先行研究の探索、内容理解、論点整理、および批判的考察に基づく研究課題（問い）の設定と仮説の構築、③研究課題を明らかにするための、あるいは仮説を検証するための調査対象の選定、研究デザイン及び研究方法の検討とその実施、④収集したデータの分析、⑤学術論文として文書化すること等が必要となります。（理論的研究を妨げるものではありませんが、一般に社会人学生の場合、自らのリソースである職場や所属組織を活用できる経験的研究が望ましいと考えています。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
演習は１～3名程度の少人数で個々の学習・進捗状況等に応じて実施されます。通常は平日夜や土曜日を利用して行われることが多いです。日程や指導スタイル等は、履修者数、指導教員の方針や方法論、研究テーマ等に応じて様々です。それは授業方式（「対面授業」や「オンライン授業（リアルタイム配信型）」）についても同様です。ただし、4月上旬のプロポーザル発表会と9月頃に行われる秋の中間報告会への参加は全員に義務付けられています。人材・組織マネジメントコースの全教員からアドバイスを受けると同時に、他の学生の進捗を見ることで、多様な視点から研究テーマを掘り下げていく機会となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	演習並びに学術研究の性質の理解、進め方、年間計画等
第2回	研究計画書の作成指導①	研究リソースや研究関心の確認
第3回	研究計画書の作成指導②	テーマ設定について
第4回	研究計画書の作成指導③	研究方法や研究意義について
第5回	先行研究の検討①	先行研究の渉猟方法
第6回	先行研究の検討②	先行研究の読み方
第7回	先行研究の検討③	先行研究のまとめ方
第8回	先行研究の検討④	先行研究全体の批判的検討と研究課題の特定
第9回	調査方法の検討①	仮説構築とそれに基づく調査対象の検討
第10回	調査方法の検討②	分析枠組みと分析方法に関する検討
第11回	調査方法の検討③	調査の具体的項目に関する検討
第12回	調査方法の検討④	調査実施にあたっての注意事項や調査倫理について
第13回	調査方法の検討⑤	パイロット調査の報告
第14回	コース中間報告会の準備	発表報告資料やプレゼンへの助言

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
具体的課題として指示された文献等はもちろんですが、テーマに関連する先行研究や分析方法に関する文献は随時自発的に読み学習を進めること。

【テキスト（教科書）】
履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【参考書】
履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【成績評価の方法と基準】
報告内容、課題対応や進捗状況などの平常点5割、修士論文の評価5割で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
提出期日は年明けすぐであり、この点については一切の融通が利きません。したがって、提出一か月前までに初稿を完成できるような指導を目指します。

【学生が準備すべき機器他】
クラス人数分の報告資料。

【Outline (in English)】
Course Outline
Students will learn the basic knowledge and skills of doing research such as posing good questions, reviewing relevant studies and learning appropriate methods. It is students who actually conduct research, and the instructor will advise them to proceed on the right track.
Learning Objectives
The goal of this course is to write a high-quality paper in the field of human-resource and/or organizational management. In doing so, students will (1) set their own theme, (2) survey, summarize, and examine relevant literature, (3) propose research questions and hypotheses, (4) find appropriate research methods, (5) gather and examine data, and (6) summarize the results as an academic paper.
Learning activities outside of classroom
Before/after each class meeting, students will be expected to search and examine relevant literature and materials.
Grading Criteria/Policy
Grading will be based on the quality of the students' class performance (50%) and of the final paper (50%).

MAN600F1 – 0065（経営学 / Management 600）

人材・組織マネジメント演習（代表シラバス）

小川　憲彦

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人材・組織マネジメントに関する研究の実践を通じて、研究のイロハの学習を目的とします。大学ないし大学院における研究とは、適切な方法に基づいて、ある領域についての知識体系に新しい知見を加えることです。何が新しいかを判断するためには、既存の知識の学習が必要です。研究の前提となる専門領域や方法論の学習や日々の研究活動は、自分自身で行う必要があります。クラスではその指導・アドバイス等を行います。

【到達目標】
「人材・組織マネジメントに関する高水準な修士論文を執筆すること」を到達目標とします。そのためには、①人材・組織マネジメントの観点に即した研究テーマの設定、②研究テーマに関連する先行研究の探索、内容理解、論点整理、および批判的考察に基づく研究課題（問い）の設定と仮説の構築、③研究課題を明らかにするための、あるいは仮説を検証するための調査対象の選定、研究デザイン及び研究方法の検討とその実施、④収集したデータの分析、⑤学術論文として文書化すること等が必要となります。（理論的研究を妨げるものではありませんが、一般に社会人学生の場合、自らのリソースである職場や所属組織を活用できる経験的研究が望ましいと考えています。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
演習は１～3名程度の少人数で個々の学習・進捗状況等に応じて実施されます。通常は平日夜や土曜日を利用して行われることが多いです。指導スタイルは、履修者数、指導教員の方針や方法論、研究テーマ等に応じて様々です。それは授業方式（「対面授業」や「オンライン授業（リアルタイム配信型）」等）においても同様です。
ただし、4月上旬のプロポーザル発表会と9月頃に行われる秋の中間報告会への参加は全員に義務付けられています。指導教員以外からもアドバイスを受けると同時に、他の学生の進捗を見ることで、多様な視点から研究テーマを掘り下げていく機会となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第15回	中間報告会の振り返り	アドバイス内容に基づく研究計画の改善
第16回	調査実施状況の確認①	調査進捗の報告に基づく基本的フィードバック
第17回	調査実施状況の確認②	研究課題とデータの整合性に関するフィードバック
第18回	調査実施状況の確認③	必要な追加調査や調査項目の修正への助言
第19回	調査結果の検討①	仮分析に基づく結果の批判的検討
第20回	調査結果の検討②	分析結果（発見事実）と先行研究の知見との比較
第21回	調査結果の検討③	分析結果の学術的、実践的貢献とその含意に関する検討
第22回	調査結果の検討④	分析結果の限界と今後の課題に関する検討
第23回	論文執筆の基本的指導①	論文作法の確認、章立てや構成について
第24回	論文執筆の基本的指導②	個別章ごとの議論内容と注意点について
第25回	論文内容の指導①	問題意識と先行研究ならびに研究課題までの展開について
第26回	論文内容の指導②	研究方法と分析結果ならびに考察までの展開について
第27回	論文内容の指導③	全体の整合性の確認および文献表とアブストラクトの確認
第28回	論文の最終チェック	発見事実に関する批判的見直しと論文体裁等全体の最終確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
具体的課題として指示された文献等はもちろんですが、テーマに関連する先行研究や分析方法に関する文献は随時自発的に読み学習を進めること。

【テキスト（教科書）】
履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【参考書】
履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【成績評価の方法と基準】
報告内容、課題対応や進捗状況などの平常点5割、修士論文の評価5割で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
提出期日は年明けすぐであり、この点においては一切の融通が利きません。したがって、提出一か月前までには初稿完成を目指すよう指導を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】
クラス人数分の報告資料。

【Outline (in English)】
Course Outline
Students will learn the basic knowledge and skills of doing research such as posing good questions, reviewing relevant studies and learning appropriate methods. It is students who actually conduct research, and the instructor will advise them to proceed on the right track.
Learning Objectives
The goal of this course is to write a high-quality paper in the field of human-resource and/or organizational management. In doing so, students will (1) set their own theme, (2) survey, summarize, and examine relevant literature, (3) propose research questions and hypotheses, (4) find appropriate research methods, (5) gather and examine data, and (6) summarize the results as an academic paper.
Learning activities outside of classroom
Before/after each class meeting, students will be expected to search and examine relevant literature and materials.
Grading Criteria/Policy
Grading will be based on the quality of the students' class performance (50%) and of the final paper (50%).

MAN500F1 – 0067（経営学 / Management 500）

人的資源管理論

佐野　嘉秀

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人的資源管理の基本的な考え方を学ぶとともに、個別の人的資源管理の分野、すなわち雇用区分、社員格付け、採用、教育訓練、配置転換、昇進、人事評価、賃金管理、福利厚生等について、主要な議論を把握する。また、そうした知見にてらして、参加者は、各人の身近にある企業や職場の事例をとりあげ、対応する実態や課題について報告・議論する。これらを通じ、人的資源管理にかかわる理論や議論をふまえて、人事管理の現状や課題について考える力を身につけることを目標としたい。

【到達目標】
①人事管理論の対象領域の広がりと基本的な考え方を知る。②人事管理の個別分野に関する基礎的な理論や議論を理解する。③以上を踏まえ、身近な事例について考察する視点を得る。④人事管理に関連する論文について批判的に検討する視点を得る。⑤修士論文等で研究するテーマについてのヒントを得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
授業時間（月曜6限・7限）に対面ないしリアルタイムのオンライン授業を行います。授業は、①人的資源管理論の基本的な理論・考え方・議論に関する講義と、②参加者による課題文献・事例の報告とディスカッションによる演習を組み合わせて進めます。できるだけ毎回、講義形式の部分に加えて、演習の部分があるようにし、参加者に深く考え、発言してもらう機会を設けます。報告・ディスカッションの準備が課題となります。授業内容に関するおよそのスケジュールは下記（授業計画）のとおりです。ただし、各テーマの授業時間の配分等については、参加者の関心に応じて柔軟に変更する可能性があります。また、順序を適宜、入れ替えることがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション：人的資源管理の考え方と「理論」	人的資源管理の機能と担い手、「伝統的」人事管理と人的資源管理（ＨＲＭ）のちがいや「理論」について学ぶ
第2回	雇用区分の多様化と人材ポートフォリオ	雇用区分の多様化の現状、人材ポートフォリオの理論について理解する
第3回	雇用区分の設計とキャリア管理	異なる雇用区分のあいだの仕事・キャリアの設計、雇用区分間の転換の仕組みについて考える
第4回	社員格付け制度の機能と多様性	社員格付け（等級）制度にもとめられる用件、格付け基準の多様性について理解する
第5回	社員格付け制度の変化と「成果主義」	「能力主義」および「成果主義」のもとでの社員格付け制度の特徴と合理性について考える
第6回	労働市場の変化と採用	採用の前提となる労働市場の変化について理解する、育成（make）か採用（buy）かの選択およびＲＪＰの理考え方について検討する
第7回	人的資源管理のなかの人材育成（ＨＲＤ）	人的資源管理のなかの人材育成の位置づけ、教育訓練の機能、配置転換の人材育成機能について理解する
第8回	人的資源管理の変化と人材育成	「投資」としての教育訓練の性格、変化する人的資源管理のもとでの配置転換・教育訓練について考える
第9回	昇進管理の機能と多様性	昇進の機能、国際的にみた日本の昇進管理の特徴、早期のエリート選抜について考える
第10回	昇進管理の変化と専門職制度	「フラット化」・高齢化のもとでの昇進の課題、専門職制度について検討する
第11回	変化のなかの賃金管理	賃金管理の基礎、「成果主義」化のなかでの賃金管理の特徴、雇用区分間の均衡処遇について考える
第12回	評価制度の課題と福利厚生	人事評価制度の課題のほか、福利厚生に関する近年の変化について考える
第13回	まとめ：人的資源管理の変化とライン・マネジャーの役割	この授業で学んだことを踏まえて、変化する人的資源管理のなかでのラインマネジャーの役割(人事部門との連携関係)について総括的に検討する
第14回	まとめ：人的資源管理の変化と人事部門の役割	この授業で学んだことを踏まえて、変化する人的資源管理のなかでの人事部門の役割(ライン・マネジャーとの連携関係)について総括的に検討する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。各回のテーマに関連する課題の論文を授業内に提示します。受講者は、事前に論文を読んで、論点を把握し、疑問点やコメントを考えて授業にのぞんでください。それをもとに授業内で議論し、テーマに関する理解を深める予定です。また、各回について、1～2名程度の代表者に課題論文についてのレジュメ作成を行ってもらいます。

【テキスト（教科書）】
テキストはとくに設定しません。学習支援システムに掲載するパワーポイント資料（PDF形式にて配布）をもとに授業を進めます。

【参考書】
①日本労働研究雑誌（　http://www.jil.go.jp/institute/zassi/　）
②佐野嘉秀『英国の人事管理・日本の人事管理―日英百貨店の仕事と雇用システム』東京大学出版会
③今野浩一郎・佐藤博樹『人事管理入門』日本経済新聞社

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度（20点）、文献・事例の報告（30点）、議論への貢献（30点）、最終レポート（20点）
授業への参加度、報告の担当回での報告内容のほか、授業内での議論への貢献度を評価します。最終的には、各自の問題関心に即した人的資源管理に関するレポートを提出してもらいます。以上を総合して最終的な評価を判定します。

【学生の意見等からの気づき】
人事管理の基礎に関する体系的な講義編成、学習支援システムによる配布資料の共有、参加者の実務を踏まえたディスカッションなど、高く評価していただいている本授業の良さを大事にしたいと思います。

【その他の重要事項】
授業で利用するパワーポイント資料は、学習支援システムにて事前に入手できるようにします。適宜、プリントアウトするなど、授業時に参照できるようにしてください。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞人的資源管理・産業社会学
＜研究テーマ＞雇用システムの日英比較、就業形態の多様化と人事管理、人事部門とライン管理者の人事管理上の連携 等
＜近年の主な業績（市販書籍のみ）＞
①『英国の人事管理・日本の人事管理－日英百貨店の仕事と雇用システム』東京大学出版会、2021年

②「生産職種の請負・派遣社員の就業意識」佐藤博樹・大木栄一編『人材サービス産業の新しい役割』有斐閣、2014年
③「企業内キャリアと人事管理」上林千恵子編『よくわかる産業社会学』ミネルヴァ書房、2012年
④『実証　日本の人材ビジネス－新しい働き方と人事マネジメント』（共編著）日本経済新聞社、2010年
⑤「非典型雇用の人材活用－非典型雇用の仕事とその割り振り」佐藤博樹編『人事マネジメント』ミネルヴァ書房、2009年
⑥「『成果主義』先進企業の変革」（共著）中村圭介・石田光男（編）『ホワイトカラーの仕事と成果』東洋経済新報社、2005年

【Outline (in English)】
【Course outline】
Our objective is to learn and understand basic human resource management theories and practices. We focus on HRM practices in Japan from comparative perspectives. HRM practices can be understood as a system. We are to focus on each area of HRM system respectively. Wage system, appraisal, recruiting and selection, training and development, internal promotion and welfare are main areas of HRM. Both lecture and discussion is expected. Students are supposed to participate in the discussion actively. Making presentation is also required.
【Learning Objectives】
(1) To understand the breadth of the subject area and basic concepts of human resource management theory. (2) To understand the basic theories and discussions on individual areas of human resource management. (3)To learn how to consider familiar cases based on the above. (4) To learn how to critically review articles related to human resource management. (5) To obtain hints for the theme of research for the master's thesis, etc.
【Learning activities outside of classroom】
A paper on an issue related to the theme of each session will be presented in class. Students are expected to read the papers in advance, understand the issues, and come to class with questions and comments. These will be discussed in class to deepen understanding of the topic. For each session, one or two representatives will be asked to prepare resumes for the assigned papers. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria/Policy】
Participation in class (20 points), reports on literature and case studies (30 points), contribution to discussions (30 points), final report (20 points)
Students will be assessed on their participation in the class, the quality of their reports in the sessions for which they are responsible, and their contribution to the discussions in the class. At the end of the course, students will be asked to submit a report on human resource management that is in line with their own problematic interests. The final evaluation will be based on the above factors.

MAN500F1 – 0069（経営学 / Management 500）

キャリアマネジメント論

小川　憲彦

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
キャリアに関する基本的な考え方・理論を学ぶことを目的とします。理論と受講者自身あるいは他の受講生のキャリア事例とを照らし合わせることで、自身のキャリアの展望を考える機会を提供します。

【到達目標】
授業を終えた段階で受講生に期待するのは以下三点です。
①キャリアに関する主要理論を知っており、それら理論間の関係、発展のあり方を理解している
②個別具体の事例を理論と照らし合わせて、理論の意義や限界を考えることができる
③理論を参照しながら受講生自身のキャリア展望・開発を自律的に考えることができる
Students who complete the course will be expected to:
(1) understand major career theories and explain relationships among them or the developmental process of those theories,
(2) describe theoretical and practical contributions and limitations of each theory by applying the theories to your own and others' concrete career history,
(3) reflect your own career history and think about your future career development proactively.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
クラスの前半では、キャリアに関する諸理論の講義を行います。その中で適宜、課題や課題を踏まえた受講者同士の意見交換・共有の場を設ける予定です。
クラスの後半は、受講者自身のキャリアに関する事例報告とこれに基づく意見交換を行う予定です。
ただし、受講人数によって発表時間や形式は調整されます。授業内容のおおよそのスケジュールは下記の通りですが、進捗状況や参加者人数等によって順序や内容の大幅な変更もありえます。例えばキャリアに関する論文の報告・発表などもあり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義方針や参加ルールの説明、発表順などを決めるので参加は必須です。
2	キャリア論の性質	経営学におけるキャリア論の位置づけについて
3-4	職業の決定①	社会学的職業決定の理論
5-6	職業の決定②	心理学的職業決定の理論
7-9	キャリア発達の理論	ライフサイクル論
10	キャリアの移行期	キャリア・トランジション論
11	キャリア初期	組織社会化、LMX、キャリア・ツリー
12-13	キャリア中期・後期	キャリア・プラトー、プロティアン・キャリア、バウンダリレスネス、エイジング
14	近年のキャリア論	偶発性、構成理論等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ほぼ毎回、その場で記入する課題と、次回までに準備する課題があります。いわゆるレポートも数回予定しています。事前に指示された本や論文（英文を含む）を読んできてもらうこともあります。最大の課題は、各自のキャリアについての発表準備です。受講者数によっては論文を読んだ上で担当者に報告や発表を課すこともあります。
Readings, short reports, and other assignments that include reaction papers may be given before and after each class. In addition, you should give oral presentations on your own career using the materials you prepare (50 to 100 minutes). Depending on the number of participants, the presentation of career-related articles may also be assigned.

【テキスト（教科書）】
特に指定はしません。
Not specified.

【参考書】
Greenhaus,J.H.,Callanan,G.A.,& Goldshalk,V.M.(1999). Career Management 3rd. Orlando,FL: Harcourt.
Gunz,H.&Peiperl,M.eds.(2007). Handbook of Career Studies. Thousand Oaks, California:Sage.
金井壽宏（2002）『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP研究所。
エドガー・H・シャイン(著)・金井壽宏（訳）（2003）『キャリア・アンカー　―自分のほんとうの価値を発見しよう』・『キャリア・サバイバル―職務と役割の戦略的プラニング』白桃書房。

【成績評価の方法と基準】
以下の配分で総合的に評価します。
講義への参加:50点
出席を前提とした発言の頻度、議論への参加度、貢献度、課題の質など
レポート：50点
・担当回における報告内容や資料、準備の度合い、発表や質疑応答の質
・レポートを含むその他の提出物の提出率や質、内容、形式、論理性、期限など
Your overall grade in the class will be decided on (1) attendance, contribution, and attitude in class (50%) and (2) assignments, reports, and the career presentation (50%).

【学生の意見等からの気づき】
スケジュールは昨年度のものであり、受講者数等によって講義内容や方法は変わることがあります。それらを理解したうえで参加して下さい。
また、科目履修生の方等も資料等の配布や連絡に授業支援システムを使いますので必ず登録し、適宜チェックして下さい。その方法は大学院事務で事前に確認しておいて下さい。
システムが使えない場合や緊急連絡は以下にメールしてください。
nogawa■hosei.ac.jp （■を@に変換）

【学生が準備すべき機器他】
対面の場合は、配布用に発表資料など人数分印刷して臨んで下さい。オンラインの場合は事前にメール添付で送ってください。授業支援システム経由で学生に配布されます。

【その他の重要事項】
・履修者は、初回講義での説明内容を踏まえ、これに同意したとみなします（初回講義の参加の有無は加味しませんので各自でフォローして下さい）。
・経営学研究科でのキャリア論という性質上、組織という文脈を前提とした議論が多いため、組織での仕事経験がない方にはあまり適したものではないかもしれません。したがって昼間の学生には適さない可能性があります。それを踏まえて参加して下さい。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
経営管理論、組織行動論
＜研究テーマ＞
組織社会化、組織文化、人材採用等
＜主要研究業績＞

・Norihiko Ogawa, Osato,D. & K.Takahashi (2015) “Criteria for Screening Job Applicants in Japanese Companies: Policy Capturing Approach,”Journal of Academy of Business and Economics,Vol.15 (1), pp.101-109.
・Norihiko Ogawa, Takahashi,K. & D.Osato (2014) “The Empathetic Sorting Technique: Measuring Corporate Culture by Sorting Illustrated Value Statements” Business Studies Journal, Vol.6, pp.81-103.
・小川憲彦(2013)「人材育成方針がもたらす若手従業員への影響」金井壽宏・鈴
木竜太編著『日本のキャリア研究組織人のキャリア・ダイナミクス』白桃書房，第Ⅲ部第6章, 169- 196頁.

【Outline (in English)】
The purpose of this class is to learn career theories and the relationships among theories. You are expected to participate in class discussions actively as well as to reflect your own career using theoretical approaches along with your work-experiences.

MAN500F1 – 0071（経営学 / Management 500）

労働市場論

藤本　真

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業では、日本の労働市場の構造と現状について、制度的なアプローチから解明していきます。ここでいう「制度」とは、政府が法律などを通じて管理しつつ、求人者と求職者そして仲介者ら市場関係者の日々の参加によって作り上げられていく労働力需給調整システムを意味します。
現実の労働市場は、単純なマーケットメカニズムによって構造化されるものでは決してなく、その国・地域の社会・文化や政治・経済が色濃く反映され組み上げられた「制度」から数々の制約を受けつつ、長い経緯を経て形成されてきた社会システムであるからです。具体的には、職業紹介、労働者派遣、求人広告などの「制度（事業システム）」を舞台に、それらの事業マーケット担当者（公的機関の職業相談担当者や人材紹介コンサルタントなど）の目線を加えながら、その市場の構造と規模、法の規制と経緯、需給（求人者と求職者）双方の動向、情報化・国際化・高齢化の影響などについて検討していきます。

【到達目標】
現在、日本も含め、多くの先進諸国において労働市場は、政府の法制度によって管理されています。日本の政府はこれまで、日本の労働市場に対してどう関与してきたのか、そしてその関与によって現在のマーケットがどう動き、経済社会の変化とともに今後どこへ向かおうとしているのか。授業の到達目標は、こうした労働市場に関する洞察力を向上させることにあります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
１．本授業は、対面型授業として、実施します。
２．第１回から第４回までは、この授業の進め方などに関するイントロダクション、ガイダンスと、労働市場および日本の労働市場についての基本的な枠組みに関する講義を実施します。
３．第５回目以降は、日本の労働市場に関わる個別のテーマを取り上げ、そのテーマについての「講義」（６時限目）と「演習」（７時限目）を行ないます。
４．「講義」では、各回のテーマに関連して、これまでの傾向や近年の変化の動向、生じている課題や新たに進められている取り組みについてトピックを整理し、そのテーマに関する基本的な理解の促進を目指します。
５．「演習」では、各回のテーマに関連して、現状と課題及び個人的な問題意識をまとめた参加者作成のレポートの報告に基づき、ディスカッションを行います。
６．授業で取り上げる予定の個別テーマとしては、「授業計画」に挙げたものや、以下のようなものを考えています（「授業計画」には、2023年度の授業で取り上げたテーマとそのテーマに関わるトピックを、取り上げた順に記しています）。今年度の授業で実際に取り上げるテーマと順番については、第２回のガイダンスの際に参加者の皆さんと協議の上、決定します。
＜取り上げる個別テーマの例：「授業計画」に挙げたもの以外＞
〇非正規化の進展と格差対策
〇労働者派遣の現状と課題
〇技術の変化・進化・革新と労働市場
〇副業、「雇用類似の働き方」と労働市場
〇社会保障・社会福祉・所得保障と労働市場
〇新型コロナの感染拡大と労働市場
７．授業期間中、マッチングや採用、労働市場の諸制度に関わる実務者の経験をうかがうことで、日本の労働市場についての理解をより深める機会を設ける予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の目的、取り上げるテーマ、進め方についての説明。
第2回	ガイダンス(６時限目)・労働市場論の基礎①「労働市場とは」(７時限目)	ガイダンス－参加者の問題関心の共有、取り上げるテーマの検討 労働市場論の基礎①－「労働市場」を捉える3つの観点、労働市場の参加者、労働市場の機能
第3回	労働市場論の基礎②「雇用・就業機会と人口、賃金から見た日本の労働市場」	日本における雇用・就業機会、総人口と生産年齢人口、労働供給制約社会、賃金の推移と国際比較
第4回	労働市場論の基礎③「労働市場のセーフティネットと労働市場に関するビジョン・政策」	職業安定行政、雇用保険制度、雇用調整助成金、雇用対策法／雇用対策基本計画、積極的雇用政策、職業紹介・労働者派遣事業の自由化
第5回	日本の労働市場の現状と課題①「高卒・大卒の新卒労働市場と中小企業に対するマッチング支援」	新卒一括採用、就職協定、「就活」と「就活」エリート、エントリーシート、学校紹介制度、1人1社制、「売り手」市場の影響、中小企業の人手不足、中小企業の採用支援（マッチング支援）
第6回	日本の労働市場の現状と課題②「ホワイトカラー労働市場の現状・展望・変化」	中途採用の増加、ミドル層ホワイトカラーの転職、リファラル採用／アルムナイ(alumni)、エンプロイヤビリティ、キャリア自律、職業紹介
第7回	日本の労働市場の現状と課題③「専門職の労働市場と職業能力評価」	様々な専門職のキャリアと労働市場、企業内プロフェッショナル、博士人材、日本の職業資格制度の特徴、技能検定制度
第8回	日本の労働市場の現状と課題④「職業能力開発とキャリア形成を支援するための諸政策・取組み」	「人への投資」、リスキリング、人材開発支援助成制度、教育訓練給付制度、在職者訓練、離職者訓練、求職者支援制度、就職困難者に対する支援、就職氷河期世代の支援
第9回	日本の労働市場の現状と課題⑤「女性就業者をめぐる労働市場」	M字カーブ、マミートラック、パートタイム労働、103万円の壁・130万円の壁、男女間賃金格差、女性の大学進学率、性別職域分離、統計的差別、男女雇用機会均等法、コース別採用、女性活躍推進法、アファーマティブ・アクション、ファミリー・フレンドリー、ワークライフバランス
第10回	日本の労働市場の現状と課題⑥「高齢化する労働市場」	高年齢者雇用安定法、年金制度改革、70歳までの就業確保措置、長澤運輸事件、出向・転籍、早期退職、アウトプレースメント、産業雇用安定センター、シルバー人材センター、NPO／ボランティア、高齢者の能力開発・意識改革
第11回	日本の労働市場の現状と課題⑦「労働市場改革の行方」（ゲストスピーカー講演回）	「働き方改革」、ジョブ型と雇用法制、三位一体の労働市場改革、職業安定法改正、これからの働き方

第12回	日本の労働市場の現状と課題⑧「国際労働力移動に関わる諸制度と課題」	日本国内で働く外国人雇用者の急増、外国人の採用と外国人労働者、日系人出稼ぎ労働者、労働許可制、入国管理制度、在留資格、技能実習制度、特定技能制度
第13回	日本の労働市場の現状と課題⑨「都市の労働市場・地方の労働市場」	都市・地方の労働市場の特徴、マッチング・プロセスの相違、人材サービスの活動状況、地方－都市間の労働移動、転入超過・転出超過
第14回	日本の労働市場の現状と課題⑩「労働市場における「差別」の問題と障がい者の就業支援」	採用差別、賃金差別、昇進・昇格差別、直接差別／間接差別、思想・信条による差別、ダイバーシティ・マネジメント、障がい者差別、雇用率制度、「合理的配慮」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2～3時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義全般を通じての基本テキストは特には指定しません。

【参考書】
毎回、次の回のテーマの参考となる文献・資料等を、提示します。

【成績評価の方法と基準】
１．各回の出席を「授業における学習姿勢」として評価します。
（第2回以降。2点×出席回数）
２．第4回目以降の各回におけるレポートの提出を評価します。
（3点×提出回数）
３．出席、レポート提出に加えて、演習での「レポート報告」を評価します。
（15点×担当教員の指名により授業内で報告した回数）
以上の３つの評価項目において
●「授業における学習姿勢」（上限26点）
●「演習時のレポート全提出」（上限30点）
●３回の「レポート報告」(45点)
を達成すれば、100点に到達するというイメージです。

【学生の意見等からの気づき】
１.「講義」では、日本の労働市場に関わる多種多様なテーマについて、①現状を左右する制度的な枠組み、②各テーマに関わる現象の経済・社会全体における位置付け、③それぞれのテーマに関わる当事者（企業、労働者、政策当局など）の活動・意向を、データに基づきながら、わかりやすく、具体的に説明し、労働市場の問題を立体的・複眼的にとらえるきっかけを提供していきます。
２.「演習」では、「講義」の内容と、参加者のこれまでの経験や関心を踏まえて、日本の労働市場の活性化やよりよいあり方につながる今後の取組みについて、活発に議論していきたいと考えています。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
産業社会学、人的資源管理論
＜研究テーマ＞
①転職・中途採用と能力開発・キャリア形成
②能力開発、労働市場に関する社会的インフラ（公共職業訓練制度、資格・検定制度など）の機能
③中小企業セクターで働く人々の意識とキャリア形成に向けての活動
④環境変化のもとでの日本企業における能力開発活動、キャリア管理
＜主要研究業績＞
（書籍）
○労働政策研究・研修機構編[2012]『中小企業における人材育成・能力開発』(共著),労働政策研究・研修機構.
○梅崎修・池田心豪・藤本真編著[2019]『労働・職場調査ガイドブック』,中央経済社.
○藤本真・田中秀樹・清原悠[2022]『ミドルエイジ層の転職と能力開発・キャリア形成』,労働政策研究・研修機構.
○藤本真・佐野嘉秀編著[2024]『日本企業の能力開発システム』（近刊）,労働政策研究・研修機構.
（論文）
○藤本真[2012]「民間教育訓練プロバイダーにおける教育訓練サービスの改善活動－サービス改善に向けた活動を規定する要因」,日本労働研究雑誌619号.
○藤本真[2018]「「キャリア自律」はどんな企業で進められるのか」,日本労働研究雑誌691号.
○藤本真[2019]「中小企業セクターで働くシニア労働者」,日本政策金融公庫論集44号.
○藤本真[2023]「日本のデジタル関連スキル養成政策の特徴と課題」,日本労働研究雑誌No.754.

【Outline (in English)】
【Outline】
The actual labor market is never structured by a simple market mechanism. It has received numerous constraints from the "institution" that was reflected in the society, culture, politics and economy of the country/region. It is a social system that has been formed over a long process.
In the lesson, we try to understand the structure and current situation of Japanese labor market from an institutional approach. Specifically, with the theme of employment introduction, worker dispatch, matching business, and so on, we will consider the structure and scale of the market, the regulation, and the impact of globalization and aging.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students are expected to understand the followings:
(1) How the Japanese government has been involved in the Japanese labor market to date.
(2) How the labor market is changing as a result of government involvement.
(3)How the Japanese labor market will change with economic and social changes.
【Learning activities outside of classroom)】
Students are required to prepare a short report on the topics to be covered in each class meeting. Your required study time is at least two or three hour for each class meeting.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Short reports : 45% and in class contribution ： 55%

MAN500F1 – 0072（経営学 / Management 500）

労使コミュニケーション論

呉　学殊

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本における労使コミュニケーションの実態と問題点を把握して望ましいあり方を探ってその実践に向けた企業、労働組合、政府のなすべき方向性を具体的に認識する。

【到達目標】
企業の労使コミュニケーションの実態を把握できる思考力を得る。
労使コミュニケーションの経営資源性の内容を把握できる。
労使コミュニケーションを中心に企業、労働組合、国のあり方を的確に認識できる。
社会の望ましいあり方を考える力を得る。
There are 4 goals of this class as follows. The first is to gain the ability to think about the actual state of labor-management communication in a company.
The second is to to understand the contents of management resources in labor-management communication.
The third is to accurately recognize the ideal state of companies, labor unions, and countries. focused on labor-management communication,
The fourth is to gain the ability to think about the desirable way of society.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
基本的に学生は講師の書いた本、論文、報告書を毎回読んで報告して議論する。講師は、論文等の執筆背景等を述べて議論を深めていく。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
授業形式は、オンライン授業(リアルタイム配信型)を予定している。ただし、受講生の要望や状況によって変更する場合がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション（1）	授業の基本的な方針について述べて学生からコメントを頂き方向性を確定する
第2回	オリエンテーション（2）	授業で取り上げる講師の本、論文、報告書について概略的にその内容を紹介する
第3回	日本の労使コミュニケーションの実態・問題点（1）	日本の内部労働市場、国際比較等から労使コミュニケーションの問題点を明らかにする
第4回	日本の労使コミュニケーションの実態・問題点（2）	労働組合の組織率、従業員過半数代表制の問題点を明らかにする
第5回	日本の労使コミュニケーションの方向性（1）	問題点の解決に繋がる法的な措置のあり方を探る
第6回	日本の労使コミュニケーションの方向性（2）	諸外国の法制を紹介しながらより具体的に法的な組織の内容を考える
第7回	労働組合結成と労使関係及び企業経営の変化（1）	労働組合の結成の実態、結成に伴う労使関係の変化を確認する
第8回	労働組合結成と労使関係及び企業経営の変化（2）	労働組合結成効果を考える
第9回	パートタイマーの組織化と意見反映システム（1）	非正規労働者問題の実態と労働組合の組織化実態
第10回	パートタイマーの組織化と意見反映システム（2）	組織化戦略の違いがどう現れてその結果はどのようなものかを学ぶ
第11回	CSRと企業別組合の役割（1）	CSRの内容と動向
第12回	CSRと企業別組合の役割（2）	企業別組合がCSRにおけるどのような役割を果たせるかを学ぶ
第13回	企業グループ連結経営と人事労務管理（1）	個別企業の事例を取り上げて、企業グループ経営の実態を把握する
第14回	企業グループ連結経営と人事労務管理（2）	企業グループ経営に伴う人事労務管理の変化や課題、また、労使関係の変化を学ぶ
第15回	純粋持株会社企業グループの労使関係（1）	4つの純粋持株会社企業グループにおける労使関係の多様性を把握する
第16回	純粋持株会社企業グループの労使関係（2）	4つの純粋持株会社企業グループにおける労使関係の多様性について議論と理解を深める
第17回	企業グループの労使関係の望ましい姿（1）	企業グループの労使関係の望ましい姿の事例を把握する
第18回	企業グループの労使関係の望ましい姿（2）	企業グループの労使関係の望ましい姿についての討論を通じて、その姿の波及可能性を探る
第19回	中小企業の労使コミュニケーション（1）	中小企業の労使コミュニケーションの実態についてアンケート調査結果から学ぶ
第20回	中小企業の労使コミュニケーション（2）	中小企業の労使コミュニケーションの多様性について議論を通じて理解力を高める
第21回	中小企業の労使コミュニケーションの最先進事例（1）	中小企業の労使コミュニケーションの最先進事例の実態を学ぶ
第22回	中小企業の労使コミュニケーションの最先進事例（2）	中小企業の労使コミュニケーションの最先進事例から労使コミュニケーションの経営資源性を理解する
第23回	個別労働紛争の実態と解決（1）	個別労働紛争の実態をヒアリング調査とアンケート調査から理解する
第24回	個別労働紛争の実態と解決（2）	個別労働紛争の解決・予防におけるユニオン・合同労組の役割・意義について討論を通じて理解度を高める
第25回	事例発表（1）	受講生の事例を発表して、労使コミュニケーションの実態、経営資源性、課題等について認識を共有する
第26回	事例発表（2）	受講生の事例を発表して、労使コミュニケーションの実態、経営資源性、課題等について認識を共有する
第27回	労使コミュニケーションの経営資源性（1）	労使コミュニケーションの経営資源性を発揮するために必要な課題を労使関係の実態、法制等の観点から探り、解決への認識を高める
第28回	労使コミュニケーションの経営資源性（2）	労使コミュニケーションの経営資源性を発揮するために想像力を高めて、その実現可能性を目指す

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
翌週に発表する論文等を読むこと

To read the recommended papers for next week's class

【テキスト（教科書）】
呉学殊（2013）『労使関係のフロンティアー労働組合の羅針盤』（増補版）労働政策研究・研修機構、本体定価3500円。
労働政策研究・研修機構（2013）『労使コミュニケーションの経営資源性と課題』労働政策研究・研修機構。

【参考書】
下記、講師の勤め先HP
http://www.jil.go.jp/profile/ohhs.html

【成績評価の方法と基準】
授業発表内容（30％）
授業への貢献度：出席、積極的な発言（30％）
レポート（自分の事例発表をベースにしたもの）（40％）
Content of class presentation (30%)
Contribution to class: Attendance, positive remarks (30%)
Report (based on own case study) (40%)

【学生の意見等からの気づき】
今後自分の職場における労使コミュニケーションの改善と日本の本質的な再生に向けた授業と考えて積極的に参加してほしい。

【学生が準備すべき機器他】
特にない。

【その他の重要事項】
ない。

【労使コミュニケーション論】
＜専門領域＞労使関係論、産業社会学
＜研究テーマ＞労使関係、CSR、労働組合の組織化、企業組織再編
＜主要研究業績＞次のサイトをご参照
http://www.jil.go.jp/profile/ohhs.html

【Outline (in English)】
This class aims to understand the actual conditions and problems of labor-management communication in Japan, and to explore desirable ways and specifically recognize the direction that companies, labor unions and governments should take for practicing.

MAN500F1 – 0073（経営学 / Management 500）

経営組織論

長岡　健

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
組織にとって「変化」は避けることのできない現象である。ビジネス環境の変化、戦略の転換、組織内に発生する硬直化などに伴い、大小さまざまな規模での「組織変革」が絶えず要求されている。
この授業では、「人、集団、組織にどう変革を起こすか」という問題意識を起点として、経営組織のマネジメントに関する諸理論（組織と人間行動に関する理論、協調活動と知識共有に関する理論、組織マネジメントと変革に関する理論）の理解を深め、現実の経営組織における諸問題に対する洞察力と解決力を磨いていくことをめざす。

【到達目標】
（１）組織と人間行動の理論をもとに、経営組織の諸問題を分析し、解決策を提案できる。
（２）協調活動と知識共有の理論をもとに、経営組織の諸問題を分析し、解決策を提案できる。
（３）組織マネジメントと変革の理論をもとに、経営組織の諸問題を分析し、解決策を提案できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
授業では、組織論・組織行動論における概念やアプローチに加え、個人のパフォーマンス向上に関する学習科学の研究成果、認知科学や知識創造論における協調活動と知識共有に関する理論、組織文化に関する組織エスノグラフィー研究の知見、等々を幅広く取り上げ、経営組織のマネジメントに関する諸理論を丹念に読み解くと同時に、現実の経営組織への適用可能性について、多面的かつ批判的な考察を進める。基本的な授業の進め方は以下の通り。

（１）各回のテーマに関する講義：１００分
（２）休憩：１０分
（３）検討課題についてのグループ討議：３０分
（４）グループ討議の結果報告＆全体討議：４５分
（５）教員による総括：２５分

第４・１２回の授業では、実務家向けに書かれた文献を取り上げ、紹介されている組織マネジメントの考え方・方法論の可能性と課題について、批判的に検討する。また、第７・１０回の授業では、ゲスト講師（研究者）を招き、組織マネジメントに関する研究報告を聞いた上で、関連するテーマに関するディスカッションを行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	経営学的な組織分析の視座に関する講義・グループ討議
第2回	職場における学習	熟達化の理論と実践に関する講義・グループ討議
第3回	仕事の「やる気」	動機付けの理論と実践に関する講義・グループ討議
第4回	文献研究①	『他者と働く』（宇田川元一著）に関するグループ討議
第5回	対話の可能性	コミュニケーションの理論と実践に関する講義・グループ討議
第6回	組織の創造的活動	知識創造論とその実践に関する講義・グループ討議
第7回	ゲスト講義①	組織マネジメントの実践的研究に関する検討
第8回	組織のフラット化	組織デザインの理論と実践に関する講義・グループ討議
第9回	組織文化と日本的経営	企業文化論とその実践に関する講義・グループ討議
第10回	ゲスト講義②	組織マネジメントの実践的研究に関する検討
第11回	組織と個人の関係	キャリアの諸理論と実践に関する講義・グループ討議
第12回	文献研究②	『マインドセット』（C. ドゥエック著）に関するグループ討議
第13回	組織学習の可能性	学習棄却の理論と実践に関する講義・グループ討議
第14回	ラップアップ	組織研究におけるフィールド調査の方法論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
（１）第１４回の授業終了後、授業全体を振り返った上で気づきをまとめ、最終レポート（３０００字程度）を作成する。
（２）ゲスト講義①②では、授業内での検討をもとに気づきをまとめ、振り返りレポート（１０００字程度）を作成する。
（３）文献研究①では、事前に課題図書を講読し、個人でレポート（１０００字程度）を作成する。
（４）文献研究②では、事前に数名のグループで課題図書を講読し、以下の項目についてグループ発表を行う。
・課題図書の要約
・興味深かった／現場で役立ちそうな箇所
・課題図書に関する疑問点／問題点
・グループで考察した内容

【テキスト（教科書）】
（１）宇田川元一 『他者と働く：「わかりあえなさ」から始める組織論』 NewsPicksパブリッシング
（２）C. ドゥエック 『マインドセット：「やればできる! 」の研究』 草思社

【参考書】
（１）中原淳ほか 『企業内人材育成入門』 ダイヤモンド社
（２）松尾睦 『経験からの学習』 同文舘出版
（３）中原淳・長岡健 『ダイアローグ 対話する組織』 ダイヤモンド社

【成績評価の方法と基準】
（１）最終レポート：３０％
　【評価基準】議論内容／構成の妥当性/新規性/進歩性/明快性
（２）ゲスト講義に関する振り返りレポート：２０％
　【評価基準】議論内容／構成の妥当性/新規性/進歩性/明快性
（３）文献研究に関する個人レポート：１０％
　【評価基準】要約の正確さ／考察の深さ
（４）文献研究に関するグループ発表：１０％
　【評価基準】要約の正確さ／考察の深さ／提出資料の質
（５）授業への参画度：３０％
　【評価基準】出席頻度／議論での積極性／授業への貢献度

【学生の意見等からの気づき】
今年度はグループ討議を積極的に行っていく。

【学生が準備すべき機器他】
（１）zoomを使ったライブ配信型オンライン授業を受講するための機器と環境は各自で準備する。（詳細については別紙「受講の準備と注意点」を参照すること）
（２）資料配布・課題提出等に「学習支援システム」を利用する。

【その他の重要事項】
（１）オンライン受講の準備については別紙「受講の準備と注意点」を参照すること。

（２）受講者の人数、関心、理解の進度を勘案し、受講者と相談の上で、内容や構成、授業形態、使用するテキスト等を変更する場合がある。

【担当教員の専門分野等】
〈専門領域〉
　組織社会学、経営学習論、質的研究方法論
〈研究テーマ〉
　組織と学習、組織エスノグラフィー、
　創造的なコラボレーションのデザイン
〈主要研究業績〉
　『みんなのアンラーニング論』（単著）
　『ダイアローグ　対話する組織』（共著）
　『企業内人材育成入門』（共著）
　『越境する対話と学び』（共著）
〈ウェブサイト〉
　http://www.tnlab.net/
〈フェイスブック〉
　https://www.facebook.com/takeru.nagaoka.9
〈旧ツイッター〉
　https://twitter.com/TakeruNagaoka
〈学部ゼミ〉
　http://www.tnlab.net/seminar/

【Outline (in English)】
[Course Outline]
In the area of organisation management, “change” is an indispensable phenomenon. In fact, business persons are ceaselessly required to cope with “changes” of various sizes, from a small team level to a large-scale corporate group level, in their organizational lives. Therefore, it can be said that the theme of “organisational change” has practical value in the field of business studies.
In this course, I deliver lectures on a wide range of theories that bring deep insight to understanding of “organisational change”, including those of collaboration in cognitive science, those of knowledge sharing in learning sciences, those of organization cultures in sociology, as well as those of organisation management and organisational behaviour in business studies.

[Learning Objectives]
By discussing the problems of “organisational change” from the perspectives of those theories, and by examining the possibility of putting them into practice, the learners in this course are expected to deepen their understanding of various theories concerning “organisational change”, and to enhance an ability to solve the problems of “change” issues in business organisations.

[Learning Activities outside of Classroom]
The learners in this course are expected to complete the required assignments, as well as to attend the class meetings. The required assignments are the term-end academic essay, short academic essays about 2 guest lectures, a short academic essay about the text book, and the team presentation about the text book.

[Grading Criteria/Policies]
Grading is decided based on term-end academic essay (30%), short academic essays about guest lectures (20%), short academic essay about the text book (10%), team presentation about the text book (10%), and in-class contribution (30%).

MAN600F1 – 0078（経営学 / Management 600）

マーケティング演習

西川　英彦

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習は、流通・マーケティングに関する修士論文作成の研究指導を行うものである。実務の問題意識と、マーケティング理論を融合させ、独自性の高い研究を行い、論文にしていく。

【到達目標】
本演習では、内容的に高度な修士論文を作成し、学会発表できる完成度を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
流通・マーケティングの包括的な領域でテーマが設定され、理論的アプローチから実証的アプローチまで、テーマに即した研究方法で論文を作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	リサーチ・プロポーザルの作成指導①	テーマやスケジュールについての指導
2	リサーチ・プロポーザルの作成指導②	テーマの絞り込み
3	先行研究の検討①	先行研究の渉猟
4	先行研究の検討②	先行研究の整理
5	先行研究の検討③	先行研究の批判的検討
6	研究方法の検討①	研究方法についての指導
7	研究方法の検討②	研究方法の絞り込み
8	中間報告の準備	中間報告準備の指導
9	春季 中間報告会	中間報告会での指導 (日程は前後する可能性あり)
10	調査実施状況の確認①	調査計画やスケジュールについて指導
11	調査実施状況の確認②	調査内容の吟味
12	調査実施状況の確認③	調査実施方法の確認
13	調査実施状況の確認④	調査データの吟味
14	調査実施状況の確認⑤	調査データの分析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献探索やデータ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、報告書作成、データ分析、執筆活動は、各自授業外で行うこと。

【テキスト（教科書）】
適宜紹介する。

【参考書】
指導教員からの指示に従うこと。

【成績評価の方法と基準】
評価の項目は修士論文としての学術的説得力、実務への貢献、論理的一貫性である。論文の完成度の評価が 60%、演習への取り組み姿勢や努力 (平常点) を 40%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
スケジュール管理に留意する。

【Outline (in English)】
This seminar aims to complete the master thesis. Fusing practical research question with marketing theory is required for this aim.

MAN600F1 – 0078（経営学 / Management 600）

マーケティング演習

西川　英彦

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習は、流通・マーケティングに関する修士論文作成の研究指導を行うものである。実務の問題意識と、マーケティング理論を融合させ、独自性の高い研究を行い、論文にしていく。

【到達目標】
本演習では、内容的に高度な修士論文を作成し、学会発表できる完成度を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
流通・マーケティングの包括的な領域でテーマが設定され、理論的アプローチから実証的アプローチまで、テーマに即した研究方法で論文を作成する。
研究内容ついては，各回の授業での受講生の報告へ指導教員がフィードバックを行うと同時に，年2回の中間報告会で指導教員以外からもフィードバックを行う。
授業形式（対面，オンライン授業等）は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	研究課題の再確認	研究課題やスケジュールについての指導
2	調査実施状況の確認①	調査データの吟味
3	調査実施状況の確認②	調査データの分析
4	調査実施状況の確認③	分析結果の解釈
5	調査実施状況の確認④	理論的意義の検討
6	調査実施状況の確認⑤	実践的意義の検討
7	調査実施状況の確認⑥	限界と展望の確認
8	中間報告の準備	中間報告準備の指導
9	秋季 中間報告会	中間報告会での指導（日程は前後する可能性あり）
10	論文執筆指導①	全体構成の再確認
11	論文執筆指導②	レビューパートの指導
12	論文執筆指導③	分析枠組み・方法論パートの指導
13	論文執筆指導④	分析パートの指導
14	論文執筆指導⑤	論文全体の整合性の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献探索やデータ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、報告書作成、データ分析、執筆活動は、各自授業外で行うこと。毎週最低でも4-5時間必要になる。

【テキスト（教科書）】
適宜紹介する。

【参考書】
指導教員からの指示に従うこと。

【成績評価の方法と基準】
評価の項目は修士論文としての学術的説得力、実務への貢献、論理的一貫性である。論文の完成度の評価が60%、演習への取り組み姿勢や努力(平常点）を40%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
スケジュール管理に留意する。

【Outline (in English)】
【Outline & Objectives】This seminar aims to complete master theses regarding topics of marketing and distribution. Students pursue original research by fusing their own practical awareness of the issues and marketing theory.
【Learning activities outside of classroom】Data collection, data analysis and previous studies survey, etc. Students have to study at least four or five hours per week.
【Grading Criteria /Policy】The evaluation items are academic ability to persuade, practical contribution and logical consistency, etc. The grade is calculated by the completeness of a final paper(60%) and the attitude toward the class(40%).

MAN600F1 – 0078（経営学 / Management 600）

マーケティング演習

田路　則子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習は、流通・マーケティングに関する修士論文作成の研究指導を行うものである。実務の問題意識と、マーケティング理論を融合させ、独自性の高い研究を行い、論文にしていく。

【到達目標】
本演習では、内容的に高度な修士論文を作成し、学会発表できる完成度を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
流通・マーケティングの包括的な領域でテーマが設定され、理論的アプローチから実証的アプローチまで、テーマに即した研究方法で論文を作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	リサーチ・プロポーザルの作成指導①	テーマやスケジュールについての指導
2	リサーチ・プロポーザルの作成指導②	テーマの絞り込み
3	先行研究の検討①	先行研究の渉猟
4	先行研究の検討②	先行研究の整理
5	先行研究の検討③	先行研究の批判的検討
6	研究方法の検討①	研究方法についての指導
7	研究方法の検討②	研究方法の絞り込み
8	中間報告の準備	中間報告準備の指導
9	春季 中間報告会	中間報告会での指導 (日程は前後する可能性あり)
10	調査実施状況の確認①	調査計画やスケジュールについて指導
11	調査実施状況の確認②	調査内容の吟味
12	調査実施状況の確認③	調査実施方法の確認
13	調査実施状況の確認④	調査データの吟味
14	調査実施状況の確認⑤	調査データの分析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献探索やデータ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、報告書作成、データ分析、執筆活動は、各自授業外で行うこと。

【テキスト（教科書）】
適宜紹介する。

【参考書】
指導教員からの指示に従うこと。

【成績評価の方法と基準】
評価の項目は修士論文としての学術的説得力、実務への貢献、論理的一貫性である。論文の完成度の評価が 60%、演習への取り組み姿勢や努力 (平常点) を 40%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
スケジュール管理に留意する。

【Outline (in English)】
This seminar aims to complete the master thesis. Fusing practical research question with marketing theory is required for this aim.

MAN600F1 – 0078（経営学 / Management 600）

マーケティング演習

田路　則子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習は、流通・マーケティングに関する修士論文作成の研究指導を行うものである。実務の問題意識と、マーケティング理論を融合させ、独自性の高い研究を行い、論文にしていく。

【到達目標】
本演習では、内容的に高度な修士論文を作成し、学会発表できる完成度を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
流通・マーケティングの包括的な領域でテーマが設定され、理論的アプローチから実証的アプローチまで、テーマに即した研究方法で論文を作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	リサーチ・プロポーザルの作成指導①	テーマやスケジュールについての指導
2	リサーチ・プロポーザルの作成指導②	テーマの絞り込み
3	先行研究の検討①	先行研究の渉猟
4	先行研究の検討②	先行研究の整理
5	先行研究の検討③	先行研究の批判的検討
6	研究方法の検討①	研究方法についての指導
7	研究方法の検討②	研究方法の絞り込み
8	中間報告の準備	中間報告準備の指導
9	秋学期中間報告会	中間報告会での指導 (日程は前後する可能性あり)
10	調査実施状況の確認①	調査計画やスケジュールについて指導
11	調査実施状況の確認②	調査内容の吟味
12	調査実施状況の確認③	調査実施方法の確認
13	調査実施状況の確認④	調査データの吟味
14	調査実施状況の確認⑤	調査データの分析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献探索やデータ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、報告書作成、データ分析、執筆活動は、各自授業外で行うこと。

【テキスト（教科書）】
適宜紹介する。

【参考書】
指導教員からの指示に従うこと。

【成績評価の方法と基準】
評価の項目は修士論文としての学術的説得力、実務への貢献、論理的一貫性である。論文の完成度の評価が 60%、演習への取り組み姿勢や努力 (平常点) を 40%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
スケジュール管理に留意する。

【Outline (in English)】
This seminar aims to complete the master thesis. Fusing practical research question with marketing theory is required for this aim.

MAN600F1 – 0078（経営学 / Management 600）

マーケティング演習

木村　純子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習は、流通・マーケティングに関する修士論文作成の研究指導を行うものである。実務の問題意識と、マーケティング理論を融合させ、独自性の高い研究を行い、論文にしていく。

【到達目標】
本演習では、内容的に高度な修士論文を作成し、学会発表できる完成度を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
流通・マーケティングの包括的な領域でテーマが設定され、理論的アプローチから実証的アプローチまで、テーマに即した研究方法で論文を作成する。
研究内容ついては，各回の授業での受講生の報告へ指導教員がフィードバックを行うと同時に，年2回の中間報告会で指導教員以外からもフィードバックを行う。
授業形式（対面，オンライン授業等）は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	研究課題の再確認	研究課題やスケジュールについての指導
2	調査実施状況の確認①	調査データの吟味
3	調査実施状況の確認②	調査データの分析
4	調査実施状況の確認③	分析結果の解釈
5	調査実施状況の確認④	理論的意義の検討
6	調査実施状況の確認⑤	実践的意義の検討
7	調査実施状況の確認⑥	限界と展望の確認
8	中間報告の準備	中間報告準備の指導
9	中間報告会	中間報告会での指導（日程は前後する可能性あり）
10	論文執筆指導①	全体構成の再確認
11	論文執筆指導②	レビューパートの指導
12	論文執筆指導③	分析枠組み・方法論パートの指導
13	論文執筆指導④	分析パートの指導
14	論文執筆指導⑤	論文全体の整合性の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献探索やデータ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、報告書作成、データ分析、執筆活動は、各自授業外で行うこと。毎週最低でも4-5時間必要になる。

【テキスト（教科書）】
適宜紹介する。

【参考書】
指導教員からの指示に従うこと。

【成績評価の方法と基準】
評価の項目は修士論文としての学術的説得力、実務への貢献、論理的一貫性である。
論文の完成度の評価が60%、演習への取り組み姿勢や努力(平常点)を40%で評価する

【学生の意見等からの気づき】
スケジュール管理に留意する。

【Outline (in English)】
【Outline & Objectives】This seminar aims to complete master theses regarding topics of marketing and distribution. Students pursue original research by fusing their own practical awareness of the issues and marketing theory.
【Learning activities outside of classroom】Data collection, data analysis and previous studies survey, etc. Students have to study at least four or five hours per week.
【Grading Criteria /Policy】The evaluation items are academic ability to persuade, practical contribution and logical consistency, etc. The grade is calculated by the completeness of a final paper(60%) and the attitude toward the class(40%).

MAN600F1 – 0078（経営学 / Management 600）

マーケティング演習

木村　純子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習は、流通・マーケティングに関する修士論文作成の研究指導を行うものである。実務の問題意識と、マーケティング理論を融合させ、独自性の高い研究を行い、論文にしていく。

【到達目標】
本演習では、内容的に高度な修士論文を作成し、学会発表できる完成度を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
流通・マーケティングの包括的な領域でテーマが設定され、理論的アプローチから実証的アプローチまで、テーマに即した研究方法で論文を作成する。
研究内容ついては，各回の授業での受講生の報告へ指導教員がフィードバックを行うと同時に，年2回の中間報告会で指導教員以外からもフィードバックを行う。
授業形式（対面，オンライン授業等）は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	研究課題の再確認	研究課題やスケジュールについての指導
2	調査実施状況の確認①	調査データの吟味
3	調査実施状況の確認②	調査データの分析
4	調査実施状況の確認③	分析結果の解釈
5	調査実施状況の確認④	理論的意義の検討
6	調査実施状況の確認⑤	実践的意義の検討
7	調査実施状況の確認⑥	限界と展望の確認
8	中間報告の準備	中間報告準備の指導
9	秋季 中間報告会	中間報告会での指導（日程は前後する可能性あり）
10	論文執筆指導①	全体構成の再確認
11	論文執筆指導②	レビューパートの指導
12	論文執筆指導③	分析枠組み・方法論パートの指導
13	論文執筆指導④	分析パートの指導
14	論文執筆指導⑤	論文全体の整合性の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献探索やデータ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、報告書作成、データ分析、執筆活動は、各自授業外で行うこと。毎週最低でも4-5時間必要になる。

【テキスト（教科書）】
適宜紹介する。

【参考書】
指導教員からの指示に従うこと。

【成績評価の方法と基準】
評価の項目は修士論文としての学術的説得力、実務への貢献、論理的一貫性である。論文の完成度の評価が60%、演習への取り組み姿勢や努力(平常点）を40%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
スケジュール管理に留意する。

【その他の重要事項】
担当教員は、メーカーのマーケティング本部広告制作部と広告会社の戦略プランニング室に計20年間勤務した経験を有しており、その実務経験と学術的課題を融合させ、独自性の高い研究指導を行う。

【Outline (in English)】
【Outline & Objectives】This seminar aims to complete the master thesis regarding topics of marketing and distribution. Students pursue original research by fusing their own practical awareness of the issues and marketing theory.
【Learning activities outside of classroom】Data collection, data analysis and previous studies survey, etc. Students have to study at least four or five hours per week.
【Grading Criteria /Policy】The evaluation items are academic ability to persuade, practical contribution and logical consistency, etc. The grade is calculated by the completeness of a final paper(60%) and the attitude toward the class(40%).

MAN600F1 – 0078（経営学 / Management 600）

マーケティング演習

横山　斉理

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習は、流通・マーケティングに関する修士論文作成の研究指導を行うものである。実務の問題意識と、マーケティング理論を融合させ、独自性の高い研究を行い、論文にしていく。

【到達目標】
本演習では、内容的に高度な修士論文を作成し、学会発表できる完成度を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
流通・マーケティングの包括的な領域でテーマが設定され、理論的アプローチから実証的アプローチまで、テーマに即した研究方法で論文を作成する。
研究内容ついては，各回の授業での受講生の報告へ指導教員がフィードバックを行うと同時に，年2回の中間報告会で指導教員以外からもフィードバックを行う。
授業形式（対面，オンライン授業等）は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	研究課題の再確認	研究課題やスケジュールについての指導
2	調査実施状況の確認①	調査データの吟味
3	調査実施状況の確認②	調査データの分析
4	調査実施状況の確認③	分析結果の解釈
5	調査実施状況の確認④	理論的意義の検討
6	調査実施状況の確認⑤	実践的意義の検討
7	調査実施状況の確認⑥	限界と展望の確認
8	中間報告の準備	中間報告準備の指導
9	中間報告会	中間報告会での指導（日程は前後する可能性あり）
10	論文執筆指導①	全体構成の再確認
11	論文執筆指導②	レビューパートの指導
12	論文執筆指導③	分析枠組み・方法論パートの指導
13	論文執筆指導④	分析パートの指導
14	論文執筆指導⑤	論文全体の整合性の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献探索やデータ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、報告書作成、データ分析、執筆活動は、各自授業外で行うこと。毎週最低でも4-5時間必要になる。

【テキスト（教科書）】
適宜紹介する。

【参考書】
指導教員からの指示に従うこと。

【成績評価の方法と基準】
評価の項目は修士論文としての学術的説得力、実務への貢献、論理的一貫性である。論文の完成度の評価が60%、演習への取り組み姿勢や努力(平常点）を40%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
スケジュール管理に留意する。

【Outline (in English)】
【Outline & Objectives】
This seminar aims to complete master theses regarding topics of marketing and distribution. Students pursue original research by fusing their own practical awareness of the issues and marketing theory.
【Learning activities outside of classroom】
Data collection, data analysis and previous studies survey, etc. Students have to study at least four or five hours per week.
【Grading Criteria /Policy】
The evaluation items are academic ability to persuade, practical contribution and logical consistency, etc. The grade is calculated by the completeness of a final paper(60%) and the attitude toward the class(40%).

MAN600F1 – 0078（経営学 / Management 600）

マーケティング演習

横山　斉理

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習は、流通・マーケティングに関する修士論文作成の研究指導を行うものである。実務の問題意識と、マーケティング理論を融合させ、独自性の高い研究を行い、論文にしていく。

【到達目標】
本演習では、内容的に高度な修士論文を作成し、学会発表できる完成度を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
流通・マーケティングの包括的な領域でテーマが設定され、理論的アプローチから実証的アプローチまで、テーマに即した研究方法で論文を作成する。
研究内容ついては，各回の授業での受講生の報告へ指導教員がフィードバックを行うと同時に，年2回の中間報告会で指導教員以外からもフィードバックを行う。
授業形式（対面，オンライン授業等）は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	研究課題の再確認	研究課題やスケジュールについての指導
2	調査実施状況の確認①	調査データの吟味
3	調査実施状況の確認②	調査データの分析
4	調査実施状況の確認③	分析結果の解釈
5	調査実施状況の確認④	理論的意義の検討
6	調査実施状況の確認⑤	実践的意義の検討
7	調査実施状況の確認⑥	限界と展望の確認
8	中間報告の準備	中間報告準備の指導
9	秋季 中間報告会	中間報告会での指導（日程は前後する可能性あり）
10	論文執筆指導①	全体構成の再確認
11	論文執筆指導②	レビューパートの指導
12	論文執筆指導③	分析枠組み・方法論パートの指導
13	論文執筆指導④	分析パートの指導
14	論文執筆指導⑤	論文全体の整合性の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献探索やデータ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、報告書作成、データ分析、執筆活動は、各自授業外で行うこと。毎週最低でも4-5時間必要になる。

【テキスト（教科書）】
適宜紹介する。

【参考書】
指導教員からの指示に従うこと。

【成績評価の方法と基準】
評価の項目は修士論文としての学術的説得力、実務への貢献、論理的一貫性である。論文の完成度の評価が60%、演習への取り組み姿勢や努力 (平常点) を 40%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
スケジュール管理に留意する。

【Outline (in English)】
【Outline & Objectives】
This seminar aims to complete master theses regarding topics of marketing and distribution. Students pursue original research by fusing own practical awareness of the issues and marketing theory.
【Learning activities outside of classroom】
Data collection, data analysis and previous studies survey, etc. Students have to study at least 4 or 5 hours per week.
【Grading Criteria /Policy】
The evaluation items are academic ability to persuade, practical contribution and logical consistency, etc. The grade is calculated by the completeness of a final paper(60%) and the attitude toward the class(40%).

MAN600F1 – 0078（経営学 / Management 600）

マーケティング演習

長谷川　翔平

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習は、流通・マーケティングに関する修士論文作成の研究指導を行うものである。実務の問題意識と、マーケティング理論を融合させ、独自性の高い研究を行い、論文にしていく。

【到達目標】
本演習では、内容的に高度な修士論文を作成し、学会発表できる完成度を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
流通・マーケティングの包括的な領域でテーマが設定され、理論的アプローチから実証的アプローチまで、テーマに即した研究方法で論文を作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	リサーチ・プロポーザルの作成指導①	テーマやスケジュールについての指導
2	リサーチ・プロポーザルの作成指導②	テーマの絞り込み
3	先行研究の検討①	先行研究の渉猟
4	先行研究の検討②	先行研究の整理
5	先行研究の検討③	先行研究の批判的検討
6	研究方法の検討①	研究方法についての指導
7	研究方法の検討②	研究方法の絞り込み
8	中間報告の準備	中間報告準備の指導
9	春季 中間報告会	中間報告会での指導 (日程は前後する可能性あり)
10	調査実施状況の確認①	調査計画やスケジュールについて指導
11	調査実施状況の確認②	調査内容の吟味
12	調査実施状況の確認③	調査実施方法の確認
13	調査実施状況の確認④	調査データの吟味
14	調査実施状況の確認⑤	調査データの分析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献探索やデータ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、報告書作成、データ分析、執筆活動は、各自授業外で行うこと。

【テキスト（教科書）】
適宜紹介する。

【参考書】
指導教員からの指示に従うこと。

【成績評価の方法と基準】
評価の項目は修士論文としての学術的説得力、実務への貢献、論理的一貫性である。論文の完成度の評価が 60%、演習への取り組み姿勢や努力 (平常点) を 40%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
スケジュール管理に留意する。

【Outline (in English)】
This seminar aims to complete the master thesis. Fusing practical research question with marketing theory is required for this aim.

MAN600F1 – 0078（経営学 / Management 600）

マーケティング演習

長谷川　翔平

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習は、流通・マーケティングに関する修士論文作成の研究指導を行うものである。実務の問題意識と、マーケティング理論を融合させ、独自性の高い研究を行い、論文にしていく。

【到達目標】
本演習では、内容的に高度な修士論文を作成し、学会発表できる完成度を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
流通・マーケティングの包括的な領域でテーマが設定され、理論的アプローチから実証的アプローチまで、テーマに即した研究方法で論文を作成する。
研究内容ついては，各回の授業での受講生の報告へ指導教員がフィードバックを行うと同時に，年2回の中間報告会で指導教員以外からもフィードバックを行う。
授業形式（対面，オンライン授業等）は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	研究課題の再確認	研究課題やスケジュールについての指導
2	調査実施状況の確認①	調査データの吟味
3	調査実施状況の確認②	調査データの分析
4	調査実施状況の確認③	分析結果の解釈
5	調査実施状況の確認④	理論的意義の検討
6	調査実施状況の確認⑤	実践的意義の検討
7	調査実施状況の確認⑥	限界と展望の確認
8	中間報告の準備	中間報告準備の指導
9	秋季 中間報告会	中間報告会での指導（日程は前後する可能性あり）
10	論文執筆指導①	全体構成の再確認
11	論文執筆指導②	レビューパートの指導
12	論文執筆指導③	分析枠組み・方法論パートの指導
13	論文執筆指導④	分析パートの指導
14	論文執筆指導⑤	論文全体の整合性の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献探索やデータ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、報告書作成、データ分析、執筆活動は、各自授業外で行うこと。毎週最低でも4-5時間必要になる。

【テキスト（教科書）】
適宜紹介する。

【参考書】
指導教員からの指示に従うこと。

【成績評価の方法と基準】
評価の項目は修士論文としての学術的説得力、実務への貢献、論理的一貫性である。論文の完成度の評価が60%、演習への取り組み姿勢や努力(平常点）を40%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
スケジュール管理に留意する。

【Outline (in English)】
【Outline & Objectives】This seminar aims to complete master theses regarding topics of marketing and distribution. Students pursue original research by fusing their own practical awareness of the issues and marketing theory.
【Learning activities outside of classroom】Data collection, data analysis and previous studies survey, etc. Students have to study at least four or five hours per week.
【Grading Criteria /Policy】The evaluation items are academic ability to persuade, practical contribution and logical consistency, etc. The grade is calculated by the completeness of a final paper(60%) and the attitude toward the class(40%).

MAN600F1 – 0078（経営学 / Management 600）

マーケティング演習

新倉　貴士

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習は、流通・マーケティングに関する修士論文作成の研究指導を行うものである。実務の問題意識と、マーケティング理論を融合させ、独自性の高い研究を行い、論文にしていく。

【到達目標】
本演習では、内容的に高度な修士論文を作成し、学会発表できる完成度を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
流通・マーケティングの包括的な領域でテーマが設定され、理論的アプローチから実証的アプローチまで、テーマに即した研究方法で論文を作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	リサーチ・プロポーザルの作成指導①	テーマやスケジュールについての指導
2	リサーチ・プロポーザルの作成指導②	テーマの絞り込み
3	先行研究の検討①	先行研究の渉猟
4	先行研究の検討②	先行研究の整理
5	先行研究の検討③	先行研究の批判的検討
6	研究方法の検討①	研究方法についての指導
7	研究方法の検討②	研究方法の絞り込み
8	中間報告の準備	中間報告準備の指導
9	春季 中間報告会	中間報告会での指導 (日程は前後する可能性あり)
10	調査実施状況の確認①	調査計画やスケジュールについて指導
11	調査実施状況の確認②	調査内容の吟味
12	調査実施状況の確認③	調査実施方法の確認
13	調査実施状況の確認④	調査データの吟味
14	調査実施状況の確認⑤	調査データの分析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献探索やデータ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、報告書作成、データ分析、執筆活動は、各自授業外で行うこと。

【テキスト（教科書）】
適宜紹介する。

【参考書】
指導教員からの指示に従うこと。

【成績評価の方法と基準】
評価の項目は修士論文としての学術的説得力、実務への貢献、論理的一貫性である。論文の完成度の評価が 60%、演習への取り組み姿勢や努力 (平常点) を 40%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
スケジュール管理に留意する。

【Outline (in English)】
This seminar aims to complete the master thesis. Fusing practical research question with marketing theory is required for this aim.

MAN600F1 − 0078（経営学 / Management 600）

マーケティング演習

新倉　貴士

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習は、流通・マーケティングに関する修士論文作成の研究指導を行うものである。実務の問題意識と、マーケティング理論を融合させ、独自性の高い研究を行い、論文にしていく。

【到達目標】
本演習では、内容的に高度な修士論文を作成し、学会発表できる完成度を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
流通・マーケティングの包括的な領域でテーマが設定され、理論的アプローチから実証的アプローチまで、テーマに即した研究方法で論文を作成する。
研究内容ついては，各回の授業での受講生の報告へ指導教員がフィードバックを行うと同時に，年2回の中間報告会で指導教員以外からもフィードバックを行う。
授業形式（対面，オンライン授業等）は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	研究課題の再確認	研究課題やスケジュールについての指導
2	調査実施状況の確認①	調査データの吟味
3	調査実施状況の確認②	調査データの分析
4	調査実施状況の確認③	分析結果の解釈
5	調査実施状況の確認④	理論的意義の検討
6	調査実施状況の確認⑤	実践的意義の検討
7	調査実施状況の確認⑥	限界と展望の確認
8	中間報告の準備	中間報告準備の指導
9	秋季 中間報告会	中間報告会での指導（日程は前後する可能性あり）
10	論文執筆指導①	全体構成の再確認
11	論文執筆指導②	レビューパートの指導
12	論文執筆指導③	分析枠組み・方法論パートの指導
13	論文執筆指導④	分析パートの指導
14	論文執筆指導⑤	論文全体の整合性の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献探索やデータ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、報告書作成、データ分析、執筆活動は、各自授業外で行うこと。毎週最低でも4-5時間必要になる。

【テキスト（教科書）】
適宜紹介する。

【参考書】
指導教員からの指示に従うこと。

【成績評価の方法と基準】
評価の項目は修士論文としての学術的説得力、実務への貢献、論理的一貫性である。論文の完成度の評価が60%、演習への取り組み姿勢や努力(平常点）を40%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
スケジュール管理に留意する。

【Outline (in English)】
【Outline & Objectives】This seminar aims to complete master theses regarding topics of marketing and distribution. Students pursue original research by fusing their own practical awareness of the issues and marketing theory.
【Learning activities outside of classroom】Data collection, data analysis and previous studies survey, etc. Students have to study at least four or five hours per week.
【Grading Criteria /Policy】The evaluation items are academic ability to persuade, practical contribution and logical consistency, etc. The grade is calculated by the completeness of a final paper(60%) and the attitude toward the class(40%).

MAN600F1 – 0078（経営学 / Management 600）

マーケティング演習

竹内　淑恵

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習は、流通・マーケティングに関する修士論文作成の研究指導を行うものである。実務の問題意識と、マーケティング理論を融合させ、独自性の高い研究を行い、論文にしていく。

【到達目標】
本演習では、内容的に高度な修士論文を作成し、学会発表できる完成度を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
流通・マーケティングの包括的な領域でテーマが設定され、理論的アプローチから実証的アプローチまで、テーマに即した研究方法で論文を作成する。
研究内容ついては，各回の授業での受講生の報告へ指導教員がフィードバックを行うと同時に，年2回の中間報告会で指導教員以外からもフィードバックを行う。
授業形式（対面，オンライン授業等）は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	リサーチ・プロポーザルの作成指導①	テーマやスケジュールについての指導
2	リサーチ・プロポーザルの作成指導②	テーマの絞り込み
3	先行研究の検討①	先行研究の渉猟
4	先行研究の検討②	先行研究の整理
5	先行研究の検討③	先行研究の批判的検討
6	研究方法の検討①	研究方法についての指導
7	研究方法の検討②	研究方法の絞り込み
8	中間報告の準備	中間報告準備の指導
9	春季 中間報告会	中間報告会での指導 (日程は前後する可能性あり)
10	調査実施状況の確認①	調査計画やスケジュールについて指導
11	調査実施状況の確認②	調査内容の吟味
12	調査実施状況の確認③	調査実施方法の確認
13	調査実施状況の確認④	調査データの吟味
14	調査実施状況の確認⑤	調査データの分析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献探索やデータ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、報告書作成、データ分析、執筆活動は、各自授業外で行うこと。毎週最低でも4-5 時間必要になる。

【テキスト（教科書）】
適宜紹介する。

【参考書】
指導教員からの指示に従うこと。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、修士論文としての学術的説得力、実務への貢献、論理的一貫性等で行う。最終的には論文としての完成度60%、演習への取り組み姿勢や努力(平常点)40%にて評価することになるが、春学期の成績については演習への取り組み姿勢や努力(平常点)で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
スケジュール管理に留意する。

【Outline (in English)】
【Outline & Objectives】This seminar aims to complete master theses regarding topics of marketing and distribution. Students pursue original research by fusing their own practical awareness of the issues and marketing theory.
【Learning activities outside of classroom】Data collection, data analysis and previous studies survey, etc. Students have to study at least four or five hours per week.
【Grading Criteria /Policy】The evaluation items are academic ability to persuade, practical contribution and logical consistency, etc. The grade is calculated by the completeness of a final paper(60%) and the attitude toward the class(40%).

MAN600F1 – 0078（経営学 / Management 600）

マーケティング演習

竹内　淑恵

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習は、流通・マーケティングに関する修士論文作成の研究指導を行うものである。実務の問題意識と、マーケティング理論を融合させ、独自性の高い研究を行い、論文にしていく。

【到達目標】
本演習では、内容的に高度な修士論文を作成し、学会発表できる完成度を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
流通・マーケティングの包括的な領域でテーマが設定され、理論的アプローチから実証的アプローチまで、テーマに即した研究方法で論文を作成する。
研究内容ついては，各回の授業での受講生の報告へ指導教員がフィードバックを行うと同時に，年2回の中間報告会で指導教員以外からもフィードバックを行う。
授業形式（対面，オンライン授業等）は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	研究課題の再確認	研究課題やスケジュールについての指導
2	調査実施状況の確認①	調査データの吟味
3	調査実施状況の確認②	調査データの分析
4	調査実施状況の確認③	分析結果の解釈
5	調査実施状況の確認④	理論的意義の検討
6	調査実施状況の確認⑤	実践的意義の検討
7	調査実施状況の確認⑥	限界と展望の確認
8	中間報告の準備	中間報告準備の指導
9	秋季 中間報告会	中間報告会での指導（日程は前後する可能性あり）
10	論文執筆指導①	全体構成の再確認
11	論文執筆指導②	レビューパートの指導
12	論文執筆指導③	分析枠組み・方法論パートの指導
13	論文執筆指導④	分析パートの指導
14	論文執筆指導⑤	論文全体の整合性の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献探索やデータ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、報告書作成、データ分析、執筆活動は、各自授業外で行うこと。毎週最低でも4-5時間必要になる。

【テキスト（教科書）】
適宜紹介する。

【参考書】
指導教員からの指示に従うこと。

【成績評価の方法と基準】
評価の項目は修士論文としての学術的説得力、実務への貢献、論理的一貫性である。論文の完成度の評価が60%、演習への取り組み姿勢や努力(平常点)を40%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
スケジュール管理に留意する。

【Outline (in English)】
【Outline & Objectives】This seminar aims to complete master theses regarding topics of marketing and distribution. Students pursue original research by fusing their own practical awareness of the issues and marketing theory.
【Learning activities outside of classroom】Data collection, data analysis and previous studies survey, etc. Students have to study at least four or five hours per week.
【Grading Criteria /Policy】The evaluation items are academic ability to persuade, practical contribution and logical consistency, etc. The grade is calculated by the completeness of a final paper(60%) and the attitude toward the class(40%).

MAN600F1 – 0078（経営学 / Management 600）

マーケティング演習

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

【学生の意見等からの気づき】

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
（Course outline）
（Learning Objectives）
（Learning activities outside of classroom）
（Grading Criteria /Policy）

MAN600F1 − 0078（経営学 / Management 600）

マーケティング演習

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

【学生の意見等からの気づき】

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
（Course outline）
（Learning Objectives）
（Learning activities outside of classroom）
（Grading Criteria /Policy）

MAN600F1 – 0078（経営学 / Management 600）

マーケティング演習（代表シラバス）

猪狩　良介

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習は、流通・マーケティングに関する修士論文作成の研究指導を行うものである。実務の問題意識と、マーケティング理論を融合させ、独自性の高い研究を行い、論文にしていく。

【到達目標】
本演習では、内容的に高度な修士論文を作成し、学会発表できる完成度を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
流通・マーケティングの包括的な領域でテーマが設定され、理論的アプローチから実証的アプローチまで、テーマに即した研究方法で論文を作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
1	リサーチ・プロポーザルの作成指導①	テーマやスケジュールについての指導
2	リサーチ・プロポーザルの作成指導②	テーマの絞り込み
3	先行研究の検討①	先行研究の渉猟
4	先行研究の検討②	先行研究の整理
5	先行研究の検討③	先行研究の批判的検討
6	研究方法の検討①	研究方法についての指導
7	研究方法の検討②	研究方法の絞り込み
8	中間報告の準備	中間報告準備の指導
9	春季 中間報告会	中間報告会での指導 (日程は前後する可能性あり)
10	調査実施状況の確認①	調査計画やスケジュールについて指導
11	調査実施状況の確認②	調査内容の吟味
12	調査実施状況の確認③	調査実施方法の確認
13	調査実施状況の確認④	調査データの吟味
14	調査実施状況の確認⑤	調査データの分析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献探索やデータ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、報告書作成、データ分析、執筆活動は、各自授業外で行うこと。

【テキスト（教科書）】
適宜紹介する。

【参考書】
指導教員からの指示に従うこと。

【成績評価の方法と基準】
評価の項目は修士論文としての学術的説得力、実務への貢献、論理的一貫性である。論文の完成度の評価が60%、演習への取り組み姿勢や努力(平常点）を40%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
スケジュール管理に留意する。

【Outline (in English)】
This seminar aims to complete the master thesis. Fusing practical research question with marketing theory is required for this aim.

MAN600F1 – 0078（経営学 / Management 600）

マーケティング演習（代表シラバス）

猪狩　良介

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習は、流通・マーケティングに関する修士論文作成の研究指導を行うものである。実務の問題意識と、マーケティング理論を融合させ、独自性の高い研究を行い、論文にしていく。

【到達目標】
本演習では、内容的に高度な修士論文を作成し、学会発表できる完成度を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
流通・マーケティングの包括的な領域でテーマが設定され、理論的アプローチから実証的アプローチまで、テーマに即した研究方法で論文を作成する。
研究内容ついては，各回の授業での受講生の報告へ指導教員がフィードバックを行うと同時に，年2回の中間報告会で指導教員以外からもフィードバックを行う。
授業形式（対面，オンライン授業等）は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
1	研究課題の再確認	研究課題やスケジュールについての指導
2	調査実施状況の確認①	調査データの吟味
3	調査実施状況の確認②	調査データの分析
4	調査実施状況の確認③	分析結果の解釈
5	調査実施状況の確認④	理論的意義の検討
6	調査実施状況の確認⑤	実践的意義の検討
7	調査実施状況の確認⑥	限界と展望の確認
8	中間報告の準備	中間報告準備の指導
9	秋季 中間報告会	中間報告会での指導（日程は前後する可能性あり）
10	論文執筆指導①	全体構成の再確認
11	論文執筆指導②	レビューパートの指導
12	論文執筆指導③	分析枠組み・方法論パートの指導
13	論文執筆指導④	分析パートの指導
14	論文執筆指導⑤	論文全体の整合性の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献探索やデータ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、報告書作成、データ分析、執筆活動は、各自授業外で行うこと。毎週最低でも4-5時間必要になる。

【テキスト（教科書）】
適宜紹介する。

【参考書】
指導教員からの指示に従うこと。

【成績評価の方法と基準】
評価の項目は修士論文としての学術的説得力、実務への貢献、論理的一貫性である。論文の完成度の評価が60%、演習への取り組み姿勢や努力(平常点）を40%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
スケジュール管理に留意する。

【Outline (in English)】
【Outline & Objectives】This seminar aims to complete master theses regarding topics of marketing and distribution. Students pursue original research by fusing their own practical awareness of the issues and marketing theory.
【Learning activities outside of classroom】Data collection, data analysis and previous studies survey, etc. Students have to study at least four or five hours per week.
【Grading Criteria /Policy】The evaluation items are academic ability to persuade, practical contribution and logical consistency, etc. The grade is calculated by the completeness of a final paper(60%) and the attitude toward the class(40%).

MAN500F1 – 0079（経営学 / Management 500）

ワークショップ（マーケティング）

朝岡　崇史

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では『サステナビリティ時代における企業ブランディングの役割』について学びます。授業では環境・社会・経済の同時実現が企業経営に求められる時代、企業ブランドの役割の変化について学ぶと同時に、ビジネスの最前線で活躍されている実務家のゲスト講師をお招きして先端的な企業の取り組み事例についてのお話をうかがいます。また授業内容と密接に関係のある課題について複数のグループでワークショップを行い、多視点でのディスカッションにより新たな気づきや発見を得ることを目指します。

【到達目標】
サステナビリティが重要視される時代における企業ブランディングの本質的な役割の変化について、深く、実践的に「学ぶ」とともに「自分ゴト」として「問い」を立てられるようになることを目指します。具体的には、授業・ワークショップでは以下の３つのステップで企業ブランディングの役割の変化が起きていることをリアリティを大切にしながら丁寧に見ていきます。
＜ステップ1＞デジタル時代に入るとSNS の普及などにより、企業とお客さまとの関係性に変化が生まれつつあった。さらにSDGsが地球規模の課題として共有されるようになると、企業には環境・社会・経済の同時実現が求められるようになり、必然的に企業ブランドの役割は大きく変わった。
＜ステップ2＞企業もこの変化を敏感に察知し、事業の持続可能性を前提に「人間の安全保障」を強く打ち出すことで企業価値を高め、ステークホルダーからの支持を取り付けるアプローチを行うようになった。
＜ステップ3＞サステナビリティを事業経営の基軸に置くアプローチは国/地域や業種/業態の垣根を超えて、数多くの有力企業に採用され始めている。先端的な企業の取り組みには組織文化やパーパスと密接に結びついた独自のアプローチがあり、今後の企業ブランディング構築を考える上で学びや気づきが多い。
「サステナビリティ時代の企業ブランディング」の考え方と具体的な先端企業の取り組みをセットで体得し、多視点でのワークショップを通じて自分の考えを周囲に共有・プレゼンできるようになることを授業の最終ゴールとします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
秋学期の金曜日の夕方から、朝岡もしくはゲスト講師による講義と質疑応答（第6限）・ワークショップ（第7限）と2時限連続の授業となります。今年度（2024年）も14週（回）の授業をすべて対面方式@大学院棟201 教室での実施とします。ただし、一部の遠隔地のゲスト講師による講演はリモートで行われる場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション/マーケティング戦略策定プロセス（朝岡）	授業のテーマ『サステナビリティ時代における企業ブランディングの役割』や学習目標の共有
第2回	ワークショップ	サステナビリティ時代の企業ブランディングに関するグループワーク
第3回	企業のエクイティとしてのブランディング/CES2024レポート（朝岡）	無形の差別化をつくる『ブランド論』の基本原則について/CES2024に見るマーケティングのゲームチェンジ
第4回	ワークショップ	最先端テック企業のブランディングに関するグループワーク
第5回	インダストリアルイノベーション時代のブランディング（ゲスト講師①：京都先端科学大学 森一彦先生）	企業ブランドは認知系システムから活動系システムへ
第6回	ワークショップ	企業の活動系システムのブランディングに関するグループワーク
第7回	SNS時代のブランディング（朝岡）	形容詞のブランディングから動詞のブランディングへ
第8回	ワークショップ	SNS時代の企業のブランド戦略に関するグループワーク
第9回	企業価値向上とサステナビリティ経営（ゲスト講師②：日本ノハム協会 専務理事 筒井隆司先生）	企業価値向上とサステナビリティ経営
第10回	ワークショップ	企業価値向上とサステナビリティ経営に関するグループワーク
第11回	SDGsと企業ブランドコミュニケーション（ゲスト講師③：電通 Team SDGs 大屋洋子先生）	SDGsストーリー構築の重要性
第12回	ワークショップ	企業のSDGsストーリー構築の重要性についてのグループワーク
第13回	自動運転バスとまちの賑わいの再生（ゲスト講師④：ボードリー 代表取締役社長 佐治友基氏先生）	＜企業事例＞自動運転バスとまちの賑わいの再生
第14回	ワークショップ	自動運転バスとまちの賑わいの再生に関するグループワーク
第15回	資生堂のDX戦略（ゲスト講師⑤：資生堂ジャパン 執行役員 笹間靖彦先生）	＜企業事例＞資生堂のDX戦略とサステナビリティの取り組み
第16回	ワークショップ	資生堂のDX戦略とサステナビリティの取り組みに関するグループワーク
第17回	オルガノン社と女性の健康（ゲスト講師⑥：オルガノン代表取締役社長 櫻井亮太先生、エグゼクティブディレクター 皆川朋子先生）	＜企業事例＞オルガノン社のウィメンズヘルスの取り組み
第18回	ワークショップ	オルガノン社のウィメンズヘルスの取り組みに関するグループワーク
第19回	「人と自然と響きあう」サントリーのサステナビリティ経営とは（ゲスト講師⑦：サントリーHD サステナブル推進部長 北村暢康先生）	＜企業事例＞「人と自然と響きあう」サントリーのサステナビリティ経営
第20回	ワークショップ	「人と自然と響きあう」サントリーのサステナビリティ経営に関するグループワーク

第21回	地球環境問題の世界の捉え方と東レの企業ブランディング（ゲスト講師⑧：東レ常任理事 野中利幸先生）	＜企業事例＞地球環境問題の世界の捉え方と東レの企業ブランディング
第22回	ワークショップ	地球環境問題の世界の捉え方と東レの企業ブランディングに関するグループワーク
第23回	イオンの基本理念とサステナビリティ経営（ゲスト講師⑨：イオンリテール 執行役員 間渕和人先生）	＜企業事例＞イオンの基本理念とサステナビリティ経営
第24回	ワークショップ	イオンの基本理念とサステナビリティ経営に関するグループワーク
第25回	気候変動と国際秩序（ゲスト講師⑩：外務省 気候変動課長 加藤淳先生）	＜日本国の動向＞COP29における日本国の役割と今後の取り組み
第26回	ワークショップ	COP29における日本国の役割と今後の取り組みに関するワークショップ
第27回	最終まとめ	授業の振り返りと総括（受講生によるプレゼンテーション）
第28回	最終まとめ/CES2025速報レポート（朝岡）	授業の振り返りと総括（受講生によるプレゼンテーション）/CES2025速報レポート

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・準備や復習に各々2 時間ずつ程度の自主学習をお願いします。
・毎回の授業終了後に全体の振り返り・学び・気づきを個人レポートとして提出（PPT 形式のフォーマットを使用。A4 用紙で1枚程度、授業終了後1週間以内）していただきます。
・毎回の講義まとめの担当を受講生に割り振り、コースの最後にまとめの報告会（プレゼンテーション）を行っていただきます（プレゼンテーション資料は後日レポートとして提出いただきます）。

【テキスト（教科書）】
D. アーカーの『ブランド論』（プレジデント社、2014年）と『なりわい革新 事業×組織文化の変革で経営の旗印をつくる』（朝岡崇史ほか著、宣伝会議、2022年）の2冊は初回の授業で受講生に無償配布予定です。

【参考書】
・『ジョブ理論』クレイトン・クリステンセンほか著、ハーパー・コリンズ・ジャパン、2017年
・『両利きの経営』チャールズ・オライリーほか著、東洋経済新報社、2019年
・『ダイナミック・ケイパビリティ戦略』デビット・ティース著、ダイヤモンド社、2013年
・『ワイズカンパニー』野中郁次郎・竹内弘著、東洋経済新報社、2020年
・『ビジョナリーカンパニー』ジム・コリンズほか著、日経BP 出版センター、1995年
・『ドーナツ経済学が世界を救う』ケイト・ラワース著、河出書房新社、2018年
・『SXの時代』坂野俊哉、磯貝友紀著、日経BP、2021年
・『2024年からの提言』筒井隆司著、大学教育出版、202 年

【成績評価の方法と基準】
授業後のレポート提出8回以上およびグループワーク/グループプレゼンの参加を前提にして授業レポート50％、ワークショップでのグループ別報告会・最終まとめのプレゼンテーションの成果30％、ディスカッションや質疑応答など授業へ貢献度20％の比率で評価します。（業務都合で出席できない場合、受講生からの事前の申し出があれば、後日、Zoom録画視聴により授業レポート提出が可能です）

【学生の意見等からの気づき】
ゲスト講師とのやり取りの時間をもう少し長くとって欲しい、との声があるため、ゲスト講師との質疑応答やディスカッションの時間を必ず30分程度設けます。ワークショップのグループ分けは3～4回変更し、異なるメンバーとディスカッションできるように配慮します。

【学生が準備すべき機器他】
7限目のワークショップではパワーポイント形式のテンプレートにグループワークの成果をまとめていただき、代表者にプレゼンテーションしていただきます。
授業へは受講生各自、オンライン会議システム（Zoom）への接続が可能なノートPCの持参をお願いします。

【その他の重要事項】
事業経営のスピードがますます速まる中、経験則に裏打ちされた絶対的な正解はありません。突破力のある仮説づくりのために、的確な「問い」を立てることが重要になります。
受講生の皆さんには、サステナビリティ時代における企業のブランディングのあり方について、最適解の可能性を探るための積極的な提言や議論への関与を期待します。

【担当教員の専門分野等】
客員教授　朝岡崇史（あさおかたかし）
ブランド戦略とカスタマーエクスペリエンス（CX）戦略を専門とするコンサルタント、ファシリテーター。

【経歴】
（株）電通のコンサルティング室長を経て、2017年に（株）ディライトデザインを起業。北京伝媒大学広告学院 客員教授（2013年）、日本マーケティング協会マーケティングマスターコース・マイスター（2011年～現在）、新宿区ビジネスプランコンテスト・アクティベーター（2019年～現在）などを歴任。

【研究業績】
『エクスペリンス・ドリブン・マーケティング』（ファーストプレス、2014年）
『IoT時代のエクスペリエンスデザイン』（ファーストプレス、2016年）
『デジタルマーケティング成功に導く10の法則』（徳間書店　共著、2017年）
『なりわい革新 事業×組織文化の変革で経営の旗印をつくる』（宣伝会議　共著　2022年）

【Outline (in English)】
【Outline (in English)】
【Outline & Objectives】
The theme of this class is "The Role of Corporate Branding in the Age of Sustainability". In the era where corporate management is required to simultaneously realize the environment,
society, and economy, we learn about changes in the role of corporate brands, and guest lecturers who are active on the front lines of business will give a lecture about examples of cutting-edge corporate initiatives. In addition, workshops will be held in multiple groups on issues that are closely related to the content of the class, with the aim of gaining new awareness and discoveries through discussions from multiple perspectives.
【Learning activities outside of classroom】
Post-class report submissions and participation in group presentations(interim briefing and final debriefing session).
【Grading Criteria /Policy】
Although attendance will not be taken, we will evaluate lesson report 50%, group work briefing session, interim and final presentation results 30%, and the contribution to the lesson (discussion and Q & A) at a rate of 20%, assuming 8 or more post-class report submissions and participation in group work/group presentation.

MAN500F1 – 0080（経営学 / Management 500）

マーケティング論

竹内　淑恵

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
製品やブランドを日常生活の一部にする消費者の、活発でインタラクティブなコミュニティづくりを行うことは、今日のマーケティング上の課題になっています。本講義では、顧客価値の創造とロイヤル顧客獲得の方法を学び、今日のマーケティングの本質を捉える顧客価値と顧客とのリレーションシップに関する革新的なフレームワークを理解します。また、発表の機会を通じてプレゼンテーション・スキルの向上を図るとともに、ディスカッションによって多面的な角度から問題を掘り下げる能力を身につけます。

【到達目標】
・マーケティングの基本概念や理論について、自ら説明できるレベルに達する。
・マーケティングの理論を実務に応用し、マーケティング戦略を検討できるようになる。
・ディスカッションの場において、実践的かつ批判的な視点から討議できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
・本授業は対面で春学期の土曜日1・2時限に実施します。
・2時限続きで14回開講します。
・テキストの第1章～第14章はレクチャー形式で行います。
・受講生には各章末にある「ディスカッション」を担当していただきます。予めプレゼンテーションファイルを用意し、討議のためのケースを紹介してください。その後、クラス全員で発表内容などについて検討します。
・第14回授業ではグループワーク発表を予定しています。第15章「マーケティングと社会的責任」を参照するとともに、14章までに学んだマーケティングの理論やフレームワークを用いて、革新的なマーケティング事例に関するグループワークをしてください。その内容を第14回授業でプレゼンテーションします。
・提出物やプレゼンテーションの内容に対して個別評価や全体講評を行い、フィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	①イントロダクション、オリエンテーション ②第1章：マーケティングの本質	①授業の進め方、文献の調査方法などを説明し、分担決定を行う。 ②マーケティングの定義、およびマーケティングの5つのステップについて学ぶ。
第2回	①第2章：企業とマーケティング戦略 ②第3章：競争優位の創造	①マーケティングのステップ2「顧客主導型マーケティング戦略の設計」およびステップ3「マーケティング・プログラムの設計」について学ぶ。 ②競合分析と競争的マーケティング戦略に関して学ぶ。
第3回	①第4章：マーケティングの基本枠組み ②ディスカッション	①顧客主導型マーケティングの基本的枠組みであるSTP(セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング)について学ぶ。 ②ニッチマーケティング実践企業等のディスカッション。
第4回	①第5章：マーケティング情報とカスタマー・インサイト ②ディスカッション	①様々なマーケティング情報とその情報収集方法であるマーケティング・リサーチに関して学ぶ。 ②マーケティング・リサーチ等のケース・スタディとディスカッション。
第5回	①第6章：消費者の購買行動 ②ディスカッション	①消費者の購買行動に影響を与える文化的・社会的・個人的・心理的要因について学ぶ。 ②新製品の普及速度と製品特性等のディスカッション。
第6回	①第7章：製品、サービス、ブランド ②ディスカッション	①マーケティングミックスの4P、Product(製品・サービス・ブランド)戦略に関して学ぶ。 ②ブランド拡張の成功例・失敗例等のディスカッション。
第7回	①第8章：新製品開発と製品ライフサイクル戦略 ②ディスカッション	①Product戦略において重要な役割を担う新製品開発のプロセスについて学ぶ。 ②製品ライフサイクルの延命成功事例等のディスカッション。
第8回	①第9章：マーケティング・チャネルによる顧客価値の提供 ②ディスカッション	①マーケティングミックスの4P、Place(チャネル)戦略に関して学ぶ。 ②開放的流通、排他的流通、選択的流通の長所と短所等のディスカッション。
第9回	①第10章：価格設定 ②ディスカッション	①マーケティングミックスの4P、Price(価格)戦略に関して学ぶ。 ②コストベース、顧客価値ベース、競争ベースの価格設定の長所と短所等のディスカッション。
第10回	①第11章：コミュニケーションによる顧客価値の説得 ②ディスカッション	①マーケティングミックスの4P、Promotion(コミュニケーション)戦略に関して学ぶ。 ②購買準備段階に応じたマーケティング・コミュニケーション事例等のディスカッション。
第11回	①第12章：広告とパブリック・リレーションズ ②ディスカッション	①Promotion戦略における広告、PR(パブリック・リレーションズ)について学ぶ。 ②消費者生成型広告の長所と短所等のディスカッション。
第12回	①第13章：人的販売と販売促進 ②ディスカッション	①Promotion戦略における人的販売、販売促進について学ぶ。 ②モバイルを用いた消費者向けセールス・プロモーション事例等のディスカッション。
第13回	①第14章：ダイレクト・マーケティングとオンライン・マーケティング ②修論研究の進め方	①近年のICTの進展に伴って急成長しているダイレクト・マーケティング、オンライン・マーケティングに関して学ぶ。 ②修了生をゲストスピーカーとして迎え、修論完成に至るスケジュールやプロセス、心構えについて学ぶ。※ゲストスピーカーとの調整により、オンライン授業になる可能性がある。
第14回	グループワーク発表会	グループワークによる事例研究の結果をプレゼンテーションし、ディスカッションを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
・テキストの予習をして内容を理解しておいてください。
・テキストにあるディスカッションテーマについて目を通し、ディスカッションに備えてください。
・プレゼンテーションを担当する回にはpdfファイルを作成し、遅くとも授業前日の18時までに、学習支援システムの「教材」ホルダーに提出してください。
・第14回のグループワーク発表会までに革新的なマーケティング事例を選定し、グループワークを行ってください。

【テキスト（教科書）】
フィリップ・コトラー、ゲイリー・アームストロング、恩蔵直人『コトラー、アームストロング、恩蔵のマーケティング原理』丸善出版、2014/3/4、￥5,184

【参考書】
・フィリップ・コトラー、ケビン・レーン・ケラー、アレクサンダー・チェルネフ(著)、恩藏直人(監修・翻訳)『コトラー&ケラー&チェルネフ マーケティング・マネジメント』丸善出版、2022/12/1、￥9,350
各回授業では、この本から新しい概念や枠組みを適宜紹介します。
・授業では原著を使用しません。以下の書籍(第19版)を参考にしてください。
Kotler, Philip & Gary Armstrong, Principles of Marketing, Global ed, Pearson Education, 2023/4/26,￥11,900
・マーケティング・コースの修了生(OB・OG)が執筆した以下の書籍を修士論文(研究)の参考にしてください。
竹内淑恵編著(2014)『リレーションシップのマネジメント』文眞堂、2014/4/8、￥2,808

【成績評価の方法と基準】
・担当する各章のプレゼンテーション内容(40%)
・クラス討議への参加度、貢献度(30%)
・グループワークによる事例発表(30%)

【学生の意見等からの気づき】
本講義を受講した学生からの意見は以下の通りです。
・翻訳文をテキストとし、英語の原著は参考書とした方が良い。
・OB・OGをゲストスピーカーとして招き、修論への取り組み方や研究手法等について説明してほしい。
・毎回のディスカッションで実務との関連が明確になった。

【学生が準備すべき機器他】
繰り返しになりますが、担当回に使用するpdfファイルを発表の前日18時までに、学習支援システムの「教材」ホルダーに提出してください。

【その他の重要事項】
・マーケティング・コースの学生は、ワークショップ(マーケティング)、消費者行動論、マーケティング・リサーチ論、流通システム論、サービス・マネジメント論、製品開発論を履修することをお勧めします。
・修士論文において、定量分析を活用した研究を計画している学生は、統計データ解析を履修することをお勧めします。
・担当教員は、メーカーのマーケティング本部広告制作部と広告会社の戦略プランニング室に計20年間勤務した経験を有します。その実務経験を活かし、マーケティングの理論に焦点を当てて講義します。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞マーケティング論、ブランド論、消費者行動論
＜研究テーマ＞広告コミュニケーション効果、ブランド・マネジメント、ソーシャルメディアにおけるブランド・コミュニケーション
＜主要研究業績＞
①竹内淑恵(2021)「第12章　SNSのブランドページを研究する」田中洋・岸志津江・嶋村和恵編『現代広告全書－デジタル時代への理論と実践』有斐閣、pp.224-239。
②竹内淑恵(2021)「Facebookページにおけるネガティブ効果の発生とリレーションシップへの影響」『イノベーション・マネジメント』No.18, pp.55-88.
③竹内淑恵(2020)「Facebookページにおける消費者エンゲージメント行動：「いいね」とコメントの差異」『イノベーション・マネジメント』No.17, pp.59-88.
④竹内淑恵(2019)「ブランド・コミュニティ研究へのマルチレベル分析の適用可能性－Facebookページへのリレーションシップがロイヤルティに及ぼす影響の検討－」『イノベーション・マネジメント』No.16, pp.53-78.
⑤竹内淑恵(2018)「Facebookページにおける消費者とブランドとのリレーションシップ構築」『イノベーション・マネジメント』No.15, pp.43-63.
他の研究業績等の詳細は以下を参照ください。
https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/18/0001706/profile.html

【Outline (in English)】
Course outline: Today's marketing challenge is to create a lively and interactive communities of consumers who make products and brands a part of their daily lives. This course will help students learn how to create customer value and acquire loyal customers.
Learning Objectives: The students will understand the innovative frameworks for customer value and customer relationship that capture the essence of today's marketing. They will develop the presentation skills through presentation opportunities and acquire the ability to delve into problems from a multifaceted angle through discussions.
Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
Grading Criteria /Policy: Final grade will be calculated according to the following process: mid-term presentation (40%), term-end presentation (30%,) and in-class contribution (30%).

MAN500F1－0081（経営学 / Management 500）

消費者行動論

新倉　貴士

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
消費者行動に関する体系的な知識の獲得ができるように講義をします。マーケティング戦略の策定と実施には、消費者に関する知識が不可欠となります。講義では、消費者の認知・態度・行動とマーケティング戦略との対応づけを意識しながら、また修士論文の作成に向けて必要となる基礎的な知識を組み込み構成します。
履修生は、消費者行動に関する基礎的な知識の獲得と、実践的なマーケティング戦略を意識した消費者知識の獲得を目指してください。

【到達目標】
消費者の認知側面と感情的な態度側面を意識し、実際の行動側面との関係を考えながら、理想的なマーケティング戦略の構築と実践を描けるよう努力して下さい。そのために履修者は、①消費者行動に関する体系的な知識を獲得できるよう、②消費者行動に関する概念や理論を理解することができるよう、③消費者行動とマーケティング戦略との関係が理解できるよう、努力してください。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
本講義では、マーケティングの基礎となる消費者の理解を目的とするために、消費者に関する体系的な知識とこれまでの歴史的な展開を講義します。また、ケースディスカッションにより、実践的な消費者知識を体得します。さらに、修士論文の作成に向けて、消費者研究の論文について講読し考察します。消費者行動論では、単に消費者の顕示的な行動を捉えるだけではなく、潜在的な認知や態度を理解することによって、それらの連鎖的な関係を捉えていきます。これによって、消費者行動の規定要因とマーケティング戦略との関係を考察することができます。
第1回～第2回は、授業ガイダンスと本講義の体系を概説します。第3回～第4回は、マーケティングにおける消費者行動の位置づけを確認します。第5回～第6回は、消費者行動論の歴史的な展開を説明します。第7回～第10回は、消費者行動のモデルについて説明します。第11回～第15回は、具体的な情報処理とその規定要因について説明します。第16回～第18回は、消費者とブランドとの関係について説明します。第19回～第24回は、ケースディスカッションを行いながら、消費者の情報処理とブランドマーケティングについて理解します。第25回～第26回は、修士論文作成のための準備をします。第27回は、授業の総括を行います。第28回は、授業の理解度を確認する最終試験を行い、終了後に解説とフィードバックを行います。
毎回、資料やケースを配布する予定です。
課題等に対するフィードバックについては、授業中に解説します。
授業形式は原則として対面を予定しておりますが、オンラインの回も予定しております。オンラインの場合には事前にご案内します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	講義の進め方や学習の方法に関する説明をします。
第2回	消費者行動論の概説	当科目の体系的な解説をします。
第3回	消費者行動とマーケティング１	マーケティングにおける消費者行動の位置づけを説明します。
第4回	消費者行動とマーケティング２	消費者行動のマーケティングへの応用を説明します。
第5回	消費者行動研究の歴史１	消費者行動研究の前史について説明します。
第6回	消費者行動研究の歴史２	行動科学的な消費者行動研究の展開を説明します。
第7回	消費者行動のモデル１	消費者行動モデルの概要について解説します。
第8回	消費者行動のモデル２	刺激－反応モデルと態度モデルについて説明します。
第9回	消費者情報処理モデル１	消費者情報処理モデルについて、その概要を説明します。
第10回	消費者情報処理モデル２	消費者情報処理モデルのメカニズムについて解説します。
第11回	情報の探索	内部探索と外部探索とこれらの規定要因についての説明をします。
第12回	情報の解釈	情報の解釈メカニズムについて説明します。
第13回	情報の評価	評価方略について説明します。
第14回	情報処理の規定要因１	規定要因である動機づけについて解説します。
第15回	情報処理の規定要因２	規定要因である能力について解説します。
第16回	消費者とブランド１	ブランドについての概説をします。
第17回	消費者とブランド２	ブランド構築とその事例について詳解します。
第18回	消費者とブランド３	ブランドのアイデンティティとイメージについて説明します。
第19回	ケース討議１：ディスカッション	ケースディスカッションを行います。
第20回	ケース討議１：フィードバック	ケースディスカッションのフィードバックをします。
第21回	ケース討議２：ディスカッション	ケースディスカッションを行います。
第22回	ケース討議２：フィードバック	ケースディスカッションのフィードバックをします。
第23回	ケース討議３：ディスカッション	ケースディスカッションを行います。
第24回	ケース討議３：フィードバック	ケースディスカッションのフィードバックをします。
第25回	修士論文作成に向けて	作成に向けた詳細な指導をします。
第26回	論文購読	消費者行動関連の論文を購読します。
第27回	講義全体のまとめ	これまでの授業内容の総括をします。
第28回	最終試験	解説とフィードバックをします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各8時間を標準とします。
初回に配布する文献リストに基づき、第18回までは、事前に該当する書籍を熟読して授業に臨んで下さい。第19回からのケース討議と論文講読では、事前に配布する資料を熟読して、自分なりに整理をして授業でのディスカッションに備えて下さい。
Before/after each class meeting, students will be expected to spend eight hours to understand the course content.

【テキスト（教科書）】
適宜案内します。

【参考書】
『消費者行動論：マーケティングとブランド構築への応用』（青木幸弘他、有斐閣アルマ、2012年）
『消費者行動の知識』（青木幸弘、日経文庫、2010年）
『消費者行動論』（守口剛・竹村和久編著、八千代出版、2012年）
『消費者の認知世界：ブランドマーケティング・パースペクティブ』（新倉貴士、千倉書房、2005年）

【成績評価の方法と基準】
ケース討議への貢献（30％）
　ケース討議・論文講読への貢献は、発言回数とその内容で判断します。
最終試験（70％）

最終試験では、講義とケースに関する理解度を確認します。
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Term-end examination: 70%, in class contribution: 30%.

【学生の意見等からの気づき】
進行速度と投影コンテンツの画質に気をつけながら進める予定です。配布資料に工夫をしながら進める予定です。

【学生が準備すべき機器他】
ノートパソコン

【その他の重要事項】
マーケティング論、マーケティング・リサーチ論を履修しておくことが望ましい。

【担当教員の専門分野等】
https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/25/0002435/profile.html

【Outline (in English)】
This course is a series of lectures and discussions, structured to give students some of the basic, fundamental understandings on consumer behavior and brand marketing strategy.
To understand consumer, students will learn consumer's cognition, attitude, and behavior.
Major course objectives are;
-To introduce students to knowledge about consumer behavior and marketing strategy.
-To learn consumer information processing model.
-To understand the relationship between consumer and brand.

MAN500F1－0082（経営学 / Management 500）

マーケティング・リサーチ論

西川　英彦

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在、マーケティングリサーチの知識は、実務や研究において必須ともいえるだろう。

本授業では、マーケティング・リサーチをはじめて学ぶ大学院生が理解しやすいように、定性調査と定量調査の方法論を理解した上で、実際にインタビューなどの定性調査をもとに仮説を設定し、アンケート作成やさまざまなデータ分析などの定量調査をもとにその仮説を検証することを通して、マーケティング・リサーチの基礎と方法を体系的・実践的に学ぶ。

【到達目標】

到達目標としては、以下の３点に整理できる。

①インタビューなどの定性調査のスキルを身につけ、自ら実際に分析し、その結果を考察することができる。

②アンケート作成やさまざまなデータ分析などの定量調査のスキルを身につけ、自ら実際に分析し、その結果を考察することができる。

③複数の定量調査を用いて、仮説を検証することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

リサーチプロセスは、課題定義にはじまり、リサーチデザイン、データと収集法の決定、サンプルデザインとデータ収集、データ分析・結果の解釈、レポート作成となる。しかし、授業では、受講生が全体像や最終レポートをイメージしやすいように、順番を入れ替えて学習する。

さらに、受講生が理解しやすよう、以下の工夫も行う。まず、データ分析・結果の解釈では、定量調査を実践的に学べるように、サンプルデータをもとに、マニュアルにそって無料ソフトの「R」を使ったミニ演習を多く実施する。レポート作成では、複数の最終レポート例をもとに、その手続きも含めて詳しく説明する。大事なプロセスでは、中間報告があり、受講生の理解状況の確認が行われつつ、指導が行われる。こうした進め方をするため、はじめてリサーチを実施する方でも大丈夫である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	マーケティングリサーチとは 課題定義とリサーチデザイン	**リサーチプロセス** ・Rの操作、パソコン持参のこと（次週以降も同様）
第2回	データ分析・結果の解釈①	**平均・標準偏差と無相関検定** ・定量調査のミニ演習
第3回	データ分析・結果の解釈②	**χ^2検定とt検定** ・定量調査のミニ演習
第4回	データ分析・結果の解釈③	**回帰分析と因子分析** ・定量調査のミニ演習
第5回	データ分析・結果の解釈④	**分散分析とコンジョイント分析** ・定量調査のミニ演習
第6回	レポート作成	**最終レポートの説明** ・レポート例を提示
第7回	課題定義、データと収集法の決定①	**課題とリサーチクエスチョン、インタビュー、仮説** ・定性調査のミニ演習
第8回	第１回中間レポートの報告	**課題とリサーチクエスチョン、インタビュー、仮説の中間報告**
第9回	データと収集法の決定②、サンプルデザインとデータ収集	**アンケートとサンプリング** ・アンケートフォームを実際に作成 ・プレリサーチ
第10回	第2回中間レポートの報告	**アンケートとサンプリングの中間報告**
第11回	第2回中間レポートの再報告	**アンケートとサンプリングの再報告** ・修正して報告
第12回	リサーチの実際	**東浦和宏氏(関西学院大学経営戦略研究科　教授。P&G、ユニリーバ、ニールセン、モンデリーズ等で調査を実践)講演** ・講演と質疑
第13回	早期最終レポートの報告	**早期最終報告** ・早期最終レポートの提出・報告
第14回	最終レポートの報告	**最終報告** ・最終レポートの提出・報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の予習・復習および、データ収集、最終レポートの作成を行うこと。毎週２時間程度は必要となる。

【テキスト（教科書）】

テキストとして、レジュメを授業支援システムにアップするので、パソコンあるいはタブレット、スマホで閲覧できるようにすること。

【参考書】

①山田剛史・杉澤武俊・村井潤一郎『Rによるやさしい統計学』オーム社、2008年.

②恩藏直人・冨田健司『1からのマーケティング分析 (第2版)』碩学舎、2022 年

③マルホトラ『マーケティング・リサーチの理論と実践：理論編』同友館、2006年.

④マルホトラ『マーケティング・リサーチの理論と実践：技術編』同友館、2007年.

⑤南風原朝和『心理統計学の基礎』有斐閣、2002年.

⑥ベルク・フィッシャー・コジネッツ『消費者理解のための定性的マーケティング・リサーチ』碩学舎、2016年.

【成績評価の方法と基準】

・中間レポート・報告（10点×2回=20点）、講義や演習での発言・議論参加（50点）、最終レポートおよび報告（30点）

・早期最終レポートの報告者には、全員10点の加点あり（早期レポート制度）。

・評価対象は講義回数の3分の2以上の出席が最低条件である。なお、遅刻は２回で１回の欠席扱いとなる。

【学生の意見等からの気づき】

①受講生の理解に差があるため、基本編と解説編を分けて、説明を行う。

②サンプルデータを用いたミニ演習を多くし、理解をしやすくする。

③レポート例をもとにイメージしやすい課題の説明をする。さらに、確実に課題を進めらるように、リサーチ・プロセスの途中段階での中間報告を実施する。

④全体レポートの質向上をはかるために、参加学生の優秀レポート報告が提出前に確認できる、早期レポート制度を採用する。

【学生が準備すべき機器他】

各自、ノートパソコンを持参すること。なお、統計ソフトは、フリー・ソフトであるRを使用するので、テキストを参考に、事前にパソコンにインストールしてくること。

【その他の重要事項】

受講生には断った上で、受講生の要望や進行状況によって適宜授業計画を修正することは想定される。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞

マーケティング論、ユーザー・イノベーション論、デジタル・マーケティング

＜研究テーマ＞

クラウドソーシング（消費者参加型新製品開発）

＜主要研究業績＞

著書に、『1からのデジタル・マーケティング』（編著、碩学舎）、『ネット・リテラシー：ソーシャルメディア利用の規定因』（共著、白桃書房）、『１からの商品企画』（編著、碩学舎）、『１からの消費者行動(第2版)』（編著、碩学舎）、『ソロモン消費者行動論』（共訳、丸善出版）など。

論文に、「新製品開発クラウドソーシングがもたらす複合的成果」（『組織科学』54(2)）、"The Value of Marketing Crowdsourced New Products as Such: Evidence from Two Randomized Field Experiments,"（共著、 *Journal of Marketing Research*, 54(4)）など。

＜研究室サイト＞
http://nlab.ws.hosei.ac.jp/

【Outline (in English)】
Currently, knowledge of marketing research can be said to be essential in practice and research.
In this lesson, to make it easier for graduate students to learn about marketing and research for the first time, they learn fundamentals and methods of marketing research systematically and practically to actually set up hypotheses based on qualitative surveys such as interviews, and test the hypothesis based on quantitative surveys such as questionnaire preparation and various data, after understanding the methodology of the qualitative survey and quantitative survey.

The learning objectives can be summarized in the following three points.
① To be able to acquire skills in qualitative research such as interviews, and to be able to actually analyze and discuss the results.
② To acquire skills in quantitative research, including questionnaire creation and various data analysis, and to be able to analyze and discuss the results.
③ To be able to test hypotheses using multiple quantitative surveys.

Students will be required to prepare and review for class, collect data, and prepare a final report outside of class. About 2 hours are required each week.

Grading will be as follows。
· Mid-term report and report (10 points x 2 times = 20 points), comments and participation in discussions in lectures and exercises (50 points), and final report and report (30 points).
· All students who report the final report early will receive points (early report system).
· Attendance of at least two-thirds of the lectures is the minimum requirement for evaluation. Two tardies will count as one absence.

MAN500F1－0084（経営学 / Management 500）

マーケティング・サイエンス論

長谷川　翔平

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業ではマーケティング・データを定量的に分析し，ビジネスで活用する手法を学ぶ。ビジネスにおいてマーケティング・データを分析する主な目的は予測と効果検証にある。本授業では，消費者の購買ブランドや将来の売上げを予測する手法と広告などのマーケティング施策が消費者の購買行動に影響を与えているか施策の効果を検証する手法を学ぶ。また，発展的な内容として，近年，マーケティングでも活用が進む商品レビューや口コミなどのテキストデータを分析する手法も学ぶ。授業では消費者の行動データおよびその集計データを中心に扱うが，分析手法はB-to-Cだけでなく B-to-Bマーケティングでも活用できるものである。

【到達目標】

・様々なデータに対して最適な分析手法を提案できる。
・データから市場構造や消費者特性に関する知見を得ることができる。
・分析結果を分かりやすく報告することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

1回の授業で教員による講義と受講生による論文輪読を行う。

[講義]

マーケティング・データの活用および定量分析の方法を学ぶ。主に消費者の行動データの分析手法を扱うが，一部アンケートデータの分析手法も扱う予定である。毎回，講義の後半にフリーの統計解析ソフトRを用いた実習を行い，学んだ手法の理解を深める。

[論文輪読]

授業で学んだ手法が使われている論文を輪読する。受講者は各自で興味のある論文を探し，その論文の研究目的や具体的なモデル，分析結果などを報告し，参加者で議論を行う。論文の探し方などは初回授業で説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業で学ぶことを概観する
第2回	線形回帰分析	集計データからのマーケティング活動の効果測定
第3回	論文輪読	線形回帰分析を応用した研究論文の輪読
第4回	ロジットモデル	ブランド選択データからの消費者選択行動分析
第5回	イベント・ヒストリー分析	新製品採択や顧客離脱などのイベントが起きるまでの期間の分析
第6回	クラスタリング	クラスタリングモデルと潜在クラスモデルによる消費者セグメンテーション
第7回	共分散構造分析	アンケートデータからの消費者態度分析
第8回	時系列分析	時系列データからの売上予測と市場反応分析
第9回	因果推論	セレクションバイアスとRCT
第10回	差分の差分法	差分の差分法によるマーケティング施策の効果検証
第11回	傾向スコア分析	傾向スコアマッチングによるマーケティング施策の効果検証
第12回	テキスト分析	テキストデータからの知見獲得
第13回	期末レポート報告①	レポートのテーマ報告
第14回	期末レポート報告②	レポートの最終報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
・講義：講義：事前にテキストの該当章を予習する。
・論文輪読：各自で報告する論文を探し発表資料を作成する。
・レポート報告：各自の報告テーマに関して調査を進め，発表資料を作成する。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しない。

【参考書】

佐藤『マーケティングの統計モデル』朝倉書店（2015）
安井『効果検証入門』技術評論社（2020）
森田『実証分析入門』日本評論社（2014）
石田『Rによるテキストマイニング入門 第2版』森北出版（2017）
村松ほか『RユーザーのためのRStudio実践入門 改訂2版』技術評論社（2021）

【成績評価の方法と基準】

・議論参加：20％
・論文輪読の報告：40％
・レポート：40％

【学生の意見等からの気づき】

Rによるデータ分析を丁寧に説明する。

【学生が準備すべき機器他】

・ノートパソコンを持参すること。
・Google Classroomで資料配付を行う。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞
マーケティング・サイエンス
＜研究テーマ＞
ベイズモデリングによる消費者行動データの分析
＜主要研究業績＞
Terui, N., S. Hasegawa, A. N. Smith, G. M. Allenby (2017), "An Integrated Model for Discontinuous Preference Change and Satiation," Data Science and Service Research Discussion Paper (Tohoku Univrsity), 70, pp.1-36.
長谷川翔平 (2017),「効用関数の構造異質性と広告戦略の最適化」,『経営志林』, 53(4), pp.1-9.

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to learn methods of analyzing marketing data. At the end of the course, students are expected to acquire skills to collect and analyze marketing data. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on in-class contribution (20%), paper reading and presentation (40%) and final report (40%).

MAN500F1 – 0085（経営学 / Management 500）

サービス・マネジメント論

木村　純子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
サービス・マーケティングを学ぶ人は、自分が経験・体験したことがあるサービスしか語ってはいけないと思っています。インターネットを始めとする情報技術の発達のおかげで、私たちはさまざまな情報を手に入れることができるようになりました。見たことがないことも、まるで見たことがあるように語ることが簡単にできてしまう世の中だからこそ、実際の体験が重要です。
本講義では、各セッションのテーマに合わせた体験をしていただきます。授業の時間以外の時間とお金を費やすことになりますが、「コスト」とは思わず「（自分への）投資」だととらえてください。
講義では、サービス・マーケティングに関わる理論と概念を身につけます。各受講生は学んだ理論を体系的に整理し組み立てながら、自身が集めたデータ（現実）を分析し現象を説明します。

【到達目標】
サービス・マネジメント論の理論を理解し、研究の方法も学びます。各章でサービス・イノベーションに成功した事例を取り上げます。現象を説明するための理論枠組みを理解し、分析概念を定義した上で、取り上げた事例の具体的なデータを用いて自身の仮説を検証していきます。
　活動を通じて、4つの力を習得することを本講義の達成目標とします。
1) 自分で問題意識(リサーチ・クエスチョン)を設定する力
2) 具体的な事例からデータを収集する力
3) データを用いて自身の仮説を検証する力
4) 自分の主張を他の人たちに説得的に説明し理解させる力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
（1）授業前課題をベースに、グループでディスカッションし発表します。
（2）講師が基本的概念・理論を説明します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	マーケティングの基本的概念
第2回	理論と現実の架橋	古典的な理論枠組みを用いて現実のデータを説明する
第3回	方法論	定性的方法論の意義と限界
第4回	サービス・プロフィット・チェーン	事例：ブックオフ・コーポレーション
第5回	ホスピタリティ・マーケティング	事例：巣鴨信用金庫
第6回	グループプロジェクト中間報告	各グループによる進捗状況のプレゼンテーションとフロアとのディスカッション
第7回	ラグジュアリ・マーケティング	事例：リッツカールトン大阪
第8回	食品産業クラスターのサービス・イノベーション	事例：オランダのフードバレー
第9回	サプライチェーンのイノベーション	事例：CRAI
第10回	グループプロジェクトの中間報告会	各グループによる進捗状況のプレゼンテーションとフロアとのディスカッション
第11回	ゲスト・スピーカー	調整中
第12回	農産物のサービス・イノベーション	事例：サントリー
第13回	サービス・エンカウンターのマネジメント	事例：リテール・ソリューション
第14回	グループ・プロジェクト報告会	各グループによる最終プレゼンテーション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
授業内でのディスカッションを活発にすることを目的としています。そのために、事前課題に取り組んでいただきます。
（1）授業マテリアルを読んでください。
（2）マテリアルの内容を要約してください。
（3）授業前課題が出ている場合はレポートに取り組んでください。

【テキスト（教科書）】
ありません。

【参考書】
適宜、指定&配布します。

【成績評価の方法と基準】
（1）授業前課題（レポート）
（2）授業内のディスカッションと発表
（3）グループ・プロジェクト(Peer evaluation)
以上を総合的に判断します。
100 点満点とし、60 点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】
「フィールドワークが中心となる課題の負荷が高い」というご指摘がありますが、サービスは製品と異なり目に見えないことから、実際に体験して自身でそのサービス財の特性を理解することが重要です。インターネットの検索に依存しない、自分の足でデータを集める手間を惜しまないサービス・イノベーターになれるよう努めてください。

【担当教員の専門分野等】
地理的表示保護制度、地域活性化、
農作物マーケティング、SDGs

【最近の研究業績】
(1)木村純子(近刊)「イタリアのテリトーリオと畜産物の地産地消」『畜産技術』令和6年3月号, 17-22.
(2)木村純子(近刊)「テリトーリオとコモンズの精神」『入門 食と農の人文学』ミネルヴァ書房, 150-161.
(3)木村純子・陣内秀信(近刊)『南イタリアの食とテリトーリオ:農業が社会を変える』白桃書房.
(4)木村純子・二階堂行宣・佐野嘉秀・藤本真(近刊)「フード・バリューチェーンにおける第二レイヤーアクターの役割:大隅テリトーリオの事例から」『イノベーション・マネジメント』21.
(5) Kimura, Junko. & Rigolot, Cyrille. (forthcoming) The Potential of Geographical Indications (GI) to Enhance Sustainable Development Goals (SDGs) in Japan, with GI Mishima Potato as a Case Study," Vandecandelaere, Emilie., et als. (eds) Worldwide Perspectives on Geographical Indications: Crossed Views between Researchers, Policy Makers and Practitioners, Springer.

【委員等】
(1) 内閣府　クールジャパン・アカデミアフォーラム(2023年～現在)
(2)財務省　国税審議会委員、及び酒類分科会会長代理 (2021年～現在)
(3) 日本チーズ認証基準策定事業　実行委員会　委員(2021年～現在)
(4) JMILK国際委員会 委員(2021年～現在)
(5) 農林水産省「特定農林水産物等の名称(GI)の保護に関する法律施行規則第10条」の規定に基づく農林水産大臣が意見を聴く学識経験者　総合検討委員 (2015年～現在)
(6) 日本マーケティング学会　理事(2019年～現在)

【2023年度に獲得した競争資金】

(1)文部科学省科研費学術研究助成基金(22K05861、基盤研究(C)「食農コモン(ズ)のアントレプレナーシップ:フランスとイタリアの比較から」(代表：須田文明)

(2) 科学研究費補助金基盤研究Ｂ特設分野研究「次世代の農資源利用」「農業と知的財産」(代表：髙倉成男)

【Outline (in English)】

Students who learn service management can talk about and argue services only when they have experienced the services by themselves. Thanks to the development of information technology such as the Internet and social networking systems, we can obtain various types of information. The actual experience becomes more important in such a world where people can mention things they have never seen. In this lecture, students will experience services based on the theories they learn in each session. Any time and money they spend outside the classroom would be investment (instead of "cost") on themselves. In the lecture, they interdisciplinarily learn the theory and analytical concepts related to service management. Each student systematically organizes and learns the theories they have learned, while analyzing the data (reality) they collected and experienced.

MAN500F1 – 0142（経営学 / Management 500）

定性的方法論

備考（履修条件等）：**昼間主催「リサーチ・メソッド」と合同**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学術論文を定性調査によって書くための方法論を体系的に学ぶ。ケーススタディ（事例分析）、エスノグラフィ（参与観察等）、歴史アプローチにおける、フィールドワーク、データ分析、理論構築、記述までのプロセスを学習する。さらに、秀でた研究を読むことにより、理解を深める。

【到達目標】
修士または博士論文作成を見据えた、定性的方法論を修得する。方法論はマーケティング領域以外にも共通であり、戦略論や組織論の論文作成を予定している学生の履修も歓迎する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
理論書を読んで理解した上で、サンプル論文を読み、理論構築の実際を確認していく。教員が用意したサンプル論文にこだわらず、読みたい論文を学生が持ち込み、皆で読んで評価するという参加型の講義にしたい。
第一週の講義はオンラインZOOMで実施をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	イントロダクション	問題ある修士論文の例/理論書「実証研究の方法」藤本隆宏
2回	実証研究における理論構築	理論書「実証研究の方法」藤本隆宏/「クチコミ」田路の修士論文
3回	ケース・スタディ	理論書「ケーススタディの方法」R・Kイン 序− 4章/
4回	ケース・スタディ	理論書「ケーススタディの方法」R・Kイン　5-6章
5回	ケース・スタディ	「イノベーションの資源動員と技術進化」松本陽一
6回	ケース・スタディ	理論書「ケース・スタディのアプローチ」横澤
7回	ケース・スタディ	「小売国際化プロセス」矢作敏行 3,5章
8回	歴史的アプローチ	「組織は戦略に従う」A・D・チャンドラーJr. 序-2章
9回	歴史的アプローチ	「組織は戦略に従う」A・D・チャンドラーJr. 3,6,7章
10回	質的データ分析ーコーディングの手法	理論書「質的データ分析法」佐藤郁哉 1-8章/「看護師の倫理的ジレンマ」のコーディングのサンプル
11回	質的データ分析ーインタビューの方法	インタビューのロール・プレィ
12回	エスノグラフィ	「暴走族のエスノグラフィー」佐藤郁哉　1,終章
13回	エスノグラフィ	「洗脳するマネジメント」ギデオンクンダ 3、解説章
14回	エスノグラフィ	「京都花街の経営学」西尾久美子　書籍&ビデオ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回、リーディングに対して、簡単なメモを作成してくる。およそ4時間程度の準備が必要となる。

【テキスト（教科書）】
「ケーススタディの方法」　R・Kイン　千倉書房
「質的データ分析法」　佐藤郁哉　新曜社

【参考書】
「組織と経営について知るための実践フィールドワーク入門」佐藤郁哉　有斐閣
「組織行動の調査方法」　E・Fストーン　白桃書房
「創造的論文の書き方　」伊丹敬之　有斐閣
「リサーチマインド経営学研究法」　藤本隆宏他、有斐閣アルマ

【成績評価の方法と基準】
課題に対するメモ提出と授業への貢献
課題提出６０％、議論４０％

【学生の意見等からの気づき】
自身の研究計画の経過を紹介し、受講生間で意見交換することは有意義であった。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞経営戦略、技術経営
＜研究テーマ＞
「イノベーション・マネジメントにおける戦略と組織行動」
「ハイテク・スタートアップの成長」
「ハイテク産業集積のエコシステム」
＜主要研究業績＞
① 『起業プロセスと不確実性のマネジメント』田路則子,白桃書房,2020年.
②「アーキテクチャ進化における製品開発マネジメント・半導体露光機産業の事例から」榎波龍雄・田路則子『一橋ビジネスレビュー』第65巻3,pp172-184,2017.
③「WEBビジネスにおけるスタートアップの成長要因―首都圏における定量調査と事例分析―」田路則子・新谷優『ベンチャーズレビュー』日本ベンチャー学会,第31巻,pp.63-67,2018.
④“Resource Acquisition in High-Tech Startup Global Strategies,”
Noriko Taji, Technology,Innovation, Entrepreneurship and Competitive Strategy, Emerald Publishing Group,Vol.14,pp.263-287,2014.
⑤『ハイテク・スタートアップの経営戦略―オープン・イノベーションの源泉』田路則子• 露木恵美子, 東洋経済新報社,2010.
⑥「半導体商社の事業ドメイン拡大のメカニズム」田路則子・甲斐敦也,『赤門マネジメント・レビュー』東京大学, 第8 巻,5 号,pp211-231,2009.
⑦『アーキテクチュラル・イノベーション』田路則子, 白桃書房,2005.

【Outline (in English)】
【Outline & Objectives】: Students learn several methodologies of qualitative research; case study, historical approach and ethnography.They can realize the process of field work, data analysis, theory construction and writing. In order to deepen understanding methodologies, they must read outstanding papers and books.
【Learning activities outside of classroom】: Students have to submit small reports every week.
【Grading Criteria /Policy】: small reports(60%) and class contribution(40%)

MAN500F1－0059（経営学 / Management 500）

国際マーケティング論

嶋　正

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
商品（有形財・無形財）の流通は世界市場（world market ）の中で行われている。今日では国内と国外の堺が見えなくなり、国内市場を含めてグローバル市場が形成され、マーケティングもグローバル・マーケティングになりつつある。
この講義では、農産物流通に始まる、アメリカ・マーケティングが、西漸運動、サンフランシスコの発見、南北戦争、プラグマティズム、イノヴェーション、高度大衆消費社会、大不況、などを経てマーケティングの先進国への拡大、マーケティング・マネジメントの確立、そしてグローバル・マーケティングに至る経緯を明らかにする。

【到達目標】
マーケティングと販売の違い、（国内）マーケティングと国際（グローバル）マーケティングの違い、有形財と無形財のマーケティングの違い、時間と空間の違いによるマーケティングの違い、世界的マーケティングの流れなどを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
ゼミナール形式で進めたい。私が毎回テーマに沿った講義を60分ほど話したことについて討論を行ってもらう。議論しながら理解を深めてことが重要である。積極的に発言することを期待する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	グローバル・マーケティングの概念と歴史	グローバル・マーケティングの概念と歴史
第2回	グローバル市場の制度	グローバル市場の制度
第3回	ＩＣＴ（情報・通信技術）の発展	ＩＣＴ（情報・通信技術）の発展
第4回	グローバル・マーケティングとＷＴＯ	グローバル・マーケティングとＷＴＯ
第5回	地域主義と新興市場	地域主義と新興市場
第6回	グローバル商品の多様化	グローバル商品の多様化
第7回	ライフ・スタイルとグローバル・マーケティング	ライフ・スタイルとグローバル・マーケティング
第8回	現代のグローバル市場	現代のグローバル市場
第9回	思考型製品と感情型製品	思考型製品と感情型製品
第10回	グローバル・セグメンテーションとは	グローバル・セグメンテーションとは
第11回	グローバル・ターゲティングとは	グローバル・ターゲティングとは
第12回	グローバル・ポジショニングとは	グローバル・ポジショニングとは
第13回	グローバル・ブランドとは	グローバル・ブランドとは
第14回	グローバル市場参入方式の類型 ボーン・グローバル企業のマーケティング	グローバル市場参入方式の類型 ボーン・グローバル企業のマーケティング

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
グローバル・マーケティングの歴史や成り立ち、新聞や雑誌の記事や戦略、身近に感じるグローバル・マーケティング現象を気にして考えること。

【テキスト（教科書）】
第一回目に講義ノートを配布します。
毎授業使うため，忘れないこと。

【参考書】
１．小田部・他『1からのグローバル・マーケティング』中央経済社、2016年。
２．相原・嶋・三浦『グローバル・マーケティング入門』日本経済新聞出版社、2009年。
３．嶋・東『現代マーケティングの基礎知識』創成社、2012年。

【成績評価の方法と基準】
１．参加30％
２．発言・コメント40％
３．授業への貢献度30％

【学生の意見等からの気づき】
意見を言ってください、出来るだけ努力します。

【学生が準備すべき機器他】
ノートパソコン

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞グローバル・マーケティング、国際ビジネス論、サービス・マネジメント
＜研究テーマ＞ボーン・グローバル企業のマーケティング、グローバル・サービス・マネジメント、フード・サービス
＜所属＞日本大学商学部教授

【Outline (in English)】
【Course outline】
The aim of this course is to help students acquire Global Marketing.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to understand the followings:
－ Points of difference between marketing and sales,etc.
【Learning activities outside of classroom】
Read the references and literature raised in class.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
1. Participation: 30%
2. Remarks/Comments: 40%
3. Contribution to the class: 30%

MAN500F1 – 0184（経営学 / Management 500）

物流管理論

李　瑞雪

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は、ロジスティクス・マネジメントに関する概論的講義です。ビジネス・ロジスティクス・マネジメントの概念・理論とロジスティクス・オペレーションズに関する基礎的理解と分析能力を養うことを主たる目的とします。具体的には、ロジスティクス・マネジメントとサプライチェーン・マネジメント（SCM）に関する基本概念を学んだうえで、企業におけるロジスティクス・オペレーションズ、国際物流がどのように行われるかを検討します。

【到達目標】
企業経営におけるロジスティクス・マネジメント、ロジスティクス・オペレーションズ、サプライチェーン・マネジメント、国際物流に関する全般的な知見の習得を目標とします。また、ケースメソッドや現場観察などを通して、ロジスティクス実務に関わる分析能力と立案能力につながる知的基盤の形成を狙います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
基本的に講義方式で行いますが、受講生によるプレゼンとディスカッションの際にはケースメソッドを採用します。事前にレジュメやケースなど講義資料を配布し受講生の予習を求めます。また、毎回、教材・参考書のリーディング部分を指定します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	（1）ビジネス・ロジスティクスの定義、概念の起源と変遷（2）企業におけるロジスティクスの役割　（3）主なロジスティクス活動　（4）ロジスティクス活動のトレードオフと統合、トータルコストの概念（5）ロジスティクスと企業収益の関係　（6）経済におけるロジスティクスの重要性
2	サプライチェーンマネジメント	（1）サプライチェーンマネジメントの定義、ロジスティクスとの相違,（2）延期戦略と投機戦略,（3）サプライチェーンマネジメントとスピードの経済、サプライチェーンの応答性、ERP(効率的な顧客対応)とQR(迅速な顧客反応)の概念、ブルウィップ効果,（4）サプライチェーン・ネットワーク構造,（5）サプライチェーン・ビジネス・プロセス,（6）サプライチェーンマネジメントの経営要素,（7）サプライチェーンと競争的パフォーマンス
3	ロジスティクス/サプライチェーンマネジメントの戦略とプランニング	（1）全社戦略とロジスティクス/サプライチェーンマネジメント戦略,（2）プロセス・ベースの戦略指向、マーケット・ベースの戦略指向、チャネル・ベースの戦略指向のロジスティクス戦略,（3）機能的ロジスティクス戦略と外部指向のロジスティクス戦略,（4）ロジスティクス/サプライチェーン・プランニング,（5）プランニングの次元,（6）主要なプランニング領域,（7）ロジスティクス/サプライチェーンの計画問題の概念化,（8）戦略策定のためのガイドライン
4	顧客サービス	（1）顧客サービスの定義,（2）顧客サービスの要素,（3）顧客サービス戦略の策定方法: トレードオフ分析とＡＢＣ分析、顧客サービス監査,（4）グローバル顧客サービスの問題
5	ケーススタディ	ケースを用いる受講者のプレゼンとディスカッション
6	ロジスティクス・オペレーションⅠ：在庫管理	（1）在庫の機能範囲,（2）在庫の定義と種類,（3）在庫保持コスト,（4）在庫計画,（5）注文管理,（6）ABC分析と在庫管理,（7）ベンダー主導の在庫管理（VMI)、連続自動在庫補充（CRP)、共同計画・予測・在庫補充（CPFR）
7	ロジスティクス・オペレーションⅡ：輸送インフラと輸送業務	（1）リンク、ノード、モード、キャリア,（2）輸送モードとモーダルシフト,（3）輸送産業に関する法規制,（4）輸送サービス：混載, 複合輸送, 運賃構造, 船荷証券, ロジスティクス業務統合, 宅配便と急送サービス, サードパーティロジスティクス,（5）輸送管理システム,（6）国際輸送
8	ロジスティクス・オペレーションⅢ：保管	（1）保管施設の種類,（2）保管機能と保管業務,（3）自社倉庫と営業倉庫,（4）ダブル・トランザクション・システム,（5）倉庫管理システム, クロスドッキングとミルクラン,（6）倉庫の統廃合,（7）バイヤーズ・コンソリデーショ,（8）保管サービスと物流金融(ABL)）
9	ロジスティクス・オペレーションⅣ：包装と荷役	（1）包装の機能,（2）包装材料の選択,（3）ユニットロードシステム、パレッチゼーション、コンテナリゼーション,（4）荷役活動,（5）荷役機器,（6）デザイン・フォ・ロジスティクス
10	ケーススタディ	ケースを用いる受講者のプレゼンとディスカッション
11	製造戦略と調達戦略	（1）生産戦略の類型、（2）マスカスタマイゼーション、（3）生産工程の基本タイプ、（4）製品・工程マトリックス、（5）生産性ジレンマ、（6）４つの調達方式、（7）TCOの最小化、（8）調達戦略のマトリックス

12	ロジスティクス組織	（1）効果的なロジスティクス組織の重要性,（2）ロジスティクス組織構造の多様性,（3）ロジスティクス組織の有効性に影響する要素,（4）ロジスティクス人材の育成問題
13	グローバル・ロジスティクス	（1）海外市場進出の戦略形態,（2）グローバル市場における制御不可能な要素,（3）輸出活動に関わる事業者,（4）貿易条件、インコタームズ（INCOTERMS）,（5）主要国の国際物流パフォーマンス指標(LPI),（6）グローバル企業のロジスティクス・マネジメント,（7）世界主要地域のロジスティクス特）（8）主要新興国の物流環境,（9）モード選択の戦略,（10）新興国市場におけるロジスティクス要素技術の導入戦略,（11）基礎的キャパシティの確保と独自の高度な能力構築のジレンマ,（12）機能的なロジスティクス戦略と外部指向型のロジスティクス戦略の組み合わせ
14	総括ディスカッション、質疑、期末テスト	総括ディスカッション、質疑、期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布したプリントの予習、復習を行います。ケーススタディの発表とディスカッション問題のために、事前に報告資料を準備します。指定リーディング内容を読んでおきます。

【テキスト（教科書）】
『業界別　物流管理とSCMの実践』ミネルヴァ書房（2022年）

【参考書】
Global Logistics and Supply Chain Management, 4th Edition, John Mangan, Chandra Lalwani, Agustina Calatayud, Wiley, 2021
The Handbook of Logistics and Distribution Management: Understanding the Supply Chain, 7th Edition, Alan Rushton, Phil Croucher, Peter Baker, Kogan Page, 2022
Logistics Management and Strategy: Competing through the Supply Chain, 6th Edition, Alan Harrison, Pearson, 2019
E-Logistics: Managing Digital Supply Chains for Competitive Advantage, 2nd Edition, Yingli Wang, Stephen Pettit, Kogan Page, 2021.
Supply Chain Logistics Management,5th Edition, Donald Bowersox, David Closs, M. Bixby Cooper, McGraw Hill, 2019.

【成績評価の方法と基準】
基本的に講義方式で行うが、受講生によるプレゼンとディスカッションの際にはケースメソッドを採用します。毎回、教材・参考書のリーディング部分を指定し、予習・復習を求めます。プレゼンテーション(20%)、ディスカッション(20%)、期末テスト(60%)を総合して成績を評価します。

【学生の意見等からの気づき】
スライドの切り替えが速いとか、リーディング資料が多すぎるとかいった意見がありました。受講生の理解度を確認しながら、適宜スピードを調整していきます。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞ロジスティクスマネジメント論、経営戦略論、国際経営論
＜研究テーマ＞新興国市場におけるロジスティクス戦略、中国物流産業の高度化など
＜主要研究業績＞
①『中国物流産業論―高度化の軌跡とメカニズム―』白桃書房、2014年.
②『日本企業物流与供応鏈管理案例精選』中国財富出版社、2013年.
③「ロジスティクス戦略論の再検討：新興国市場におけるロジスティクス戦略の理論枠組みに関する予備的考察」『経営志林』(ISSN 0287-0975)第49巻第4号,pp.29-47.
④『変わる中国変わらない中国』全日出版、2003.

【Outline (in English)】
This course deals with logistics management and supply chain management. The main aim is to help students acquire basic knowledge and analytical ability regarding the theories and frameworks of logistics/supply chain management and operations. At the end of the course, students are expected to have basic abilities to plan and analyze logistics/supply chain strategies, organizations, and operating systems based on knowledge acquired from this course. Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapters from the text and handout uploaded on the HOPPII system. During each class meeting, students will be welcomed to contribute to the discussion and Q&A. Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination: 60%, Presentation: 20%, Contribution in class: 20%.

MAN600F1 – 0091（経営学 / Management 600）

アカウンティング･ファイナンス演習

福田　淳児

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
アカウンティング・ファイナンスコースの演習では、これまで当コースで学習してきた内容および関連する他コースの授業での学習内容を基礎とし、各自の実務経験に基づく問題意識に沿って修士論文のテーマを設定してもらいます。その上で、各自が選択したテーマに関連した学術論文のレビューを行うことでリサーチクエスチョンを明確にするとともに、必要なデータの収集とその分析および解釈を行うことで修士論文にふさわしい内容の論文を作成することを目的とします。

【到達目標】
関連した学術文献をレビューすることで，修士論文の作成者の問題意識を明確にする。その際に，テーマに関連した基本的な学術成果を理解することを目標とする。さらに，自分の研究テーマに適した研究方法論を身につける。それによって，学術的に修士論文に相応しい論文を仕上げることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
文献のレビューおよび演習での議論を通じて，修士論文で取り扱う問題の論点の明確化を行う。論文作成の方法、選択した研究テーマの研究領域における位置づけ、仮説の設定方法、分析手法、結果の解釈などについて、説明を行うとともに、毎回学生の報告に基づいて、論文の作成を行うとともに，それについての議論を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回目	修士論文作成のためのガイダンス①	学術論文の構成、参考文献の検索方法、さらに、それぞれの領域で検索を行う対象となりうる学術雑誌の紹介を行う。
2回目	修士論文作成のためのガイダンス②	各自が選択したテーマに関連した最新の研究成果を検索して見つける。
3回目	研究テーマの選択①	修士論文としての研究テーマの妥当性、また何を明らかにしたいのかという点を学生の報告に基づき検討する。
4回目	研究テーマの選択②	研究テーマの検討を続ける。具体的には、比較的短期間で書き上げなければいけない修士論文の性質上、テーマを具体的に絞ることが必要となる。さらに、データの入手可能性を検討する。
5回目	先行研究のレビュー①	選択したテーマに関連した先行研究のレビューを行う。
6回目	先行研究のレビュー②	前回の議論に基づいて，先行研究のさらなるレビューを行う。また、その結果として、選択した領域において何がどこまで明らかにされているのか、また各論文の研究手法などについても議論し、検討する。
7回目	問題意識の具体化①	先行研究のレビューを通して、どのような問題がなお解明されていないのか、またどのようなアプローチを取ることで、それらの問題が解決される可能性があるのかという点について議論する。
8回目	問題意識の具体化②	解明すべき問題と、解明するための方法を引き続き検討する。
9回目	仮説の設定①	選択されたテーマについての文献レビューを通じて、検証すべき仮説の設定を行う。
10回目	仮説の設定②	前回の議論に基づいて、検証すべき仮説についての検討を続ける。
11回目	研究方法論について①	各種の研究方法について全般的な説明を行う。
12回目	研究方法論について②	各自の問題意識に適切な研究方法論について議論・検討する。
13回目	データの入手方法、整理、また質問票などの作成①	研究テーマに応じて、データの入手方法を検討する。質問票調査を行う場合、仮説に応じた質問項目の設定を行う。またケース研究を行う場合、リサーチ・クエスチョンの設定を行うとともに、リサーチサイトの決定を行なう。
14回目	データの入手方法、整理、また質問票などの作成②	データの入手方法、質問票の作成、ケース研究の方法等の検討を続ける。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
修士論文は各自の問題意識に基づいて作成していくものです。演習に望むにあたって各回以下の準備を充分に行ってください。
1～2回目　各自の問題意識に基づいて、その問題意識と関連した学術論文を読み，整理しておくこと。
3～4回目　実務経験およびこれまでの学習に基づいて具体的な研究テーマを考えておく。その際、何をどこまで明らかにしたいかを明確に説明できるようにしておくこと。
5～6回目　各人の研究テーマに応じて、紹介した学術論文などを参考に先行研究のレビューを行っておくこと。
7～8回目　先行研究のレビューに基づいて，これまで何が明らかにされたか。何が残された問題であるかを明確にしておくこと。
9～10回目　先行研究のレビューに基づき、これまでの研究で何がどこまで明らかにされているのか、また各自の修士論文では何をどこまで明らかにするのかを明確にしてくること。
11～12回目　これまでの文献で使用されていた研究方法について検討すること。
13～14回目　必要なデータを収集するためのソース、あるいは、質問票調査を行う場合は質問項目などを考えておく。
15回目　先行研究のレビューに基づいて仮説の設定を行い、簡単なレジュメを作成すること。その際、仮説はこれまでの研究をふまえた上で論理的に構築できるようにしてください。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。各自の問題意識に基づいて関連した文献を紹介します。

【参考書】
各自の研究テーマに合わせ、適宜紹介します。管理会計の領域で修士論文を書く場合は、例えば以下のジャーナルに目を通してみてください。
The Accounting Review
Journal of Management Accounting Research
Accounting, Organizations and Society
Management Accounting Research

【成績評価の方法と基準】
毎回の議論のための準備および授業での議論への貢献で30％，中間レポートの提出で70％

【学生の意見等からの気づき】
本講義は演習課目であるため授業改善アンケートは実施していません。

【Outline (in English)】
In the seminar of the Accounting and Finance Course, students are asked to set a theme for their master's thesis based on the content they have studied in this course and in other related courses, as well as on their awareness of problems based on their own practical experience. Students will then review academic papers related to the theme they have chosen in order to further clarify the issues and create a paper with content suitable for a master's thesis by setting and testing hypotheses. Clarify the author's awareness of the problem in writing the master's thesis. Understand the basic academic results related to the theme by reading and understanding related academic papers. In addition, students will acquire research methodologies appropriate to their own research topics. The goal is to complete a thesis that is academically appropriate for a master's thesis.
The master's thesis is to be written based on each student's awareness of the problem. The following preparations are required for each exercise.
Sessions 1 and 2: Based on your own awareness of the issues, read as much as you can of the academic papers related to your awareness of the issues.
Third and fourth sessions: Think of a specific research theme based on your own practical experience and previous studies. You should be able to clearly explain what you want to clarify and to what extent.
Students are expected to review previous research, referring to the academic papers introduced, according to their own research themes.
Based on the review of previous studies, what has been clarified so far? Clarify what has been clarified so far based on the review of previous studies and what remains to be clarified.
Based on the review of the previous studies, what has been clarified so far and to what extent, and what is to be clarified in each student's master's thesis.
In the 11th and 12th sessions, we will discuss the research methods used in the previous literature.
13th-14th To consider the sources for collecting the necessary data, or the questions to be asked if a questionnaire survey is to be conducted.
Students should formulate a hypothesis based on a review of previous research and prepare a brief resume. In doing so, the hypothesis should be able to be logically constructed based on the previous research.
Grading will be based on preparation for each discussion and contribution to the class discussion (30%), and submission of the mid-term report (70%).

MAN600F1－0091（経営学 / Management 600）

アカウンティング･ファイナンス演習

福田　淳児

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
アカウンティング・ファイナンスコースの演習では、これまで当コースで学習してきた内容および関連する他コースの授業での学習内容を基礎とし、各自の実務経験に基づく問題意識に沿って修士論文のテーマを設定してもらいます。その上で、各自が選択したテーマに関連した学術論文のレビューを行うことで問題点をさらに明確にするとともに、仮説設定さらに仮説の検証を行うことで修士論文にふさわしい内容の論文を作成することを目的とします。

【到達目標】
修士論文の作成者の問題意識を明確にする。関連した学術論文を読みこみ，理解することで、テーマに関連した基本的な学術成果および研究方法論を身につける。それによって、学術的に修士論文に相応しい論文を仕上げることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
論文作成の方法、選択した研究テーマの研究領域における位置づけ、仮説の設定方法、分析手法、結果の解釈などについて、説明を行うとともに、毎回学生の報告に基づいて、議論を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回目	中間報告論文の follow-up	春学期に提出した中間報告の論文に基づいて，その後の進展も踏まえ，議論を行う。
2回目	データの分析方法①	仮説の検証方法について説明する。
3回目	データの分析方法②	引き続き、仮説の検証方法について説明する。
4回目	データの分析①	各自が収集したデータを使い、その分析結果の検討を行なう。
5回目	データの分析②	前回に引き続き、データの分析結果を議論する。
6回目	データ分析の結果の解釈①	分析の妥当性およびそこから得られた結果の解釈を行なう。
7回目	データ分析の結果の解釈②	前回に続き、分析の妥当性およびそこから得られた結果の解釈について議論する。
8回目	修士論文のドラフトの作成①	提出されたドラフトに基づいて、論文の構成や議論の展開などを中心に検討を行なう。
9回目	修士論文のドラフトの作成②	引き続き、ドラフトについて、論文の構成や議論の展開などを中心に検討を行なう。
10回目	修士論文のドラフトの修正①	前回までのコメントに基づいて修士論文のドラフトの修正を行なう。
11回目	修士論文のドラフトの修正②	引き続き、前回までのコメントに基づいて修士論文のドラフトの修正を行なう。
12回目	修士論文の報告および議論①	修士論文の内容を報告してもらい、全体の構成を踏まえて議論を行う。
13回目	修士論文の報告および議論②	引き続き、修士論文の内容について議論を行う。
14回目	論文の修正および完成原稿の作成①	提出予定の論文について最終的な議論を行い、それに基づいて論文を最終的に修正する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
修士論文は各自の問題意識に基づいて作成していくものです。演習に望むにあたって各回以下の準備を充分に行っておくこと。
1回目　春学期に提出した中間報告論文およびその後の追加的な研究に基づいて議論を行う。
2～3回目　各自の研究に適当と思われる分析方法について学習すること。
4～5回目　各自が得たデータに対して学習した分析方法を適用して分析を行なう。
6～7回目　分析結果について解釈を行なうとともに，それについての議論を行う。
8～9回目　修士論文の章立てを構成し、大雑把なドラフトを作成する。
10～11回目　教員からのコメントに基づいてより詳しいドラフトを作成する。
12～13回目　教員からのコメントに基づいて修士論文を加筆・修正する。
14～15回目　教員からのコメントに基づいて修士論文の最終版を作成する。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。各自の研究テーマに沿って適切な文献を紹介します。

【参考書】
各自の研究テーマに合わせ、適宜紹介します。管理会計の領域で修士論文を書く場合は、例えば以下のジャーナルに目を通してみてください。
The Accounting Review
Journal of Management Accounting Research
Accounting, Organizations and Society
Management Accounting Research

【成績評価の方法と基準】
演習における議論への貢献40％および報告の内容60％で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
本講義は演習課目であるため授業改善アンケートは実施していません。

【Outline (in English)】
In the seminar of the Accounting and Finance Course, students are asked to set a theme for their master's thesis based on the content they have studied in this course and in other related courses, as well as on their awareness of problems based on their own practical experience. Students will then review academic papers related to the theme they have chosen in order to further clarify the issues and create a paper with content suitable for a master's thesis by setting and testing hypotheses. Clarify the author's awareness of the problem in writing the master's thesis. Understand the basic academic results related to the theme by reading and understanding related academic papers. In addition, students will acquire research methodologies appropriate to their own research topics. The goal is to complete a thesis that is academically appropriate for a master's thesis.
The master's thesis is to be written based on each student's awareness of the problem. The following preparations should be made for each exercise.
In the first session, you will perform the work requested in the interim report given in the spring semester.
The second and third sessions will be devoted to the study of analytical methods that are appropriate for each student's research.
Students will apply the analysis methods they have learned to the data they have obtained and conduct analysis.
Students will interpret the results of their analyses.
Students will compose chapters of their master's thesis and prepare a rough draft.

Students will prepare a more detailed draft based on comments from the instructor.
12th - 13th Additions and revisions to the master's thesis based on comments from the instructor.
Students will prepare a final version of their master's thesis based on comments from the instructor.
Evaluation will be based on 40% of the contribution to the discussion in the exercise and 60% of the content of the report.

MAN600F1－0091（経営学 / Management 600）

アカウンティング･ファイナンス演習

髙橋　美穂子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
アカウンティング・ファイナンスコース演習では、これまで当コースで学習してきた内容および関連する他コースの授業での学習内容を基礎とし、各自の実務経験に基づく問題意識に沿って修士論文のテーマを設定してもらいます。さらに、各自が選択したテーマに関連する学術論文のレビューを行い、その上で具体的な研究課題を設定し、それを明らかにするための方法を学びます。これにより、修士論文にふさわしい内容の論文を作成することを目的とします。

【到達目標】
修士論文の作成者の問題意識を明確にします。関連した学術論文を読みこみ，理解することで、テーマに関連した基本的な学術成果および研究方法論を身につけます。それによって、学術的に修士論文に相応しい論文を仕上げることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
論文作成の方法、選択したテーマの研究領域における位置づけ、仮説の設定方法、分析手法、結果の解釈などについて説明を行うとともに、毎回学生の報告に基づいて議論を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回目	修士論文作成のためのガイダンス①	学術論文の構成、参考文献の検索方法、さらに、それぞれの領域で検索の対象となりうる学術雑誌の紹介を行う。
2回目	修士論文作成のためのガイダンス②	各自が選択したテーマに関連した最新の研究成果を検索して見つける。
3回目	研究テーマの選択①	修士論文としての研究テーマの妥当性、また何を明らかにしたいのかという点を学生の報告に基づき検討する。
4回目	研究テーマの選択②	研究テーマの検討を続ける。比較的短期間で書き上げなければいけない修士論文の性質上、テーマを具体的に絞る。さらに、データの入手可能性を検討する。
5回目	先行研究のレビュー①	選択したテーマに関連した先行研究のレビューを行い報告する。
6回目	先行研究のレビュー②	引き続き先行研究のレビューを行う。また、その結果として、何がどこまで明らかにされているのか、また各論文の研究手法などについても議論し、検討する。
7回目	問題意識の具体化①	先行研究のレビューを通して、どのような問題がなお解明されていないのか、またどのようなアプローチを取ることで、それらの問題が解決される可能性があるのかを議論する。
8回目	問題意識の具体化②	解明すべき問題と、解明するための方法を引き続き検討する。
9回目	仮説の設定①	選択されたテーマについての文献レビューを通じて、検証すべき仮説の設定を行う。
10回目	仮説の設定②	設定すべき仮説についての検討を続ける。
11回目	研究方法論について①	各種の研究方法について全般的な説明を行う。
12回目	研究方法論について②	各自の問題意識に適切な研究方法論について議論・検討する。
13回目	データの入手方法、整理、また質問票などの作成	研究テーマに応じて、データの入手方法を検討する。質問票調査を行う場合、仮説に応じた質問項目の設定を行う。またケース研究を行う場合、リサーチ・クエスチョンの設定を行うとともに、リサーチサイトの決定を行なう。
14回目	中間報告	中間報告を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
修士論文は各自の問題意識に基づいて作成していくものです。演習に臨むにあたって各回以下の準備を充分に行ってください。
1～2回目　各自の問題意識に基づいて、参考となりそうな学術論文を可能な限り読んでおく。
3～4回目　自分の実務経験、またこれまでの学習に基づいて具体的な研究テーマを考えておく。その際、何をどこまで明らかにしたいかを明確に説明できるようにする。
5～6回目　各人の研究テーマに応じて、紹介した学術論文などを参考に先行研究のレビューを行う。
7～8回目　先行研究のレビューに基づいて、これまでの研究で明らかにされた点と残された課題を明確にする。
9～10回目　先行研究のレビューに基づいて、これまでの研究で明らかにされた点、また各自の修士論文では何をどこまで明らかにすることが目的なのかを明確にする。
11～12回目　これまでの文献で使用されていた研究方法について検討する。
13回目　必要なデータを収集するための情報源を検討する。
14回目　先行研究のレビューに基づいて仮説の設定を行い、レジュメを用いて報告する。仮説はこれまでの研究をふまえた上で論理的に構築すること。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。各自の問題意識に基づき基本的な文献を紹介します。

【参考書】
各自の研究テーマに合わせ、適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
議論への貢献度（40％）および報告内容（60％）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
本講義は演習課目であるため授業改善アンケートは実施していません。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞経営分析、企業価値評価
＜研究テーマ＞資産価格理論における会計情報の有用性の検討
＜主要研究業績＞
会計における割引計算－割引率と対応する将来キャッシュ・フローの検討－、同文舘出版,『会計・監査研究の展開』、第 3 章所収、p57-71、2021 年 1 月

【Outline (in English)】
（Course outline）
This seminar is designed to help students complete their master thesis. Students are required to set a research question based on not only what they think is important following their working experience, but also on an academic perspective which they have studied in the MBA course. By reviewing previous studies and discussions with the instructor, students will clarify the purpose of their study and methodology that they will adopt in their thesis. In the final class of this course, students are required to report the progress of their thesis.
（Learning Objectives）

By the end of the course, students are expected to do the following:
-Clarify the research question
-Acquire common academic knowledge and research methodologies related to the topic
-Write a master thesis
（Learning activities outside of classroom）
Student study and review times are more than 2 hours for each class.
（Grading Criteria）
Grading will be decided based on in-class discussion (40%) and presentation/reporting (60%).

MAN600F1－0091（経営学 / Management 600）

アカウンティング･ファイナンス演習

髙橋　美穂子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
アカウンティング・ファイナンスコース演習では、これまで当コースで学習してきた内容および関連する他コースの授業での学習内容を基礎とし、各自の実務経験に基づく問題意識に沿って修士論文のテーマを設定してもらいます。さらに、各自が選択したテーマに関連した学術論文のレビューを行い、その上で具体的な研究課題を設定し、それを明らかにするための方法を学びます。これにより、修士論文にふさわしい内容の論文を作成することを目的とします。

【到達目標】
修士論文の作成者の問題意識を明確にします。関連した学術論文を読みこみ，理解することで、テーマに関連した基本的な学術成果および研究方法論を身につけます。それによって、学術的に修士論文に相応しい論文を仕上げることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
論文作成の方法、選択したテーマの研究領域における位置づけ、仮説の設定方法、分析手法、結果の解釈などについて説明を行うとともに、毎回学生の報告に基づいて議論を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回目	中間報告のfollow-up	春学期に行った中間報告で教員または他の大学院生より指摘された点についてその結果を報告し、議論する。
2回目	データの分析方法①	仮説の検定方法について説明する。
3回目	データの分析方法②	引き続き、仮説の検定方法について説明する。
4回目	データの分析①	各自が収集したデータを使い、その分析結果の検討を行なう。
5回目	データの分析②	前回に引き続き、データの分析結果を議論する。
6回目	データ分析の結果の解釈①	分析の妥当性およびそこから得られた結果の解釈を行なう。
7回目	データ分析の結果の解釈②	前回に続き、分析の妥当性およびそこから得られた結果の解釈について議論する。
8回目	修士論文のドラフトの作成①	提出されたドラフトに基づいて、論文の構成や議論の展開などを中心に検討を行なう。
9回目	修士論文のドラフトの作成②	引き続き、ドラフトについて、論文の構成や議論の展開などを中心に検討を行なう。
10回目	修士論文のドラフトの修正①	前回までのコメントに基づいて修士論文のドラフトの修正を行なう。
11回目	修士論文のドラフトの修正②	引き続き、前回までのコメントに基づいて修士論文のドラフトの修正を行なう。
12回目	修士論文の報告および議論①	修士論文の内容を報告してもらい、全体の構成を踏まえて議論を行う。
13回目	修士論文の報告および議論②	引き続き、修士論文の内容について議論を行う。
14回目	論文の修正および完成原稿の作成①	提出予定の論文について最終的な議論を行い、それに基づいて論文を修正する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
修士論文は各自の問題意識に基づいて作成していくものです。演習に臨むにあたって各回以下の準備を充分に行ってください。
1回目　春学期に行った中間報告で要請された作業を行う。
2～3回目　各自の研究に適当と思われる分析方法を検討・学習する。
4～5回目　各自が得たデータに対して学習した分析方法を適用して分析を行なう。
6～7回目　分析結果について解釈を行なう。
8～9回目　修士論文の章立てを構成し、ドラフトを作成する。
10～11回目　教員からのコメントに基づいてより詳しいドラフトを作成する。
12～13回目　教員からのコメントに基づいて修士論文を加筆・修正する。
14～15回目　教員からのコメントに基づいて修士論文の最終版を作成する。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。各自の研究テーマに沿って適切な文献を紹介します。

【参考書】
各自の研究テーマに合わせ、適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
議論への貢献度（40％）および報告内容（60％）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
本講義は演習課目であるため授業改善アンケートは実施していません。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞経営分析、企業価値評価
＜研究テーマ＞資産価格理論における会計情報の有用性の検討
＜主要研究業績＞
会計における割引計算－割引率と対応する将来キャッシュ・フローの検討－、同文舘出版,『会計・監査研究の展開』、第 3 章所収、p57-71、2021 年 1 月

【Outline (in English)】
大学院演習（秋学期）
（Course outline）
This seminar is designed to help students complete their master thesis. Students are required to set a research question based on not only what they think is important following their working experience, but also on an academic perspective which they have studied in the MBA course. By reviewing previous studies and discussions with the instructor, students will clarify the purpose of their study and methodology that they will adopt in their thesis. In the final class of this course, students are required to submit a final version of their master's thesis.
（Learning Objectives）
By the end of the course, students are expected to do the following:
-Clarify the research question
-Acquire common academic knowledge and research methodologies related to the topic
-Complete a master thesis
（Learning activities outside of classroom）
Student study and review times are more than 2 hours for each class.
（Grading Criteria）
Grading will be decided based on in-class discussion (40%) and presentation/reporting (60%).

MAN600F1－0091（経営学 / Management 600）

アカウンティング･ファイナンス演習

川島　健司

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
アカウンティング・ファイナンスコース演習では、これまで当コースで学習してきた内容や他のコースで学んだ内容を基礎とし、各自の実務経験に基づく問題意識に沿って修士論文のテーマを設定してもらいます。その上で、各自が選択したテーマに関連した学術論文のレビューを行うことで問題点を明確にするとともに、実務から生まれた問題意識と照らし合わせることで修士論文にふさわしい内容の論文を作成することを目標とします。

【到達目標】
修士論文の作成者の問題意識を明確にします。関連した学術論文を読み込み、咀嚼することで、テーマに関連した基本的な学術成果および研究方法を身につけます。よって、学術的に修士論文に相応しい論文に仕上げることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
論文作成の方法、選択した研究テーマの位置づけ、仮説の設定方法、分析手法、結果の解釈などについて、説明を行うとともに、毎回学生の報告に基づいて、議論を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回目	修士論文作成のためのガイダンス①	学術論文の構成、参考文献の検索方法、さらに、それぞれの領域で検索の対象となりうる学術雑誌の紹介を行う。
2回目	修士論文作成のためのガイダンス②	各自が選択したテーマに関連した最新の研究成果を検索して見つける。
3回目	研究テーマの選択①	修士論文としての研究テーマの妥当性、また何を明らかにしたいのかという点を学生の報告に基づき検討する。
4回目	研究テーマの選択②	研究テーマの検討を続ける。具体的には、比較的短期間で書き上げなければいけない修士論文の性質上、テーマを具体的に絞る。さらに、データの入手可能性を検討する。
5回目	先行研究のレビュー①	選択したテーマに関連した先行研究のレビューを行ってもらう。
6回目	先行研究のレビュー②	引き続き先行研究のレビューを行ってもらう。また、その結果として、何がどこまで明らかにされているのか、また各論文の研究手法などについても議論し、検討する。
7回目	問題意識の具体化①	先行研究のレビューを通して、どのような問題がなお解明されていないのか、またどのようなアプローチを取ることで、それらの問題が解決される可能性があるのかという点について議論する。
8回目	問題意識の具体化②	解明すべき問題と、解明するための方法を引き続き検討する。
9回目	仮説の設定①	選択されたテーマについての文献レビューを通じて、検証すべき仮説の設定を行う。
10回目	仮説の設定②	設定すべき仮説についての検討を続ける。
11回目	研究方法論について①	各種の研究方法について全般的な説明を行う。
12回目	研究方法論について②	各自の問題意識に適切な研究方法論について議論・検討する。
13回目	データの入手方法、整理、また質問票などの作成	研究テーマに応じて、データの入手方法を検討する。質問票調査を行う場合、仮説に応じた質問項目の設定を行う。またケース研究を行う場合、リサーチ・クエスチョンの設定を行うとともに、リサーチサイトの決定を行なう。
14回目	中間報告	中間報告を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
修士論文は各自の問題意識に基づいて作成していくものです。演習に望むにあたって各回以下の準備を充分に行っておくこと。
1～2回目　各自の問題意識に基づいて、参考となりそうな学術論文をできるだけ読んでおくこと。
3～4回目　自分の実務経験、またこれまでの学習に基づいて具体的な研究テーマを考えておく。その際、何をどこまで明らかにしたいかを明確に説明できるようにしておくこと。
5～6回目　各人の研究テーマに応じて、紹介した学術論文などを参考に先行研究のレビューを行っておくこと。
7～8回目　先行研究のレビューに基づいて，これまで何が明らかにされたか。何が残された問題であるかを明確にしておくこと。
9～10回目　先行研究のレビューに基づき、これまでの研究で何がどこまで明らかにされているのか、また各自の修士論文では何をどこまで明らかにすることができるのかを明確にしてくること。
11～12回目　これまでの文献で使用されていた研究方法について検討すること。
13回目　必要なデータを収集するためのソース、あるいは、質問票調査を行う場合は質問項目などを考えておく。
14回目　先行研究のレビューに基づいて仮説の設定を行い、レジュメを用いて報告すること。その際、仮説はこれまでの研究をふまえた上で論理的に構築できるようにしてください。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。各自の問題意識に基づき基本的な文献を紹介します。

【参考書】
各自の研究テーマに合わせ、適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点20％、議論への貢献30％および報告内容50%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
本講義は演習課目であるため授業改善アンケートは実施していません。

【Outline (in English)】
Learning Objectives: Students will clarify the problem awareness of the author of the master's thesis (or the issues the student wishes to address in his or her master's thesis). By reading and understanding relevant academic papers, students will acquire basic academic results and research methodologies related to the theme. Therefore, the goal is to complete a thesis that is academically appropriate as a master's thesis. Learning Activities Outside of Classroom: The master's thesis will be based on each student's awareness of the problem (or the issues the student wishes to address). The following should be done before each class. In the first class, you will do the work requested in the interim report given in the spring semester. The second and third classes will be devoted to learning the analytical technique that are appropriate for each student's research. In the fourth and fifth classes, students will apply the analytical technique they have learned to the data they have obtained. In the sixth and seventh classes, students will interpret the results of their analyses. In the eighth and ninth classes, students will plan the outline of their master's thesis and prepare a rough draft. In the tenth and eleventh classes, students will prepare a more detailed draft based on comments from the instructor. In the twelfth to the fourteenth classes, students will revise their master's thesis based on comments from the instructor to complete it. Grading Criteria / Policy: Students will be graded based on the following criteria: 20% is based on the general participation, 30% on contribution to the discussion in the seminar, and 50% on the content of the report made in the seminar.

MAN600F1－0091（経営学 / Management 600）

アカウンティング･ファイナンス演習

川島　健司

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
アカウンティング・ファイナンスコース演習では、これまで当コースで学習してきた内容や他のコースで学んだ内容を基礎とし、各自の実務経験に基づく問題意識に沿って修士論文のテーマを設定してもらいます。その上で、各自が選択したテーマに関連した学術論文のレビューを行うことで問題点を明確にするとともに、実務から生まれた問題意識と照らし合わせることで修士論文にふさわしい内容の論文を作成することを目標とします。

【到達目標】
修士論文の作成者の問題意識を明確にします。関連した学術論文を読み込み、理解することで、テーマに関連した基本的な学術成果および研究方法論を身につけます。よって、学術的に修士論文に相応しい論文を仕上げることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
論文作成の方法、選択した研究テーマの研究領域における位置づけ、仮説の設定方法、分析手法、結果の解釈などについて、説明を行うとともに、毎回学生の報告に基づいて、議論を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回目	中間報告のフォロー・アップ	春学期に行った中間報告で要請された作業についてその結果を報告し、議論する。
2回目	データの分析方法	仮説の検定方法について説明する。
3回目	データ分析の修正	データ分析の修正を行う。
4回目	データ分析の結果の解釈①	分析の妥当性およびそこから得られた結果の解釈を行なう。
5回目	データ分析の結果の解釈②	引き続き、分析の妥当性およびそこから得られた結果の解釈を行なう。
6回目	修士論文のドラフトの作成①	提出されたドラフトに基づいて、論文の構成や議論の展開などを中心に検討を行なう。
7回目	修士論文のドラフトの作成②	引き続き、ドラフトについて、論文の構成や議論の展開などを中心に検討を行なう。
8回目	修士論文のドラフトの作成③	引き続き、ドラフトについて、論文の構成や議論の展開などを中心に検討を行なう。
9回目	修士論文のドラフトの修正①	前回までのコメントに基づいて修士論文のドラフトの修正を行なう。
10回目	修士論文のドラフトの修正②	引き続き、前回までのコメントに基づいて修士論文のドラフトの修正を行なう。
11回目	修士論文の報告および議論①	修士論文の内容を報告してもらい、全体の構成を踏まえて議論を行う。
12回目	修士論文の報告および議論②	引き続き、修士論文の内容について議論を行う。
13回目	論文の修正および完成原稿の作成①	提出予定の論文について最終的な議論を行い、それに基づいて論文を修正する。
14回目	論文の修正および完成原稿の作成②	引き続き、提出予定の論文について最終的な議論を行い、それに基づいて論文を修正する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
修士論文は各自の問題意識に基づいて作成していくものです。演習に望むにあたって各回以下の準備を充分に行っておくこと。
1回目　春学期に行った中間報告で要請された作業を行う。
2～3回目　各自の研究に適当と思われる分析方法を学習する。
4～5回目　各自が得たデータに対して学習した分析方法を適用して分析を行なう。
6～7回目　分析結果についての解釈を行なう。
8～9回目　修士論文の章立てを構成し、大雑把なドラフトを作成する。
10～11回目　教員からのコメントに基づいてより詳しいドラフトを作成する。
12～14回目　教員からのコメントに基づいて修士論文を加筆・修正し，完成させる。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。各自の研究テーマに沿って適切な文献を紹介します。

【参考書】
各自の研究テーマに合わせ、適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点20％、議論への貢献30％および報告内容50%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
本講義は演習課目であるため授業改善アンケートは実施していません。

【Outline (in English)】
Learning Objectives: Students will clarify the problem awareness of the author of the master's thesis (or the issues the student wishes to address in his or her master's thesis). By reading and understanding relevant academic papers, students will acquire basic academic results and research methodologies related to the theme. Therefore, the goal is to complete a thesis that is academically appropriate as a master's thesis. Learning Activities Outside of Classroom: The master's thesis will be based on each student's awareness of the problem (or the issues the student wishes to address). The following should be done before each class. In the first class, you will do the work requested in the interim report given in the spring semester. The second and third classes will be devoted to learning the analytical technique that are appropriate for each student's research. In the fourth and fifth classes, students will apply the analytical technique they have learned to the data they have obtained. In the sixth and seventh classes, students will interpret the results of their analyses. In the eighth and ninth classes, students will plan the outline of their master's thesis and prepare a rough draft. In the tenth and eleventh classes, students will prepare a more detailed draft based on comments from the instructor. In the twelfth to the fourteenth classes, students will revise their master's thesis based on comments from the instructor to complete it. Grading Criteria / Policy: Students will be graded based on the following criteria: 20% is based on the general participation, 30% on contribution to the discussion in the seminar, and 50% on the content of the report made in the seminar.

MAN600F1 − 0091（経営学 / Management 600）

アカウンティング･ファイナンス演習

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

【学生の意見等からの気づき】

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
（Course outline）
（Learning Objectives）
（Learning activities outside of classroom）
（Grading Criteria /Policy）

MAN600F1－0091（経営学 / Management 600）

アカウンティング･ファイナンス演習

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

【学生の意見等からの気づき】

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
（Course outline）
（Learning Objectives）
（Learning activities outside of classroom）
（Grading Criteria /Policy）

MAN600F1 − 0091（経営学 / Management 600）

アカウンティング・ファイナンス演習（代表シラバス）

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

【学生の意見等からの気づき】

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
（Course outline）
（Learning Objectives）
（Learning activities outside of classroom）
（Grading Criteria /Policy）

MAN600F1 − 0091（経営学 / Management 600）

アカウンティング・ファイナンス演習（代表シラバス）

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

【学生の意見等からの気づき】

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
（Course outline）
（Learning Objectives）
（Learning activities outside of classroom）
（Grading Criteria /Policy）

MAN500F1 – 0092（経営学 / Management 500）

ワークショップ（アカウンティング・ファイナンス）

川島　健司、福田　淳児

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
アカウンティング・ファイナンスの最新のトピックまた多様な業種に属する企業における実務の状況を理解します。これによって、自社の状況だけではなく、企業横断的に様々な領域に関わる問題についての理解を深めるとともに、新しい領域のテーマについても学習します。さらに，修士論文の作成のためのテーマを考えるひとつのヒントとします。

【到達目標】
各テーマについて実際の企業で実務に携わる講師の方のお話を聞くことで、財務会計、管理会計、ファイナンス、税務会計、監査論のテーマについて理解すると共に、自社だけの状況ではなく他社の実務を理解することで，多様な実務が存在することを理解することを目標とします。また，他社の実務の理解を通じ、自分の問題意識が自社固有のものなのか、または他の企業にも共通するものであるのかを理解することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
　ワークショップは基本的には対面で行います。ただし、先方の都合など，状況に応じてオンラインを積極的に活用する予定です。本授業では、最初に担当教員にから財務会計と管理会計の概略的な説明を行います。その後，外部から講師の方を招き、各テーマまたは各企業の実務についての説明を行っていただきます。講師の方からのお話の後，これらの内容について質疑応答をおこないながら理解を深めていきます。なお、以下の授業計画は以前のものを例として示しています。今年度の具体的な講師の方の紹介またその内容は現在調整中ですので，初回講義の際に説明をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ワークショップの概要，ゲストとしてお招きする企業または個人の方の報告内容を説明する。
2	財務会計の全般的な説明	ワークショップでお招きする企業の方が取り扱う財務会計に関わるテーマについて学術的な側面から事前に説明する。
3	管理会計の全般的な説明	ワークショップでお招きする方が取り扱う管理会計に関わるテーマについて学術的な側面から事前に説明する。
4	企業の不祥事とコーポレートガバナンス	ゲストをお招きし，ゲストの方が専門とする実務について紹介していただき，議論を行う。
5	企業のDXへの取り組み	ゲストをお招きし，ゲストの方が専門とする実務について紹介していただき，議論を行う。
6	スタートアップの成長戦略とIPO	ゲストをお招きし，ゲストの方が専門とする実務について紹介していただき，議論を行う。
7	社会福祉法人における管理会計	ゲストをお招きし，ゲストの方が専門とする実務について紹介していただき，議論を行う。
8	企業にとってのKPIと制度決算との関連	ゲストをお招きし，ゲストの方が専門とする実務について紹介していただき，議論を行う。
9	企業成長のためのM&A戦略と企業評価	ゲストをお招きし，ゲストの方が専門とする実務について紹介していただき，議論を行う。
10	資産運用およびESG投資	ゲストをお招きし，ゲストの方が専門とする実務について紹介していただき，議論を行う。
11	中期経営計画と予算管理	ゲストをお招きし，ゲストの方が専門とする実務について紹介していただき，議論を行う。
12	統合報告書	ゲストをお招きし，ゲストの方が専門とする実務について紹介していただき，議論を行う。
13	社会的企業の管理会計	ゲストをお招きし，ゲストの方が専門とする実務について紹介していただき，議論を行う。
14	ワークショップのまとめ	ゲストの方から学んだ内容について，学術的な観点から検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
各回の講師の方のテーマに関連して事前に文献などを紹介しますので，それらを読んできてください。また、企業からのゲストの方の場合にはその企業のホームページには必ず目を通してきてください。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
各回のテーマに合わせ、必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
講義中の議論への参加およびその貢献を50％、最終レポートの評価を50％で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
外部のゲストの方からのお話に先立って，そのお話と関連した学術的な議論を知りたいという要請がありました。できる限り，ゲストの方のお話に関連した学術的な議論も紹介したいと考えています。

【Outline (in English)】
Students will gain an understanding of current topics in management accounting and the state of practice in companies in a variety of industries. In this way, students will deepen their understanding of not only their own company's situation, but also issues related to various areas across companies, as well as learn about themes in new areas. In addition, this course will provide students with a hint on how to think about themes for their master's thesis.
By listening to lecturers who are engaged in actual business practices in actual companies on each theme, we aim to understand the themes of financial accounting, management accounting, finance, tax accounting, and auditing theory, as well as to understand the existence of diverse practices by understanding the practices of other companies, not just the situation of our own company. In addition, through understanding the practices of other companies, the goal is to understand whether one's own awareness of the issues is unique to one's own company or whether it is common to other companies.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
We will introduce literature and other materials related to the theme of each lecturer in advance, so please read them. In addition, if the lecturer is a guest from a company, please be sure to read the company's website.
Grading will be based on 50% on participation and contribution to the discussion in the lecture and 50% on the final report.

MAN500F1 − 0097（経営学 / Management 500）

経営分析

福多　裕志

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
経営分析とは、企業会計システムを通して創出される会計情報に着目し、効率的な経営管理と合理的意思決定の促進を目的とし、創出された情報の意味内容を解釈するプロセスと技術である。本科目では、主として定量的財務諸表分析に焦点を絞り、日米の文献（およそ日本文献8：米文献2の割合）を参照しながら、基礎統計学の理論を援用し、講義、問題演習、受講者による発表・討論をもって授業を進行する。特に、各種比率に関する業界の中心的傾向を探るために、財務諸表分析に推定・検定の統計手法を応用する可能性を探りたい。有価証券報告書の中身を精査する授業とは異なり、広い分野に援用可能となる授業の展開を心がけたい。

【到達目標】
1. 予備技術として、オンラインデータベースより必要とされる財務データを精確に検索すること。
2. 当該財務データを統計的に処理し（記述統計）、計算結果を評価すること。
3. 財務比率・指標を比較・検討するための平均値、分散を推定し(推測統計)、計算結果を評価し、合理的意思決定に供する情報を創出すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
オンライン上の財務データを積極的に利用し、データ分析（統計解析）の実行結果を経営分析の観点から参加者間で議論・評価する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義計画と経営分析の目的	コース概要、経営分析の目的、機能等についての説明
第2回	財務諸表分析の枠組み：その1	財務諸表分析の基本事項および基本統計量の確認と計算
第3回	財務諸表分析の枠組み：その2	財務安全性、効率性、収益性、成長性の4領域の確認と問題演習
第4回	短期利益計画1	損益分岐点分析の構造
第5回	短期利益計画2	損益分岐点分析の現実データへの応用
第6回	中間発表	異なる業界の事例研究
第7回	経営分析への基礎統計学の応用1	財務諸表分析において使用される主な分布－正規分布。問題演習
第8回	経営分析への基礎統計学の応用2	財務諸表分析において使用される主な分布－t分布等。問題演習
第9回	経営分析への基礎統計学の応用3	経営領域のいくつかの推定に関連する問題
第10回	経営分析への基礎統計学の応用4	財務諸表分析において使用される主な分布－χ^2分布、F分布等。問題演習
第11回	統計解析を応用した経営分析関連のケース発表	財務諸表分析における業界平均値の推定およびその有用性の検討
第12回	経営分析への基礎統計学の応用5	複数業界の分散の推定
第13回	経営分析への基礎統計学の応用6	推定・検定の事例研究、問題演習
第14回	最終試験	統計分析の応用に関し授業内で学習した事項の最終筆記試験および解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
データベースにアクセスし、関心ある個別企業、業界の財務諸表分析を様々な角度から実施することを推奨する。

【テキスト（教科書）】
参考文献を基に独自に作成したスライドを学習支援システム上に掲載する。

【参考書】
1) Colin Drury (2008), *Management and Cost Accounting 7th ed.,* South-Western.
2) Ray H. Garrison (2008), *Managerial Accounting,* McGraw Hill International.
3) 青木茂男編著『要説　経営分析　六訂版』森山書店, 2022年.
4) 大津広一『企業価値を創造する会計指標入門』ダイヤモンド社, 2005年.
5) 奥野忠一・山田文道『情報化時代の経営分析』東京大学出版会, 1995年.
英語、日本語の参考文献は、随時、学習支援システム上に掲載する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（議論への貢献度、事例発表）40%、最終試験60%とする。

【学生の意見等からの気づき】
受講者が有する予備知識に応じて柔軟に対応したい。

【学生が準備すべき機器他】
最終試験の際、一般的電卓のみ使用可とする。授業では、インターネット接続および計算用ソフト（エクセル等）の利用を推奨する。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞意思決定会計
＜研究テーマ＞財務体質の日米比較
＜主要研究業績＞
・「品川区中小企業グループと上場企業の収益性比較」東京都城南地域中小企業振興センター, 2000年.
・「売上高経常利益率の1次元位相」（ワーキング・ペーパー）法政大学イノベーション・マネジメント研究センター, 2007年.

【Outline (in English)】
[Course outline and objectives]
Stakeholders need to be able to analyze and interpret the company's financial statements. Precise analysis of these documents can help both internal and external decision-makers evaluate an organization's past performance and predict its future performance. In particular, in order to ensure that comparisons with industrial means are practiced, estimation and testing of population means from samples of accounting data will be conducted and discussed. Please note that this course is not intended to provide detailed interpretation of the contents of financial statements.
[Learning activities outside of classroom]
Participants are expected to ensure that they prepare for and review each class by solving assignments. The time required for preparation and review for one class is four hours.
[Grading criteria]
Contributions to class activities (40%), final exam (60%)

ECN500F1－0098（経済学 / Economics 500）

基礎ファイナンス

山嵜　輝

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ファイナンス理論の広範な研究成果は実社会に多大な影響を与えており、これなくして現代の金融ビジネスは成立しない。本授業では、ファイナンスを初めて学ぶ学生を対象に、証券分析や現代ポートフォリオ理論など、証券投資の理論を中心に講義を行う。また、個人の資産形成における投資理論の役割についても詳しく解説し、近年話題となっている老後2,000万円問題やFIRE（Financial Independence, Retire Early）に加え、2024年からスタートした新しいNISA制度の活用方法なども論じたい。多くのビジネススクールでは、ファイナンスは必修科目に指定されているため、ファイナンスが専門ではない学生でも一通りのファイナンスの基礎を学ぶのが一般的である。この授業ではそのような機会を提供したい。ビジネスでファイナンスの知識が必要な学生はもちろんのこと、個人投資家としての株式投資や資産形成に興味のある学生も歓迎である。

【到達目標】
次の４つを到達目標に掲げる。
（1）金融市場の基礎知識・用語を習得し、金融商品・金融取引のしくみを理解する。
（2）債券や株式の基本的な計量分析や価格評価ができる。
（3）効率的市場仮説や無裁定価格理論などのファイナンスの理論的概念を説明できる。
（4）証券投資の基本的な考え方を現代ポートフォリオ理論に沿って理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
この授業は教室での対面授業で実施する。履修希望者は学習支援システムで授業の仮登録をすること。授業の情報は学習支援システムに仮登録されているメールアドレス宛に案内する。授業は講義とExcelを用いた演習を交互に行うことで進んでいく。毎回、Excelの使えるノートPCを用意すること。ノートPCは大学で貸し出しているので、必ずしも自前のPCを持参する必要はない。Excelの使い方については、授業内で丁寧に説明する。授業中に演習課題に対する講評をすることで、個別のフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスとイントロダクション	講義の進め方等の説明
第2回	金融・証券市場	債券・株式市場を中心に市場の機能や分類の概説
第3回	キャッシュフローと現在価値	分析に必要な数学の予備知識および現在価値の概念の解説
第4回	債券分析入門1	債券投資の収益率、スポットレート、フォワードレートの概念の解説
第5回	債券分析入門2	金利の期間構造や債券投資のリスク分析の入門的な解説
第6回	債券分析入門3	社債の信用リスクと債券格付けの入門的な解説および社債価格の評価
第7回	株式分析入門1	配当割引モデルの概説とそれを活用した理論株価の分析
第8回	株式分析入門2	株式評価のための財務分析、サスティナブル成長率、成長機会の現在価値などの解説
第9回	株式分析入門3	同業他社間比較による株式分析
第10回	金融危機とファイナンス理論	リーマン・ショックなど、過去の金融危機に関するファイナンス理論の立場からの考察
第11回	ポートフォリオ理論入門1	現代ポートフォリオ理論の紹介、ノーベル経済学賞を受賞した投資理論とは？
第12回	ポートフォリオ理論入門2	個別株と株式ポートフォリオのリスクとリターンについての解説
第13回	ポートフォリオ理論入門3	平均分散アプローチによる証券投資の意思決定
第14回	ポートフォリオ理論入門4	CAPM（資本資産価格モデル）の導出およびベータとアルファの解釈

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。講義資料の復習を十分に行うこと。知識や理論を積み上げることで授業が進んでいくので、途中で理解できなかった箇所は放置せずに質問すること。また、指定した参考書を活用して理解を深めることが好ましい。

【テキスト（教科書）】
教科書は指定しない。講義資料を用意するので、各自ダウンロードすること。ダウンロードの方法は初回授業で説明する。

【参考書】
（1）佐野三郎、『改訂版 パーフェクト証券アナリスト第1次レベル』、2022年、ビジネス教育出版社
（2）伊藤敬介・荻島誠治・諏訪部貴嗣、『新・証券投資論Ⅱ 実務篇』、2009年、日本経済新聞出版社
（3）ジョン・ハル、『先物・オプション取引入門』、2001年、ピアソン・エデュケーション
（4）小林孝雄、芹田敏夫、『新・証券投資論Ⅰ 理論篇』、2009年、日本経済新聞出版社

【成績評価の方法と基準】
演習課題（50％）と平常点（50％）で評価する。授業中に基礎的な問題を解いたり、Excel演習課題の発表を行ってもらうことで理解度を確認する。

【学生の意見等からの気づき】
個人の資産形成に関心のある学生が多いので、個人投資家からみた株式投資や資産運用に関するトピックおよびExcel演習を大幅に増やす予定である。

【学生が準備すべき機器他】
毎回Excelを使うので、Excelが使えるノートPCを各自で用意すること。ノートPCは大学で貸し出しているので、必ずしも自前のPCを持参する必要はない。

【前提知識】
中学程度の数学の基礎知識（2次方程式、連立方程式、関数のグラフ、べき乗・平方根・文字式の計算など）を使うが、極度の数学アレルギーでない限り心配は無用である。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞　ファイナンス
＜研究テーマ＞　金融テクノロジー、資産価格理論
＜主要研究業績＞
（1）“A General Control Variate Method for Time-Changed Levy Processes: An Application to Option Pricing,” *Journal of Computational Finance*, Vol.27, No.1, 2023, Risk.net
（2）“Recovering Subjective Probability Distributions,” *Journal of Futures Markets*, Vol.42, No.7, 2022, Wiley
（3）「取引コストを伴う最適消費・投資問題の進展について」, 『イノベーション・マネジメント』, No.18, 2021年3月, 法政大学イノベーション・マネジメント研究センター

【実務経験のある教員による授業】
民間金融機関や中央銀行において、証券投資や金融商品開発などの金融実務に通算14年間携わった。授業では、金融機関などで用いられている実践的な分析手法をわかり易く解説する。

【関連科目】
コーポレート・ファイナンス、実証ファイナンス入門、デリバティブ入門I/II、ポートフォリオ理論入門

【Outline (in English)】
[Course outline] This course provides fundamentals of modern finance theory and its applications to basic security analysis, investment decisions, financial asset pricing, and financial risk management. [Learning objective] The objectives of this course are to give: (1) basic knowledge of financial system, financial markets, and securities; (2) valuation methods of stocks and bonds; (3) methods for incorporating risk analysis into valuation models, including the mean-variance approach and the Capital Asset Pricing Model; and (4) applications to corporate financial decisions, including optimal capital structure, capital budgeting, and dividend policy. [Learning activities outside of classroom] Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. [Grading criteria/policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following. Exercises: 50%, in class contribution: 50%.

ECN500F1 – 0099（経済学 / Economics 500）

実証ファイナンス入門

金　瑢晋

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は、主にファイナンスや会計関連分野で実証研究を行う上で必要とされる分析方法を身に付けることを目的とします。実証ファイナンスは、計量経済学のファイナンス関連分野への応用とファイナンス分野発祥の分析手法で成り立ちます。問題意識と符合する分析モデルの選択は、先行研究の理解及び研究遂行の上で、極めて重要なプロセスです。授業は、分析手法の学習、金融・財務データを用いた実習、関連文献の紹介で構成されます。アカウンティング・ファイナンスコース以外の学生の受講も歓迎します。

【到達目標】
・論文作成に必要な実証分析の基礎を身に付けることができます。
・仮説の立て方と検定について一定レベルの知識が培われます。
・企業と金融・資本市場から入手できるデータの加工能力が高まります。
・計量分析ソフトウェアの使い方を身に付けられます。
・ファイナンス・会計関連分野の先行研究について理解が深まります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
授業は、基本的に講義と実習に基づきます。時間の制約上、直観的な理解と実際のデータ処理能力の向上に照準を合わせます。授業中には、計量分析ソフトウェアを用いた実習を行い、実践力を高めます。講義内容は、受講者の前提知識と要望などにより変更があり得ます。授業計画については、トピックの順序が前後する、または、時間の配分が流動的になる場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	株価データ分析例：マーケットモデル1	収益率の理解、収益率データ（離散、連続）の計算（日次、月次）と統計量
第2回	株価データ分析例：マーケットモデル2	マーケットモデルの推定と直観的理解、幾つかの分析ソフトウェアによる結果
第3回	企業分析のおさらい	B/S、P/Lからの財務情報、株主価値、市場価値と簿価との関係
第4回	ファイナンスのおさらい	最適ポートフォリオ問題、CAPMの理解
第5回	計量ソフトウェアの使い方1	インストール方法、基本統計量の計算
第6回	計量ソフトウェアの使い方2	株価、財務データのハンドリング
第7回	計量ソフトウェアの使い方3	マーケットモデルの推定（再訪）、実習
第8回	財務データの集計と可視化1	財務データの処理、パネルデータの集計
第9回	財務データの集計と可視化2	財務データのヒストグラム、ランク付け、可視化
第10回	株式データの集計と可視化1	リターンの累積、BAHリターンの計算
第11回	株式データの集計と可視化2	株式データと財務データの結合
第12回	株式データの集計と可視化3	リターンデータに基づく統計的検定、線形回帰モデルの理解、可視化
第13回	ファクターモデル1	ファクターの構築
第14回	ファクターモデル2	CAPMの検証
第15回	ファクターモデル3	Fama-Frenchの3ファクターモデルの推定、アルファの計算
第16回	ファクターモデルの応用1	資本コストの推定
第17回	ファクターモデルの応用2	平均分散ポートフォリオの構築
第18回	イベント分析1	イベント分析の概要
第19回	イベント分析2	イベント分析の手順とそのプログラミング1
第20回	イベント分析3	イベント分析の手順とそのプログラミング2
第21回	イベント分析4	企業の財務行動分析への応用例
第22回	時系列分析の基礎1	金融時系列の性質、定常性
第23回	時系列分析の基礎2	古典的ARMAモデルの理解、推定
第24回	時系列分析の基礎3	ARMA過程の予測
第25回	時系列分析の基礎4	金融時系列データへの応用
第26回	ベクトル自己回帰モデル1	グレンジャー因果性、インパルス応答関数、分散分解
第27回	ベクトル自己回帰モデル2	国際株式市場分析
第28回	個人プロジェクトの報告	報告と討論、講師からのフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
表計算や計量分析ソフトウェアの使い方に慣れるよう心がけましょう。

【テキスト（教科書）】
笠原晃恭・村宮克彦著、『実証会計・ファイナンス』、新世社、2022
が候補ですが、参加者のニーズを踏まえた上で、初回の授業で確定します。

【参考書】
沖本竜義、『経済・ファイナンスデータの計量時系列分析』、朝倉書店、2010

【成績評価の方法と基準】
質疑応答、討論などの授業参加度30％、期末プレゼンテーション40％、期末レポート30%。期末レポートは、期末プレゼンテーションをベースとしたもので構いません。

【学生の意見等からの気づき】
更に分かりやすい解説を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】
ノートPCを持参して下さい。

【その他の重要事項】
受講者にはアカウンティング・ファイナンスコース関連科目の履修を前提としませんが、統計学と合わせてこれらの科目を履修または並行受講する場合、より理解が深まります。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞ファイナンス
＜研究テーマ＞企業の財務行動
＜主要研究業績＞
(1)J-REIT の IPO におけるスポンサーの役割、現代ファイナンス、45, 31-58, 2022(伊藤昌哉氏と共著) (2)Prepayment Behaviors of Japanese Residential Mortgages, Japan and the World Economy, 30, 1-9, 2014 (with N. Kishimoto). (3)Effects of Stochastic Interest Rates and Volatility on Contingent Claims, Japanese Economic Review, 58, 71-106, 2007 (with N. Kunitomo).

【Outline (in English)】
The course offers an introduction to empirical finance for those who plan to write master's theses on finance and related topics. The class also discusses empirical results in some often-quoted finance literature to understand how those analytical methods are applied.
By the end of the course, students should be able to do the followings:
A. acquire an understanding about empirical methods needed to write theses.
B. deepen understanding of previous studies.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than eight hours for a class.
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Class participation: 30%, Project presentation;40%, and Term paper: 30%.

ECN500F1 – 0102（経済学 / Economics 500）

コーポレート・ファイナンス

岸本　直樹

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業の目的は、企業財務上の重要な事項について知見を学ぶことにある。本年度は，Brealey, Myers, Allen, and Edmans Principles of Corporate Finance (McGraw Hill)を輪読する。

【到達目標】
本科目においては，次の4点を学ぶ。
（1）正味現在価値法を理解して利用できる。
（2）CAPMを理解して資本コストを計算できる。
（3）配当政策に関する基本的な論点を理解する。
（4）資本政策に関する基本的な論点を理解する。
（5）エイジェンシー問題に関する基本的な論点を理解する。
（6）企業買収に関する基本的な論点を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
基本的には、教科書の指定箇所を輪読した後，ディスカッションを行うという形式で授業を進める。ただし、理解が難しい部分や、教科書が十分説明していない部分については、講師が講義したり，追加的な資料を提供したりする。 また，教科書には原書を使うので，英文をある程度の速さで読める学力が必要である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	現在価値計算	教科書の第2章 "How to calculate present values.
2	正味現在価値法（1）	教科書の第5章 "Net Present Value and other investment criteria
3	正味現在価値法（2）	教教科書の第6章 "Making investment decisions with the net present value rule"
4	リスクとリターン	教科書の第7章 "Introduction to risk, diversification, and portfolio selection"
5	CAPM	教科書の第8章 "The Capital Asset Pricing Model"
6	資本コスト	教科書の第9章 "Risk and the cost of capital"
7	配当政策	教科書の第15章 "Payout policy"
8	資本政策（1）	教科書の第16章 "Does debt policy matter?"
9	資本政策（2）	教科書の第17章 "How much should a corporation borrow?"
10	資本政策（3）	教科書の第18章 "Financing and valuation"
11	エイジェンシー問題	教科書の第19章 "Agency problems and corporate governance"
12	ステークホルダー	教科書の第20章 "Stakeholder capitalism and responsible business"
13	企業買収	教科書の第32章 "Mergers"
14	リストラクチャリング	教科書の第33章 "Corporate restructuring"

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
履修生全員が各回で指定された部分についてテキストをしっかり予習することを履修要件とする。 なお，本授業の準備・復習時間は、各4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
Brealey, Myers, Allen, and Edmans Principles of Corporate Finance 14th edition , McGraw Hill. (Amazon では，International student edition を11,800円で販売しています）

【参考書】
特にない。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、授業中の発表とディスカッションの内容，さらに，期末に実施する小テストに基づく。評価における各要素への配分は，授業中の発表とディスカッションが70%，小テストが30%。

【学生の意見等からの気づき】
さらに授業内でのディスカッションを活性化する。

【学生が準備すべき機器他】
特にない。

【その他の重要事項】
「ファイナンス入門」,「基礎ファイナンス」の履修が望ましい。また，ファイナンス，あるいは，ファイナンスに近い分野で修士論文を書く計画を立てている履修者は,「実証ファイナンス」を履修することが必須である。

【担当教員の専門分野等】
< 専門領域> ファイナンス
< 研究テーマ> 債券、先物、オプション、デリバティブ、証券化商品、住宅ローンの期限前償還。
< 主要研究業績>
①『入門・証券投資論』（池田昌幸氏との共著），有斐閣，2019. ② "Prepayment Behaviors of Japanese Residential Mortgages," Japan and the World Economy, No. 30 (2014), pp. 1-9. ③"Pricing Path-Dependent Securities by the Extended Tree Method," Management Science, Vol. 50 No. 9 (2004), pp. 1235-1248.

【Outline (in English)】
Course outline: The main objective of this course is to learn finance and the financial theory. This year, we will read Brealey, Myers, Allen, and Edmans Principles of Corporate Finance (McGraw Hill).
Learning objectives: In this course, students will learn the following six points.
(1) Net present value
(2) CAPM and cost of capital
(3) Dividend policy
(4) Capital structure policy
(5) Agency problems
(6) Mergers
Learning activities outside of classroom: All students are expected to prepare the summary of an assigned part of the textbook. I expect that it will take about four hours to prepare the summary.
Grading criteria/policy: Grading will be based on presentations and discussions in class, as well as a quiz at the end of the semester. 70% of the grade will be based on class presentations and discussions, and 30% on the quiz.

MAN500F1 – 0107（経営学 / Management 500）

経営学基礎

福島　英史

備考（履修条件等）：**昼間「経営学基礎論」と合同**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業の目的は，修士論文・リサーチペーパーを翌年に書くための準備として関連する経営学研究の基礎的な知識を習得し，論文の読み方（基本的な構成・各研究の問題設定・方法・結論・研究間の関係）を学ぶことにあります。経営学は幅広い研究領域を持ちますが，本年度は，イノベーションと戦略（組織）を基本的なテーマに据えます。

【到達目標】
一般に，修士課程学生は大きな問題意識・志はあるものの，論文・リサーチペーパーとしてのフォーカス・問題設定に時間がかかる傾向にあると思われます。そこで先人達の問題設定と答えを見ていくことで，自分の論文の位置づけ，論文構成イメージを構築できることが到達目標です。基礎的な経営学研究を現代の経営問題につなげて考えられることが，期待されます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
授業では研究の基礎となる文献（英語または日本語の論文等）の輪読を行います。受講者全員が，文献を読んでレジュメを準備します。人数によってはレポーター制とします。レジュメには内容の要約とディスカッション・ポイントをまとめていただき，授業ではこれらについて議論します。概念と現実の往復を念頭に，現象面の関心事にひき付けて理解し，議論します。教員のコメントや解説が行われます。できればAcademy of Management JournalやStrategic Management Journalなどの定評ある論文を読みたいと考えます。受講生の関心と学力に応じて調整します。以下に，イノベーションと戦略（組織）を基本的なテーマとした授業計画を示します。各トピックスはそれ自体修士論文・リサーチペーパーのテーマになるような研究の広がりを持ちます。文献・論文は受講者の関心も聞いた上で決定したいため，第１回目の授業に必ず参加して下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	問題意識の共有と文献の選定
第2回	新規事業開発	内部開発と買収
第3回	ドミナントロジック	経営層の信念
第4回	多角化戦略	多様化と収益性
第5回	アンビデクスタリティ	イノベーションのための組織
第6回	探索と活用	組織学習
第7回	垂直統合と水平分業	事業の範囲
第8回	イノベーションとステークホルダー	資源依存アプローチ
第9回	イノベーションと認知	資源能力と分業構造
第10回	イノベーションと補完的資産	市場地位への影響
第11回	資源戦略論・動的企業能力	広義のシナジー効果
第12回	オープンイノベーション	ＣＶＣ・スピンオフ
第13回	事業プラットフォーム	多面市場・競争と協調
第14回	まとめ，最終課題	学習成果の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
議論する論文を事前に読み，レジュメにおいて，要約を書き，疑問点や問題点を明確にしておきます。準備学習に4時間・復習に1時間を要します。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しません。教材として論文を輪読します。

【参考書】
イノベーションと戦略に関する基本的な知識を補いたい場合は，以下のテキストをご参照下さい。
Grant, R. M. 2016. Contemporary Strategy Analysis, 9th ed., Wiley.（加瀬公男監訳『現代戦略分析第２版』中央経済社, 2019）
Burgelman. R. Christensen. C. Wheelwright S. 2008. Strategic Management of Technology and Innovation, 5th ed., McGraw-Hill.（青島 矢一監修『技術とイノベーションの戦略的マネジメント 上下』翔泳社, 2007）

【成績評価の方法と基準】
レジュメの評価（35％），授業中の発言（35％），最終課題（30％）をあわせて評価します。

【学生の意見等からの気づき】
授業時，ディスカッション時間をしっかりとります。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムに，急なお知らせや関連資料が掲載されることがあります。受講者は，予め使用方法を理解しておくようにして下さい。

【その他の重要事項】
授業外でどうしても教員へアクセスが必要な場合，fksmhs@gmail.comへご相談ください.

【担当教員の専門分野】
経営戦略とイノベーション

【研究テーマ】
戦略とイノベーション，産業発展とグローバル化，経営学説史など

【主要研究業績】
・「グローバル・ストラテジー 国際的な市場機会と競争優位の実現」『学史から学ぶ経営戦略』（文真堂）, 2022.5. ・「オープン・イノベーション・ワールド探訪-概念検討と画像半導体産業揺籃期」『経営志林』53 (1), 2016. ・“Inside Cooperative Innovation: Development and Commercialization of Sodium-Sulfur Batteries for Power Storage,” IIR Case Studies (Hitotsubashi University), 13 (1), 2013. ・「アンソフ戦略論への批判」『経営学史叢書IX アンソフ』（文真堂）, 2012. ・「技術開発プロジェクトの国家支援と成果」『経営志林』47(3),2010. ・「事業の多様化と経営成果―時間展開と企業間相互作用」『経営志林』46(3), 2009.

【Outline (in English)】
(Course outline) This course deals with essential knowledge on business administration. We focus on the management of innovation and strategies. (Learning Objectives) The goal of this course is to learn essential academic concepts and theories related to the management of innovation and strategies. (Learning activities outside of classroom) Students will be expected to consider real life businesses from academic concepts and theories. The study time will be five hours for a class. (Grading Criteria /Policy) Grading will be decided based on regular assignments (35%), in-class contribution (35%) and
semester-end assignment (30%).

MAN500F1－0108（経営学 / Management 500）

会計学基礎

川島　健司

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では財務諸表の「作り方」と「使い方」を体系的に学習する。財務諸表の作り方を学ぶには、取引の実態を知り、簿記の技術を学び、会計処理の手続きに関する基本的な原理・原則や思考法を学ぶことが必要である。一方、使い方を学ぶには、伝統的な財務諸表分析の技法を知り、さらには企業価値の評価に必要な基礎的なファイナンスの知識を習得して応用することが必要である。

本講義では、こうした財務諸表の理解に必要な諸要素である「複式簿記」「会計学」「財務分析」「価値分析」について、それぞれのもっとも基礎的な内容と各要素間の相互関係について解説し、会計について総合的に理解することを目的とする。

【到達目標】

①簿記の技術と会計学における基礎的な語彙（概念）を習得し、その技術と語彙を用いて、経済活動をどのように会計的に表現しうるかを考察し、適切な財務諸表を作成する能力をつける、②財務諸表分析の技法とファイナンスの知識を用いて、会社が公表する財務諸表と各種IR情報を利用しながら、企業活動の実態を推論する能力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

【授業の構成】

本授業は、対面授業とYouTubeによる授業録画配信（オンデマンド型授業）を併用する予定している。講義全体を以下の４つのパートに分割する。

第１部「複式簿記」（第１回～第３回）
第２部「会計学」（第４回～第６回）
第３部「財務分析」（第７回～第９回）
第４部「価値分析」（第10回～第12回）

第１部と第２部は財務諸表の作り方、第３部と第４部は財務諸表の使い方に関する内容である。第４部の基礎的なファイナンスの内容は、財務諸表の読み方のみならず、近年では財務諸表を作成するためにも必要な知識である（例えば、社債償却、リース会計、減損会計、退職給付会計、ストック・オプション会計等）。

【仮想ではないリアルな教材】

会計という「ビジネスの言語」の仕組みを理解し、会計を通して会社のリアルを見たり表現したりする方法を学ぶために、教材は仮想ではなく、リアルの会社・人物・取引を用いる。授業の終盤では、その当事者と実際に対話する機会も設ける予定である。ルールを暗記するしかないと思われがちな会計を、理屈・実話・実データによって学習する。会計を学ぶにつれて、会社の実態の見え方が変わっていく感覚を体験してもらえるはずである。

【本講義で学習する主な財務指標】

売上高利益率、流動比率、自己資本比率、固定長期適合率、インタレスト・カバレッジ・レシオ、総資本回転率、棚卸資産回転率、総資産利益率、自己資本利益率(ROE)、1株当たり当期純利益(EPS)、時価簿価比率(PBR)、経済的付加価値(残余利益)

【問題意識の共有と質疑応答】

受講生の理解度の確認と受講生間の問題意識の共有化を目的として、質疑応答の機会を設定する。受講生は受講する中で理解できなかった点や関心をもった点などを作文し、その内容を一覧にして共有し、それに対して受講生間で意見交換を行う。このため、受講にあたっては、原則的にスマートフォン、タブレット、またはPCなどによって、オンラインに接続可能であることとする（ただし、それらの機器を会場に持参する必要はない）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	会計を学ぶ意義、有効な方法、学習の目標、成績評価などについて説明する。
第2回	会社経営と財政状態	会社の経営に関わる利害関係者との権利・義務の関係を財政状態として記録し、貸借対照表を作成する方法を学ぶ。貸借対照表から利益を計算する「財産法」という利益計算式を理解する。
第3回	収支計算と損益計算	現金の記録と要約である収支計算を基礎に、経営の成果・努力の観点から「損益法」という利益計算式を学ぶ。その利益計算から貸借対照表を導出する過程を理解する。
第4回	複式簿記の方法	財産法と損益法を結合させて複式簿記の原理を導出し、収支計算書、損益計算書、貸借対照表の3書類を効率的に作成するための体系的な記録と要約の方法を学ぶ。
第5回	利益計算の会計	利益の概念について、会計に期待される役割や機能の観点から考察したうえで、利益計算の方法や、その構成要素である収益と費用の認識・測定の考え方について理解する。
第6回	資産の会計	資産の基礎概念を理解したうえで、その認識・測定の考え方について考察する。時価評価（有価証券）、原価配分（固定資産）、繰延処理（税効果会計）の具体例について学習する。
第7回	負債と資本の会計	負債と資本の基礎概念を理解したうえで、会計的負債としての引当金や、準備金と剰余金の概念整理、新株予約権の処理などについて学ぶ。また、連結財務諸表の考え方も学習する。
第8回	貸借対照表の分析	貸借対照表の様式と分析方法を理解する。項目の並び順、分類基準、金額の意味を踏まえた上で、流動比率や自己資本比率などの代表的な分析指標について学ぶ。
第9回	損益計算書の分析	損益計算書の様式と分析方法を学習する。段階的利益の意味を理解し、ROSや損益分岐点などの分析指標の他、貸借対照表のデータを併用するROA、回転率、ROEなどの指標を学ぶ。
第10回	キャッシュ・フローの分析	キャッシュ・フロー計算書の様式と分析方法を学習する。営業活動・投資活動・財務活動に分類した収支データの見方のほか、CCC分析により資金回収の速さを可視化する方法を学ぶ。
第11回	会社の価値と資本コスト	会社の価値を金額として測定・評価する基本的な考え方を理解する。そこで鍵になる概念である資本コストの概念や計測方法について学習する。

第12回	DCFモデル	割引現在価値（DCF）モデルとよばれるキャッシュ・フローにもとづく価値評価モデルを学習する。このモデルを用いた会計処理である減損会計や退職給付会計についても解説する。
第13回	残余利益モデル	残余利益モデルとよばれる損益計算書と貸借対照表のデータにもとづく価値評価モデルを学習する。モデルの利用にあたり、インプットの会計情報の性質についても理解を深める。
第14回	期末試験と解説	重要な内容について復習し、発展的な学習について説明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業では有価証券報告書やIR資料を副教材として用いる。これらは受講生が各自、会社のホームページからダウンロードして持参することとする。入手方法の詳細は授業内で説明する。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
川島健司『起業ストーリーで学ぶ会計』中央経済社,2021年

【参考書】
1 伊藤邦雄『新・現代会計入門』日本経済新聞社, 2023年4月現在の最新版.
2 桜井久勝『財務会計講義』中央経済社, 2023年4月現在の最新版.
3 飯野利夫『財務会計論』三訂版, 同文舘, 1993年.
4 佐藤信彦他『スタンダードテキスト財務会計論Ⅰ・基本論点編』第9版, 中央経済社, 2015年.同『スタンダードテキスト財務会計論Ⅱ・応用論点編』第9版, 中央経済社, 2015年.
5 W・H・ビーヴァー著・伊藤邦雄訳『財務報告革命』第3版, 白桃書房, 2010年.
6 W・R・スコット著・太田康広他訳『財務会計の理論と実証』中央経済社, 2008年.
7 Craig, D. Financial Accounting Theory, 3rd, McGraw-Hill, 2009.
8 Kieso, D.E. et al. Intermediate Accounting, 15th, Wiley, 2013.

【成績評価の方法と基準】
以下の4点にもとづいて評価する（括弧内はウエイト）。
①対面授業の出席状況（10％）
②対面授業時の発言状況（20％）
③各授業回の確認テスト（40％）
④各授業回の質問票への記述状況（30％）
質問票は、各回の授業終了後に受講生は質問や感想をGoogle Formを通じて提出する。その内容は全受講生に匿名で公表する。その提出状況と記述内容は、授業への参画と貢献に対する評価として、成績に反映する。

【学生の意見等からの気づき】
オンデマンド授業動画については、受講生の学習リズムを乱さないよう、定時配信します。また、受講生間の繋がりが持てるように、受講生の考えをクラス全員で共有しながら授業を進めます。

【学生が準備すべき機器他】
授業動画の視聴に必要なパソコン、および分析に用いる表計算ソフト（Excel）。

【その他の重要事項】
簿記を学んだことがない受講生は、予め日商簿記検定3級の内容を学んでおくことが望ましい。その場合、各種専門学校（TAC,大原簿記学校等）が出版する簿記検定の教科書を購入し自習しておくことを薦める。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞　財務会計論
＜研究テーマ＞　会計用語の使用法に関する研究
＜主要研究業績＞
1. 川島健司.2022.「「収益」という用語の定義は、なぜ多様に存在するのか」『會計』第202巻, 第1号, pp.67-79.
2. 川島健司.2020.「「収益」という用語は、いつからどのように使われてきたか」『會計』第198巻, 第6号, pp.43-56.
3. 川島健司.2011.「なぜ, 損益計算書で「営業収入」と表記されるのか―勘定科目の使用法に関する定性的調査」『経営志林』48 (1):131-148.

【Outline (in English)】
This lecture provides knowledge of "How to make" and "How to read" corporate financial statements. In order to learn how to prepare financial statements, it is necessary to learn the realities of transactions, learn techniques of bookkeeping, and learn basic principles and thought methods concerning accounting procedures. On the other hand, in order to learn how to read, it is necessary to learn the traditional method of financial statement analysis and further to acquire and apply basic knowledge of finance necessary for evaluating corporate value.
In this lecture, students study the most fundamental elements for understanding such financial statements, "bookkeeping" "accounting principle and accounting principle" "financial statement analysis" and "corporate finance necessary for accounting practice". It explains mutual relations among those elements and aims to comprehensively understand modern accounting practices.
The goals of this course are the following four points. (1) Acquire bookkeeping skills and basic vocabulary (concepts) in accounting, consider how economic activities can be expressed in terms of accounting, and create appropriate financial statements using these skills and vocabulary (2) Acquire the ability to understand the actual state of corporate activities using financial statement analysis techniques and knowledge of finance, using financial statements and various types of IR information published by the company.
Securities reports and IR materials are used as supplementary teaching materials in class. Each student should download these from the company's website. Details on how to obtain them will be explained in class. The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.
Grade evaluation is based on the following four points (weights are in parentheses).
① Attendance at face-to-face classes (10%)
(2) Speech during face-to-face classes (20%)
③ Confirmation test for each class (40%)
④Description status in the questionnaire for each class (30%)

ECN500F1 – 0110（経済学 / Economics 500）

経済学基礎

宮澤　信二郎

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
個人や企業などの意思決定プロセスやそれらの相互作用に関する学問体系であるミクロ経済学についての講義を受け，問題演習を行う。経営学の諸分野を学ぶ上で基礎となるミクロ経済学の考え方・分析手法を身につける。

【到達目標】
以下のような事項について理解し，応用できるようになる。
（1）企業は何をどれだけ使って，何をどれだけ販売しようとするのか。また，その決定にモノの値段やその他の要因がどのような影響を及ぼすのか。
（2）モノの値段がどのように決まるのか。また，その決定にどのような要因がどのような影響を及ぼすのか。
（3）短期的な意思決定と長期的な意思決定の違いは何か。
（4）人々の行動が相互に影響を及ぼしあうような状況ではどのように意思決定したらよいのか。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
基礎となる理論について講義した後に問題演習を行う。講義の際には，聴くだけにならないようにするため，考えるきっかけを与えたり，理解を確認したりするような質問を投げかける。問題演習の際には，各自が自ら考える時間を確保するとともに，必要に応じて，正解に導くような助言を与える。
この授業は対面で実施予定だが，社会状況や受講者の事情によっては，オンラインで実施する可能性もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション／需要供給と市場均衡（1）	ミクロ経済学の特徴と全体像を解説した後にこれを学ぶ意義について議論します。続いて，教科書4章に基づいて，需要と供給の振る舞いおよび需要と供給による取引内容（数量・価格）決定メカニズムについて学びます。
第2回	需要・供給と市場均衡(2)	教科書5章に基づいて，価格の変化が需要と供給に及ぼす変化の程度（弾力性）が取引内容の変化に及ぼす影響について学びます。最後に，第1回と第2回の内容に関する問題演習を行います。
第3回	生産の費用	教科書13章に基づいて，企業による生産に関わる費用について学びます。
第4回	競争市場における企業	教科書14章に基づいて，競争市場における企業の生産量決定について学びます。続いて，第3回と第4回の内容に関する問題演習を行います。
第5回	効率性と市場の失敗／独占	教科書7章に基づき，取引内容の望ましさの指標として，余剰という概念を学びます。更に，市場取引により効率的な結果（余剰の合計が最大になるような結果）が実現する場合とそうならない場合について学びます。続いて，教科書15章に基づき，独占企業の生産量決定について学びます。
第6回	寡占	教科書17章に基づき，市場の企業数が2社以上だが少数である場合の企業行動について学びます。続いて，第5回と第6回の内容に関する問題演習を行います。
第7回	まとめ／試験	全体のまとめを行います。続いて，期末試験を実施し，解説を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学生は事前に以下のテキストを読んでくることが求められます。また，授業後に学習内容を復習することが求められます。
本授業の準備・復習時間は各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『マンキュー経済学Ⅰミクロ編（第4版）』，マンキュー（足立ほか訳），東洋経済新報社，2019年，4000円＋税

【参考書】
［1］伊藤秀史『ひたすら読むエコノミクス』有斐閣，2012年
［2］安藤至大『ミクロ経済学の第一歩』有斐閣，2013年
［3］芦谷政浩『ミクロ経済学』有斐閣，2009年
［4］神取道宏『ミクロ経済学の力』日本評論社，2014年
＊［1］と［2］は上記の教科書よりも易しいテキスト，［3］と［4］は上記教科書よりも難しいテキストで，易しい順になっています。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業への積極的な参加・貢献，問題演習への取り組み）40％，期末試験60％で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
昨年度は開講していません。一昨年度以前の受講者の意見などを踏まえ，問題演習に十分な時間を取りたいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】
資料は学習支援システムで配付します。また，教科書準拠のオンライン教材を使用します。学習支援システムやオンライン教材を利用できるような端末（PC，タブレット端末，スマートフォン等）が必要となります。

【その他の重要事項】
特に前提となる知識・能力はありません。この授業ではマクロ経済学は（ほとんど）扱いません。マクロ経済のトピックスに興味のある方は『日本経済特論Ⅰ／Ⅱ』などの履修を検討してください。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞応用ミクロ経済学（特に，企業金融論，産業組織論）
＜研究テーマ＞
企業金融と市場競争の相互作用に関する研究
＜主要研究業績＞
[1] "Financial Contract and Capital Allocation: A Comparison between Market-based Finance and Bank Finance" 経営志林 第55巻第2号，2018年
[2]「企業間信用に関する一考察―銀行と供給者との間の利害衝突を考慮して―」 経営志林　第53巻第4号，25 – 52頁，2017年
[2]「EU国家補助規制の考え方の我が国への応用について」（大久保直樹氏ほかと共著）競争政策研究センター共同研究報告書 CR03-13 2013.
[3]「公的金融と市場競争―産業組織論アプローチ―」 フィナンシャル・レビュー 133, 147-168 2013.
[4] "Optimal borrowing structure: An explanation of multiplicity of large-share creditors and asymmetry among them," Journal of The Japanese and International Economies 26, 434-453 2012.
[5]「国家賠償と求償に関する経済分析」，社会科学研究　第62巻第2号，55- 79頁，2011年.

[6]「偏波弁済の詐害行為取消しに関する分析―法と経済学の視点から―」（藤澤治奈氏との共著），新世代法政策学研究　第10号，351-369頁（担当部分），2011年．（倒産・再生法制研究奨励金賞（トリプルアイ・高木賞）（奨励賞）（財団法人民事紛争処理研究基金）受賞）
[7]「情報財の価格差別と著作権保護」，知的財産法政策学研究　第24号，229-257頁，2009年．
[8] "Innovative interaction in mixed market: An effect of agency problem in state-owned firm," Economics Bulletin 12, 1-8, 2008.

【Outline (in English)】
[Course outline]
Students take a lecture on the basics of microeconomics, which studies individuals' decision-making and its interaction.
[Learning Objectives]
Students should learn microeconomic methods of thinking and analytical techniques.
[Learning activities outside of classroom]
Before/after each class meeting, students will be expected to spend eight hours understanding the course content.
[Grading Criteria /Policy]
The final grade will be decided based on the term-end examination (60%) and in-class contribution (40%).

ECN500F1 − 0113（経済学 / Economics 500）

日本経済基礎

平田　英明

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界的に有名な投資家のジム・ロジャースはインタビューで「長期的には（日本経済について）かなり悲観的だ。」「もし私がいま10歳の日本人ならば……この国を去ることを選ぶ」「いま10歳の日本人は、これからの人生で大惨事に見舞われるだろう」という衝撃的な発言しています。その一方で、毎年初に注目されるユーラシア・グループによる「世界10大リスク」の最新版では、日本経済に関する「リスク」は全く指摘されていません。日本経済は「（良い意味で）ヤバイ」のでしょうか、それとも「（悪い意味で）ヤバイ」のでしょうか。

皆さんは経営学研究科に所属していますから、将来、企業人として活躍されることを展望されていると思います。それならば、企業を取り巻く環境、つまり日本と世界の経済のポイントを押さえておく必要があることは自明だとご存じのはずです。あのアップルやユニクロであっても、経済情勢に経営は大きく影響されます。そして、上述のように、あいにく経済の見通しに関する見立てには"the answers"があるわけではありません。ですから、自社の置かれた立場を踏まえて、自ら分析する能力が必要です。

この授業はなぜ様々な主張があり得るのか、その背後にある考え方を理解し、自らの力で日本の経済、世界の経済を俯瞰できる素養を身につけることを目的とします。

【到達目標】

究極的には「企業経営者や企画戦略を練るような企業の中枢の人々が、経営的な視点から経済の何をみる（べきな）のか、どう見る（べきな）のか」について多角的に学生が理解できるようになることが目標です。大企業のトップのインタビュー等をみると、皆さんも彼らの日本経済の現況に関する理解度が極めて高いことがわかると思います。それは、自社の経営が日本経済ならびに世界経済の状況次第で大きく影響されるからに他なりません。

より目先の目標として「学生が経営学の各分野と日本経済の関わり方を理解できるようになる」ことも意識します。そもそも経営学は経済学から発展した学問分野であり、経営学の各分野は、全て何らかの形で日本経済と関わっています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

スライドや資料を使った対面及びオンデマンド講義形です。授業の告知や資料等は、原則として全てHoppiiを使って発信します。なお、オンデマンド方式の週でも、受講生はwebを通じて、質問等を行うことができます。

初回の授業をご覧頂いた上で、受講意思のある方は個別に教員に対して連絡をして貰う予定です。Hoppii上での連絡を注意深く確認するようにしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	日本経済をなぜ学ぶのか 日本経済を丸ごとつかむ1	教科書1－3章を中心に説明します
2	日本経済を丸ごとつかむ2	教科書1－3章を中心に説明します。その上で、関係する論文に触れていきます。
3	日本の企業の特徴1	教科書4章を中心に説明します
4	日本の企業の特徴2	教科書4章を中心に説明します。その上で、関係する論文に触れていきます。
5	日本の労働市場の特徴1	教科書5章を中心に説明します
6	日本の労働市場の特徴2	教科書5章を中心に説明します。その上で、関係する論文に触れていきます。
7	日本の金融の特徴1	教科書8章を中心に説明します。
8	日本の金融の特徴2	教科書8章を中心に説明します。その上で、関係する論文に触れていきます。
9	日本の財政の特徴1	教科書7章を中心に説明します
10	日本の財政の特徴2	教科書7章を中心に説明します。その上で、関係する論文に触れていきます。
11	日本の社会保障1	教科書6章を中心に説明します
12	日本の社会保障2	教科書6章を中心に説明します。その上で、関係する論文に触れていきます。
13	まとめ1	全体を総括します。
14	期末の課題	期末の課題への取り組み。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

原則として、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。ただし、特に復習に比重を置いて貰いたいと思います。

授業内で配布するスライドや資料は、全てHoppii上に掲載予定です。

【テキスト（教科書）】

2020年刊行の浅子・飯塚・篠原『入門・日本経済』(第６版)　有斐閣を教科書として用います。

【参考書】

新聞やレポート等を参考資料として紹介（Hoppiiに掲載）。

【成績評価の方法と基準】

レポート（６０点）：２週の講義毎に１－３ページ程度の文量のレポートをオンライン提出して貰います（関連論文を読んだ上で、賛成反対等の立場を明確にした上で、その理由を授業で学んだことを踏まえて論じる）。３つのレポートで各２０点相当とします。賛成反対のいずれの立場をとっても、点数には影響しませんが、その立場を論理的にサポートする論述が点数を決めることになります。
期末の課題（テスト、４０点)を、最終回の授業内にて実施します。以上で合計点１００点として、成績を評価します。なお、授業内での積極的な取り組みには、＋αの加点をすることもあります。

【学生の意見等からの気づき】

学生からの意見を踏まえ、成績評価のウエイトをテストとレポートに分散しました。

【学生が準備すべき機器他】

オンデマンドの授業については、視聴できる環境を用意してください。インターネットに接続できれば、基本的には問題なく視聴できます。

【その他の重要事項】

経済学基礎を事前に履修してください（義務ではありませんが、需要と供給の基本的なメカニズムは所与として授業を行います）。

担当教員は、日本銀行における金融政策業務の経験を有します。また、国際通貨基金におけるコンサルタント業務の経験も有します。こういった実務的な経験を踏まえ、生きた経済事象の説明を心がけたいです。

【Outline (in English)】

This course provides an introduction to (1) the Japan's macroeconomic characteristics, (2) the Japan's current economic issues, and (3) the basic economic principles and methods. After providing a brief history of the Japanese economy and the basic analytical tools of economics, it mainly focuses on Japan's labor markets, financial markets, corporate finance and capital investments, international transactions, and economic policies from the 1980s onward. By the end of the semester, you are expected to be able to utilize the theoretical and empirical tools practiced in this class to generate practical policy recommendations for Japan's major economic problems.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each, but the instructor strongly recommend students to spend relatively more time on review and less time on preparation.
All slides and materials distributed in class will be posted on the class support system.

FRI500F1 − 0116（情報学フロンティア / Frontiers of informatics 500）

ｅ-ビジネス論

入戸野　健

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
インターネットを活用したビジネスモデルの仕組みと関連するシステムの構築方法について技術的な側面を踏まえその基礎から理解する。

【到達目標】
主要なインターネットサービスのビジネスモデルの構成やそれらの実現に必要なWeb技術について説明できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
具体的にはBtoCサービスを中心に取り上げ、検索サイト、インターネット通販、SNSなどを運営する企業のビジネスモデルを考察しながら、それらの構成要素となるインターネット広告、ユーザのネットワークデータの分析法、知識に関する技法などの考え方について理解を深めて行く。文献研究および事例研究（演習）では担当者を決めて発表をしてもらう。受講者の希望に応じて特定の項目を重点的に取り上げることもあり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	eビジネスと電子商取引	eビジネスについて概観し従来の電子商取引(eコマース)からの変遷について解説する。
第2回	インターネットビジネスモデル	インターネットを活用したサービスや企業のビジネスモデルについて考察する。
第3回	ネットワーク技術の基礎	インターネットの仕組みやネットワークサービスに関する技術的な基礎知識について説明する。
第4回	Webサイトの構築と最適化	eビジネスを展開するためのサイト構築法とその最適化(SEO)について解説する。
第5回	知識に関する技法	機械学習、Deep Learning、AIなどといった知識に関する技法とその応用について考察する。
第6回	文献研究	最近のトピックから文献を選定し輪読を行う。
第7回	事例研究(演習)	具体的な企業やネットワークサービスを取り上げて事例研究を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。
予習よりも復習として各回で得た知識を授業後に各自整理しておくことが重要。但し、輪読や事例研究(演習)の担当者は発表資料等の準備を事前に十分に行う必要がある。

【テキスト（教科書）】
全体を通じたテキストは使用しない。講義資料を毎回配布する。

【参考書】
授業の進捗に合わせて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 (40%) : 授業への参加意欲や学習態度を評価する。
発表と議論への参加 (60%) : 分担の発表とそのディスカッションへの参加状況を評価対象とする。

【学生の意見等からの気づき】
具体的な事例をより多く取り上げるようにしたい。

【担当教員の専門分野等】
< 専門領域>　計算機科学、ネットワーク技術、計算機統計学
< 研究テーマ>　Webデータ解析、確率的シミュレーションモデル
< 主要研究業績>
① "Evaluation of Similarity for Contexts on Association Rule Based Extraction", The 22nd International Conference on Computational Statistics (2016).
② “Association Rule Generation and Mining Approach to Concept Space for Collective Documents”, Proceedings of the 59th World Statistics Congress of the International Statistical Institute (2013).
③“Evaluation of Sequential Approaches to Image Restoration Using Monte Carlo Methods”, Bulletin of the International Statistical Institute, 55th Session Contributed Papers (2005).

【Outline (in English)】
(Course outline) This course aims for giving fundamental understanding on mechanisms of business models utilizing the Internet and technological methods of constructing its relative systems.
(Learning Objectives) The goal is to be able to explain the structure of the business models of major Internet services and the Web technologies required to construct and realize them.
(Learning activities outside of classroom) It will be important for each student to organize the knowledge obtained in each class after the class as a review. Those in charge of literature reading and case studies need to prepare presentation materials well in advance.
(Grading Criteria /Policy) Grading will be decided based on in-class contribution (40%), and assigned presentation and participation in those discussion (60%).

MAN500F1 – 0054（経営学 / Management 500）

国際経営論

安藤　直紀

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本国で競争力のある企業が、必ずしも海外で成功するとは限りません。本国と外国とのさまざまな違いが、本国における成功要因の有効性を下げてしまうことが理由として考えられます。それでは企業は外国でどのように競争したらよいのでしょうか。本講義では、この問題を考えるために必要な事項を学びます。国際経営学における伝統的な研究領域や、近年注目されている研究領域を、国際経営の理論と関連させながら学んでいきます。

【到達目標】
１．国境を越えた企業の経営活動（国際経営）を理解するために必要な理論を習得します。
２．国際経営の伝統的なトピックおよび近年のトピックを概観し、理解します。
３．理論に基づき企業の海外での事業活動を分析する能力の習得を目指します。
４．国際経営に関する論文を読むスキルを身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
本講義の授業形態は、対面形式とします。内容により、一部、オンラインでも行います。オンライン授業への参加方法は、学習支援システム（Hoppii）内でお知らせします。
授業計画に示したトピックについて、ます基本的な事項（理論や研究動向など）を講義します。その後、トピックに関連したディスカッションを行います。トピックに関連した論文を読んでもらい、それについてのディスカッションも行います。また、トピックに関連した課題やケースについて調査してもらい、報告やディスカッションを行います。
学期の中盤で、プロジェクトの課題を提示します。課題について各自研究を行い、研究成果のプレゼンテーションを学期の終盤に行います。
課題の提出等は学習支援システムを通した提出とEメールによる提出を併用します。課題や質問、意見等に対するフィードバックは、適宜講義内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	イントロダクション	講義の概要とオリエンテーション 海外進出する日本企業が直面する課題 国際経営の研究方法
第2週	グローバル・ビジネス環境	海外で直面する外部環境と企業への影響
第3週	制度と多国籍企業	新興経済の制度、制度が多国籍企業に与える影響、制度理論
第4週	文化的距離	多国籍企業が海外で直面する文化の壁
第5週	海外直接投資	海外直接投資の現状と類型
第6週	企業の国際化理論	企業の国際化を説明する理論
第7週	多国籍企業の地域内多角化	多国籍企業の地域内地理的多角化、セミグローバライゼーション
第8週	エントリー戦略	エントリー・モードの類型、エントリー・モードの選択
第9週	多国籍企業の戦略	グローバル戦略、マルチドメスティック戦略、国際企業戦略と組織
第10週	言語の障壁 (1)	多国籍企業が直面する言葉の壁
第11週	言語の障壁 (2)	言語の壁の克服方法
第12週	海外子会社の人的資源管理	海外子会社の人材戦略、PCN,HCN,TCNの役割
第13週	海外子会社の現地化	海外子会社の現地化の動機、日本企業の海外子会社の現地化の状況と課題
第14週	プレゼンテーション	プロジェクトの発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時間外に課題に取り組んだり、ディスカッションの準備をしたり、資料を読んだりすることが求められます。
講義のための準備・復習時間は、各回４時間を標準とします。
下記に取り組むと、講義の理解が深まると思います。
1週　社会科学の方法論に関して調べる
2-3週　国ごとの政治的、法的、経済的差異に関して調べる
4週　文化の違いが企業経営に及ぼす影響について考える
5-6週　企業の国際化を説明する理論に関して調べる
7週　企業がなぜ地理的地域内で事業を拡大するのか考える
8週　完全子会社とジョイント・ベンチャーの違いについて考える
9週　多国籍企業の競争戦略の類型に関して調べる
10-11週　多国籍企業における言語の役割に関して調べる
12-13週　日本企業の海外子会社の人材現地化を阻害する要因に関して考える
14週　プロジェクトのプレゼンテーションを準備する

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない予定です。詳細は、最初の講義で指示します。

【参考書】
下記に参考書を示しますが、より新しい版が出版されているものもあります。
Collinson, S., Narula, R., & Rugman, A.M. 2020. International Business. Pearson Education: Harlow, UK.
Peng M. & Meyer, K. 2019. International Business (3rd ed.). Cengage: UK.

【成績評価の方法と基準】
下記の比率で評価します。
プロジェクト：50％
クラスへの貢献：50％
プロジェクトの評価には、ペーパー自体と、ペーパーに関するプレゼンテーションの評価を含みます。
クラスへの貢献には、課題の準備、課題に関する報告、ディスカッションへの貢献等を含みます。クラスへの貢献に含まれる課題は、プロジェクトとは別の、講義内で提示される課題です。

【学生の意見等からの気づき】
より高度な理論にも言及します。
理論と実務のつながりに言及します。
活発なディスカッションになるよう、モデレートします。

【学生が準備すべき機器他】
オンラインによる講義を受講可能な情報機器が必要です。

【その他の重要事項】
各回とも、１００分×２時限の連続授業です。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
国際経営戦略
＜研究テーマ＞
多国籍企業の地理的多角化、多国籍企業の新興経済への参入、多国籍企業内の言語障壁
＜主要研究業績＞
① Discontinuity of required oral and literacy skills across job roles in achieving high work performance: An fsQCA approach. 2023. International Business Review, 32(4): 102072. (with Suzuki M. and Nishikawa, H.)
② Human capital, cultural distance and staffing localization. 2021. Multinational Business Review, 29(3): 420-439.

③ Seeing the tree and the forest: Japanese auto firm multinational dispersion, cultural distance, and foreign manufacturing subsidiary ownership levels. 2021. Asian Business & Management, 20(2): 163-187. (with Powell, K.S. and Lim, E.)

【Outline (in English)】
(Course outline)
Firms that are competitive in their home country often fail overseas. This is partially because the environment of the host country, which is different from that of the home country, reduces the value of their firm-specific advantages. How should firms compete overseas?
This course introduces students to key concepts and frameworks of international business studies. It also gives an overview of recent research topics of international business studies as well as traditional ones.
(Learning objectives)
The goal of this course is to understand basics of international business studies, which include traditional and recent topics. Students are also expected to understand the theoretical foundation of international business and build skills to read academic papers. At the end of this course, students are expected to improve an ability to analyze firms' success and failure in foreign countries.
(Learning activities outside of classroom)
Students are required to read materials, complete assignments, and prepare for presentations and discussions. Time for preparatory study and review will be at least 4 hours for each class.
(Grading Criteria/Policies)
Students will be evaluated on a term project (50%) and in-class contribution (50%).

MAN700F1－0001（経営学 / Management 700）

博士演習ＩＡ（履修登録用代表コード）

経営学専攻　専任教員

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、また博士コースワークショップで示された三段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。

博士演習ＩＡでは、博士コースワークショップＩ（ステップ１）のクリアに求められる水準の「研究計画書」の執筆を目指す。さらに、指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿に向けての計画・準備を進める。

【到達目標】

博士演習の目的は、博士コースワークショップの3つのステップの各評価に当たって合格レベルに達する学識・技術の高度な専門性を習得することである。

特に，博士演習ＩＡでは、博士コースワークショップＩＡの「第1段階」の審査に合格するレベルの研究計画書をまとめることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

研究テーマに基づく、主要先行論文のサーベイ、研究方法、博士論文の構成などの報告を行い、指導教員による批評と助言を受け、博士コースワークショップＩ（ステップ１）のクリアに求められる水準の「研究計画書」の執筆を目指す。

教員によっては修士課程の学生等との合同指導やディスカッションなどが行われることもある。実施形式等は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマと計画の報告	研究テーマや計画、現状の研究の進捗およびその成果を報告する
第2回	主要先行論文サーベイの報告①	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイの報告
第3回	主要先行論文サーベイの報告②	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイの報告
第4回	主要先行論文サーベイの報告③	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイの報告
第5回	研究方法の報告①	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法の報告
第6回	研究方法の報告②	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法の報告
第7回	研究方法の報告③	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法の報告
第8回	博士論文の構成の報告①	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法に基づく、博士論文構成の報告
第9回	博士論文の構成の報告②	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法に基づく、博士論文構成の報告
第10回	論文執筆指導①	研究テーマ、論文サーベイ、研究方法、論文構成等に基づき、（博士論文を構成する１章に相当する）論文執筆の指導をうける
第11回	論文執筆指導②	研究テーマ、論文サーベイ、研究方法、論文構成等に基づき、（博士論文を構成する１章に相当する）論文執筆の指導をうける
第12回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指導教員の助言に基づき、博士論文の内容について学会で発表し、関連する論文を査読付き雑誌に投稿するための準備を行うことが期待されます。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しません。必要に応じて指導教員が指定します。

【参考書】

特に指定しません。必要に応じて指導教員が紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、学会発表、査読付き雑誌への論文投稿などの研究成果や進捗状況、セミナーへの出席や論文発表などの研究活動、研究の進捗状況や態度によって決定されます。

【学生の意見等からの気づき】

『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【その他の重要事項】

指導教員の方針や受講生の要望あるいは進行状況等によってここで示された授業計画は修正することがあります。

【Outline (in English)】

(Couse outline)

The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the Department of Business Administration who are in the process of writing a doctoral dissertation.

Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topics and research design, writing proposals, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination. Students may be also required to make provision for presentation of papers at conferences and/or posting to peer-reviewed academic journals, if instructed.

(Lerning Objectives)

The purpose of the series of doctoral dissertation seminars(Ⅰ, Ⅱ, and Ⅲ) is to acquire advanced expertise on academic knowledge and skills to reach the acceptable level for each examination of the three steps of the Doctoral Workshop.

The goal of the present seminar, ⅠA, is to wrap up a research proposal reaching the level to pass the examination of "the first step or step one" of Doctoral Workshop ⅠA.

(Leaning activities outside of classroom) You are expected to make presentations at academic conferences on the contents of your doctoral dissertation and prepare for submission of a related paper to peer-reviewed journals along with the advice of your instructor.

（Grading Criteria)

Grading will be decided based on research achievements and/or progresses such as conference presentations, paper submissions to peer-reviewed journals, and engagement in research activities including attendance, giving papers, and other research progresses and attitudes at the seminar.

MAN700F1－0001（経営学 / Management 700）

博士演習ＩＡ

新倉　貴士

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、また博士コースワークショップで示された三段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。
博士演習ＩＡでは、博士コースワークショップＩ（ステップ１）のクリアに求められる水準の「研究計画書」の執筆を目指す。さらに、指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿に向けての計画・準備を進める。

【到達目標】
博士演習の目的は、博士コースワークショップの3つのステップの各評価に当たって合格レベルに達する学識・技術の高度な専門性を習得することである。
特に，博士演習ＩＡでは、博士コースワークショップＩＡの「第1段階」の審査に合格するレベルの研究計画書をまとめることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
研究テーマに基づく、主要先行論文のサーベイ、研究方法、博士論文の構成などの報告を行い、指導教員による批評と助言を受け、博士コースワークショップＩ（ステップ１）のクリアに求められる水準の「研究計画書」の執筆を目指す。
教員によっては修士課程の学生等との合同指導やディスカッションなどが行われることもある。実施形式等は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマと計画の報告	研究テーマや計画、現状の研究の進捗およびその成果を報告する
第2回	主要先行論文サーベイの報告①	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイの報告
第3回	主要先行論文サーベイの報告②	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイの報告
第4回	主要先行論文サーベイの報告③	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイの報告
第5回	研究方法の報告①	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法の報告
第6回	研究方法の報告②	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法の報告
第7回	研究方法の報告③	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法の報告
第8回	博士論文の構成の報告①	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法に基づく、博士論文構成の報告
第9回	博士論文の構成の報告②	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法に基づく、博士論文構成の報告
第10回	論文執筆指導①	研究テーマ、論文サーベイ、研究方法、論文構成等に基づき、（博士論文を構成する１章に相当する）論文執筆の指導をうける
第11回	論文執筆指導②	研究テーマ、論文サーベイ、研究方法、論文構成等に基づき、（博士論文を構成する１章に相当する）論文執筆の指導をうける
第12回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指導教員の助言に基づき、博士論文の内容について学会で発表し、関連する論文を査読付き雑誌に投稿するための準備を行うことが期待されます。

【テキスト（教科書）】
テキストは指定しません。必要に応じて指導教員が指定します。

【参考書】
特に指定しません。必要に応じて指導教員が紹介します。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、学会発表、査読付き雑誌への論文投稿などの研究成果や進捗状況、セミナーへの出席や論文発表などの研究活動、研究の進捗状況や態度によって決定されます。

【学生の意見等からの気づき】
『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【その他の重要事項】
指導教員の方針や受講生の要望あるいは進行状況等によってここで示された授業計画は修正することがあります。

【Outline (in English)】
(Couse outline)
The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the Department of Business Administration who are in the process of writing a doctoral dissertation.
Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topics and research design, writing proposals, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination. Students may be also required to make provision for presentation of papers at conferences and/or posting to peer-reviewed academic journals, if instructed.
(Lerning Objectives)
The purpose of the series of doctoral dissertation seminars(Ⅰ, Ⅱ, and Ⅲ) is to acquire advanced expertise on academic knowledge and skills to reach the acceptable level for each examination of the three steps of the Doctoral Workshop.
The goal of the present seminar, ⅠA, is to wrap up a research proposal reaching the level to pass the examination of "the first step or step one" of Doctoral Workshop ⅠA.
(Leaning activities outside of classroom) You are expected to make presentations at academic conferences on the contents of your doctoral dissertation and prepare for submission of a related paper to peer-reviewed journals along with the advice of your instructor.
（Grading Criteria)
Grading will be decided based on research achievements and/or progresses such as conference presentations, paper submissions to peer-reviewed journals, and engagement in research activities including attendance, giving papers, and other research progresses and attitudes at the seminar.

MAN700F1－0001（経営学 / Management 700）

博士演習ＩＡ

西川　英彦

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、また博士コースワークショップで示された三段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。

博士演習ＩＡでは、博士コースワークショップＩ（ステップ１）のクリアに求められる水準の「研究計画書」の執筆を目指す。さらに、指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿に向けての計画・準備を進める。

【到達目標】

博士演習の目的は、博士コースワークショップの3つのステップの各評価に当たって合格レベルに達する学識・技術の高度な専門性を習得することである。

特に，博士演習ＩＡでは、博士コースワークショップＩＡの「第1段階」の審査に合格するレベルの研究計画書をまとめることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

研究テーマに基づく、主要先行論文のサーベイ、研究方法、博士論文の構成などの報告を行い、指導教員による批評と助言を受け、博士コースワークショップＩ（ステップ１）のクリアに求められる水準の「研究計画書」の執筆を目指す。

教員によっては修士課程の学生等との合同指導やディスカッションなどが行われることもある。実施形式等は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマと計画の報告	研究テーマや計画、現状の研究の進捗およびその成果を報告する
第2回	主要先行論文サーベイの報告①	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイの報告
第3回	主要先行論文サーベイの報告②	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイの報告
第4回	主要先行論文サーベイの報告③	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイの報告
第5回	研究方法の報告①	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法の報告
第6回	研究方法の報告②	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法の報告
第7回	研究方法の報告③	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法の報告
第8回	博士論文の構成の報告①	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法に基づく、博士論文構成の報告
第9回	博士論文の構成の報告②	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法に基づく、博士論文構成の報告
第10回	論文執筆指導①	研究テーマ、論文サーベイ、研究方法、論文構成等に基づき、（博士論文を構成する１章に相当する）論文執筆の指導をうける
第11回	論文執筆指導②	研究テーマ、論文サーベイ、研究方法、論文構成等に基づき、（博士論文を構成する１章に相当する）論文執筆の指導をうける
第12回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指導教員の助言に基づき、博士論文の内容について学会で発表し、関連する論文を査読付き雑誌に投稿するための準備を行うことが期待されます。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しません。必要に応じて指導教員が指定します。

【参考書】

特に指定しません。必要に応じて指導教員が紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、学会発表、査読付き雑誌への論文投稿などの研究成果や進捗状況、セミナーへの出席や論文発表などの研究活動、研究の進捗状況や態度によって決定されます。

【学生の意見等からの気づき】

『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【その他の重要事項】

指導教員の方針や受講生の要望あるいは進行状況等によってここで示された授業計画は修正することがあります。

【Outline (in English)】

(Couse outline)

The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the Department of Business Administration who are in the process of writing a doctoral dissertation.

Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topics and research design, writing proposals, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination. Students may be also required to make provision for presentation of papers at conferences and/or posting to peer-reviewed academic journals, if instructed.

(Lerning Objectives)

The purpose of the series of doctoral dissertation seminars(Ⅰ, Ⅱ, and Ⅲ) is to acquire advanced expertise on academic knowledge and skills to reach the acceptable level for each examination of the three steps of the Doctoral Workshop.

The goal of the present seminar, ⅠA, is to wrap up a research proposal reaching the level to pass the examination of "the first step or step one" of Doctoral Workshop ⅠA.

(Leaning activities outside of classroom) You are expected to make presentations at academic conferences on the contents of your doctoral dissertation and prepare for submission of a related paper to peer-reviewed journals along with the advice of your instructor.

（Grading Criteria)

Grading will be decided based on research achievements and/or progresses such as conference presentations, paper submissions to peer-reviewed journals, and engagement in research activities including attendance, giving papers, and other research progresses and attitudes at the seminar.

MAN700F1－0002（経営学 / Management 700）

博士演習ＩＢ（履修登録用代表コード）

経営学専攻　専任教員

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースの三段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。

博士演習ＩＢでは、博士コースワークショップＩ（ステップ１）のクリアに求められる水準の「研究計画書」の執筆を目指す。さらに、指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿に向けての計画・準備を進める。

【到達目標】

博士演習の目的は、博士コースワークショップの３つのステップの各評価に当たって合格レベルに達する学識・技術の高度な専門性を習得することである。

特に，博士演習ＩＢでは、博士コースワークショップＩＢの「第1段階」の審査に合格するレベルの研究計画書をまとめることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

研究テーマに基づく、主要先行論文のサーベイ、研究方法、博士論文の構成などの報告を行い、指導教員による批評と助言を受け、博士コースワークショップＩ（ステップ１）のクリアに求められる水準の「研究計画書」の執筆を目指す。

教員によっては修士課程の学生等との合同指導やディスカッションなどが行われることもある。実施形式等は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマと計画の報告	研究テーマや計画、現状の研究の進捗度およびその成果を報告する
第2回	主要先行論文サーベイの報告①	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイの報告
第3回	主要先行論文サーベイの報告②	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイの報告
第4回	主要先行論文サーベイの報告③	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイの報告
第5回	研究方法の報告①	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法の報告
第6回	研究方法の報告②	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法の報告
第7回	研究方法の報告③	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法の報告
第8回	博士論文の構成の報告①	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法に基づく、博士論文構成の報告
第9回	博士論文の構成の報告②	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法に基づく、博士論文構成の報告
第10回	論文執筆指導①	研究テーマ、論文サーベイ、研究方法、論文構成等に基づき、（博士論文を構成する１章に相当する）論文執筆の指導をうける
第11回	論文執筆指導②	研究テーマ、論文サーベイ、研究方法、論文構成等に基づき、（博士論文を構成する１章に相当する）論文執筆の指導をうける
第12回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指導教員の助言に基づき、博士論文の内容について学会で発表し、関連する論文を査読付き雑誌に投稿するための準備を行うことが期待されます。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じて指導教員が指定します。

【参考書】

特に指定しません。必要に応じて指導教員が紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、学会発表、査読付き雑誌への論文投稿などの研究成果や進捗状況、セミナーへの出席や論文発表などの研究活動、研究の進捗状況や態度によって決定されます。

【学生の意見等からの気づき】

『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【その他の重要事項】

指導教員の方針や受講生の要望あるいは進行状況によって適宜授業計画が修正されることがあります。

【Outline (in English)】

(Couse outline)

The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the Department of Business Administration who are in the process of writing a doctoral dissertation.

Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topics and research design, writing proposals, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination. Students may be also required to make provision for presentation of papers at conferences and/or posting to peer-reviewed academic journals, if instructed.

(Lerning Objectives)

The purpose of the series of doctoral dissertation seminars(Ⅰ, Ⅱ, and Ⅲ) is to acquire advanced expertise on academic knowledge and skills to reach the acceptable level for each examination of the three steps of the Doctoral Workshop.

The goal of the present seminar, ⅠB, is to wrap up a research proposal reaching the level to pass the examination of "the first step or step one" of Doctoral Workshop ⅠB.

(Leaning activities outside of classroom)

You are expected to make presentations at academic conferences on the contents of your doctoral dissertation and prepare for submission of a related paper to peer-reviewed journals along with the advice of your instructor.

(Grading Criteria)

Grading will be decided based on research achievements and/or progresses such as conference presentations, paper submissions to peer-reviewed journals, and engagement in research activities including attendance, giving papers, and other research progresses and attitudes at the seminar.

MAN700F1－0002（経営学 / Management 700）

博士演習ＩＢ

新倉　貴士

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースの三段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。

博士演習ＩＢでは、博士コースワークショップＩ（ステップ１）のクリアに求められる水準の「研究計画書」の執筆を目指す。さらに、指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿に向けての計画・準備を進める。

【到達目標】

博士演習の目的は、博士コースワークショップの3つのステップの各評価に当たって合格レベルに達する学識・技術の高度な専門性を習得することである。

特に，博士演習ＩＢでは、博士コースワークショップＩＢの「第1段階」の審査に合格するレベルの研究計画書をまとめることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

研究テーマに基づく、主要先行論文のサーベイ、研究方法、博士論文の構成などの報告を行い、指導教員による批評と助言を受け、博士コースワークショップＩ（ステップ１）のクリアに求められる水準の「研究計画書」の執筆を目指す。

教員によっては修士課程の学生等との合同指導やディスカッションなどが行われることもある。実施形式等は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマと計画の報告	研究テーマや計画、現状の研究の進捗度およびその成果を報告する
第2回	主要先行論文サーベイの報告①	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイの報告
第3回	主要先行論文サーベイの報告②	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイの報告
第4回	主要先行論文サーベイの報告③	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイの報告
第5回	研究方法の報告①	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法の報告
第6回	研究方法の報告②	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法の報告
第7回	研究方法の報告③	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法の報告
第8回	博士論文の構成の報告①	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法に基づく、博士論文構成の報告
第9回	博士論文の構成の報告②	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法に基づく、博士論文構成の報告
第10回	論文執筆指導①	研究テーマ、論文サーベイ、研究方法、論文構成等に基づき、（博士論文を構成する１章に相当する）論文執筆の指導をうける
第11回	論文執筆指導②	研究テーマ、論文サーベイ、研究方法、論文構成等に基づき、（博士論文を構成する１章に相当する）論文執筆の指導をうける
第12回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指導教員の助言に基づき、博士論文の内容について学会で発表し、関連する論文を査読付き雑誌に投稿するための準備を行うことが期待されます。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じて指導教員が指定します。

【参考書】

特に指定しません。必要に応じて指導教員が紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、学会発表、査読付き雑誌への論文投稿などの研究成果や進捗状況、セミナーへの出席や論文発表などの研究活動、研究の進捗状況や態度によって決定されます。

【学生の意見等からの気づき】

『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【その他の重要事項】

指導教員の方針や受講生の要望あるいは進行状況によって適宜授業計画が修正されることがあります。

【Outline (in English)】

(Couse outline)

The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the Department of Business Administration who are in the process of writing a doctoral dissertation.

Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topics and research design, writing proposals, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination. Students may be also required to make provision for presentation of papers at conferences and/or posting to peer-reviewed academic journals, if instructed.

(Lerning Objectives)

The purpose of the series of doctoral dissertation seminars(Ⅰ, Ⅱ, and Ⅲ) is to acquire advanced expertise on academic knowledge and skills to reach the acceptable level for each examination of the three steps of the Doctoral Workshop.

The goal of the present seminar, ⅠB, is to wrap up a research proposal reaching the level to pass the examination of "the first step or step one" of Doctoral Workshop ⅠB.

(Leaning activities outside of classroom)

You are expected to make presentations at academic conferences on the contents of your doctoral dissertation and prepare for submission of a related paper to peer-reviewed journals along with the advice of your instructor.

（Grading Criteria)

Grading will be decided based on research achievements and/or progresses such as conference presentations, paper submissions to peer-reviewed journals, and engagement in research activities including attendance, giving papers, and other research progresses and attitudes at the seminar.

MAN700F1－0002（経営学 / Management 700）

博士演習ＩＢ

西川　英彦

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースの三段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。
博士演習ＩＢでは、博士コースワークショップＩ（ステップ１）のクリアに求められる水準の「研究計画書」の執筆を目指す。さらに、指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿に向けての計画・準備を進める。

【到達目標】
博士演習の目的は、博士コースワークショップの3つのステップの各評価に当たって合格レベルに達する学識・技術の高度な専門性を習得することである。
特に，博士演習ＩＢでは、博士コースワークショップＩＢの「第1段階」の審査に合格するレベルの研究計画書をまとめることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
研究テーマに基づく、主要先行論文のサーベイ、研究方法、博士論文の構成などの報告を行い、指導教員による批評と助言を受け、博士コースワークショップＩ（ステップ１）のクリアに求められる水準の「研究計画書」の執筆を目指す。
教員によっては修士課程の学生等との合同指導やディスカッションなどが行われることもある。実施形式等は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマと計画の報告	研究テーマや計画、現状の研究の進捗度およびその成果を報告する
第2回	主要先行論文サーベイの報告①	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイの報告
第3回	主要先行論文サーベイの報告②	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイの報告
第4回	主要先行論文サーベイの報告③	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイの報告
第5回	研究方法の報告①	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法の報告
第6回	研究方法の報告②	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法の報告
第7回	研究方法の報告③	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法の報告
第8回	博士論文の構成の報告①	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法に基づく、博士論文構成の報告
第9回	博士論文の構成の報告②	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法に基づく、博士論文構成の報告
第10回	論文執筆指導①	研究テーマ、論文サーベイ、研究方法、論文構成等に基づき、（博士論文を構成する１章に相当する）論文執筆の指導をうける
第11回	論文執筆指導②	研究テーマ、論文サーベイ、研究方法、論文構成等に基づき、（博士論文を構成する１章に相当する）論文執筆の指導をうける
第12回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指導教員の助言に基づき、博士論文の内容について学会で発表し、関連する論文を査読付き雑誌に投稿するための準備を行うことが期待されます。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。必要に応じて指導教員が指定します。

【参考書】
特に指定しません。必要に応じて指導教員が紹介します。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、学会発表、査読付き雑誌への論文投稿などの研究成果や進捗状況、セミナーへの出席や論文発表などの研究活動、研究の進捗状況や態度によって決定されます。

【学生の意見等からの気づき】
『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【その他の重要事項】
指導教員の方針や受講生の要望あるいは進行状況によって適宜授業計画が修正されることがあります。

【Outline (in English)】
(Couse outline)
The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the Department of Business Administration who are in the process of writing a doctoral dissertation.
Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topics and research design, writing proposals, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination. Students may be also required to make provision for presentation of papers at conferences and/or posting to peer-reviewed academic journals, if instructed.
(Lerning Objectives)
The purpose of the series of doctoral dissertation seminars(Ⅰ, Ⅱ, and Ⅲ) is to acquire advanced expertise on academic knowledge and skills to reach the acceptable level for each examination of the three steps of the Doctoral Workshop.
The goal of the present seminar, ⅠB, is to wrap up a research proposal reaching the level to pass the examination of "the first step or step one" of Doctoral Workshop ⅠB.
(Leaning activities outside of classroom)
You are expected to make presentations at academic conferences on the contents of your doctoral dissertation and prepare for submission of a related paper to peer-reviewed journals along with the advice of your instructor.
（Grading Criteria)
Grading will be decided based on research achievements and/or progresses such as conference presentations, paper submissions to peer-reviewed journals, and engagement in research activities including attendance, giving papers, and other research progresses and attitudes at the seminar.

MAN700F1 – 0003（経営学 / Management 700）

博士演習ⅡＡ（シラバス用代表コード）

経営学専攻　専任教員

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースワークショップの三段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。

博士演習ⅡＡでは、博士コースワークショップⅡ（ステップ２）のクリアに求められる水準の「先行研究のサーベイ論文と構成章（論文）」の執筆を目指す。さらに、指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿を進める。

ただし、ステップ１をクリアしていない場合は、博士演習ＩＡのシラバスの内容を実施する。

【到達目標】

博士演習の目的は、博士コースワークショップの3つのステップの各評価に当たって合格レベルに達する学識・技術の高度な専門性を習得することである。
特に，博士演習ⅡＡでは、博士コースワークショップの「第２段階」の審査に合格するレベルの研究計画書をまとめることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

ステップ１で承認・再検討された「研究計画書」に基づき、先行研究に関するサーベイ論文と、博士論文を構成する章（少なくとも1章）に該当する研究の報告を行い、指導教員による批評および助言を受け、博士コースのステップ２のクリアに求められる水準を目指す。授業形式（対面，オンライン授業等）は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	「研究計画書」の再検討の結果報告	「研究計画書」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第2回	先行論文サーベイと研究報告①	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第3回	先行論文サーベイと研究報告②	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第4回	先行論文サーベイと研究報告③	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第5回	博士論文を構成する章の報告①	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告
第6回	博士論文を構成する章の報告②	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告
第7回	博士論文を構成する章の報告③	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告
第8回	博士論文を構成する章の報告④	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告
第9回	論文執筆指導①	執筆したサーベイ論文と、博士論文を構成する論文に対する指導をうける
第10回	論文執筆指導②	執筆したサーベイ論文と、博士論文を構成する論文に対する指導をうける
第11回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第12回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指導教員の助言に基づき、博士論文の内容について学会で発表し、関連する論文を査読付き雑誌に投稿するための準備を行うことが期待されます。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じて指導教員が指定します。

【参考書】

特に指定しません。必要に応じて指導教員が紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、学会発表、査読付き雑誌への論文投稿などの研究成果や進捗状況、セミナーへの出席や論文発表などの研究活動、研究の進捗状況や態度によって決定されます。

【学生の意見等からの気づき】

『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【その他の重要事項】

指導教員の方針、受講生の要望、および進行状況等によって授業計画は修正されることがあります。

【Outline (in English)】

(Couse outline)

The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the Department of Business Administration who are in the process of writing a doctoral dissertation. Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topics and research design, writing proposals, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination. Students may be also required to make provision for presentation of papers at conferences and/or posting to peer-reviewed academic journals, if instructed.

However, unless you passed the first step or step one of Doctoral Workshop Ⅰ, same practices of dissertation seminar ⅠA will be carried out.

(Lerning Objectives)

The goal of the present seminar, ⅡA, is to satisfy the following two requirements for Doctoral Workshop Ⅱ (step two or the second step). The first is to write a review paper covering the fields you study for a doctoral dissertation. The second is to write at least one (empirical) study equivalent to one chapter of your doctoral dissertation.

A requirement for the doctoral dissertation of our graduate school is to include at least one published or to be published article passing peer-reviews, or a paper equivalent a to be published article in peer-reviewed journals.

In the case the article was co-written, a certificate indicating that you were the principal author should be submitted to the examination committee.

(Leaning activities outside of classroom)

You are expected to make presentations at academic conferences on the contents of your doctoral dissertation and prepare for submission of a related paper to peer-reviewed journals along with the advice of your instructor.

（Grading Criteria)

Grading will be decided based on research achievements and/or progresses such as conference presentations, paper submissions to peer-reviewed journals, and engagement in research activities including attendance, giving papers, and other research progresses and attitudes at the seminar.

MAN700F1－0004（経営学 / Management 700）

博士演習ⅡＢ（シラバス用代表コード）

経営学専攻　専任教員

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースワークショップの三段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。

博士演習ⅡＢでは、博士コースワークショップⅡ（ステップ２）のクリアに求められる水準の「先行研究のサーベイ論文と構成章（論文）」の執筆を目指す。さらに、指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿を進める。

ただし、ステップ１をクリアしていない場合は、博士演習ＩＢのシラバスの内容を実施する。

【到達目標】

博士演習の目的は、博士コースワークショップの3つのステップの各評価に当たって合格レベルに達する学識・技術の高度な専門性を習得することである。

特に，博士演習ⅡＢでは、博士コースワークショップの「第２段階」の審査に合格するレベルの研究計画書をまとめることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

ステップ１で承認・再検討された「研究計画書」に基づき、先行研究に関するサーベイ論文と、博士論文を構成する章（少なくとも1章）に該当する研究の報告を行い、指導教員による批評および助言を受け、博士コースのステップ２のクリアに求められる水準を目指す。授業形式（対面，オンライン授業等）は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	「研究計画書」の再検討の結果報告	「研究計画書」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第2回	先行論文サーベイと研究報告①	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第3回	先行論文サーベイと研究報告②	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第4回	先行論文サーベイと研究報告③	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第5回	博士論文を構成する章の報告①	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告
第6回	博士論文を構成する章の報告②	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告
第7回	博士論文を構成する章の報告③	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告
第8回	博士論文を構成する章の報告④	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告
第9回	論文執筆指導①	執筆したサーベイ論文と、博士論文を構成する論文に対する指導をうける
第10回	論文執筆指導②	執筆したサーベイ論文と、博士論文を構成する論文に対する指導をうける
第11回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第12回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

You are expected to make presentations at academic conferences on the contents of your doctoral dissertation and submitting related papers to peer-reviewed journals along with the advice of your instructor.

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じて指導教員が指定します。

【参考書】

特に指定しません。必要に応じて指導教員が紹介しま

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、学会発表、査読付き雑誌への論文投稿などの研究成果や進捗状況、セミナーへの出席や論文発表などの研究活動、研究の進捗状況や態度によって決定されます。

【学生の意見等からの気づき】

『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【その他の重要事項】

指導教員の方針、受講生の要望、および進行状況等によって授業計画は修正されることもあります

【Outline (in English)】

(Couse outline)

The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the Department of Business Administration who are in the process of writing a doctoral dissertation. Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topics and research design, writing proposals, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination. Students may be also required to make provision for presentation of papers at conferences and/or posting to peer-reviewed academic journals, if instructed.

However, unless you passed the first step or step one of Doctoral Workshop Ⅰ, same practices of dissertation seminar ⅠA will be carried out.

(Lerning Objectives)

The goal of the present seminar, ⅡA, is to satisfy the following two requirements for Doctoral Workshop Ⅱ (step two or the second step). The first is to write a review paper covering the fields you study for a doctoral dissertation. The second is to write at least one (empirical) study equivalent to one chapter of your doctoral dissertation.

A requirement for the doctoral dissertation of our graduate school is to include at least one published or to be published article passing peer-reviews, or a paper equivalent a to be published article in peer-reviewed journals.

In the case the article was co-written, a certificate indicating that you were the principal author should be submitted to the examination committee.

(Leaning activities outside of classroom)

You are expected to make presentations at academic conferences on the contents of your doctoral dissertation and prepare for submission of a related paper to peer-reviewed journals along with the advice of your instructor.

（Grading Criteria)

Grading will be decided based on research achievements and/or progresses such as conference presentations, paper submissions to peer-reviewed journals, and engagement in research activities including attendance, giving papers, and other research progresses and attitudes at the seminar.

MAN700F1 – 0005（経営学 / Management 700）

博士演習ⅢＡ（シラバス用代表コード）

経営学専攻　専任教員

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースワークショップ三段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。

博士演習ⅢＡでは、博士コースワークショップⅢ（ステップ３）のクリアに求められる水準の「博士論文の全体構成と主要な部分（章）に該当する研究」論文の執筆を目指す。

なお、ステップ１をクリアしていない場合は、博士演習ＩＡのシラバスの内容を、ステップ２をクリアしていない場合は、博士演習ⅡＡのシラバスの内容を実施する。

【到達目標】

博士演習の目的は、博士コースワークショップの3つのステップの各評価に当たって合格レベルに達する学識・技術の高度な専門性を習得することである。
特に，博士演習ⅢＡでは、博士コースワークショップの「第３段階」の審査に合格するレベルの研究計画書をまとめることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

「研究計画書」や「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体構成の提示と、博士論文を構成する主要な章となる論文などの報告を行い、指導教員による助言および批判をうけつつ、博士コースワークショップⅢ（ステップ３）のクリアに求められる水準の「全体構成の提示と主要章（論文）」の完成を目指す。授業形式（対面，オンライン授業等）は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第2回	全体構成の提示①	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第3回	全体構成の提示②	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第4回	全体構成の提示③	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第5回	主要章の報告①	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第6回	主要章の報告②	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第7回	主要章の報告③	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第8回	論文執筆指導①	執筆した主要章の指導をうける
第9回	論文執筆指導②	執筆した主要章の指導をうける
第10回	論文執筆指導③	執筆した主要章の指導をうける
第11回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第12回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指導教員の助言に基づき、博士論文の内容について学会で発表し、関連する論文を査読付き雑誌に投稿するための準備を行うことが期待されます。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じて指導教員が指定します。

【参考書】

特に指定しません。必要に応じて指導教員が紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、学会発表、査読付き雑誌への論文投稿などの研究成果や進捗状況、セミナーへの出席や論文発表などの研究活動、研究の進捗状況や態度によって決定されます。

【学生の意見等からの気づき】

『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【学生が準備すべき機器他】

指導教員の方針、受講生の要望、および進行状況等によって授業計画は修正されることもあります

【Outline (in English)】

(Couse outline)

The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the Department of Business Administration who are in the process of writing a doctoral dissertation. Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topics and research design, writing proposals, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination. Students may be also required to make provision for presentation of papers at conferences and/or posting to peer-reviewed academic journals, if instructed.

However, unless you passed the first step or step one of Doctoral Workshop Ⅰ, same practice of Dissertation Seminar Ⅰ will be conducted. Similarly, same practice of Dissertation Seminar Ⅱ will be conducted in the case of failure in the second step or step two of the Doctoral Workshop Ⅱ as well.

(Lerning Objectives)

The goal of the present seminar, ⅢA, is to satisfy the following two requirements for Doctoral Workshop(step three or the third step). The first is to write a review paper covering the fields you study for a doctoral dissertation. The second is to write at least one (empirical) study equivalent to one chapter of your doctoral dissertation.

A requirement for the doctoral dissertation of our graduate school is to include at least one published or to be published article passing peer-reviews, or a paper equivalent a to be published article in peer-reviewed journals.

In the case the article was co-written, a certificate indicating that you were the principal author should be submitted to the examination committee.

(Leaning activities outside of classroom)

You are expected to make presentations at academic conferences on the contents of your doctoral dissertation and prepare for submission of a related paper to peer-reviewed journals along with the advice of your instructor.

(Grading Criteria)

Grading will be decided based on research achievements and/or progresses such as conference presentations, paper submissions to peer-reviewed journals, and engagement in research activities including attendance, giving papers, and other research progresses and attitudes at the seminar.

MAN700F1－0006（経営学 / Management 700）

博士演習ⅢＢ（シラバス用代表コード）

経営学専攻　専任教員

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースワークショップ三段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。

博士演習ⅢＢでは、博士コースワークショップⅢ（ステップ３）のクリアに求められる水準の「博士論文の全体構成と主要な部分（章）に該当する研究」論文の執筆を目指す。

なお、ステップ１をクリアしていない場合は、博士演習ＩＢのシラバスの内容を、ステップ２をクリアしていない場合は、博士演習ⅡＢのシラバスの内容を実施する。

【到達目標】

The goals of the doctoral seminar, ⅢB, are to write an article equivalent to the principal chapter of the doctoral dissertation and to complete the overall doctoral dissertation.
博士演習の目的は、博士コースワークショップの3つのステップの各評価に当たって合格レベルに達する学識・技術の高度な専門性を習得することである。
特に，博士演習ⅢＢでは、博士コースワークショップの「第３段階」の審査に合格するレベルの研究計画書をまとめることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

「研究計画書」や「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体構成の提示と、博士論文を構成する主要な章となる論文などの報告を行い、指導教員による助言および批判をうけつつ、博士コースワークショップⅢ（ステップ３）のクリアに求められる水準の「全体構成の提示と主要章（論文）」の完成を目指す。授業形式（対面，オンライン授業等）は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第2回	全体構成の提示①	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第3回	全体構成の提示②	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第4回	全体構成の提示③	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第5回	主要章の報告①	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第6回	主要章の報告②	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第7回	主要章の報告③	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第8回	論文執筆指導①	執筆した主要章の指導をうける
第9回	論文執筆指導②	執筆した主要章の指導をうける
第10回	論文執筆指導③	執筆した主要章の指導をうける
第11回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第12回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指導教員の助言に基づき、博士論文の内容について学会で発表し、関連する論文を査読付き雑誌に投稿するための準備を行うことが期待されます。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じて指導教員が指定します。

【参考書】

特に指定しません。必要に応じて指導教員が紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、学会発表、査読付き雑誌への論文投稿などの研究成果や進捗状況、セミナーへの出席や論文発表などの研究活動、研究の進捗状況や態度によって決定されます。

【学生の意見等からの気づき】

『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【学生が準備すべき機器他】

指導教員の方針、受講生の要望、および進行状況等によって授業計画は適宜修正されうる

【Outline (in English)】

(Couse outline)
The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the Department of Business Administration who are in the process of writing a doctoral dissertation. Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topics and research design, writing proposals, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination. Students may be also required to make provision for presentation of papers at conferences and/or posting to peer-reviewed academic journals, if instructed.
However, unless you passed the first step or step one of Doctoral Workshop Ⅰ, same practice of Dissertation Seminar Ⅰ will be conducted. Similarly, same practice of Dissertation Seminar Ⅱ will be conducted in the case of failure in the second step or step two of the Doctoral Workshop Ⅱ as well.
(Lerning Objectives)
The purpose of the series of doctoral dissertation seminars(Ⅰ, Ⅱ, and Ⅲ) is to acquire advanced expertise on academic knowledge and skills to reach the acceptable level for each examination of the three steps of the Doctoral Workshop.
The goal of the present seminar, ⅢB, is to wrap up a research proposal reaching the level to pass the examination of "the third step or step three" of Doctoral Workshop.
The goal of the present seminar, ⅢB, is to satisfy the following two requirements for Doctoral Workshop Ⅱ (step two or the second step). The first is to write a review paper covering the fields you study for a doctoral dissertation. The second is to write at least one (empirical) study equivalent to one chapter of your doctoral dissertation.
A requirement for the doctoral dissertation of our graduate school is to include at least one published or to be published article passing peer-reviews, or a paper equivalent a to be published article in peer-reviewed journals.
In the case the article was co-written, a certificate indicating that you were the principal author should be submitted to the examination committee.
(Leaning activities outside of classroom)
You are expected to make presentations at academic conferences on the contents of your doctoral dissertation and prepare for submission of a related paper to peer-reviewed journals along with the advice of your instructor.

（Grading Criteria）
Grading will be decided based on research achievements and/or progresses such as conference presentations, paper submissions to peer-reviewed journals, and engagement in research activities including attendance, giving papers, and other research progresses and attitudes at the seminar.

MAN700F1－0001（経営学 / Management 700）

博士演習ＩＡ

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

【学生の意見等からの気づき】

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
（Course outline）
（Learning Objectives）
（Learning activities outside of classroom）
（Grading Criteria /Policy）

MAN700F1 – 0002（経営学 / Management 700）

博士演習ＩＢ

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

【学生の意見等からの気づき】

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
（Course outline）
（Learning Objectives）
（Learning activities outside of classroom）
（Grading Criteria /Policy）

MAN700F1－0001（経営学 / Management 700）

博士演習ＩＡ

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

【学生の意見等からの気づき】

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
（Course outline）
（Learning Objectives）
（Learning activities outside of classroom）
（Grading Criteria /Policy）

MAN700F1 – 0002（経営学 / Management 700）

博士演習ＩＢ

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

【学生の意見等からの気づき】

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
（Course outline）
（Learning Objectives）
（Learning activities outside of classroom）
（Grading Criteria /Policy）

MAN700F1－0001（経営学 / Management 700）

博士演習ＩＡ

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

【学生の意見等からの気づき】

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
（Course outline）
（Learning Objectives）
（Learning activities outside of classroom）
（Grading Criteria /Policy）

MAN700F1 – 0002（経営学 / Management 700）

博士演習ＩＢ

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

【学生の意見等からの気づき】

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
（Course outline）
（Learning Objectives）
（Learning activities outside of classroom）
（Grading Criteria /Policy）

MAN700F1 – 0003（経営学 / Management 700）

博士演習ⅡA

坂上　学

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースの３段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の輪読あるいは報告に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。

博士演習ⅡAでは、博士コースのステップ２のクリアに求められる水準の「サーベイ論文と構成章（論文）」の執筆を目指す。さらに、指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿を進める。

なお、ステップ１をクリアしていない場合は、博士演習ⅠAのシラバスの内容を実施する。

【到達目標】

博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースの３段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の輪読あるいは報告に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。

博士演習ⅡAでは、博士コースのステップ２の「サーベイ論文と構成章（論文）」で求められる、先行研究に関するサーベイ論文と、博士論文を構成する章（少なくとも１章）を完成させる。

なお、博士論文には、査読雑誌あるいはこれに準ずる雑誌に掲載された（掲載予定を含む）論文を１本以上含む必要がある。論文が共著の場合は、論文の主たる執筆者が博士論文の提出者であることを証明する文書の提出が必要である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

承認・再検討された「研究計画書」に基づき、先行研究に関するサーベイ論文と、博士論文を構成する章（少なくとも1章）の報告を行い、指導教員による批評および助言を受け、博士コースのステップ２のクリアに求められる水準の「サーベイ論文と構成章（論文）」の完成を目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「研究計画書」の再検討の結果報告	「研究計画書」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第2回	先行論文サーベイと、研究報告①	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第3回	先行論文サーベイと、研究報告②	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第4回	先行論文サーベイと、研究報告③	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第5回	博士論文を構成する章の報告①	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告
第6回	博士論文を構成する章の報告②	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告
第7回	博士論文を構成する章の報告③	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告
第8回	博士論文を構成する章の報告④	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告
第9回	論文執筆指導①	執筆したサーベイ論文と、博士論文を構成する論文に対する指導をうける
第10回	論文執筆指導②	執筆したサーベイ論文と、博士論文を構成する論文に対する指導をうける
第11回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第12回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿に向けての計画・準備を進める。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

事前に指定するテキストは特になし。適宜、論文等を指定する。

【参考書】

事前に指定するテキストは特になし。適宜、論文等を指定する。

【成績評価の方法と基準】

演習での報告や論文の進展をはじめ、日頃の研究姿勢、学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿の状況などを総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンを持参して、適宜、文献やWeb等を参照できるような状況を整えることを強く推奨する。

【その他の重要事項】

受講生の要望や進行状況によって適宜授業計画を修正することが想定される。

【Outline (in English)】

The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the department of business administration who are in the process of writing a dissertation. Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topic and research design, writing a proposal, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination.

MAN700F1－0004（経営学 / Management 700）

博士演習ⅡＢ

坂上　学

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースの３段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の輪読あるいは報告に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。

博士演習ⅡＢでは、博士コースのステップ2のクリアに求められる水準の「サーベイ論文と構成章（論文）」の執筆を目指す。さらに、指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿を進める。

なお、ステップ１をクリアしていない場合は、博士演習ＩＡのシラバスの内容を実施する。

【到達目標】

博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースの３段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の輪読あるいは報告に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。

博士演習ⅡＢでは、博士コースのステップ２の「サーベイ論文と構成章（論文）」で求められる、先行研究に関するサーベイ論文と、博士論文を構成する章（少なくとも1章）を完成させる。

なお、博士論文には、査読雑誌あるいはこれに準ずる雑誌に掲載された（掲載予定を含む）論文を１本以上含む必要がある。論文が共著の場合は、論文の主たる執筆者が博士論文の提出者であることを証明する文書の提出が必要である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

承認・再検討された「研究計画書」に基づき、先行研究に関するサーベイ論文と、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告を行い、指導教員による批評および助言を受け、博士コースのステップ２のクリアに求められる水準の「サーベイ論文と構成章（論文）」の完成を目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「研究計画書」の再検討の結果報告	「研究計画書」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第2回	先行論文サーベイと、研究報告①	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第3回	先行論文サーベイと、研究報告②	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第4回	先行論文サーベイと、研究報告③	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第5回	博士論文を構成する章の報告①	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告
第6回	博士論文を構成する章の報告②	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告
第7回	博士論文を構成する章の報告③	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告
第8回	博士論文を構成する章の報告④	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告
第9回	論文執筆指導①	執筆したサーベイ論文と、博士論文を構成する論文に対する指導をうける
第10回	論文執筆指導②	執筆したサーベイ論文と、博士論文を構成する論文に対する指導をうける
第11回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第12回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿に向けての計画・準備を進める。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

事前に指定するテキストは特になし。適宜、論文等を指定する。

【参考書】

事前に指定するテキストは特になし。適宜、論文等を指定する。

【成績評価の方法と基準】

演習での報告や論文の進展をはじめ、日頃の研究姿勢、学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿の状況などを総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンを持参して、適宜、文献やWeb等を参照できるような状況を整えることを強く推奨する。

【その他の重要事項】

受講生の要望や進行状況によって適宜授業計画を修正することが想定される。

【Outline (in English)】

The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the department of business administration who are in the process of writing a dissertation. Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topic and research design, writing a proposal, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination.

MAN700F1 – 0003（経営学 / Management 700）

博士演習ⅡA

西川　英彦

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースワークショップの三段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。

博士演習ⅡAでは、博士コースワークショップⅡ（ステップ２）のクリアに求められる水準の「先行研究のサーベイ論文と構成章（論文）」の執筆を目指す。さらに、指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿を進める。

ただし、ステップ１をクリアしていない場合は、博士演習ⅠAのシラバスの内容を実施する。

【到達目標】

博士演習の目的は、博士コースワークショップの3つのステップの各評価に当たって合格レベルに達する学識・技術の高度な専門性を習得することである。

特に，博士演習ⅡAでは、博士コースワークショップの「第２段階」の審査に合格するレベルの研究計画書をまとめることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

ステップ１で承認・再検討された「研究計画書」に基づき、先行研究に関するサーベイ論文と、博士論文を構成する章（少なくとも1章）に該当する研究の報告を行い、指導教員による批評および助言を受け、博士コースのステップ２のクリアに求められる水準を目指す。授業形式（対面，オンライン授業等）は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「研究計画書」の再検討の結果報告	「研究計画書」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第2回	先行論文サーベイと研究報告①	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第3回	先行論文サーベイと研究報告②	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第4回	先行論文サーベイと研究報告③	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第5回	博士論文を構成する章の報告①	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告
第6回	博士論文を構成する章の報告②	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告
第7回	博士論文を構成する章の報告③	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告
第8回	博士論文を構成する章の報告④	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告
第9回	論文執筆指導①	執筆したサーベイ論文と、博士論文を構成する論文に対する指導をうける
第10回	論文執筆指導②	執筆したサーベイ論文と、博士論文を構成する論文に対する指導をうける
第11回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第12回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指導教員の助言に基づき、博士論文の内容について学会で発表し、関連する論文を査読付き雑誌に投稿するための準備を行うことが期待されます。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じて指導教員が指定します。

【参考書】

特に指定しません。必要に応じて指導教員が紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、学会発表、査読付き雑誌への論文投稿などの研究成果や進捗状況、セミナーへの出席や論文発表などの研究活動、研究の進捗状況や態度によって決定されます。

【学生の意見等からの気づき】

『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【その他の重要事項】

指導教員の方針、受講生の要望、および進行状況等によって授業計画は修正されることがあります。

【Outline (in English)】

(Couse outline)

The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the Department of Business Administration who are in the process of writing a doctoral dissertation. Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topics and research design, writing proposals, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination. Students may be also required to make provision for presentation of papers at conferences and/or posting to peer-reviewed academic journals, if instructed.

However, unless you passed the first step or step one of Doctoral Workshop Ⅰ, same practices of dissertation seminar ⅠA will be carried out.

(Lerning Objectives)

The goal of the present seminar, ⅡA, is to satisfy the following two requirements for Doctoral Workshop Ⅱ (step two or the second step). The first is to write a review paper covering the fields you study for a doctoral dissertation. The second is to write at least one (empirical) study equivalent to one chapter of your doctoral dissertation.

A requirement for the doctoral dissertation of our graduate school is to include at least one published or to be published article passing peer-reviews, or a paper equivalent a to be published article in peer-reviewed journals.

In the case the article was co-written, a certificate indicating that you were the principal author should be submitted to the examination committee.

(Leaning activities outside of classroom)

You are expected to make presentations at academic conferences on the contents of your doctoral dissertation and prepare for submission of a related paper to peer-reviewed journals along with the advice of your instructor.

（Grading Criteria)

Grading will be decided based on research achievements and/or progresses such as conference presentations, paper submissions to peer-reviewed journals, and engagement in research activities including attendance, giving papers, and other research progresses and attitudes at the seminar.

MAN700F1－0004（経営学 / Management 700）

博士演習ⅡB

西川　英彦

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースワークショップの三段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。

博士演習ⅡBでは、博士コースワークショップⅡ（ステップ２）のクリアに求められる水準の「先行研究のサーベイ論文と構成章（論文）」の執筆を目指す。さらに、指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿を進める。

ただし、ステップ１をクリアしていない場合は、博士演習ⅠBのシラバスの内容を実施する。

【到達目標】

博士演習の目的は、博士コースワークショップの3つのステップの各評価に当たって合格レベルに達する学識・技術の高度な専門性を習得することである。

特に，博士演習ⅡBでは、博士コースワークショップの「第２段階」の審査に合格するレベルの研究計画書をまとめることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

ステップ１で承認・再検討された「研究計画書」に基づき、先行研究に関するサーベイ論文と、博士論文を構成する章（少なくとも1章）に該当する研究の報告を行い、指導教員による批評および助言を受け、博士コースのステップ２のクリアに求められる水準を目指す。授業形式（対面，オンライン授業等）は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「研究計画書」の再検討の結果報告	「研究計画書」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第2回	先行論文サーベイと研究報告①	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第3回	先行論文サーベイと研究報告②	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第4回	先行論文サーベイと研究報告③	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第5回	博士論文を構成する章の報告①	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告
第6回	博士論文を構成する章の報告②	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告
第7回	博士論文を構成する章の報告③	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告
第8回	博士論文を構成する章の報告④	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告
第9回	論文執筆指導①	執筆したサーベイ論文と、博士論文を構成する論文に対する指導をうける
第10回	論文執筆指導②	執筆したサーベイ論文と、博士論文を構成する論文に対する指導をうける
第11回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第12回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

You are expected to make presentations at academic conferences on the contents of your doctoral dissertation and submitting related papers to peer-reviewed journals along with the advice of your instructor.

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じて指導教員が指定します。

【参考書】

特に指定しません。必要に応じて指導教員が紹介しま

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、学会発表、査読付き雑誌への論文投稿などの研究成果や進捗状況、セミナーへの出席や論文発表などの研究活動、研究の進捗状況や態度によって決定されます。

【学生の意見等からの気づき】

『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【その他の重要事項】

指導教員の方針、受講生の要望、および進行状況等によって授業計画は修正されることもあります

【Outline (in English)】

(Couse outline)

The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the Department of Business Administration who are in the process of writing a doctoral dissertation. Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topics and research design, writing proposals, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination. Students may be also required to make provision for presentation of papers at conferences and/or posting to peer-reviewed academic journals, if instructed.

However, unless you passed the first step or step one of Doctoral Workshop Ⅰ, same practices of dissertation seminar ⅠA will be carried out.

(Lerning Objectives)

The goal of the present seminar, ⅡA, is to satisfy the following two requirements for Doctoral Workshop Ⅱ (step two or the second step). The first is to write a review paper covering the fields you study for a doctoral dissertation. The second is to write at least one (empirical) study equivalent to one chapter of your doctoral dissertation.

A requirement for the doctoral dissertation of our graduate school is to include at least one published or to be published article passing peer-reviews, or a paper equivalent a to be published article in peer-reviewed journals.

In the case the article was co-written, a certificate indicating that you were the principal author should be submitted to the examination committee.

(Leaning activities outside of classroom)

You are expected to make presentations at academic conferences on the contents of your doctoral dissertation and prepare for submission of a related paper to peer-reviewed journals along with the advice of your instructor.

（Grading Criteria)

Grading will be decided based on research achievements and/or progresses such as conference presentations, paper submissions to peer-reviewed journals, and engagement in research activities including attendance, giving papers, and other research progresses and attitudes at the seminar.

MAN700F1 – 0003（経営学 / Management 700）

博士演習ⅡA

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

【学生の意見等からの気づき】

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
（Course outline）
（Learning Objectives）
（Learning activities outside of classroom）
（Grading Criteria /Policy）

MAN700F1 − 0004（経営学 / Management 700）

博士演習ⅡB

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

【学生の意見等からの気づき】

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
（Course outline）
（Learning Objectives）
（Learning activities outside of classroom）
（Grading Criteria /Policy）

MAN700F1 – 0005（経営学 / Management 700）

博士演習ⅢＡ

田路　則子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースワークショップ三段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。

博士演習ⅢＡでは、博士コースワークショップⅢ（ステップ３）のクリアに求められる水準の「博士論文の全体構成と主要な部分（章）に該当する研究」論文の執筆を目指す。

なお、ステップ１をクリアしていない場合は、博士演習ＩＡのシラバスの内容を、ステップ２をクリアしていない場合は、博士演習ⅡＡのシラバスの内容を実施する。

【到達目標】

The goals of the doctoral seminar, ⅢA, are to write an article equivalent to the principal chapter of the doctoral dissertation and to complete the overall doctoral dissertation.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

「研究計画書」や「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体構成の提示と、博士論文を構成する主要な章となる論文などの報告を行い、指導教員による助言および批判をうけつつ、博士コースワークショップⅢ（ステップ３）のクリアに求められる水準の「全体構成の提示と主要章（論文）」の完成を目指す。授業形式（対面，オンライン授業等）は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第2回	全体構成の提示①	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第3回	全体構成の提示②	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第4回	全体構成の提示③	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第5回	主要章の報告①	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第6回	主要章の報告②	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第7回	主要章の報告③	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第8回	論文執筆指導①	執筆した主要章の指導をうける
第9回	論文執筆指導②	執筆した主要章の指導をうける
第10回	論文執筆指導③	執筆した主要章の指導をうける
第11回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第12回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

You are expected to make presentations at academic conferences on the contents of your doctoral dissertation and submitting related papers to peer-reviewed journals along with the advice of your instructor.

【テキスト（教科書）】

Instructions will be given by supervisors as necessary.

【参考書】

Instructions will be given by supervisors as necessary.

【成績評価の方法と基準】

Grading will be decided based on research achievements and/or progresses such as conference presentations, paper submissions to peer-reviewed journals, and engagement in research activities including attendance, giving papers, and other research progresses and attitudes at the seminar.

【学生の意見等からの気づき】

『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【学生が準備すべき機器他】

指導教員の方針、受講生の要望、および進行状況等によって授業計画は適宜修正されうる

【Outline (in English)】

The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the Department of Business Administration who are in the process of writing a doctoral dissertation. Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topics and research design, writing proposals, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination.

Students should also be required to post to peer-reviewed academic journals because a doctoral dissertation should include one or more peer-reviewed publications or papers to be published. You should submit a certificate showing that you are the principal author when the publication is co-authored.

However, unless you passed the first step or step one of Doctoral Workshop Ⅰ, same practice of Dissertation Seminar Ⅰ will be conducted. Similarly, same practice of Dissertation Seminar Ⅱ will be conducted in the case of failure in the second step or step two of the Doctoral Workshop Ⅱ as well.

MAN700F1 – 0006（経営学 / Management 700）

博士演習ⅢＢ

田路　則子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースワークショップ三段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。

博士演習ⅢＢでは、博士コースワークショップⅢ（ステップ３）のクリアに求められる水準の「博士論文の全体構成と主要な部分（章）に該当する研究」論文の執筆を目指す。

なお、ステップ１をクリアしていない場合は、博士演習ＩＢのシラバスの内容を、ステップ２をクリアしていない場合は、博士演習ⅡＢのシラバスの内容を実施する。

【到達目標】

The goals of the doctoral seminar, ⅢB, are to write an article equivalent to the principal chapter of the doctoral dissertation and to complete the overall doctoral dissertation.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

「研究計画書」や「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体構成の提示と、博士論文を構成する主要な章となる論文などの報告を行い、指導教員による助言および批判をうけつつ、博士コースワークショップⅢ（ステップ３）のクリアに求められる水準の「全体構成の提示と主要章（論文）」の完成を目指す。授業形式（対面，オンライン授業等）は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第2回	全体構成の提示①	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第3回	全体構成の提示②	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第4回	全体構成の提示③	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第5回	主要章の報告①	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第6回	主要章の報告②	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第7回	主要章の報告③	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第8回	論文執筆指導①	執筆した主要章の指導をうける
第9回	論文執筆指導②	執筆した主要章の指導をうける
第10回	論文執筆指導③	執筆した主要章の指導をうける
第11回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第12回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

You are expected to make presentations at academic conferences on the contents of your doctoral dissertation and submitting related papers to peer-reviewed journals along with the advice of your instructor.

【テキスト（教科書）】

Instructions will be given by supervisors as necessary.

【参考書】

Instructions will be given by supervisors as necessary.

【成績評価の方法と基準】

Grading will be decided based on research achievements and/or progresses such as conference presentations, paper submissions to peer-reviewed journals, and engagement in research activities including attendance, giving papers, and other research progresses and attitudes at the seminar.

【学生の意見等からの気づき】

『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【学生が準備すべき機器他】

指導教員の方針、受講生の要望、および進行状況等によって授業計画は適宜修正されうる

【Outline (in English)】

The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the Department of Business Administration who are in the process of writing a doctoral dissertation. Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topics and research design, writing proposals, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination.

Students should also be required to post to peer-reviewed academic journals because a doctoral dissertation should include one or more peer-reviewed publications or papers to be published. You should submit a certificate showing that you are the principal author when the publication is co-authored.

However, unless you passed the first step or step one of Doctoral Workshop Ⅰ, same practice of Dissertation Seminar Ⅰ will be conducted. Similarly, same practice of Dissertation Seminar Ⅱ will be conducted in the case of failure in the second step or step two of the Doctoral Workshop Ⅱ as well.

MAN700F1－0005（経営学 / Management 700）

博士演習ⅢＡ

新倉　貴士

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースワークショップ三段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。

博士演習ⅢＡでは、博士コースワークショップⅢ（ステップ３）のクリアに求められる水準の「博士論文の全体構成と主要な部分（章）に該当する研究」論文の執筆を目指す。

なお、ステップ１をクリアしていない場合は、博士演習ＩＡのシラバスの内容を、ステップ２をクリアしていない場合は、博士演習ⅡＡのシラバスの内容を実施する。

【到達目標】

The goals of the doctoral seminar, ⅢA, are to write an article equivalent to the principal chapter of the doctoral dissertation and to complete the overall doctoral dissertation.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

「研究計画書」や「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体構成の提示と、博士論文を構成する主要な章となる論文などの報告を行い、指導教員による助言および批判をうけつつ、博士コースワークショップⅢ（ステップ３）のクリアに求められる水準の「全体構成の提示と主要章（論文）」の完成を目指す。授業形式はオンライン授業として、必要に応じて対面で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第2回	全体構成の提示①	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第3回	全体構成の提示②	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第4回	全体構成の提示③	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第5回	主要章の報告①	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第6回	主要章の報告②	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第7回	主要章の報告③	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第8回	論文執筆指導①	執筆した主要章の指導をうける
第9回	論文執筆指導②	執筆した主要章の指導をうける
第10回	論文執筆指導③	執筆した主要章の指導をうける
第11回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第12回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

You are expected to make presentations at academic conferences on the contents of your doctoral dissertation and submitting related papers to peer-reviewed journals along with the advice of your instructor.

【テキスト（教科書）】

Instructions will be given by supervisors as necessary.

【参考書】

Instructions will be given by supervisors as necessary.

【成績評価の方法と基準】

Grading will be decided based on research achievements and/or progresses such as conference presentations, paper submissions to peer-reviewed journals, and engagement in research activities including attendance, giving papers, and other research progresses and attitudes at the seminar.

【学生の意見等からの気づき】

『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【学生が準備すべき機器他】

指導教員の方針、受講生の要望、および進行状況等によって授業計画は適宜修正されうる。

【Outline (in English)】

The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the Department of Business Administration who are in the process of writing a doctoral dissertation. Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topics and research design, writing proposals, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination.

Students should also be required to post to peer-reviewed academic journals because a doctoral dissertation should include one or more peer-reviewed publications or papers to be published. You should submit a certificate showing that you are the principal author when the publication is co-authored.

However, unless you passed the first step or step one of Doctoral Workshop Ⅰ, same practice of Dissertation Seminar Ⅰ will be conducted. Similarly, same practice of Dissertation Seminar Ⅱ will be conducted in the case of failure in the second step or step two of the Doctoral Workshop Ⅱ as well.

MAN700F1－0006（経営学 / Management 700）

博士演習ⅢＢ

新倉　貴士

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースワークショップ三段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。

博士演習ⅢＢでは、博士コースワークショップⅢ（ステップ３）のクリアに求められる水準の「博士論文の全体構成と主要な部分（章）に該当する研究」論文の執筆を目指す。

なお、ステップ１をクリアしていない場合は、博士演習ＩＢのシラバスの内容を、ステップ２をクリアしていない場合は、博士演習ⅡＢのシラバスの内容を実施する。

【到達目標】

The goals of the doctoral seminar, ⅢB, are to write an article equivalent to the principal chapter of the doctoral dissertation and to complete the overall doctoral dissertation.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

「研究計画書」や「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体構成の提示と、博士論文を構成する主要な章となる論文などの報告を行い、指導教員による助言および批判をうけつつ、博士コースワークショップⅢ（ステップ３）のクリアに求められる水準の「全体構成の提示と主要章（論文）」の完成を目指す。授業形式はオンライン授業として、必要に応じて対面で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第2回	全体構成の提示①	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第3回	全体構成の提示②	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第4回	全体構成の提示③	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第5回	主要章の報告①	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第6回	主要章の報告②	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第7回	主要章の報告③	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第8回	論文執筆指導①	執筆した主要章の指導をうける
第9回	論文執筆指導②	執筆した主要章の指導をうける
第10回	論文執筆指導③	執筆した主要章の指導をうける
第11回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第12回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

You are expected to make presentations at academic conferences on the contents of your doctoral dissertation and submitting related papers to peer-reviewed journals along with the advice of your instructor.

【テキスト（教科書）】

Instructions will be given by supervisors as necessary.

【参考書】

Instructions will be given by supervisors as necessary.

【成績評価の方法と基準】

Grading will be decided based on research achievements and/or progresses such as conference presentations, paper submissions to peer-reviewed journals, and engagement in research activities including attendance, giving papers, and other research progresses and attitudes at the seminar.

【学生の意見等からの気づき】

『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【学生が準備すべき機器他】

指導教員の方針、受講生の要望、および進行状況等によって授業計画は適宜修正されうる

【Outline (in English)】

The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the Department of Business Administration who are in the process of writing a doctoral dissertation. Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topics and research design, writing proposals, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination.

Students should also be required to post to peer-reviewed academic journals because a doctoral dissertation should include one or more peer-reviewed publications or papers to be published. You should submit a certificate showing that you are the principal author when the publication is co-authored.

However, unless you passed the first step or step one of Doctoral Workshop Ⅰ, same practice of Dissertation Seminar Ⅰ will be conducted. Similarly, same practice of Dissertation Seminar Ⅱ will be conducted in the case of failure in the second step or step two of the Doctoral Workshop Ⅱ as well.

MAN700F1－0005（経営学 / Management 700）

博士演習ⅢＡ

安藤　直紀

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースワークショップ三段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。
博士演習ⅢＡでは、博士コースワークショップⅢ（ステップ３）のクリアに求められる水準の「博士論文の全体構成と主要な部分（章）に該当する研究」論文の執筆を目指す。
なお、ステップ１をクリアしていない場合は、博士演習ＩＡのシラバスの内容を、ステップ２をクリアしていない場合は、博士演習ⅡＡのシラバスの内容を実施する。

【到達目標】
博士コースワークショップⅢ（ステップ３）のクリアに求められる「博士論文の全体構成と主要な部分（章）に該当する研究」論文を完成させる。加えて、博士論文全体の完成を目指す。
なお、博士論文には、査読雑誌あるいはこれに準ずる雑誌に掲載された（掲載予定を含む）論文を１本以上含む必要がある。論文が共著の場合は、論文の主たる執筆者が博士論文の提出者であることを証明する文書の提出が必要である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
「研究計画書」や「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体構成の提示と、博士論文を構成する主要な章となる論文などの報告を行い、指導教員による助言および批判をうけつつ、博士コースワークショップⅢ（ステップ３）のクリアに求められる水準の「全体構成の提示と主要章（論文）」の完成を目指す。授業形式（対面，オンライン授業等）は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第2回	全体構成の提示①	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第3回	全体構成の提示②	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第4回	全体構成の提示③	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第5回	主要章の報告①	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第6回	主要章の報告②	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第7回	主要章の報告③	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第8回	論文執筆指導①	執筆した主要章の指導をうける
第9回	論文執筆指導②	執筆した主要章の指導をうける
第10回	論文執筆指導③	執筆した主要章の指導をうける
第11回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第12回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿に向けての計画・準備を進める。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。

【参考書】
適宜、論文等を紹介する。

【成績評価の方法と基準】
演習での報告や論文の進展をはじめ、日頃の研究姿勢、学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿の状況などを総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【学生が準備すべき機器他】
指導教員の方針、受講生の要望、および進行状況等によって授業計画は適宜修正されうる

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
国際経営戦略
＜研究テーマ＞
多国籍企業の地理的多角化、多国籍企業の新興経済への参入、多国籍企業内の言語障壁
＜主要研究業績＞
① Discontinuity of required oral and literacy skills across job roles in achieving high work performance: An fsQCA approach. 2023. International Business Review, 32(4): 102072. (with Suzuki M. and Nishikawa, H.).
② Human capital, cultural distance and staffing localization. 2021. Multinational Business Review, 29(3): 420-439.
③ Seeing the tree and the forest: Japanese auto firm multinational dispersion, cultural distance, and foreign manufacturing subsidiary ownership levels. 2021. Asian Business & Management, 20(2): 163-187. (with Powell, K.S. and Lim, E.)

【Outline (in English)】
(Course outline)
The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the Department of Business Administration who are in the process of writing a doctoral dissertation. Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topics and research design, writing proposals, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination.
Students should also be required to post to peer-reviewed academic journals because a doctoral dissertation should include one or more peer-reviewed publications or papers to be published. Students should submit a certificate showing that they are the principal author when the publication is co-authored.
However, unless they passed the first step or step one of Doctoral Workshop I, the same practice of Dissertation Seminar I will be conducted. Similarly, the same practice of Dissertation Seminar II will be conducted in the case of failure in the second step or step two of the Doctoral Workshop II as well.
(Learning objectives)
The goals of the doctoral seminar, III A, are to write an article equivalent to the principal chapter of the doctoral dissertation and to complete the overall doctoral dissertation.

(Learning activities outside of classroom)
Students are expected to make presentations at academic conferences on the contents of their doctoral dissertation and submit related papers to peer-reviewed journals following the advice of their instructor.
(Grading criteria/policies)
Grading will be decided on the basis of research achievements and/or progress such as conference presentations, paper submissions to peer-reviewed journals, and engagement in research activities including attendance, giving papers, and other research progress and attitudes at the seminar.

MAN700F1－0006（経営学 / Management 700）

博士演習ⅢＢ

安藤　直紀

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースワークショップ三段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。
博士演習ⅢＢでは、博士コースワークショップⅢ（ステップ３）のクリアに求められる水準の「博士論文の全体構成と主要な部分（章）に該当する研究」論文の執筆を目指す。
なお、ステップ１をクリアしていない場合は、博士演習ＩＢのシラバスの内容を、ステップ２をクリアしていない場合は、博士演習ⅡＢのシラバスの内容を実施する。

【到達目標】
博士コースワークショップⅢ（ステップ３）のクリアに求められる「博士論文の全体構成と主要な部分（章）に該当する研究」論文を完成させる。加えて、博士論文全体の完成を目指す。
なお、博士論文には、査読雑誌あるいはこれに準ずる雑誌に掲載された（掲載予定を含む）論文を１本以上含む必要がある。論文が共著の場合は、論文の主たる執筆者が博士論文の提出者であることを証明する文書の提出が必要である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
「研究計画書」や「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体構成の提示と、博士論文を構成する主要な章となる論文などの報告を行い、指導教員による助言および批判をうけつつ、博士コースワークショップⅢ（ステップ３）のクリアに求められる水準の「全体構成の提示と主要章（論文）」の完成を目指す。授業形式（対面，オンライン授業等）は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第2回	全体構成の提示①	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第3回	全体構成の提示②	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第4回	全体構成の提示③	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第5回	主要章の報告①	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第6回	主要章の報告②	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第7回	主要章の報告③	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第8回	論文執筆指導①	執筆した主要章の指導をうける
第9回	論文執筆指導②	執筆した主要章の指導をうける
第10回	論文執筆指導③	執筆した主要章の指導をうける
第11回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第12回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿に向けての計画・準備を進める。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。

【参考書】
適宜、論文等を紹介する。

【成績評価の方法と基準】
演習での報告や論文の進展をはじめ、日頃の研究姿勢、学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿の状況などを総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【学生が準備すべき機器他】
指導教員の方針、受講生の要望、および進行状況等によって授業計画は適宜修正されうる

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
国際経営戦略
＜研究テーマ＞
多国籍企業の地理的多角化、多国籍企業の新興経済への参入、多国籍企業内の言語障壁
＜主要研究業績＞
① Discontinuity of required oral and literacy skills across job roles in achieving high work performance: An fsQCA approach. 2023. International Business Review, 32(4): 102072. (with Suzuki M. and Nishikawa, H.)
② Human capital, cultural distance and staffing localization. 2021. Multinational Business Review, 29(3): 420-439.
③ Seeing the tree and the forest: Japanese auto firm multinational dispersion, cultural distance, and foreign manufacturing subsidiary ownership levels. 2021. Asian Business & Management, 20(2): 163-187. (with Powell, K.S. and Lim, E.)

【Outline (in English)】
(Course outline)
The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the Department of Business Administration who are in the process of writing a doctoral dissertation. Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topics and research design, writing proposals, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination.
Students should also be required to post to peer-reviewed academic journals because a doctoral dissertation should include one or more peer-reviewed publications or papers to be published. Students should submit a certificate showing that they are the principal author when the publication is co-authored.
However, unless they passed the first step or step one of Doctoral Workshop I, the same practice of Dissertation Seminar I will be conducted. Similarly, the same practice of Dissertation Seminar II will be conducted in the case of failure in the second step or step two of the Doctoral Workshop II as well.
(Learning objectives)
The goals of the doctoral seminar, III A, are to write an article equivalent to the principal chapter of the doctoral dissertation and to complete the overall doctoral dissertation.

(Learning activities outside of classroom)
Students are expected to make presentations at academic conferences on the contents of their doctoral dissertation and submit related papers to peer-reviewed journals following the advice of their instructor.
(Grading criteria/policies)
Grading will be decided on the basis of research achievements and/or progress such as conference presentations, paper submissions to peer-reviewed journals, and engagement in research activities including attendance, giving papers, and other research progress and attitudes at the seminar.

MAN700F1 – 0005（経営学 / Management 700）

博士演習ⅢＡ

西川　英彦

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースワークショップ三段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。

博士演習ⅢＡでは、博士コースワークショップⅢ（ステップ３）のクリアに求められる水準の「博士論文の全体構成と主要な部分（章）に該当する研究」論文の執筆を目指す。

なお、ステップ１をクリアしていない場合は、博士演習ＩＡのシラバスの内容を、ステップ２をクリアしていない場合は、博士演習ⅡＡのシラバスの内容を実施する。

【到達目標】

博士演習の目的は、博士コースワークショップの3つのステップの各評価に当たって合格レベルに達する学識・技術の高度な専門性を習得することである。
特に，博士演習ⅢＡでは、博士コースワークショップの「第３段階」の審査に合格するレベルの研究計画書をまとめることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

「研究計画書」や「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体構成の提示と、博士論文を構成する主要な章となる論文などの報告を行い、指導教員による助言および批判をうけつつ、博士コースワークショップⅢ（ステップ３）のクリアに求められる水準の「全体構成の提示と主要章（論文）」の完成を目指す。授業形式（対面，オンライン授業等）は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第2回	全体構成の提示①	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第3回	全体構成の提示②	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第4回	全体構成の提示③	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第5回	主要章の報告①	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第6回	主要章の報告②	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第7回	主要章の報告③	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第8回	論文執筆指導①	執筆した主要章の指導をうける
第9回	論文執筆指導②	執筆した主要章の指導をうける
第10回	論文執筆指導③	執筆した主要章の指導をうける
第11回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第12回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指導教員の助言に基づき、博士論文の内容について学会で発表し、関連する論文を査読付き雑誌に投稿するための準備を行うことが期待されます。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じて指導教員が指定します。

【参考書】

特に指定しません。必要に応じて指導教員が紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、学会発表、査読付き雑誌への論文投稿などの研究成果や進捗状況、セミナーへの出席や論文発表などの研究活動、研究の進捗状況や態度によって決定されます。

【学生の意見等からの気づき】

『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【学生が準備すべき機器他】

指導教員の方針、受講生の要望、および進行状況等によって授業計画は修正されることもあります

【Outline (in English)】

(Couse outline)

The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the Department of Business Administration who are in the process of writing a doctoral dissertation. Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topics and research design, writing proposals, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination. Students may be also required to make provision for presentation of papers at conferences and/or posting to peer-reviewed academic journals, if instructed.

However, unless you passed the first step or step one of Doctoral Workshop Ⅰ, same practice of Dissertation Seminar Ⅰ will be conducted. Similarly, same practice of Dissertation Seminar Ⅱ will be conducted in the case of failure in the second step or step two of the Doctoral Workshop Ⅱ as well.

(Lerning Objectives)

The goal of the present seminar, ⅢA, is to satisfy the following two requirements for Doctoral Workshop(step three or the third step). The first is to write a review paper covering the fields you study for a doctoral dissertation. The second is to write at least one (empirical) study equivalent to one chapter of your doctoral dissertation.

A requirement for the doctoral dissertation of our graduate school is to include at least one published or to be published article passing peer-reviews, or a paper equivalent a to be published article in peer-reviewed journals.

In the case the article was co-written, a certificate indicating that you were the principal author should be submitted to the examination committee.

(Leaning activities outside of classroom)

You are expected to make presentations at academic conferences on the contents of your doctoral dissertation and prepare for submission of a related paper to peer-reviewed journals along with the advice of your instructor.

(Grading Criteria)

Grading will be decided based on research achievements and/or progresses such as conference presentations, paper submissions to peer-reviewed journals, and engagement in research activities including attendance, giving papers, and other research progresses and attitudes at the seminar.

MAN700F1－0006（経営学 / Management 700）

博士演習ⅢＢ

西川　英彦

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースワークショップ三段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。

博士演習ⅢＢでは、博士コースワークショップⅢ（ステップ３）のクリアに求められる水準の「博士論文の全体構成と主要な部分（章）に該当する研究」論文の執筆を目指す。

なお、ステップ１をクリアしていない場合は、博士演習ＩＢのシラバスの内容を、ステップ２をクリアしていない場合は、博士演習ⅡＢのシラバスの内容を実施する。

【到達目標】

The goals of the doctoral seminar, ⅢB, are to write an article equivalent to the principal chapter of the doctoral dissertation and to complete the overall doctoral dissertation.

博士演習の目的は、博士コースワークショップの3つのステップの各評価に当たって合格レベルに達する学識・技術の高度な専門性を習得することである。

特に，博士演習ⅢＢでは、博士コースワークショップの「第３段階」の審査に合格するレベルの研究計画書をまとめることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

「研究計画書」や「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体構成の提示と、博士論文を構成する主要な章となる論文などの報告を行い、指導教員による助言および批判をうけつつ、博士コースワークショップⅢ（ステップ３）のクリアに求められる水準の「全体構成の提示と主要章（論文）」の完成を目指す。授業形式（対面，オンライン授業等）は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第2回	全体構成の提示①	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第3回	全体構成の提示②	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第4回	全体構成の提示③	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第5回	主要章の報告①	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第6回	主要章の報告②	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第7回	主要章の報告③	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第8回	論文執筆指導①	執筆した主要章の指導をうける
第9回	論文執筆指導②	執筆した主要章の指導をうける
第10回	論文執筆指導③	執筆した主要章の指導をうける
第11回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第12回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指導教員の助言に基づき、博士論文の内容について学会で発表し、関連する論文を査読付き雑誌に投稿するための準備を行うことが期待されます。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じて指導教員が指定します。

【参考書】

特に指定しません。必要に応じて指導教員が紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、学会発表、査読付き雑誌への論文投稿などの研究成果や進捗状況、セミナーへの出席や論文発表などの研究活動、研究の進捗状況や態度によって決定されます。

【学生の意見等からの気づき】

『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【学生が準備すべき機器他】

指導教員の方針、受講生の要望、および進行状況等によって授業計画は適宜修正されうる

【Outline (in English)】

(Couse outline)

The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the Department of Business Administration who are in the process of writing a doctoral dissertation. Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topics and research design, writing proposals, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination. Students may be also required to make provision for presentation of papers at conferences and/or posting to peer-reviewed academic journals, if instructed.

However, unless you passed the first step or step one of Doctoral Workshop Ⅰ, same practice of Dissertation Seminar Ⅰ will be conducted. Similarly, same practice of Dissertation Seminar Ⅱ will be conducted in the case of failure in the second step or step two of the Doctoral Workshop Ⅱ as well.

(Lerning Objectives)

The purpose of the series of doctoral dissertation seminars(Ⅰ, Ⅱ, and Ⅲ) is to acquire advanced expertise on academic knowledge and skills to reach the acceptable level for each examination of the three steps of the Doctoral Workshop.

The goal of the present seminar, ⅢB, is to wrap up a research proposal reaching the level to pass the examination of "the third step or step three" of Doctoral Workshop.

The goal of the present seminar, ⅢB, is to satisfy the following two requirements for Doctoral Workshop Ⅱ (step two or the second step). The first is to write a review paper covering the fields you study for a doctoral dissertation. The second is to write at least one (empirical) study equivalent to one chapter of your doctoral dissertation.

A requirement for the doctoral dissertation of our graduate school is to include at least one published or to be published article passing peer-reviews, or a paper equivalent a to be published article in peer-reviewed journals.

In the case the article was co-written, a certificate indicating that you were the principal author should be submitted to the examination committee.

(Leaning activities outside of classroom)

You are expected to make presentations at academic conferences on the contents of your doctoral dissertation and prepare for submission of a related paper to peer-reviewed journals along with the advice of your instructor.

（Grading Criteria)
Grading will be decided based on research achievements and/or progresses such as conference presentations, paper submissions to peer-reviewed journals, and engagement in research activities including attendance, giving papers, and other research progresses and attitudes at the seminar.

MAN700F1－0005（経営学 / Management 700）

博士演習ⅢＡ

小川　憲彦

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースワークショップ三段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。

博士演習ⅢＡでは、博士コースワークショップⅢ（ステップ３）のクリアに求められる水準の「博士論文の全体構成と主要な部分（章）に該当する研究」論文の執筆を目指す。

なお、ステップ１をクリアしていない場合は、博士演習ＩＡのシラバスの内容を、ステップ２をクリアしていない場合は、博士演習ⅡＡのシラバスの内容を実施する。

【到達目標】

The goals of the doctoral seminar, ⅢA, are to write an article equivalent to the principal chapter of the doctoral dissertation and to complete the overall doctoral dissertation.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

「研究計画書」や「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体構成の提示と、博士論文を構成する主要な章となる論文などの報告を行い、指導教員による助言および批判をうけつつ、博士コースワークショップⅢ（ステップ３）のクリアに求められる水準の「全体構成の提示と主要章（論文）」の完成を目指す。授業形式（対面，オンライン授業等）は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第2回	全体構成の提示①	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第3回	全体構成の提示②	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第4回	全体構成の提示③	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第5回	主要章の報告①	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第6回	主要章の報告②	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第7回	主要章の報告③	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第8回	論文執筆指導①	執筆した主要章の指導をうける
第9回	論文執筆指導②	執筆した主要章の指導をうける
第10回	論文執筆指導③	執筆した主要章の指導をうける
第11回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第12回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

You are expected to make presentations at academic conferences on the contents of your doctoral dissertation and submitting related papers to peer-reviewed journals along with the advice of your instructor.

【テキスト（教科書）】

Instructions will be given by supervisors as necessary.

【参考書】

Instructions will be given by supervisors as necessary.

【成績評価の方法と基準】

Grading will be decided based on research achievements and/or progresses such as conference presentations, paper submissions to peer-reviewed journals, and engagement in research activities including attendance, giving papers, and other research progresses and attitudes at the seminar.

【学生の意見等からの気づき】

『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【学生が準備すべき機器他】

指導教員の方針、受講生の要望、および進行状況等によって授業計画は適宜修正されうる

【Outline (in English)】

The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the Department of Business Administration who are in the process of writing a doctoral dissertation. Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topics and research design, writing proposals, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination.

Students should also be required to post to peer-reviewed academic journals because a doctoral dissertation should include one or more peer-reviewed publications or papers to be published. You should submit a certificate showing that you are the principal author when the publication is co-authored.

However, unless you passed the first step or step one of Doctoral Workshop Ⅰ, same practice of Dissertation Seminar Ⅰ will be conducted. Similarly, same practice of Dissertation Seminar Ⅱ will be conducted in the case of failure in the second step or step two of the Doctoral Workshop Ⅱ as well.

MAN700F1－0006（経営学 / Management 700）

博士演習ⅢＢ

小川　憲彦

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースワークショップ三段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。

博士演習ⅢＢでは、博士コースワークショップⅢ（ステップ３）のクリアに求められる水準の「博士論文の全体構成と主要な部分（章）に該当する研究」論文の執筆を目指す。

なお、ステップ１をクリアしていない場合は、博士演習ＩＢのシラバスの内容を、ステップ２をクリアしていない場合は、博士演習ⅡＢのシラバスの内容を実施する。

【到達目標】

The goals of the doctoral seminar, ⅢB, are to write an article equivalent to the principal chapter of the doctoral dissertation and to complete the overall doctoral dissertation.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

「研究計画書」や「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体構成の提示と、博士論文を構成する主要な章となる論文などの報告を行い、指導教員による助言および批判をうけつつ、博士コースワークショップⅢ（ステップ３）のクリアに求められる水準の「全体構成の提示と主要章（論文）」の完成を目指す。授業形式（対面，オンライン授業等）は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第2回	全体構成の提示①	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第3回	全体構成の提示②	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第4回	全体構成の提示③	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第5回	主要章の報告①	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第6回	主要章の報告②	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第7回	主要章の報告③	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第8回	論文執筆指導①	執筆した主要章の指導をうける
第9回	論文執筆指導②	執筆した主要章の指導をうける
第10回	論文執筆指導③	執筆した主要章の指導をうける
第11回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第12回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

You are expected to make presentations at academic conferences on the contents of your doctoral dissertation and submitting related papers to peer-reviewed journals along with the advice of your instructor.

【テキスト（教科書）】

Instructions will be given by supervisors as necessary.

【参考書】

Instructions will be given by supervisors as necessary.

【成績評価の方法と基準】

Grading will be decided based on research achievements and/or progresses such as conference presentations, paper submissions to peer-reviewed journals, and engagement in research activities including attendance, giving papers, and other research progresses and attitudes at the seminar.

【学生の意見等からの気づき】

『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【学生が準備すべき機器他】

指導教員の方針、受講生の要望、および進行状況等によって授業計画は適宜修正されうる

【Outline (in English)】

The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the Department of Business Administration who are in the process of writing a doctoral dissertation. Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topics and research design, writing proposals, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination.

Students should also be required to post to peer-reviewed academic journals because a doctoral dissertation should include one or more peer-reviewed publications or papers to be published. You should submit a certificate showing that you are the principal author when the publication is co-authored.

However, unless you passed the first step or step one of Doctoral Workshop Ⅰ, same practice of Dissertation Seminar Ⅰ will be conducted. Similarly, same practice of Dissertation Seminar Ⅱ will be conducted in the case of failure in the second step or step two of the Doctoral Workshop Ⅱ as well.

MAN700F1－0005（経営学 / Management 700）

博士演習ⅢＡ

坂上　学

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースでの３段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の輪読あるいは報告に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。

博士演習ⅢＡでは、博士コースのステップ３のクリアに求められる水準の「全体構成の提示と主要章（論文）」の執筆を目指す。

なお、ステップ１をクリアしていない場合は、博士演習ＩＡのシラバスの内容を、ステップ２をクリアしていない場合は、博士演習ⅡＡのシラバスの内容を実施する。

【到達目標】

博士コースのステップ３のクリアに「全体構成の提示と主要章（論文）」で求められる、博士論文全体構成と、博士論文を構成する主要章となる論文を完成させる。

なお、博士論文には、査読雑誌あるいはこれに準ずる雑誌に掲載された（掲載予定を含む）論文を１本以上含む必要がある。論文が共著の場合は、論文の主たる執筆者が博士論文の提出者であることを証明する文書の提出が必要である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

「研究計画書」や「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体構成の提示と、博士論文を構成する主要な章となる論文などの報告を行い、指導教員による助言および批判をうけつつ、博士コースのステップ３のクリアに求められる水準の「全体構成の提示と主要章（論文）」の完成を目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第2回	全体構成の提示①	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第3回	全体構成の提示②	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第4回	全体構成の提示③	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第5回	主要章の報告①	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第6回	主要章の報告②	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第7回	主要章の報告③	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第8回	論文執筆指導①	執筆した主要章の指導をうける
第9回	論文執筆指導②	執筆した主要章の指導をうける
第10回	論文執筆指導③	執筆した主要章の指導をうける
第11回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第12回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿に向けての計画・準備を進める。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

演習での報告や論文の進展をはじめ、日頃の研究姿勢、学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿の状況などを総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【学生が準備すべき機器他】

受講生の要望や進行状況によって適宜授業計画を修正することが想定される。

【Outline (in English)】

The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the department of business administration who are in the process of writing a dissertation. Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topic and research design, writing a proposal, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination.

MAN700F1 – 0006（経営学 / Management 700）

博士演習ⅢＢ

坂上　学

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースでの３段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の輪読あるいは報告に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。
博士演習ⅢＢでは、博士コースのステップ３のクリアに求められる水準の「全体構成の提示と主要章（論文）」の執筆を目指す。
なお、ステップ１をクリアしていない場合は、博士演習ＩＡのシラバスの内容を、ステップ２をクリアしていない場合は、博士演習ⅡＡのシラバスの内容を実施する。

【到達目標】
博士コースのステップ３のクリアに「全体構成の提示と主要章（論文）」で求められる、博士論文全体構成と、博士論文を構成する主要章となる論文を完成させる。
なお、博士論文には、査読雑誌あるいはこれに準ずる雑誌に掲載された（掲載予定を含む）論文を１本以上含む必要がある。論文が共著の場合は、論文の主たる執筆者が博士論文の提出者であることを証明する文書の提出が必要である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
「研究計画書」や「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体構成の提示と、博士論文を構成する主要な章となる論文などの報告を行い、指導教員による助言および批判をうけつつ、博士コースのステップ３のクリアに求められる水準の「全体構成の提示と主要章（論文）」の完成を目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第2回	全体構成の提示①	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第3回	全体構成の提示②	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第4回	全体構成の提示③	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第5回	主要章の報告①	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第6回	主要章の報告②	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第7回	主要章の報告③	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第8回	論文執筆指導①	執筆した主要章の指導をうける
第9回	論文執筆指導②	執筆した主要章の指導をうける
第10回	論文執筆指導③	執筆した主要章の指導をうける
第11回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第12回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿に向けての計画・準備を進める。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
演習での報告や論文の進展をはじめ、日頃の研究姿勢、学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿の状況などを総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【学生が準備すべき機器他】
受講生の要望や進行状況によって適宜授業計画を修正することが想定される。

【Outline (in English)】
The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the department of business administration who are in the process of writing a dissertation. Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topic and research design, writing a proposal, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination.

MAN700F1－0005（経営学 / Management 700）

博士演習ⅢＡ

北田　皓嗣

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために博士コースワークショップ三段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員からの助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。

博士演習ⅢＡでは、博士コースワークショップⅢ（ステップ３）のクリアに求められる水準の「博士論文の全体構成と主要な部分（章）に該当する研究」論文の執筆を目指す。

なお、ステップ１をクリアしていない場合は、博士演習ＩＡのシラバスの内容を、ステップ２をクリアしていない場合は、博士演習ⅡＡのシラバスの内容を実施する。

【到達目標】

The goals of the doctoral seminar, ⅢA, are to write an article equivalent to the principal chapter of the doctoral dissertation and to complete the overall doctoral dissertation.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

「研究計画書」や「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体構成の提示と、博士論文を構成する主要な章となる論文などの報告を行い、指導教員による助言および批判をうけつつ、博士コースワークショップⅢ（ステップ３）のクリアに求められる水準の「全体構成の提示と主要章（論文）」の完成を目指す。授業形式（対面，オンライン授業等）は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第2回	全体構成の提示①	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第3回	全体構成の提示②	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第4回	全体構成の提示③	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第5回	主要章の報告①	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第6回	主要章の報告②	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第7回	主要章の報告③	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第8回	論文執筆指導①	執筆した主要章の指導をうける
第9回	論文執筆指導②	執筆した主要章の指導をうける
第10回	論文執筆指導③	執筆した主要章の指導をうける
第11回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第12回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

You are expected to make presentations at academic conferences on the contents of your doctoral dissertation and submitting related papers to peer-reviewed journals along with the advice of your instructor.

【テキスト（教科書）】

Instructions will be given by supervisors as necessary.

【参考書】

Instructions will be given by supervisors as necessary.

【成績評価の方法と基準】

Grading will be decided based on research achievements and/or progresses such as conference presentations, paper submissions to peer-reviewed journals, and engagement in research activities including attendance, giving papers, and other research progresses and attitudes at the seminar.

【学生の意見等からの気づき】

『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【学生が準備すべき機器他】

指導教員の方針、受講生の要望、および進行状況等によって授業計画は適宜修正されうる

【Outline (in English)】

The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the Department of Business Administration who are in the process of writing a doctoral dissertation. Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topics and research design, writing proposals, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination.

Students should also be required to post to peer-reviewed academic journals because a doctoral dissertation should include one or more peer-reviewed publications or papers to be published. You should submit a certificate showing that you are the principal author when the publication is co-authored.

However, unless you passed the first step or step one of Doctoral Workshop Ⅰ, same practice of Dissertation Seminar Ⅰ will be conducted. Similarly, same practice of Dissertation Seminar Ⅱ will be conducted in the case of failure in the second step or step two of the Doctoral Workshop Ⅱ as well.

MAN700F1－0006（経営学 / Management 700）

博士演習ⅢＢ

北田　皓嗣

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースワークショップ三段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。
博士演習ⅢＢでは、博士コースワークショップⅢ（ステップ３）のクリアに求められる水準の「博士論文の全体構成と主要な部分（章）に該当する研究」論文の執筆を目指す。
なお、ステップ１をクリアしていない場合は、博士演習ＩＢのシラバスの内容を、ステップ２をクリアしていない場合は、博士演習ⅡＢのシラバスの内容を実施する。

【到達目標】
The goals of the doctoral seminar, ⅢB, are to write an article equivalent to the principal chapter of the doctoral dissertation and to complete the overall doctoral dissertation.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
「研究計画書」や「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体構成の提示と、博士論文を構成する主要な章となる論文などの報告を行い、指導教員による助言および批判をうけつつ、博士コースワークショップⅢ（ステップ３）のクリアに求められる水準の「全体構成の提示と主要章（論文）」の完成を目指す。授業形式（対面，オンライン授業等）は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第2回	全体構成の提示①	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第3回	全体構成の提示②	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第4回	全体構成の提示③	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第5回	主要章の報告①	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第6回	主要章の報告②	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第7回	主要章の報告③	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第8回	論文執筆指導①	執筆した主要章の指導をうける
第9回	論文執筆指導②	執筆した主要章の指導をうける
第10回	論文執筆指導③	執筆した主要章の指導をうける
第11回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第12回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
You are expected to make presentations at academic conferences on the contents of your doctoral dissertation and submitting related papers to peer-reviewed journals along with the advice of your instructor.

【テキスト（教科書）】
Instructions will be given by supervisors as necessary.

【参考書】
Instructions will be given by supervisors as necessary.

【成績評価の方法と基準】
Grading will be decided based on research achievements and/or progresses such as conference presentations, paper submissions to peer-reviewed journals, and engagement in research activities including attendance, giving papers, and other research progresses and attitudes at the seminar.

【学生の意見等からの気づき】
『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【学生が準備すべき機器他】
指導教員の方針、受講生の要望、および進行状況等によって授業計画は適宜修正されうる

【Outline (in English)】
The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the Department of Business Administration who are in the process of writing a doctoral dissertation. Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topics and research design, writing proposals, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination.
Students should also be required to post to peer-reviewed academic journals because a doctoral dissertation should include one or more peer-reviewed publications or papers to be published. You should submit a certificate showing that you are the principal author when the publication is co-authored.

However, unless you passed the first step or step one of Doctoral Workshop Ⅰ, same practice of Dissertation Seminar Ⅰ will be conducted. Similarly, same practice of Dissertation Seminar Ⅱ will be conducted in the case of failure in the second step or step two of the Doctoral Workshop Ⅱ as well.

MAN700F1 – 0005（経営学 / Management 700）

博士演習ⅢA

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

【学生の意見等からの気づき】

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
（Course outline）
（Learning Objectives）
（Learning activities outside of classroom）
（Grading Criteria /Policy）

MAN700F1－0006（経営学 / Management 700）

博士演習ⅢＢ

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

【学生の意見等からの気づき】

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
（Course outline）
（Learning Objectives）
（Learning activities outside of classroom）
（Grading Criteria /Policy）

MAN700F1 − 0005（経営学 / Management 700）

博士演習ⅢA

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

【学生の意見等からの気づき】

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
（Course outline）
（Learning Objectives）
（Learning activities outside of classroom）
（Grading Criteria /Policy）

MAN700F1－0006（経営学 / Management 700）

博士演習ⅢＢ

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

【学生の意見等からの気づき】

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
（Course outline）
（Learning Objectives）
（Learning activities outside of classroom）
（Grading Criteria /Policy）

MAN700F1－0007（経営学 / Management 700）

博士コースワークショップＩＡ

経営学専攻　専任教員

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士コースワークショップは、経営学専攻における博士論文執筆中の学生を対象としており、中間報告会における報告が主たる内容である。中間報告会は、博士論文執筆が計画的かつ着実に進むように設定された３段階のステップ制に基づいて行われる。中間報告会は、複数の教員による質疑及び助言を受ける良い機会であると同時に、博士課程大院生が互いの研究の技法や情報を共有することで、相互に研鑽が積める場でもある。

博士コースワークショップＩＡでは、中間報告会での報告内容が、ステップ１のクリアに求められる「研究計画書」の水準に達するように、指導教員および副指導教員による指導が行われる。

【到達目標】

この授業の目標は、学位論文審査の第一段階あるいはステップ１に合格することである。そのためには、提出された研究計画書に基づき、（1）対象分野に関する先行研究の批判的文献調査に基づく課題と研究課題、（2）採用する研究方法、（3）論文の構成、（4）執筆スケジュールなどを含めて発表することが要求されます。

優れた論文執筆のためには、担当教員や副指導教員、他学部の教員や院生、参加者からの質疑応答によるアドバイスやコメントから多くを学ぶことができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

博士後期課程の学生は、クリアすべきステップに向けて、論文もしくはそれに準ずる文書を作成し、指導教員および副指導教員より随時指導を受ける。そして、博士論文完成に向けた中間的な成果を中間報告会において報告し、複数の教員による批判や助言をもらい、報告会参加者との質疑応答を経て、ステップ判定を受けることになる。

なお、中間報告会には、報告しない博士課程大学院生も全員参加すること。修士課程の大学院生や研究生も研究科長の許可を得て参加することができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第１回	研究テーマと計画の報告	研究テーマや計画、現状の研究成果を副指導教員に報告する
第２回	主要先行論文サーベイの報告	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイを副指導教員に報告する
第３回	研究方法の報告	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法を副指導教員に報告する
第４回	博士論文の構成の報告	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法に基づく、博士論文構成を副指導教員に報告する
第５回	プロポーザル論文執筆指導	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法、博士論文構成に基づいたプロポーザル論文執筆の指導を副指導教員からうける
第６回	博士コース中間報告会①	博士コース中間報告会に参加し、「研究計画書」に基づいて報告する。原則、７月第１土曜日に開催予定である。
第７回	博士コース中間報告会②	博士コース中間報告会に参加し、「研究計画書」に基づいて報告する。原則、７月第１土曜日に開催予定である。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究を計画的かつ着実に進めてください。コース・ワークショップでの発表に必要な準備を行うとともに、学会発表や査読付き雑誌への投稿の準備も大事です。ワークショップでの発表後、アドバイス、批評、その他のフィードバック、自分の考えなどを整理しておくこと。それをもとに課題を整理し、学位論文に向けた継続的な研鑽を積むことが必要とされます。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

特に指定しません。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、提出された論文、発表、質疑応答等を考慮して、主指導教員、副指導教員、研究科長が評価し、経営学研究科教授会で審議して決定します。

A-(Aマイナス)以上の単位を取得した合格者は、次のクラスの論文ワークショップⅡA、ⅡBを受講することができます。なお、論文ワークショップＩＡの合格者は、論文ワークショップＩＢを受講する必要はありません。

【学生の意見等からの気づき】

『博士演習』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【その他の重要事項】

受講生の要望や進行状況によって適宜授業計画を修正することが想定される。

In addition, all doctoral students in the Graduate School of Business Administration who will not be reporting on the mid-year interim debriefing should also participate in the workshop. The master's course graduate students and research students may participate the workshop with the permission of the Dean of the Graduate School.

【Outline (in English)】

(Course outline)

The series of Dissertation Workshop classes (Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ) aim at students who have been writing a doctoral dissertation. Each workshop requires that students make a mandatory presentation at the mid-year interim debriefing at least once during an academic year. The debriefing is carried out in accordance with the three-step-system encouraging completion of the doctoral dissertation steadily and in a planned way.

The debriefing session will give you a good opportunity to get comments, advice, questions, and other feedbacks from various professors, as well as a place to improve yourself via friendly competition with other students and by sharing useful information including research methods and different points of views.

Research proposals are examined and assessed by supervisors and judged whether required step is cleared or not.

(Learning objectives)

The goal of this class is to pass the first step or step one of the dissertation examination. In order to do that, you are required to make a presentation based on a submitted research proposal including (1) issues and research questions based on the critical literature review of previous studies on your fields of subjects, (2) methods you will adopt, (3) the dissertation organization, (4) the writing schedule.

For the writing of a superior dissertation, you will be able to learn a lot from the advice and comments from your instructor and sub-instructor, as well as those of other faculties, graduate students, and participants through Q and A sessions.

(Leaning activities outside of classroom)

You should steadily progress your research in a planned way. Preparation for the requisite presentation in the workshop as well as making provisions on academic conferences and posting to peer-reviewed journals is needed. After the workshop presentation, you should organize advice, criticisms, other feedbacks, and your thoughts. Based on those works, you should sort tasks and improve your studies continuously for your dissertation.
(Grading Criteria)
Grading will be decided by deliberation in the faculty meeting of the Graduate School of Business Administration based on the evaluation assessed by your main instructor, sub instructor, and the dean considering submitted papers, presentations, responses in the Q and A sessions, and others.
Successful applicants given higher than A-(A minus) credit will be entitled to take the next class of Dissertation Workshop Ⅱ A and/or Ⅱ B. Note that students who passed the Dissertation Workshop Ⅰ A examination do not have to take Dissertation Workshop Ⅰ B.

MAN700F1－0008（経営学 / Management 700）

博士コースワークショップＩＢ

経営学専攻　専任教員

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士コースワークショップは、経営学専攻における博士論文執筆中の学生を対象としており、中間報告会における報告が主たる内容である。中間報告会は、博士論文執筆が計画的かつ着実に進むように設定された３段階のステップ制に基づいて行われる。中間報告会は、複数の教員による質疑及び助言を受ける良い機会であると同時に、博士課程大院生が互いの研究の技法や情報を共有することで、相互に研鑽が積める場でもある。
博士コースワークショップＩＢでは、中間報告会での報告内容が、ステップ１のクリアに求められる「研究計画書」の水準に達するように、指導教員および副指導教員による指導が行われる。

【到達目標】
この授業の目標は、学位論文審査の第一段階あるいはステップ１に合格することである。そのためには、提出された研究計画書に基づき、（1）対象分野に関する先行研究の批判的文献調査に基づく課題と研究課題、（2）採用する研究方法、（3）論文の構成、（4）執筆スケジュールなどを含めて発表することが要求されます。
優れた論文執筆のためには、担当教員や副指導教員、他学部の教員や院生、参加者からの質疑応答によるアドバイスやコメントから多くを学ぶことができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
博士後期課程の学生は、クリアすべきステップに向けて、論文もしくはそれに準ずる文書を作成し、指導教員および副指導教員より随時指導を受ける。そして、博士論文完成に向けた中間的な成果を中間報告会において報告し、複数の教員による批判や助言をもらい、報告会参加者との質疑応答を経て、ステップ判定を受けることになる。
なお、中間報告会には、報告しない博士課程大学院生も全員参加すること。修士課程の大学院生や研究生も研究科長の許可を得て参加することができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマと計画の報告	研究テーマや計画、現状の研究成果を副指導教員に報告する
第2回	主要先行論文サーベイの報告	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイを副指導教員に報告する
第3回	研究方法の報告	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法を副指導教員に報告する
第4回	博士論文の構成の報告	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法に基づく、博士論文構成を副指導教員に報告する
第5回	プロポーザル論文執筆指導	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法、博士論文構成に基づいたプロポーザル論文執筆の指導を副指導教員からうける
第6回	博士コース中間報告会①	博士コース中間報告会に参加し、「研究計画書」に基づいて報告する。原則、12月第3土曜日を予定している
第7回	博士コース中間報告会②	博士コース中間報告会に参加し、「研究計画書」に基づいて報告する。原則、12月第3土曜日を予定している。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
研究を計画的かつ着実に進めてください。コース・ワークショップでの発表に必要な準備を行うとともに、学会発表や査読付き雑誌への投稿の準備も大事です。ワークショップでの発表後、アドバイス、批評、その他のフィードバック、自分の考えなどを整理しておくこと。それをもとに課題を整理し、学位論文に向けた継続的な研鑽を積むことが必要とされます。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
特に指定しません。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、提出された論文、発表、質疑応答等を考慮して、主指導教員、副指導教員、研究科長が評価し、経営学研究科教授会で審議して決定します。
A-(Aマイナス)以上の単位を取得した合格者は、次のクラスの論文ワークショップⅡA、ⅡBを受講することができます。

【学生の意見等からの気づき】
『博士演習』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【その他の重要事項】
受講生の要望や進行状況によって適宜授業計画を修正することが想定される。
In addition, all doctoral students in the Graduate School of Business Administration who will not be reporting on the mid-year interim debriefing should also participate in the workshop. The master's course graduate students and research students may participate the workshop with the permission of the Dean of the Graduate School.

【Outline (in English)】
(Course outline)
The series of Dissertation Workshop classes (Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ) aim at students who have been writing a doctoral dissertation. Each workshop requires that students make a mandatory presentation at the mid-year interim debriefing at least once during an academic year. The debriefing is carried out in accordance with the three-step-system encouraging completion of the doctoral dissertation steadily and in a planned way.
The debriefing session will give you a good opportunity to get comments, advice, questions, and other feedbacks from various professors, as well as a place to improve yourself via friendly competition with other students and by sharing useful information including research methods and different points of views.
Research proposals are examined and assessed by supervisors and judged whether required step is cleared or not.
(Learning objectives)
The goal of this class is to pass the first step or step one of the dissertation examination. In order to do that, you are required to make a presentation based on a submitted research proposal including (1) issues and research questions based on the critical literature review of previous studies on your fields of subjects, (2) methods you will adopt, (3) the dissertation organization, (4) the writing schedule.
For the writing of a superior dissertation, you will be able to learn a lot from the advice and comments from your instructor and sub-instructor, as well as those of other faculties, graduate students, and participants through Q and A sessions.
(Leaning activities outside of classroom)

You should steadily progress your research in a planned way. Preparation for the requisite presentation in the workshop as well as making provisions on academic conferences and posting to peer-reviewed journals is needed. After the workshop presentation, you should organize advice, criticisms, other feedbacks, and your thoughts. Based on those works, you should sort tasks and improve your studies continuously for your dissertation.
(Grading Criteria)
Grading will be decided by deliberation in the faculty meeting of the Graduate School of Business Administration based on the evaluation assessed by your main instructor, sub instructor, and the dean considering submitted papers, presentations, responses in the Q and A sessions, and others.
Successful applicants given higher than A-(A minus) credit will be entitled to take the next class of Dissertation Workshop ⅡA and/or ⅡB.

MAN700F1－0009（経営学 / Management 700）

博士コースワークショップⅡA

経営学専攻　専任教員

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士コースワークショップは、経営学専攻における博士論文執筆中の学生を対象としており、中間報告会での報告が主たる内容となる。中間報告会は、博士論文執筆が計画的かつ着実に進むように設定された３段階のステップ制に基づいて行われる。中間報告会は、複数教員からの批判、助言、質問等を受けられる良い機会であると同時に、博士課程大院生が互いの研究の技法や情報を共有することで、相互に研鑽が積める場でもある。

博士コースワークショップⅡAでは、中間報告会での報告が、ステップ２のクリアに求められる「先行研究のサーベイ論文と博士論文を構成する章（少なくとも１章分）に該当する研究」の水準に達するように、主指導教員および副指導教員による指導が行われる。

【到達目標】

博士論文のステップ２となる「先行研究のサーベイ論文と博士論文を構成する章（少なくとも１章分）に該当する研究」論文の提出と、それに基づいた報告が求められる。

主指導教員および副指導教員による指導のみならず、中間報告会における複数の教員あるいは博士課程大学院生等からの質疑応答を通じて、質の高い博士論文執筆に向けた有意義な助言を得ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

博士後期課程の学生は、クリアすべきステップに向けて、論文もしくはそれに準ずる文書を作成し、主指導教員および副指導教員より随時指導を受ける。そして、博士論文完成に向けた中間的な成果を中間報告会において報告し、複数の教員から批判や助言をもらい、参加者との質疑応答を経て、ステップ判定を受けることになる。

なお、中間報告会には、報告しない博士課程大学院生も全員参加すること。修士課程の大学院生、研究生は、研究科長の許可を得たうえで参加することができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「研究計画書」の再検討及び現状の研究成果の報告	「研究計画書」の再検討の結果、及びそれに基づく研究成果を副指導教員に報告する
第2回	先行論文サーベイと、研究報告①	「研究計画書」に基づく先行論文のサーベイと、研究の位置づけを副指導教員に報告する
第3回	先行論文サーベイと、研究報告②	「研究計画書」に基づく先行論文のサーベイと、研究の位置づけを副指導教員に報告する
第4回	博士論文を構成する章の報告①	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法に基づく、博士論文構成を副指導教員に報告する
第5回	博士論文を構成する章の報告②	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法に基づく、博士論文構成を副指導教員に報告する
第6回	博士コース中間報告会①	博士論文の中間報告会に参加し、提出した「サーベイ論文と構成章(論文)」に基づいて報告する。原則、7月第1土曜日を予定している。
第7回	博士コース中間報告会②	博士論文の中間報告会に参加し、提出した「サーベイ論文と構成章(論文)」に基づいて報告する。原則、7月第1土曜日を予定している。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究を計画的かつ着実に進めてください。コース・ワークショップでの発表に必要な準備を行うとともに、学会発表や査読付き雑誌への投稿の準備も大事です。ワークショップでの発表後、アドバイス、批評、その他のフィードバック、自分の考えなどを整理しておくこと。それをもとに課題を整理し、学位論文に向けた継続的な研鑽を積むことが必要とされます。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

特に指定しません。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、提出された論文、発表、質疑応答等を考慮して、主指導教員、副指導教員、研究科長が評価し、経営学研究科教授会で審議して決定します。

A-(Aマイナス)以上の単位を取得した合格者は、次のクラスの論文ワークショップⅢA、ⅢBを受講することができます。なお、論文ワークショップⅡAの合格者は、論文ワークショップⅡBを受講する必要はありません。

【学生の意見等からの気づき】

『博士演習』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【その他の重要事項】

博士コースワークショップⅠAまたはⅠBにおいて、A-評価以上の修得者のみ、履修可能である。

受講生の要望や進行状況によって適宜授業計画を修正することが想定される。

In addition, all doctoral students in the Graduate School of Business Administration who will not be reporting on the mid-year interim debriefing should also participate in the workshop. The master's course graduate students and research students may participate the workshop with the permission of the Dean of the Graduate School.

【Outline (in English)】

(Course outline)

The series of Dissertation Workshop classes (Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ) aim at students who have been writing a doctoral dissertation. Each workshop requires that students make a mandatory presentation at the mid-year interim debriefing at least once during an academic year. The debriefing is carried out in accordance with the three-step-system encouraging completion of the doctoral dissertation steadily and in a planned way.

The debriefing session will give you a good opportunity to get comments, advice, questions, and other feedbacks from various professors, as well as a place to improve yourself via friendly competition with other students and by sharing useful information including research methods and different points of views.

The requirements of Dissertation Workshop ⅡA are to write (1) a review article of previous studies and (2) at least one (empirical) article equivalent to one chapter that will constitute your dissertation.

(Learning objectives)

The goal of this class is to pass the second step or step two of the dissertation examination. In order to do that, you are required to make a presentation based on the submitted papers including both a literature review study and at least one (empirical) study equivalent to one chapter of dissertation.

For the writing of a superior dissertation, you will be able to learn a lot from the advice and comments of your instructor and sub-instructor, as well as those of other faculties, graduate students and participants through Q and A sessions.
(Learning objectives)
The goal of this class is to pass the first step or step one of the dissertation examination. In order to do that, you are required to make a presentation based on a submitted research proposal including (1) issues and research questions based on the critical literature review of previous studies on your fields of subjects, (2) methods you will adopt, (3) the dissertation organization, (4) the writing schedule.
For the writing of a superior dissertation, you will be able to learn a lot from the advice and comments from your instructor and sub-instructor, as well as those of other faculties, graduate students, and participants through Q and A sessions.
(Leaning activities outside of classroom)
You should steadily progress your research in a planned way. Preparation for the requisite presentation in the workshop as well as making provisions on academic conferences and posting to peer-reviewed journals is needed. After the workshop presentation, you should organize advice, criticisms, other feedbacks, and your thoughts. Based on those works, you should sort tasks and improve your studies continuously for your dissertation.
(Grading Criteria)
Grading will be decided by deliberation in the faculty meeting of the Graduate School of Business Administration based on the evaluation assessed by your main instructor, sub instructor, and the dean considering submitted papers, presentations, responses in the Q and A sessions, and others.
Successful applicants given higher than A-(A minus) credit will be entitled to take the next class of Dissertation Workshop Ⅲ A and/or Ⅲ B. Note that students who passed the Dissertation Workshop Ⅱ A examination do not have to take Dissertation Workshop Ⅱ B.

MAN700F1－0010（経営学 / Management 700）

博士コースワークショップⅡＢ

経営学専攻　専任教員

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士コースワークショップは、経営学専攻における博士論文執筆中の学生を対象としており、中間報告会での報告が主たる内容となる。中間報告会は、博士論文執筆が計画的かつ着実に進むように設定された３段階のステップ制に基づいて行われる。中間報告会は、複数教員からの批判、助言、質問等を受けられる良い機会であると同時に、博士課程大院生が互いの研究の技法や情報を共有することで、相互に研鑽が積める場でもある。

博士コースワークショップⅡＢでは、中間報告会での報告が、ステップ２のクリアに求められる「先行研究のサーベイ論文と博士論文を構成する章（少なくとも１章分）に該当する研究」の水準に達するように、主指導教員および副指導教員による指導が行われる。

【到達目標】

博士論文のステップ２となる「先行研究のサーベイ論文と博士論文を構成する章（少なくとも１章分）に該当する研究」論文の提出と、それに基づいた報告が求められる。

主指導教員および副指導教員による指導のみならず、中間報告会における複数の教員あるいは博士課程大学院生等からの質疑応答を通じて、質の高い博士論文執筆に向けた有意義な助言を得ることができる。

なお、博士論文には、査読雑誌あるいはこれに準ずる雑誌に掲載された（掲載予定を含む）論文を１本以上含む必要がある。論文が共著の場合は、論文の主たる執筆者が博士論文の提出者であることを証明する文書の提出が必要である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

博士後期課程の学生は、クリアすべきステップに向けて、論文もしくはそれに準ずる文書を作成し、主指導教員および副指導教員より随時指導を受ける。そして、博士論文完成に向けた中間的な成果を中間報告会において報告し、複数の教員から批判や助言をもらい、参加者との質疑応答を経て、ステップ判定を受けることになる。

なお、中間報告会には、報告しない博士課程大学院生も全員参加すること。修士課程の大学院生、研究生は、研究科長の許可を得たうえで参加することができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「研究計画書」の再検討及び現状の研究成果の報告	「研究計画書」の再検討の結果、及びそれに基づく研究成果を副指導教員に報告する
第2回	先行論文サーベイと、研究報告①	「研究計画書」に基づく先行論文のサーベイと、研究の位置づけを副指導教員に報告する
第3回	先行論文サーベイと、研究報告②	「研究計画書」に基づく先行論文のサーベイと、研究の位置づけを副指導教員に報告する
第4回	博士論文を構成する章の報告①	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法に基づく、博士論文構成を副指導教員に報告する
第5回	博士論文を構成する章の報告②	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法に基づく、博士論文構成を副指導教員に報告する
第6回	博士コース中間報告会①	博士論文の中間報告会に参加し、提出した「サーベイ論文と構成章(論文)」に基づいて報告する。原則、12月第3土曜日を予定している。
第7回	博士コース中間報告会②	博士論文の中間報告会に参加し、提出した「サーベイ論文と構成章(論文)」に基づいて報告する。原則、12月第3土曜日を予定している。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士演習はもとより学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿を通して、中間報告に向けた事前準備を計画的かつ着実に進める。中間報告終了後には、教員および大学院生からの助言や批判点を整理した上で、論文改善へのフィードバック作業を進める。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、提出された論文、発表、質疑応答等を考慮して、主指導教員、副指導教員、研究科長が評価し、経営学研究科教授会で審議して決定します。

A-(Aマイナス)以上の単位を取得した合格者は、次のクラスの論文ワークショップⅢA、ⅢBを受講することができます。

【学生の意見等からの気づき】

『博士演習』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【その他の重要事項】

博士コースワークショップＩＡまたはＩＢにおいて、A-評価以上の修得者のみ、履修可能である。

受講生の要望や進行状況によって適宜授業計画を修正することが想定される。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The series of Dissertation Workshop classes (Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ) aim at students who have been writing a doctoral dissertation. Each workshop requires that students make a mandatory presentation at the mid-year interim debriefing at least once during an academic year. The debriefing is carried out in accordance with the three-step-system encouraging completion of the doctoral dissertation steadily and in a planned way.

The debriefing session will give you a good opportunity to get comments, advice, questions, and other feedbacks from various professors, as well as a place to improve yourself via friendly competition with other students and by sharing useful information including research methods and different points of views.

The requirements of Dissertation Workshop ⅡA are to write (1) a review article of previous studies and (2) at least one (empirical) article equivalent to one chapter that will constitute your dissertation.

(Learning objectives)

The goal of this class is to pass the second step or step two of the dissertation examination. In order to do that, you are required to make a presentation based on the submitted papers including both a literature review study and at least one (empirical) study equivalent to one chapter of dissertation. For the writing of a superior dissertation, you will be able to learn a lot from the advice and comments of your instructor and sub-instructor, as well as those of other faculties, graduate students and participants through Q and A sessions.

(Learning objectives)

The goal of this class is to pass the first step or step one of the dissertation examination. In order to do that, you are required to make a presentation based on a submitted research proposal including (1) issues and research questions based on the critical literature review of previous studies on your fields of subjects, (2) methods you will adopt, (3) the dissertation organization, (4) the writing schedule.
For the writing of a superior dissertation, you will be able to learn a lot from the advice and comments from your instructor and sub-instructor, as well as those of other faculties, graduate students, and participants through Q and A sessions.
(Leaning activities outside of classroom)
You should steadily progress your research in a planned way. Preparation for the requisite presentation in the workshop as well as making provisions on academic conferences and posting to peer-reviewed journals is needed. After the workshop presentation, you should organize advice, criticisms, other feedbacks, and your thoughts. Based on those works, you should sort tasks and improve your studies continuously for your dissertation.
(Grading Criteria)
Grading will be decided by deliberation in the faculty meeting of the Graduate School of Business Administration based on the evaluation assessed by your main instructor, sub instructor, and the dean considering submitted papers, presentations, responses in the Q and A sessions, and others.
Successful applicants given higher than A-(A minus) credit will be entitled to take the next class of Dissertation Workshop ⅢA and/or ⅢB.

MAN700F1 − 0011（経営学 / Management 700）

博士コースワークショップⅢＡ

経営学専攻　専任教員

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士コースワークショップは、経営学専攻における博士論文執筆中の学生を対象としており、中間報告会における報告が主たる内容となる。中間報告会は、博士論文執筆が計画的かつ着実に進むように設定された３段階のステップ制に基づいて行われる。中間報告会は、複数の教員からの指導、助言、あるいは批判や疑問を受けることができる機会であると同時に、博士課程大院生が互いの研究の技法や情報を共有することで、相互に研鑽が積める場でもある。

博士コースワークショップⅢＡでは、中間報告会での報告で、ステップ３のクリアに求められる「博士論文の全体構成と主要な部分（章）に該当する研究」の水準に達するように、主指導教員および副指導教員による指導が行われる。

【到達目標】

博士論文のステップ３となる「博士論文の全体構想と主要な部分（章）に該当する研究」論文の提出と、それに基づいた報告が求められる。

主指導教員および副指導教員による指導のみならず、中間報告会に参加した複数の教員あるいは博士課程大学院生等との質疑応答を通じて、質の高い博士論文執筆に向けて有意義な助言を得ることができる。

なお、博士論文には、査読雑誌あるいはこれに準ずる雑誌に掲載された（掲載予定を含む）論文を１本以上含む必要がある。論文が共著の場合は、論文の主たる執筆者が博士論文の提出者であることを証明する文書の提出が必要である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

博士後期課程の学生は、クリアすべきステップに向けて、論文もしくはそれに準ずる文書を作成し、主指導教員および副指導教員より随時指導を受ける。そして、博士論文完成に至るまでの中間的な成果を中間報告会で発表し、複数の教員から批判や助言をもらい、参加者との質疑応答を経て、ステップ判定を受けることになる。

なお、中間報告会には、報告しない博士課程大学院生も全員参加すること。修士課程の大学院生や研究生は研究科長の許可を得て参加することができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「サーベイ論文と構成章(論文)」の再検討の結果報告	「サーベイ論文と構成章(論文)」の再検討の結果、及びそれに基づく現状の研究成果を副指導教員に報告する
第2回	博士論文全体構成の提示と検討	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章(論文)」に基づき、博士論文全体の構成について副指導教員に報告する
第3回	博士論文全体構成の提示と検討②	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章(論文)」に基づき、博士論文全体の構成について副指導教員に報告する
第4回	主要章の報告①	全体構成に基づく博士論文の主要章を副指導教員に報告する
第5回	主要章の報告②	全体構成に基づく博士論文の主要章を副指導教員に報告する
第6回	博士コース中間報告会①	博士コースの中間報告会に参加し、博士論文の「全体構成」を提示するとともに、主要章の論文を報告する。原則、7月第1土曜日を予定している。
第7回	博士コース中間報告会②	博士コースの中間報告会に参加し、博士論文の「全体構成」を提示するとともに、主要章の論文を報告する。原則、7月第1土曜日を予定している。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士演習はもとより学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿を通して、中間報告に向けた事前準備を計画的かつ着実に進める。中間報告会終了後には、教員および大学院生からの助言や批判点を整理した上で、論文改善へのフィードバック作業を進める。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、提出された論文、発表、質疑応答等を考慮して、主指導教員、副指導教員、研究科長が評価し、経営学研究科教授会で審議して決定します。

A-(Aマイナス)以上の単位を取得した合格者には、博士論文を提出する権利が与えられます。

なお、博士論文ワークショップⅢAの合格者は、博士論文ワークショップⅢＢを受ける必要はありません。

【学生の意見等からの気づき】

『博士演習』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【その他の重要事項】

博士コースワークショップⅡＡまたはⅡＢにおいて、A-評価以上の修得者のみが履修可能である。

受講生の要望や進行状況によって適宜授業計画を修正することが想定される。

In addition, all doctoral students in the Graduate School of Business Administration who will not be reporting on the mid-year interim debriefing should also participate in the workshop. The master's course graduate students and research students may participate the workshop with the permission of the Dean of the Graduate School.

【Outline (in English)】

(Course outline)

The Dissertation Workshop is intended for doctoral students in the department of business administration who are in the process of writing a doctoral dissertation. Each student will prepare a dissertation research proposal and hold a presentation at colloquium. Research proposals are examined and assessed by supervisors and judged whether required step is cleared or not.

(Learning objectives)

The student is required to submit a "Research that corresponds to the overall concept and main part (chapter) of the doctoral dissertation", which is Step 3 of the doctoral dissertation, and to submit a report based on this thesis.

For the writing of a superior dissertation, you will be able to learn a lot from the advice and comments from your instructor and sub-instructor, as well as those of other faculties, graduate students, and participants through Q and A sessions.

The doctoral dissertation must include at least one paper that has been published (or is scheduled to be published) in a peer-reviewed journal or equivalent. If the thesis is co-authored, a document certifying that the primary author of the thesis is the person submitting the doctoral thesis must be submitted.

(Learning activities outside of classroom)

The students will systematically and steadily prepare for the interim report by presenting their research at academic conferences as well as doctoral exercises and submitting papers to peer-reviewed academic journals. After the interim report, the students will organize advice and criticisms from faculty members and graduate students, and provide feedback to improve the dissertation.
(Grading criteria)
Grading will be decided by deliberation in the faculty meeting of the Graduate School of Business Administration based on the evaluation assessed by your main instructor, sub instructor, and the dean considering submitted papers, qualities of presentation, responses in Q and A sessions, and others.
Successful applicants given higher than A-(A minus) credit will be entitled to submit a doctoral dissertation.
Note that students who passed the Dissertation Workshop ⅢA examination do not have to take Dissertation Workshop ⅢB.

MAN700F1－0012（経営学 / Management 700）

博士コースワークショップⅢＢ

経営学専攻　専任教員

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士コースワークショップは、経営学専攻における博士論文執筆中の学生を対象としており、中間報告会における報告が主たる内容となる。中間報告会は、博士論文執筆が計画的かつ着実に進むように設定された３段階のステップ制に基づいて行われる。中間報告会は、複数の教員からの指導、助言、あるいは批判や疑問を受けることができる機会であると同時に、博士課程大院生が互いの研究の技法や情報を共有することで、相互に研鑽が積める場でもある。

博士コースワークショップⅢＢでは、中間報告会での報告で、ステップ３のクリアに求められる「博士論文の全体構成と主要な部分（章）に該当する研究」の水準に達するように、主指導教員および副指導教員による指導が行われる。

【到達目標】

博士論文のステップ３となる「博士論文の全体構想と主要な部分（章）に該当する研究」論文の提出と、それに基づいた報告が求められる。

主指導教員および副指導教員による指導のみならず、中間報告会に参加した複数の教員あるいは博士課程大学院生等との質疑応答を通じて、質の高い博士論文執筆に向けて有意義な助言を得ることができる。

なお、博士論文には、査読雑誌あるいはこれに準ずる雑誌に掲載された（掲載予定を含む）論文を１本以上含む必要がある。論文が共著の場合は、論文の主たる執筆者が博士論文の提出者であることを証明する文書の提出が必要である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

博士後期課程の学生は、クリアすべきステップに向けて、論文もしくはそれに準ずる文書を作成し、主指導教員および副指導教員より随時指導を受ける。そして、博士論文完成に至るまでの中間的な成果を中間報告会で発表し、複数の教員から批判や助言をもらい、参加者との質疑応答を経て、ステップ判定を受けることになる。

なお、中間報告会には、報告しない博士課程大学院生も全員参加すること。修士課程の大学院生や研究生は研究科長の許可を得て参加することができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「サーベイ論文と構成章(論文)」の再検討の結果報告	「サーベイ論文と構成章(論文)」の再検討の結果、及びそれに基づく現状の研究成果を副指導教員に報告する
第2回	博士論文全体構成の提示と検討	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章(論文)」に基づき、博士論文全体の構成について副指導教員に報告する
第3回	博士論文全体構成の提示と検討②	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章(論文)」に基づき、博士論文全体の構成について副指導教員に報告する
第4回	主要章の報告①	全体構成に基づく博士論文の主要章を副指導教員に報告する
第5回	主要章の報告②	全体構成に基づく博士論文の主要章を副指導教員に報告する
第6回	博士コース中間報告会①	博士コースの中間報告会に参加し、博士論文の「全体構成」を提示するとともに、主要章の論文を報告する。原則、12月第3土曜日を予定している。
第7回	博士コース中間報告会②	博士コースの中間報告会に参加し、博士論文の「全体構成」を提示するとともに、主要章の論文を報告する。原則、12月第3土曜日を予定している。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士演習はもとより学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿を通して、中間報告に向けた事前準備を計画的かつ着実に進める。中間報告会終了後には、教員および大学院生からの助言や批判点を整理した上で、論文改善へのフィードバック作業を進める。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、提出された論文、発表、質疑応答等を考慮して、主指導教員、副指導教員、研究科長が評価し、経営学研究科教授会で審議して決定します。

A-(Aマイナス)以上の単位を取得した合格者には、博士論文を提出する権利が与えられます。

【学生の意見等からの気づき】

『博士演習』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【その他の重要事項】

博士コースワークショップⅡＡまたはⅡＢにおいて、A-評価以上の修得者（ステップ２の合格者）のみが履修可能である。

受講生の要望や進行状況によって適宜授業計画を修正することが想定される。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The Dissertation Workshop is intended for doctoral students in the department of business administration who are in the process of writing a doctoral dissertation. Each student will prepare a dissertation research proposal and hold a presentation at colloquium. Research proposals are examined and assessed by supervisors and judged whether required step is cleared or not.

(Learning objectives)

The student is required to submit a "Research that corresponds to the overall concept and main part (chapter) of the doctoral dissertation", which is Step 3 of the doctoral dissertation, and to submit a report based on this thesis.

For the writing of a superior dissertation, you will be able to learn a lot from the advice and comments from your instructor and sub-instructor, as well as those of other faculties, graduate students, and participants through Q and A sessions.

The doctoral dissertation must include at least one paper that has been published (or is scheduled to be published) in a peer-reviewed journal or equivalent. If the thesis is co-authored, a document certifying that the primary author of the thesis is the person submitting the doctoral thesis must be submitted.

(Learning activities outside of classroom)

The students will systematically and steadily prepare for the interim report by presenting their research at academic conferences as well as doctoral exercises and submitting papers to peer-reviewed academic journals. After the interim report, the students will organize advice and criticisms from faculty members and graduate students, and provide feedback to improve the dissertation.

(Grading criteria)

Grading will be decided by deliberation in the faculty meeting of the Graduate School of Business Administration based on the evaluation assessed by your main instructor, sub instructor, and the dean considering submitted papers, qualities of presentation, responses in Q and A sessions, and others.
Successful applicants given higher than A-(A minus) credit will be entitled to submit a doctoral dissertation.

修士論文

経営学専攻教員

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【テキスト（教科書）】

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

【学生の意見等からの気づき】

リサーチ・ペーパー

経営学専攻教員

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【テキスト（教科書）】

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

【学生の意見等からの気づき】

博士論文

経営学専攻教員

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【テキスト（教科書）】

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

【学生の意見等からの気づき】

法政大学
HOSEI University